宮崎駿の雑想ノート

Hayao Miyazaki's Daydream note

【……増補改訂版……】

宮崎 駿
miyazaki hayao

大日本絵画

宮崎駿の雑想ノート

Hayao Miyazaki's Daydream note

【増補改訂版】

宮崎 駿
miyazaki hayao

大日本絵画

宮崎駿の雑想ノート

Hayao Miyazaki's Daydream note

【……増補改訂版……】

宮崎 駿

miyazaki hayao

大日本絵画

Hayao Miyazaki's

introduction

「この本に、資料的価値はいっさいありません」

序文

●

あんまり人に自慢できる趣味じゃないんですが、
ようするに軍事関係のことが好きなんですね。
くだらないなァと思いながらも、軍事関係のことが好きなんです。

なんと愚かなことをするんだろう…と思いながら、なんてバカなんだろうと思いながら戦記などを読んでいるんです。でも、愚かだとわかりつつも、狂気の情熱みたいなものが、どこかで好きなんですね。

しかし、肯定しているかというと、そうではなく否定しているんですが、そういう矛盾が整理されないまま、ずーっとこの趣味を、もうかれこれ40年近くやっていると、色々たまってくるんですよね。で、それを出したくなるんです。ただ、自分はこういうことを知ってるよ！っていうのを出すんじゃなくてね。

実は、こういう趣味をやって行くっていうのは、人にはとても言えないことですけれども…頭の中で無数の空中戦をやり、無数の海戦をやっているんです。だから僕はシミュレーションゲームをやる気が全然起こらないんですね。ゲームなら、もう頭の中で死ぬほどいっぱいやっているから…死ぬほどっていうのはオーバーで、全然死なないけど（笑）。 **だから、いったいどれほどの数の航空母艦や、どれほどの航空戦隊や、どれほどの数の飛行機や、どれほどの数のその飛行機のための工場なんかを、色々と頭の中で練り上げたかわからないんです。**

そういうことを、ああだこうだとやっているうちに…なにもそれは第2次大戦の飛行機とか、戦車に限らず…いろんなことをやっているうちに、何と変な物があるんだろう！とか、何と不思議なんだろう！っていうような妄想のカタマリを、まァ“妄想ノート”っていうんじゃつまらないから、色々な雑学の集まりとして描きたくなって描いたのが、“雑想ノート”というわけなんです。

ホントは、いつもこれだけをやっていられると楽しいんですけれど、
これはまったくの趣味ですからね（笑）。
ようするに、自然保護の問題をどうのこうのとか、
少女の自立がどうのこうのとかね、そういうのは一切ヌキ！ もう、とにかく!!

宮崎 駿
miyazaki hayao

contents

目次

第1章

5 ……第1話
知られざる巨人の末弟

11 ……第2話
甲鉄の意気地

17 ……第3話
多砲塔の出番

23 ……第4話
農夫の眼

29 ……第5話
竜の甲鉄

35 ……第6話
九州上空の重爆炸機

41 ……第7話
高射砲塔

47 ……第8話
Q.ship

第2章

55 ……第9話
特設空母 安松丸物語

65 ……第10話
ロンドン上空1918年

77 ……第11話
最貧前線

85 ……第12話
飛行艇時代

103 ……第13話
豚の虎

118 ……雑想トーク
虎戦車の雑学と妄想

123 ……注釈

126 ……雑想MEMORANDUM

dreamnote

第1章

第1話
知られざる巨人の末弟

第2話
甲鉄の意気地

第3話
多砲塔の出番

第4話
農夫の眼

第5話
竜の甲鉄

第6話
九州上空の重轟炸機

第7話
高射砲塔

第8話
Q.ship

第1話

知られざる巨人の末弟

ヨーロッパの小国、ボストニア王国の、

若き国王ペトルⅢ世。

飛行機を愛する彼が夢見た空中艦隊は、

やがて押し寄せる第2次世界大戦の

荒波にかき消されて行ってしまう…。

巨人機が物語る、

歴史から消え去った小国の悲劇。

初出：月刊モデルグラフィックス1984年11月号
（連載第1回、執筆・1984年9月）

雑想ノート 連載第11回

ボストニア王国空軍史より 知られざる巨人の末弟

ユンカース G-38

ボストニア陸軍騎兵 →

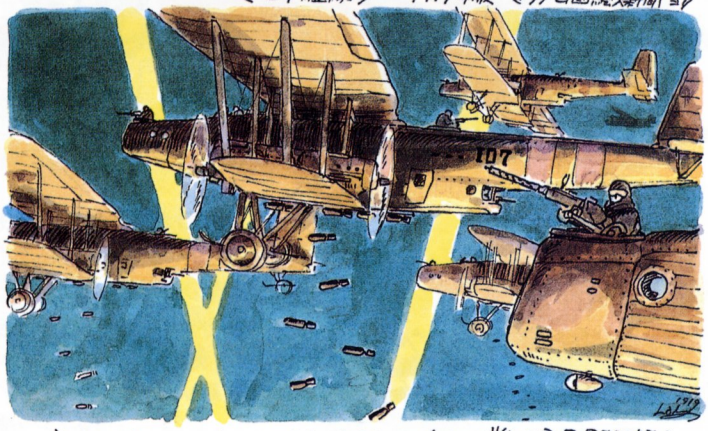
<三つ首の鷲>
ボストニア王国王家ハルツヴォイ家の紋章
ボストニア空軍の正式マークである

ヨーロッパの「世地図をひもとくと 聞いた事もない小国の名前にぶつかる。ボストニア王国は第一次大戦の後、ヴェルサイユ条約で旧オーストリー・ハンガリー帝国から分離独立を認められ(1918年) 1932年にはオーストリーに併合、つづいてドイツ第三帝国に飲み込まれて消えてしまった短命の国家であった。ボストニアの空軍について現在入手出来る資料は皆無といってよい。ただわずかに大英帝国図書館に残るボストニア王室公報によって この国が財政事情に不釣合なユニークな空軍の創建をめざしていた事がうかがえる。その空軍は若い国王の狂気と道楽から生れたのである。

飛行王子として国民に親しまれ、兄皇太子の暗殺による突然の死で即位したペトルII世は単純で子供っぽい飛行機きちがいの青年だった。ご婦人達に関心を持たず 政治にも冷ややかな王がひたすら夢見たのは 空中艦隊だったのである。

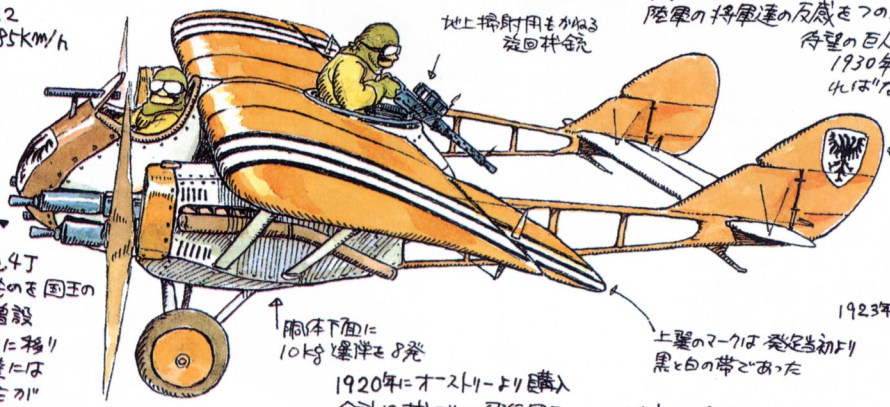
ボストニア王 ペトルIII世
(在位 1919~1931)

<空中艦隊> 1919年版 ミラノ公国絵入新聞より



空中艦隊とは 第一次大戦の経験から生れた戦略空軍思想である。陸戦となれば 重武装の巨人機の群が 長駆 敵国の心臓部をおそい 群がる敵機をけちらし、爆弾と焼夷弾の雨を降らして 一挙に勝敗を決しようというものである。実際には B-29の大群といえども 一挙にとはいかなかったのだが、この頃 無敵の空中艦隊の想像図に 多くの少年達が胸をおどらせたのであった。

最初の制式機
クジネフスキー R17
重地上襲撃機
220HP×2
最高速185km/h



自国に航空産業を持たない小国で 軍事費の多くを空軍に注ぎこみ 国王は陸軍の将軍達の反感をつのらせていたが 待望の巨人機の入手は 1930年まで待たなければならなかった。

1923年に 白地に黒い三本線に変った。三本の線は王国を形成する三つの地方を表わす。

★ボストニア空軍■は この他にも 奇妙な機体を数種保有していたが その紹介は別の機会にするとして、ここでは国王陛下の巨人機についてのみ述べることとする。

WP-30 重空中戦艦（ポストニアでの爆撃機の呼称）

生産機数 1機

賢明な諸兄には すぐお判りと思うが WP-30は
ユンカース J-38のポストニア向き軍用型である

全長 24.4m
全巾 44m
全高 7m
総重量 25t
当時世界で二番目の巨人機であった。

注）この色は冬季のポストニア草原の色に合せたもの
国王がカンカンになって ただちに塗りかえられたと伝えられている

誕生まで）

1928年 かねてより その天才に傾倒していた ヒューゴー・ユンカース教授をデッサウに訪問した国王ペトルは 組立中のJ-38 4発旅客機を見学し 興奮 ただちに空中艦隊の旗艦として 購入を決意したが…
ポストニア王国の国庫は カラッポ同然で 財政当局の猛反対に出くわし 契約は難航した。その間に 東洋のかたすみから やって来た 日本陸軍が 艦造権を獲得（92式重爆である）。ようやく 陸軍一個連隊分の装備ヒをまわして 購入契約が成立したのは 1929年になってからであった（でき上がったのは 1930年である）

★R-17に護衛されて飛行するWP-30

ユンカース特有の波鈑構造
やたらに描きにくいのでまいるのである

この塗装が制式カモフラージュである

尾部鈑金
鈑手はのりつぱなしで前部への通路はない

クソッ！

デッサウにとってかえしたペトルは ユンカース工場に 三ヶ月間かよいつめ 細々と自分の理想とする空中戦艦の実現のために 注文を出して 技師達を困惑させた。しかし 直感に支えられたいくつかの提案には 先見性がみられ 彼がただの我儘なオーナーではなかった事を示している。フィリッピンのコレヒドール要塞に 1t爆弾を降ろせる為に開発された 92式重爆とは目的がさがうにしても WP-30の方が 空力的にすぐれた点も多いのである

92式重爆にはなかった 尾部鈑金も 国王がユンカースの技師達と大論争の末 追加された。
箱型の尾部は 後方射界の巨大な邪魔ものだったが、中央方向舵の下端を削り 空力的な損失にもかかわらず 総合において克服したとはいえる

空中戦艦たるもの難攻不落であらねばならない。かくて出来あがった機体は いたる所に銃座をもつ（なんと9ヶ所）翼内のチョーチン型ガソリンタンクはゴムでおおわれ 空気抵抗の多い 吊り出しの爆弾架をやめ ゴンドラをくっつけ 戦闘時に飛行性能を低下させる垂下銃塔（その頃流行だった）をなくし 正規でも100kgの爆弾を18発に 12名の乗員 時には プラス国王1名を つめこんだのだから 重くなったのは無理もない 空力的に洗練させても馬力不足は おおいがたく おまけに あまりに高価な機体に パイロットのヒザがふるえる始末だから 飛び方は 充重そのものだった。

最高速度 約200km/h
武装 20ミリMG×1
7.7ミリMG×8
（他に予備2）

兄弟分（6機製作）
92式重爆

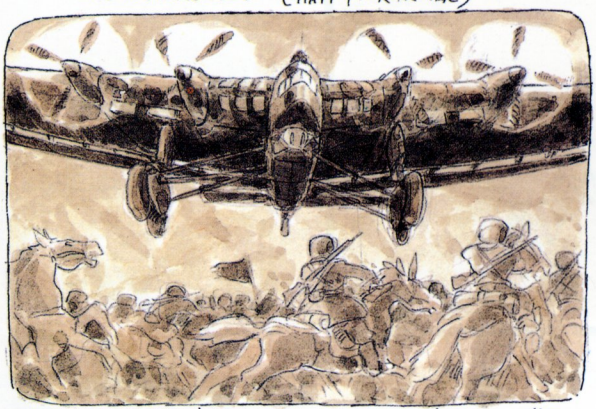
翼下面の垂下銃塔（おもすぎて飛行性能がガタオチ）
爆弾架吊り出し

弟
WP-30

機体の形状は原型をとどめている
側方銃座 アリ
尾部銃座
腹部にゴンドラ式爆弾倉
前後に銃座 アリ

★両機を比較しても WP-30の方が はるかに強力な武装であることが判る

翼面銃座
はって行け。
三波金飯峠
無線機
風よけ
20ミリ機関砲
予備銃
予備銃座
操縦ハンドル
航法机
前方射手&爆撃手
パラシュート
操縦席
爆撃照準器
こいつはあやまりWCにはあらず用足はない
エンジンルーム
ゴム被覆燃料タンク
近距軸
機関銃
翼内通路
コモエ水冷12気筒エンジン
（飛行中に点検可能）
こん面かりなんて ゴンドラの まがいい前下方銃座を どう仕出来ないのは残念



昭和11年版 国防文庫社刊「航空機の驚異」所載の写真より模写
『かつての陸の王者 騎兵も最新航空機の攻撃に策をろして退却』とある。飛行中のWP-30の唯一の写真である

1930年の冬季大演習の際 WP-30は 初めて全準装備で姿をあらわした。しかし 離陸はしたものの30m以上の高度がとれず 爆弾投下勿論 出来ぬまま 地上スレスレを はいまわりつづけ ガソリンを使い果した後 ソッと草原に着陸したのであった。とはいえ ポストニア陸軍の馬車は 頭上をのしかかるように とびまわる巨大な怪物に パニック状態となり その意味では 演習は空軍の大勝利となった。が実用化のためには より強力なエンジンが どうしても必要な事が判明したわけである。

◀国王の死▶

1931年になって、ポストニア空軍の空中艦隊計画は突然終りを告げた。国王ペトル3世が飛行機事故で急死したのである。しくまれた事故死であったのは 当時でも公然の秘密であった。この後 ポストニアは 王位空白のまま 陸軍と親オーストリー共和派が 対立し政治的混迷をつづけ ついに 旧宗主国オーストリーに併合されたのである 1932年 ポストニア王国空軍は 短い歴史を終えたのであった

最後のフライト

その後 WP-30は 格納庫で埃をかぶったまま 永い間忘れられていたが、1938年3月 オーストリーが ナチスドイツに併合される時 最後の飛行を行っている。ペトルの弟子であり熱烈な民族主義者の旧ポストニア空軍のパイロット達が 密かに WP-30を整備し ベルリンへ 民族自決とナチスの横暴を訴えるビラを撒きにとび立ったまま 行方不明になってしまったのであった。※

※ベルリン上空に WP-30が あらわれたとの記録はない。おそらく 慣れぬ夜間飛行が老朽化した機体が原因で 途なかばにして 人知れず墜落したのであろう。ユンカース教授もペトルも既になく、その一年後には 欧州は 第二次大戦に突入しようとしていた。私は 祖国をすてた WP-30が 永世中立のスェーデン目指して 灰色のバルト海を 朝陽をうけつつ飛ぶ姿を想像するのが好きだ。

1984.9.7

第2話

甲鉄の意気地

時に1862年3月、

南北戦争の真っ最中のアメリカ合衆国、

ハンプトンローズで2隻の

奇妙な軍艦がぶつかりあった！

北軍軍艦モニターと南軍軍艦メリマック、

世界初の装甲艦による海戦の勝敗は…!?

初出：月刊モデルグラフィックス1984年12月号
（連載第2回、執筆・1984年11月）

雑想ノート 連載オ2回

鉄の意気地

＋当時の北軍(合州国)の海軍旗 星35ヶ

1862年3月7日　アメリカ合州国 メリーランド沖を 荒天にもみくちゃにされつつ 一隻の奇妙な鉄の艦(ふね)が ヨタヨタと南下していた。潜水艦ではない。世界初の装甲砲塔艦「モニター」である。甲板のほとんどない同艦の通気口からは、もろに波がうち込み 乗員はヘトヘトになりながら バケツリレーをつづけていた。

目指すは ハンプトン・ローズ 時あたかも南北戦争の真最中のことである。

★右の絵には 煙突と砲塔背後の通気筒が描れている。このような資料は何処にもない。しかし私は 外洋を航行する時に 戦闘時には 取りはずす 煙突と通気筒を つけたものと想像している。そうでなきゃ 沈んじまうもの

同じ日、ハンプトン・ローズに近い バージニア州 ノーフォークの港で もう一隻の鉄の艦が 翌朝の出撃を目指して 準備に忙殺されていた。装甲砲郭艦「メリマック」である。装甲艦 そのものは 1854年に クリミア戦争に 現われていたから こいつは 世界初とはいえなかったが ※

北軍軍艦 モニター　排水量 987t　乗員 50名

※沿岸用とはいえ帆を持たず、大傾斜角の鋼鉄鈑で装甲した後は、後の火薬戦車T-34の車体をおもわせる仲々のものであった。工業力のない南部でよくやったといって良い。

海軍力と工業力で南軍を圧倒する北軍は、海外との貿易を戦争継続のために 必要とする南部を 海上封鎖でしめあげていた。メリマックは ハンプトン・ローズで集結する北軍艦隊を蹴散らす為に、たった一艘で殴りこみをかけようというのである。初陣が 試運転をかねていて、工員がまだ乗っているが、艦長が62才の病みあがりの老大佐であろうとも、砲員が船酔いに弱い陸軍の兵であろうが、実弾射撃はテスト もしてなかろうが、士気だけは 高かった。

南部同盟の海軍旗

馬そのものな馬さ!!

のぼるな

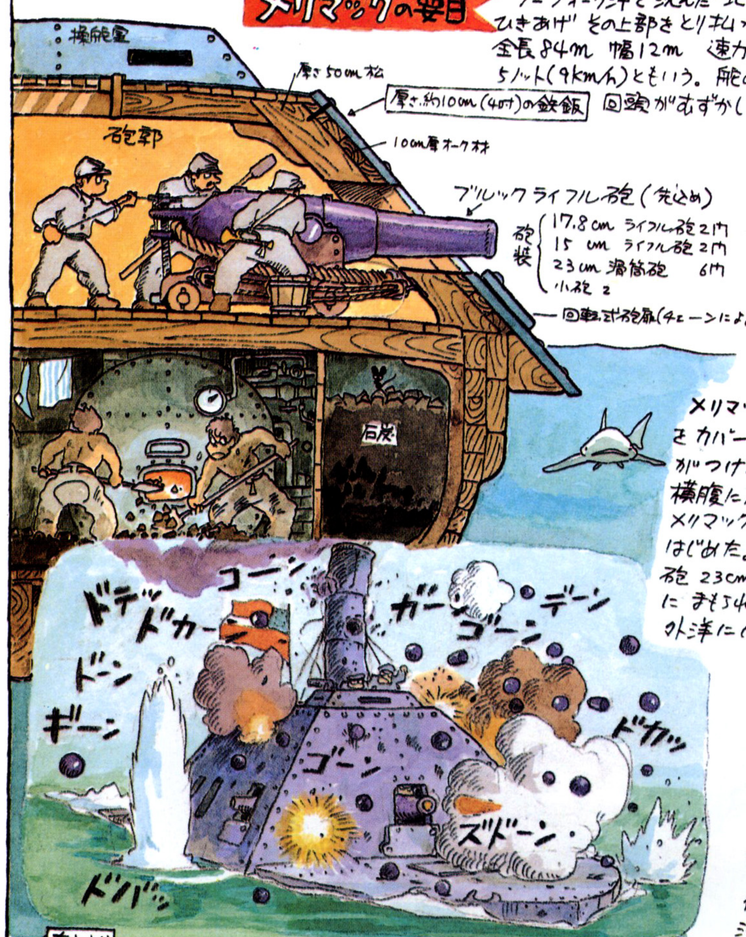
ハンキ ぬりたて

メリマック建造のスパイ報告に接し 北部が大いそぎで建造した(100日間で)のが モニターであった。

南軍軍艦 メリマック(本名ヴァージニア)　排水量 約4000t　乗員 350名

メリマックの要目

ノーフォーク沖で"沈んだ"北軍フリゲートをひきあげ、その上部をとりはらって造った。全長84m 幅12m 速力は9ノットとも5ノット(9km/h)ともいう。船の動きが悪く回頭がむずかしかった。



メリマックの砲力はたいしたものではない。その砲をカバーするために艦首にするどい鉄製の衝角(ラム)がつけられていた。装甲で身を守りつつ、敵艦に近づき横腹に風穴をあけようというのである。かくて3月8日メリマックはハンプトン・ローズの北軍艦隊めざして進みはじめた。敵は蒸気フリゲート2、帆走フリゲート2、スループ1、砲23cm以上200門、兵員2200名。おまけに陸上砲台にまもられた大兵力である。この時モニターはまだ外洋にいた。

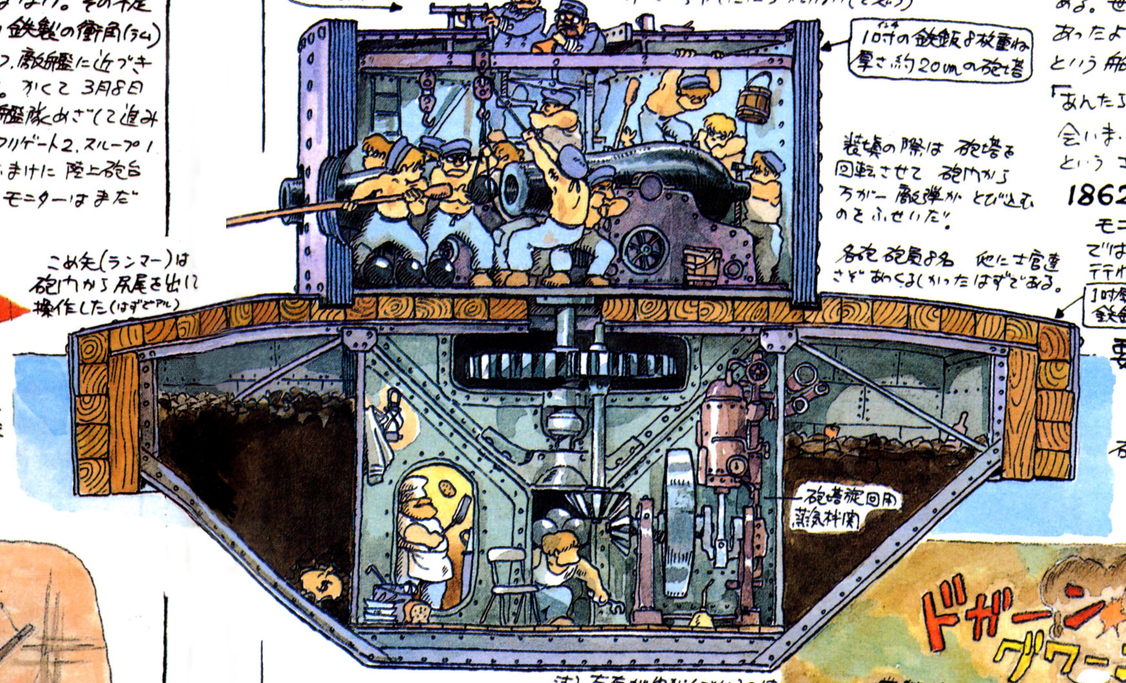
左下へつづく

右上より

モニター

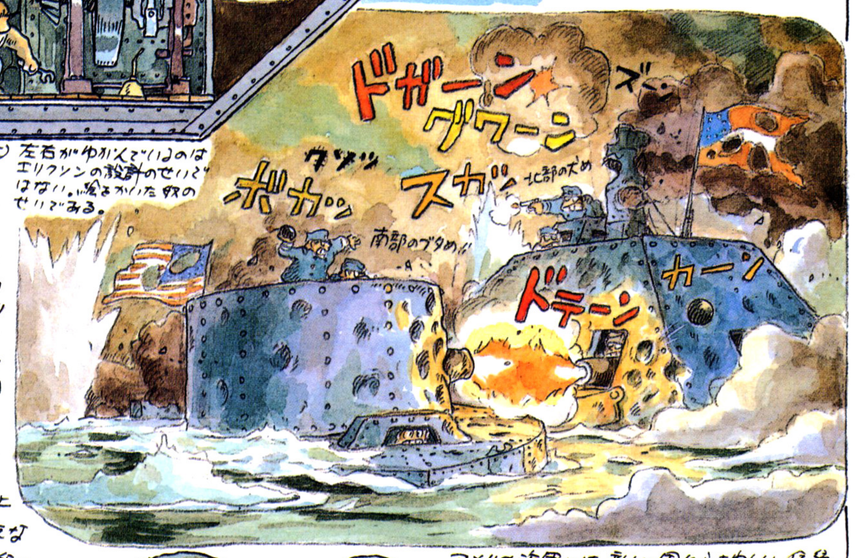
乾舷をなくす事で舷側装甲を省略した。水線下の防禦は分厚い木材にはった1.27cmの鉄鈑で充分だった。甲板は25ミリの鉄板。艦砲がたいした迎角をとらず大落角弾などなかった時代なので命中弾はみな滑って海の中に消えてしまったという。

こめ矢(ランマー)は砲口から尻尾を出して操作した(はずである)



注) 左右がやわらかいのはエリクソンの設計のせいではない。絵がかいた奴のせいである。

両艦は100m以内の至近距離に近づき猛然と砲撃をくわった。しかし一弾も相手の装甲を貫ぬく事が出来なかった。勿論弾丸がスキ間からとび込んで負傷者は出た。メリマックの老艦長は前日の戦闘で傷つき退艦している。いくら撃っても無駄だと判ると、両艦とも自分の舳で相手の横腹をぶっ叩こうと試みた。しかし砲煙はあたり一面にただよい、煙突筒はすっかり吹きとばされて煙突が水上船内にたちこめ相手すら良く見えなくなってしまった。おまけに舵定で船の動きも悪いとなると衝角もむづかしい。両艦とも幾度かのりあげをくりかえしの末の大さわぎのすえ、ついにたそがれと共にひきわけとなったのであった。



アメリカ海軍には新しい波にふさわしい伝統にとらわれぬ良さがあった。南北戦争になれば良くあらわれている。だがミサイルの台に老巧艦をひっぱり出し、大艦巨砲のおどし外交が有効だと思うようになると様子がガラッと変る。世界一を誇ようにかつてのスペインの無敵艦隊のように国家も海軍も内部からくさり始める証拠であろう。レパント沖に出動した老巧艦は何の役にもたず、老いぼれのままだけであった。

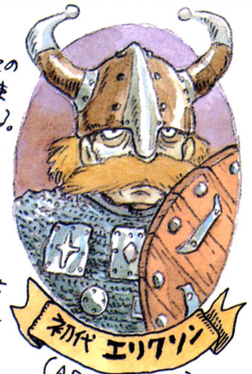
1984.11.3

この海戦に参加した両艦の兵員は、その後一回の耳なりがやまなかった。

エリクソン

エリクソンは伯人による発明品である。南軍の装甲艦対策に苦しんだ北部政府は装甲艦の設計を公募した。スェーデン人技師エリクソンは、自分のアイデアが斬新すぎるのをよく心得ていたので、海軍当局へは図面を提出せず、政府中枢に直接乗りつけた。それでもスンナリ決ったわけではない。たった100日間で造るという彼の言葉で政府はようやく採用を決定したのであった。メリマックは既に5ヶ月前から工事を開始していた。水はおあきくあげられていた。

エリクソンは樣子のように作った。すべての図面を自分でひき、陸軍造船廠で見事、約束どおり100日間で建造してしまったのである。このモニターがその後の軍艦の形を決定してしまった。全周に射撃可能な蒸気駆動の砲塔、射撃をさまたげるものは煙突までとりはらう徹底した合理主義。そのかわり、動力による強制通風、ついでに船内の換気も動力、同じく動力による揚弾装置など。多くの発明が、このダイヤモンドの子孫の頭から生れ出たのであった。



(A.D 632～678)?

矢とヤッカミは常に発配者を苦しめる。世間の風あたりは彼にも相当あったようである。「モニター(警告者)」という船名は彼自身の命名だという。「あんたら モタモタしとると ヒドイ目に会いますぜ。時代は変ったんだ」というエリクソンの皮肉である。

1862年3月9日は

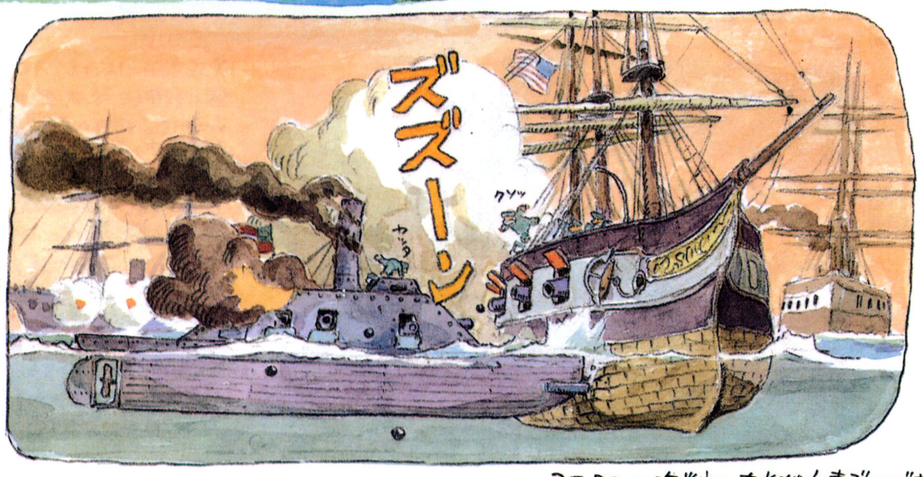
モニターの初陣であると共に、世界ではじめて装甲艦同士の海戦が行われた日であった。

要目

全長 52.5m 幅 12.6m
速力 9ノット(16km/h)
砲塔直径 6.1m
高さ 2.73m
砲装 ダールグレン28cm滑腔砲2門、重さ90kgの鉄の球をぶっぱなすのである。

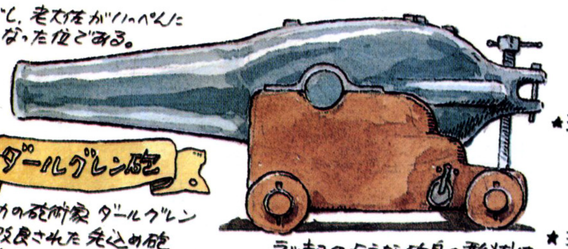
砲弾の雨の中をメリマックは進うように進んだ。

ソフトスキンの煙突は穴だらけになったが装甲鈑は立派に役目を果し、北軍の25cm、23cmのダールグレン砲の弾丸をことごとくはねかえし、ついにメリマックの衝角はスループ・ガンバーランド(24門艦)の横腹にとどいたのであった。ガンバーランドは沈没した。南部の喜びやおどろかし、老女はガックリ大満足なった位である。



3月8日の海戦はたそがれまでつづき日暮と共にメリマックはノーフォークへとひきあげた。いれかわりにモニターはようやくハンプトンローズに到着した。

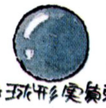
バケツリレーでヘトヘトになった乗員と共にとにかく間にあったのだ。



ダールグレン砲

アメリカの砲術家ダールグレンにより改良された先込め砲。南北戦争で両艦に良く使用された滑腔砲とライフル砲の二種アリ

ラッキョのような砲身の形状は火薬ガス圧の分布を調べて決定された



★球形実験弾(重さ1.4kgの鉄の球)

★球形榴弾

★シェンクル榴弾 もっとも一般的なライフル砲弾である

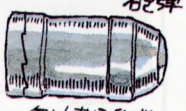
この部分が拡張してライフルにくいこむ

メリマックの要目

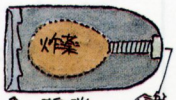
ノーフォーク沖で沈んだ北軍フリゲートをひきあげ その上部をとりはらって造った
全長84m 幅12m 速力は9ノットとも5ノット(9km/h)ともいう。船の動きが悪く回頭がむずかしかった。

操舵室
厚さ50cm松
厚さ約10cm(4吋)の鉄鈑
砲郭
10cm厚オーク材
ブルックライフル砲(先込め)
砲装
17.8cm ライフル砲 2門
15 cm ライフル砲 2門
23cm 滑筒砲 6門
小砲 2
回転式砲塔(チェーンによる)
石炭

ブルックライフル砲弾



無炸薬実質弾



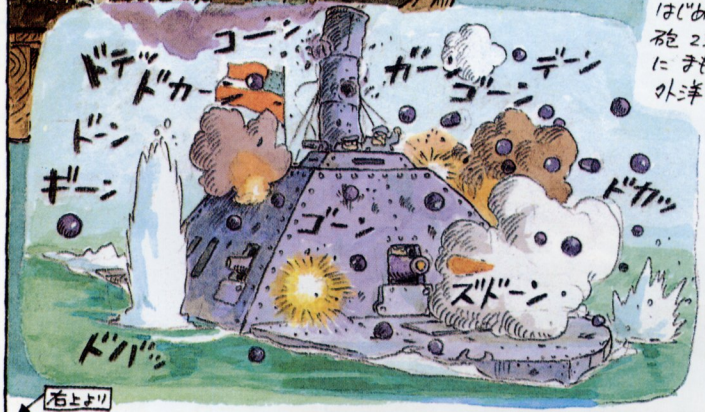
榴弾 信管

信管とりつけ
信管はシェンクル起発信管である。

弾尾のこの部分がガスで拡張してライフルにくいつくのである。滑筒砲は球形弾を使っている。

メリマックの砲力はたいしたものではない。その不足をカバーするために 船首にするどい鉄製の衝角(ラム)がつけられていた。装甲で身を守りつつ敵船に近づき横腹に風穴をあけようというのである。やがて3月8日 メリマックは ハンプトン・ローズの北軍艦隊めざして進みはじめた。敵は蒸気フリゲート2、帆走フリゲート2、スループ1 砲23cm以上200門、兵員2200名、おまけに陸上砲台にまもられた大兵力である。この時 モニターはまだ外洋にいた。

左下へつづく



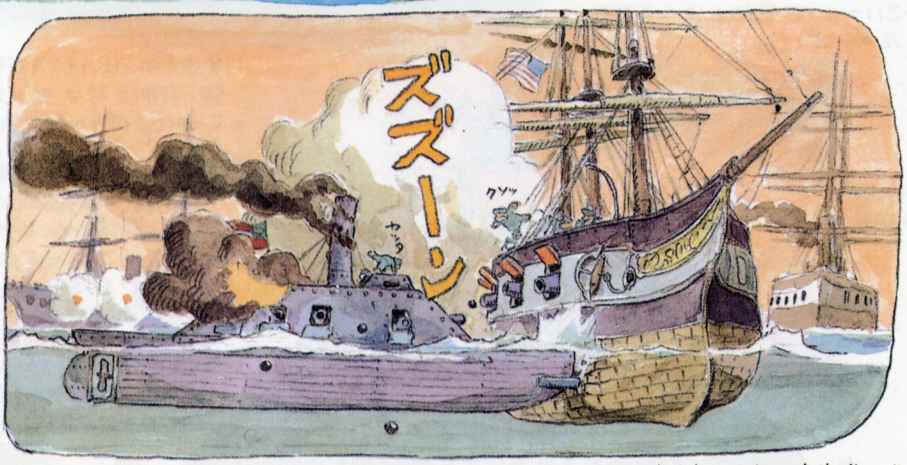
右上より

モニター

こぬ矢(ランマー)は砲口から尾尾を出して操作した(はずどアル)

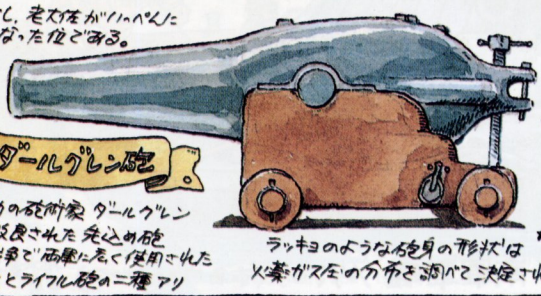
軍艦をなくす事で 船側装甲を省略した。水線下の防禦は分厚い木材にはった1.27cmの鉄鈑で充分だった。甲板は25ミリの鉄板。船腹砲がたいした迎角さえとらず 大落角弾などなかった時代なので 命中弾はみな滑って海の中に消えてしまったという。

砲弾の雨の中をメリマックは 這うように進んだ。ソフトスキンの煙突は穴だらけになったが 装甲鈑は立派に役目を果し、北軍の25cm、23cmのダールグレン砲の弾丸をことごとくはねかえし、ついにメリマックの衝角は北軍スループ ガンバーランド(24門艦)の横腹にとどいたのであった。ガンバーランドは沈没した。軍艦の喜ちゃおどうべし、老女性がリンペンに大将になった位である。



3月8日の海戦はたそがれまでつづき日暮れと共に メリマックは ノーフォークへとひきあげた。いれかわりに モニターはようやく ハンプトンローズに到着した。

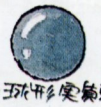
バケツリレーでヘトヘトになった乗員と共にとにかく間にあったのだ。



ダールグレン砲

アメリカの砲術家 ダールグレンにより改良された先込め砲南北戦争で両軍に広く使用された滑筒砲とライフル砲の二種アリ

ラッキョのような砲身の形状は火薬ガスの分布を調べて決定された



★球形実質弾(単なる鉄の球)

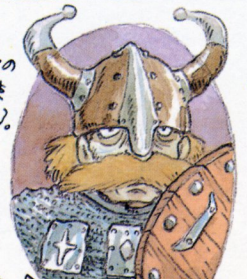
★球形榴弾

★シェンクル榴弾
もっとも一般的なライフル砲弾である

この部分が拡張してライフルにくいこむ

モニターは 仏人による発明品である。南軍の装甲艦対策に苦慮した北部政府は 装甲艦の設計を公募した。スェーデン人技師 エリクソンは、自分のアイデアが斬新すぎるのをよく心得ていたので、海軍当局へは図面を提出せず、政府中枢に直接送りつけた。それでもスンナリ決ったわけではない。たった100日間で造るという彼の言で 政府はようやく採用を決定したのであった。メリマックは既に5ヶ月前から工事を開始していた。水はおだやかにあがられていた。

エリクソンは 怪物のように働いた。すべての図面を自分でひき 陸軍塔操で見事、約束どおり100日間で建造してしまったのである。このモニターが その後の軍艦の形を決定してしまった。全周に射撃可能な蒸気駆動の砲塔、射撃をさえぎるものは 煙突までとりはらう 徹底した合理主義。そのかわり、動力による強制通風、ついでに船内の操舵も動力、同じく動力による揚弾機。多くの発明がこのライキングの子孫の頭から生れ出たのであった。



初代 エリクソン
(A.D 632～678)?

この照準器は まったく私の想像である。ダールグレン砲は尻がでかいので 小さな砲内からは照準出来ないと確信する▲

▲となると砲塔上部より 狙うしかない。後回は上でやるとして、俯角は砲尾のネジでやるから、部分 上から大声で号令したらガンバレ(と思う)

10吋の鉄鈑より被覆の厚さ 約20cmの砲塔

装填の際は 砲塔を回転させて 砲口から ちがう 砲弾が とび込むのをふせいだ。

各砲 砲員は各 他に士官達 さぞ あわくるしかったはずである。

1吋半(2.5cm)の鉄鈑

砲塔旋回用蒸気機関

注) 左右がゆがんでいるのは エリクソンの設計のせいとは ハナ!! 流なかった奴のせいである。

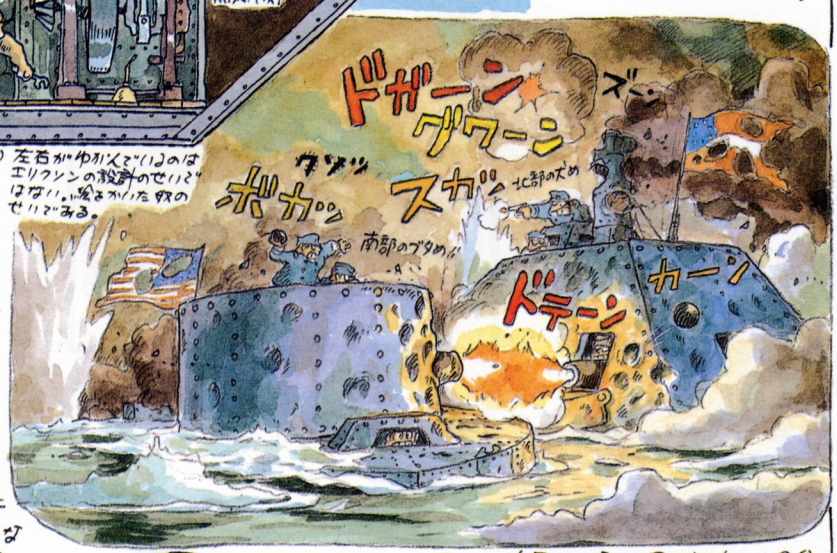
笑ヒヤッカミは 常に先駆者を苦しめる。世間の風あたりは 彼にも相当あったようである。「モニター(警告者)」という船名は 彼自身の命名だという。「あんたら モタモタしとると ヒドイ目に会いませ。時代は変ったんだ」という エリクソンの皮肉である。

1862年3月9日 は モニターの初陣であると共に、世界ではじめて 装甲艦同士の海戦が行われた日であった。

要目

全長 52.5m 幅 12.6m
速力 9ノット(16km/h)
砲塔直径 6.1m
高さ 2.73m

砲装 ダールグレン28cm滑腔砲 2門、要するに90kgの鉄の球をぶっぱなすのである。



両艦は100m以内の至近距離に近づき猛然と砲撃をくわった。しかし一発も相手の装甲を貫ぬく事が出来なかった。勿論 弾丸がスキ間からとび込んで負傷者は出た。メリニックの老艦長は 前日の戦闘で傷つき退艦している。いくら砲撃しても無駄だと判ると、両艦とも自分の舵で 相手の横腹を小突こうと試みた。しかし 確実性はあたり一面ただよい、排煙筒はすっかり吹きとばされて煙突が水上船内にたちこめ 相手すら良く見えなくなってしまった。おまけに舵足で舵の効きも悪いとなると 衝角もむづかしい。両艦とも 浅瀬にのりあげたりの、終日の大さわぎのすえ ついに たそがれと共にひきわけとなったのであった。

アメリカ海軍には 新しい国にふさわしい伝統にとらわれぬ良さがあった。南北戦争になれば 良くあらわれている。だが ミサイルの台に老巧艦をいばり出し、大艦巨砲のおどし効果が有効だと思うようになると 様子がちがって来る。世界一を誇るようになったスペインの無敵艦隊のように 国家も海軍も内部からくさり始める前兆である。レパント沖に出動した老巧艦は 何の役にもたたず、笑いものになっただけであった。

1984.11.3

この海戦に参加した両艦の兵員は、その後一回間 耳なりがやまなかった。

第3話

多砲塔の出番

堅陣突破こそ男の花道!?とばかりに、

夢の多砲塔戦車「悪役一号」は

悪役大佐の指揮のもとに反乱を起こし、

一路帝都へ進撃開始！

悪役大佐が町でさらった少女への恋は、

豚と人間との壁を越えて成就されるのか!?

初出：月刊モデルグラフィックス1985年1月号
（連載第3回、執筆・1984年12月）

雑想ノート
連載その3回
VSB-2 ボストニア王国陸軍超重戦車 (1932年試作)
全備重量 76t 最大速力 12km/h
装甲最大60ミリ 兵装
150ミリ榴弾砲×1
50ミリ歩兵砲×3
37ミリ速射砲×1
7.7ミリMG ×6
兵員 14名
生産台数
1輌
多砲塔の出番
50年も昔の少年雑誌には、よく左のような絵がのっていたものである。その名も多砲塔重戦車。鉄条網を踏みにじり、トーチカを粉砕し、いかなる堅陣をもたちまち突破する、無敵の鉄牛というわけだった。が、第2次大戦がはじまるや、活躍どころか、たちまち姿を消してしまったのが、この多砲塔なのだ。
職業柄、戦車を時々フィルムに登場させるのだが、どうも最近の戦車はスマートすぎる。戦車はだいたい悪役むきなのであって、悪役には多砲塔がぴったりだ。というわけで、いつか、せめてフィルムの中で活躍させたいとおもうようになった。
戦車かきたい!!
アニメーターには時々このような殊勝な者がおるのであります
どうも本物はもうひとつピンとこないのである
ソヴィエト T-35 バルバロッサの初期に全滅
フランス 2C戦車 独仏戦争で輸送中に全滅
イギリス インデペンデント重戦車 使われずじまい
日本 92式重戦車 「のろくろ」によくにあう
悪役たるものこうじゃなくちゃ

かくして造られたのがこの夢の多砲塔戦車
「悪役1号」である
時あたかも1930年代中頃のこと

全備重量　200t
出力　1000HP×2
速力最大28km
(カタログ上)
兵装かずしれず

工兵塔
火焔放射器と
ダイナマイト砲標準装備

隠顕式指令塔
スルスルとのびれば
なんと地上高10m
の視野を楽しめる
のである。

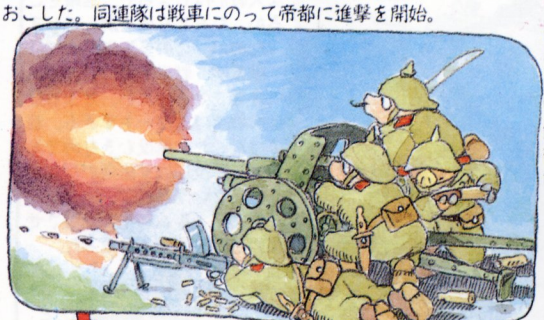
ドーザープレートは
油圧で操作する。

この戦車の最大の特徴は腹部にもう一本の
キャタピラーを持つことである。これにより
戦車障害物を易々と乗りこえるのである!!

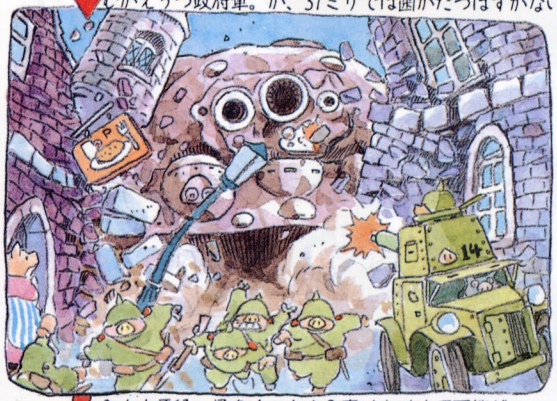
後向き
操縦室
そのまま
帰れる
便利なもの。
後にドイツ軍が
重装甲車でまねた。

ものがたり

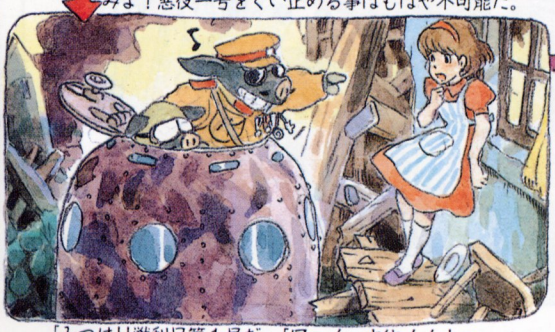
バークシャー連隊が悪役大佐にひきいられて反乱を
おこした。同連隊は戦車にのって帝都に進撃を開始。



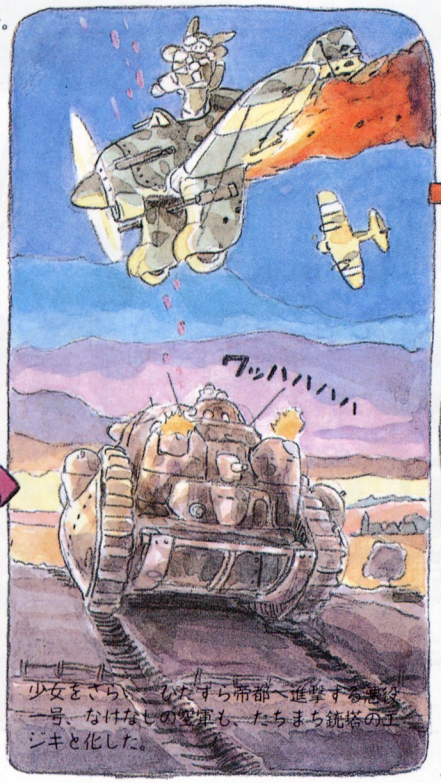
むかえうつ政府軍。が、37ミリでは歯がたつはずがない。



みよ！悪役一号をくい止める事はもはや不可能だ。



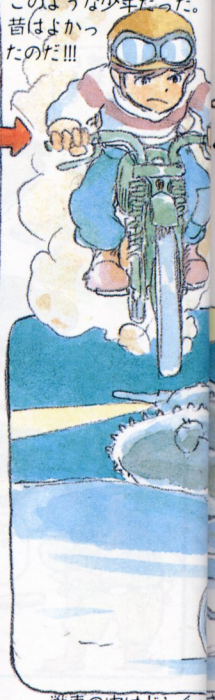
「みつけ!!戦利品第1号だ」「ワーイ、大佐イイナァ」



少女をさらい、ひたすら帝都へ進撃する悪役
一号、なけなしの空軍も、たちまち銃塔の王
シキと化した。

兵員は小柄な者をそろえている。
のちに、この思想は、連軍にうけつがれた。

そこへ主人公登場!!
昔の主人公は、たいてい
このような少年だった。
昔はよかっ
たのだ!!!



戦車の中はドンチャ

世紀の悪役
バークシャー連隊大佐
悪役一号の生みの親である

試作段階でつくられた
短砲身タイプの砲塔
すぐに長砲身のものに
かえられた

230ミリ噴射砲(ロケット臼砲)

75ミリ速射砲

170ミリ加農砲
同軸装備の各種機銃は
5種7丁をかぞえる

銃塔(2丁装備)

こんなのかいたら死ぬ!!

シンフォル

ぼぼくのいう戦車ってこういうのです…

フン! 今ヒラミダタイてもおそいのである

大佐の好物はポークコロッケ

指令塔は大佐の個室でもある。悪役にはこのような部屋が必要だ。女の子をくどくためにも。

PORK LOVE

立派な悪役とは、かわいい子は必ず口説いてあげねばならない。結果はどうあれ。

そしてついに!!悪役一号と大佐の野望はついえた

ここから先は上の図を見つつ演出が必死に考えるのである

どうもぐりこみ
どうこわし
どう火をつけるかと…

説明ナシでこわすな!!

おわり

このようなマンガ映画を観たい方は、2億円ほど持参して下さい。1年ほど待って下されば、70分の総天然色マンガ映画を創ってさしあげます。(PR)

さわぎの前祝中、今こそ乗り込むチャンス

1984. 12. 3.

第4話

農夫の眼

1930年代後半に起こったスペイン市民戦争で、

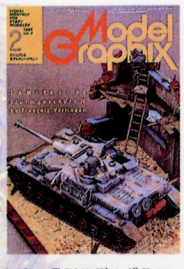
反ファシズムの闘士としてその身を投じた

フランス人作家、アンドレ・マルロー。

彼の著作『希望』に登場する

エピソードに基づく、

フランス旧式機による決死の爆撃行！



初出：月刊モデルグラフィックス1985年2月号
（連載第4回、執筆・1985年1月）

POTEZ 540

雑想ノート No.4

農夫の眼

爆弾のサイズがまちまちなのは当時のスペインの工業水準の低さが原因である というわけではなく、絵をかいた奴のせいである

96式陸攻とほとんど同じ時期に造られたフランスのポテーズ540は、産れた瞬間から旧式機という、みじめな爆撃機だった。木金混成の四角い胴体、支柱と張線だらけの羽布張りの高翼、空気抵抗を減らす努力をしたとは思えぬのに、武骨なエンジンカウリングに引き込まれる脚。設計者達が何を考えていたか判らん機体である。カタログ上はどうか知らないが、水平全速300km／時は絶対に無理だったはずだと思う。しかし、この飛行機に乗って自身の思想と信条のために戦った男達がいた。スペイン市民戦争(1936年〜39年)に、人民戦線政府(共和派)の国際義勇航空隊に身を投じてファシズムと戦った男達（フランス人、イタリー人、アメリカ、ドイツ、アラビアその他の国々から集まった人々）である。各国労働者のカンパに支えられて購入されたポテーズ540で、彼等は、独伊が送り込んだ正規空軍(名前だけは義勇軍）を相手にスペイン上空へ出撃していった。

ポテーズ540
全長16m
全幅22m
最大速力310km／時
航続距離1200km
7.7ミリ機銃×3
爆弾200kg×4
又は 50kg×10

このノートは、アンドレ・マルローの小説「希望」をもとにしている。「征服者」「人間の条件」等の著者として知られるマルローは、国際義勇航空部隊の創建にたずさわり、自身もポテーズでの爆撃行に参加したのである。

赤色の帯のみというマーキングが共和政府軍の正式のものとはおもえない。が少くともこのエピソードがあった時期には国際義勇軍のポテーズは、このようにマーキングされていた。

尾翼に小さく描かれたこのマークは、ソ連を指すのではない。この時代は、共産主義運動が世界から戦争をなくすと信じられていた最後の時代だったのだ。そして、裏切りが明らかになった時代でもあった

ポテーズ540

イスパノスイザ水冷12気筒 780HP

足カケ

半引込み式銃座

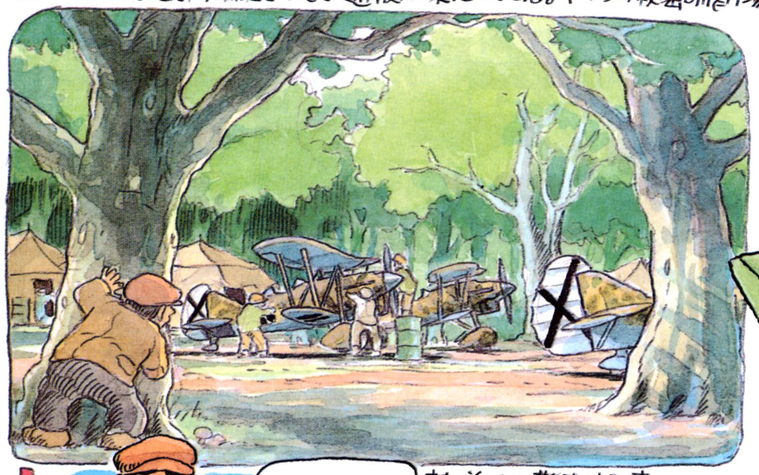
カモフラージュといっても翼下面までダークグリーン一色とは、これも又ナゾではある。
それにしても、こんなに描く甲斐のない機体も珍しい。
どのアングルから描いても まるで風邪をひいたワトソン → にしかならない。

ジュラルミンのカウリングは無塗装という機体が多いが、ダークグリーンのもある。ぼくはこの方が好きだ。

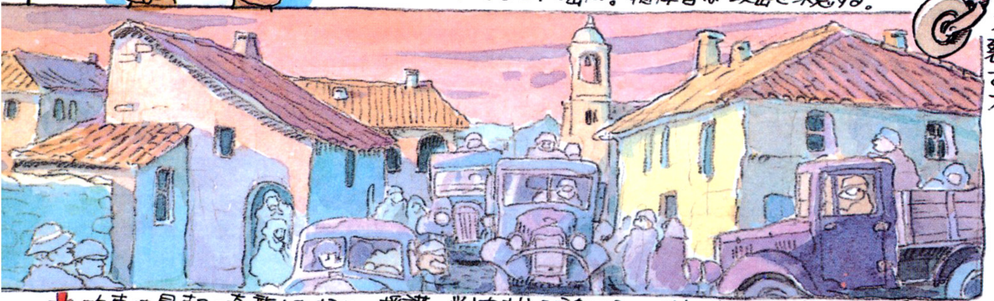
← このマーキングがおそらく正式のものであるが、まちまちの時期もあったようだ

1937年(昭和12年)2月9日 スペイン地中海戦線

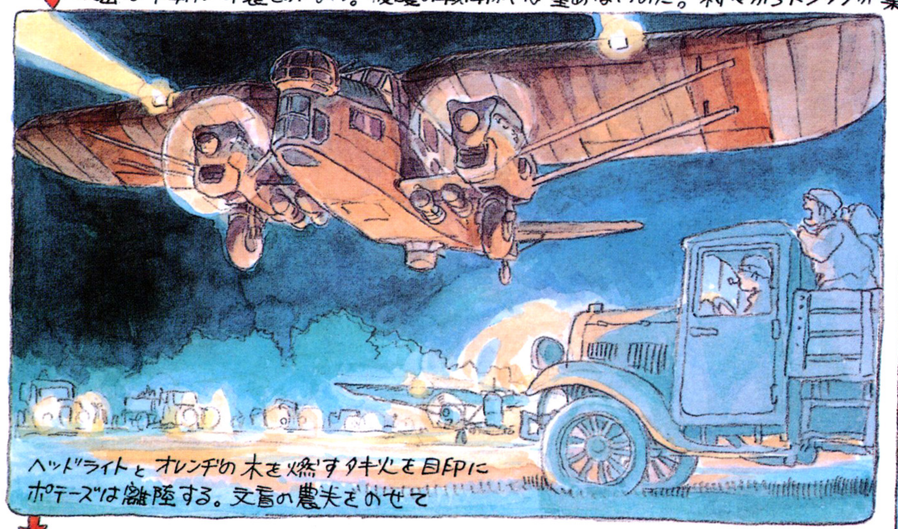
ひとりの農夫が義勇航空隊の基地にたどり着く。ファシスト軍に占領されたテルエル近郊の自分の村を脱け出し、戦線をこえて通報に来たのである。やっぱり秘密の飛行場があると…



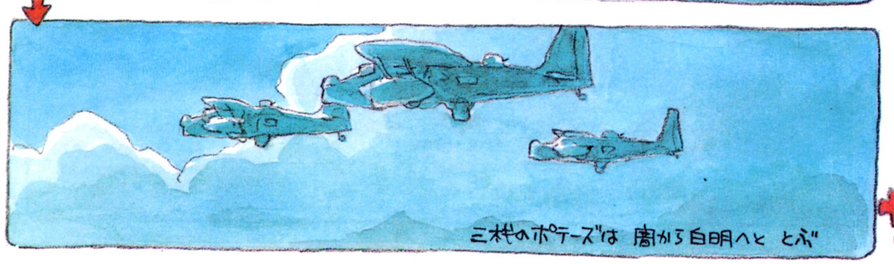
村の近くに散在する森のひとつにかくされているという。農夫は文盲だった。地図が読めない。いったいどの森なのだ"…。農夫は飛行機に乗って道案内すると申し出た。搭乗員は攻撃を決意する。



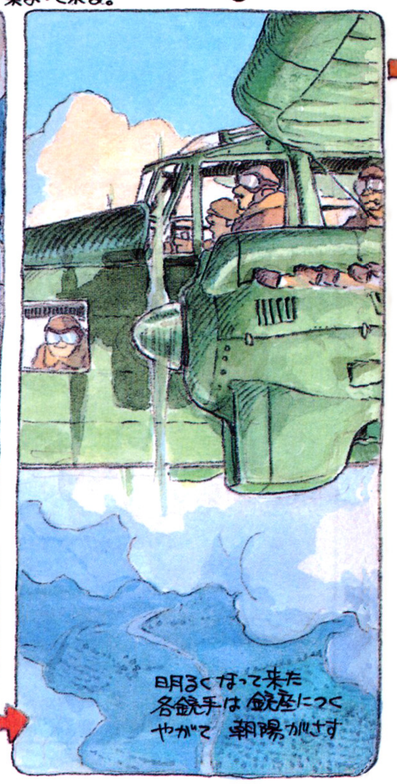
攻撃は早朝の奇襲しかない。援護の戦闘機は望めないのだ。村々からトラックが集まって来る。



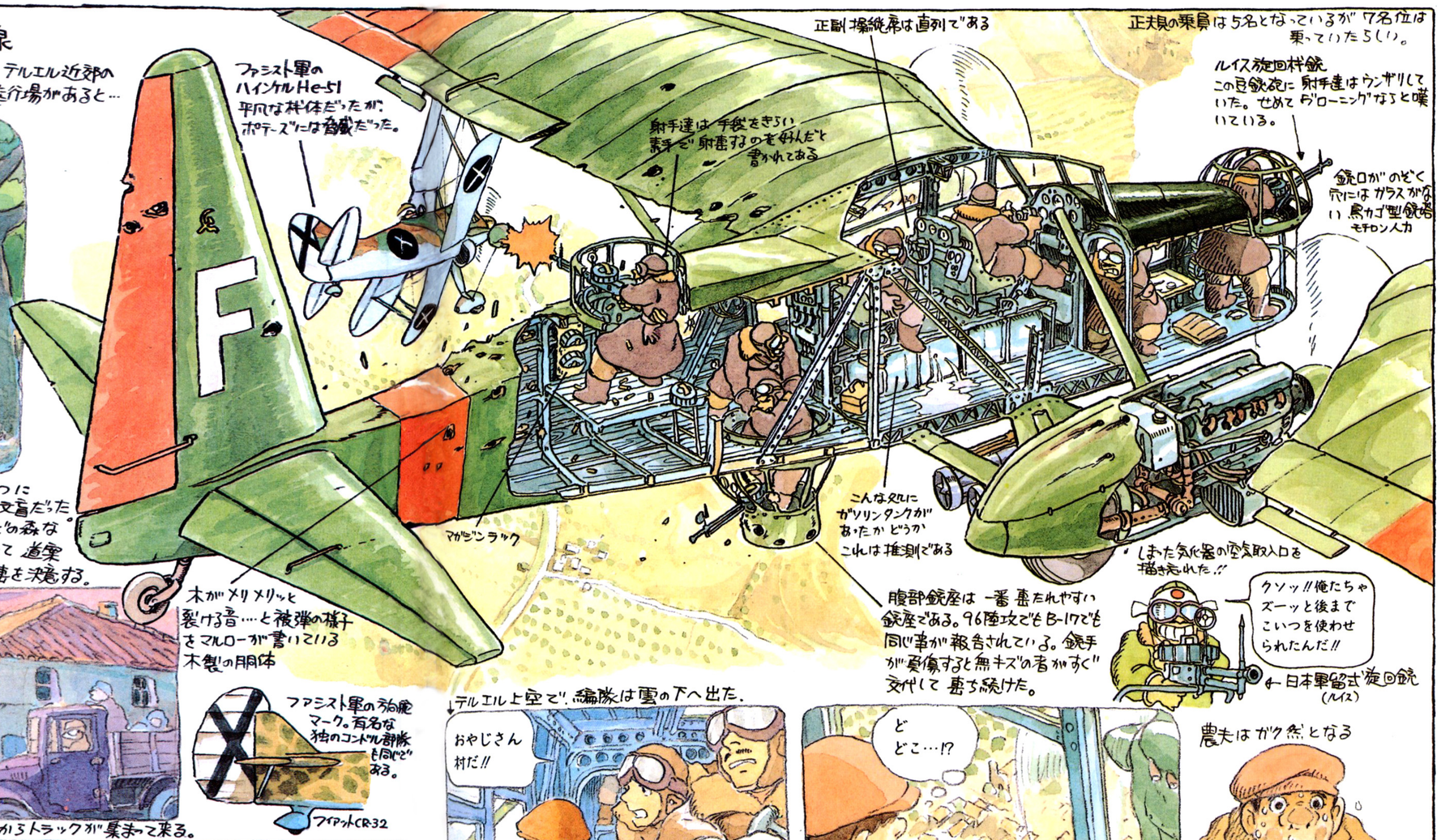
ヘッドライトとオレンジの木を燃す焚火を目印にポテーズは離陸する。文盲の農夫をのせて



三機のポテーズは闇から白明へと とぶ

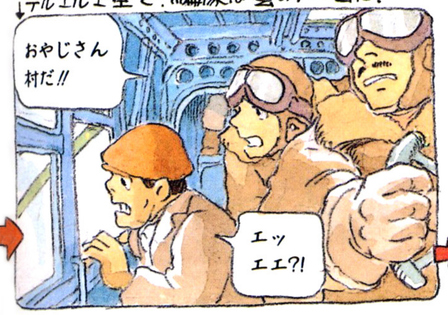


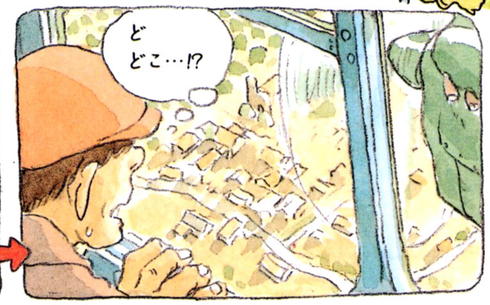
明るくなって来た
各銃手は銃座につく
やがて 朝陽がさす

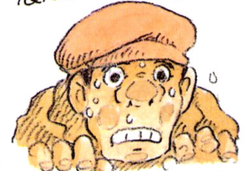


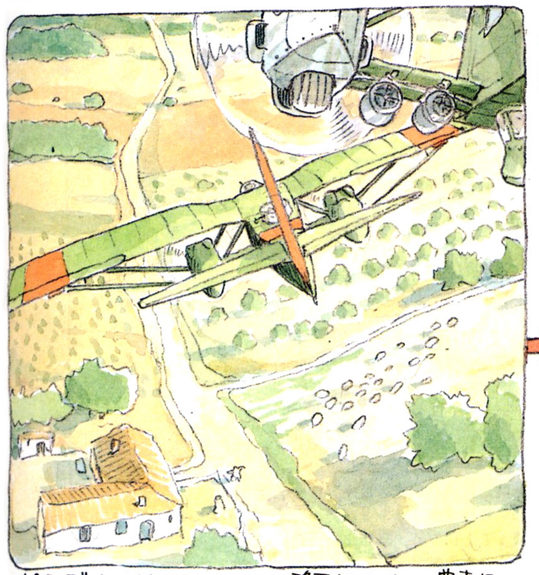
ファシスト軍の識別マーク。有名な独のコンドル部隊も同じである。

フィアットCR-32

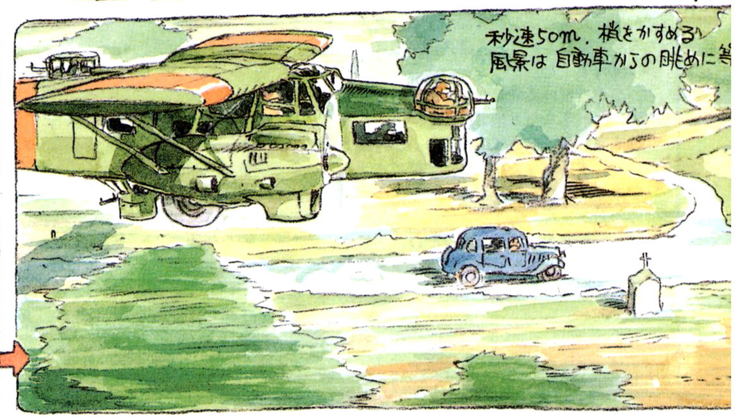








ポテーズは地上スレスレへと降下していく。農夫にみなれた眺望を与えるために… どの森だ!?



「もし人間が見ること、探すことのために死ぬことがあったら、この農夫は死んでいただろう」とマルローは書く。見開かれた眼から涙がこぼれほおをつたい、アゴはケイレンしている。時間がない、敵機にとび立つ間を与えてしまう

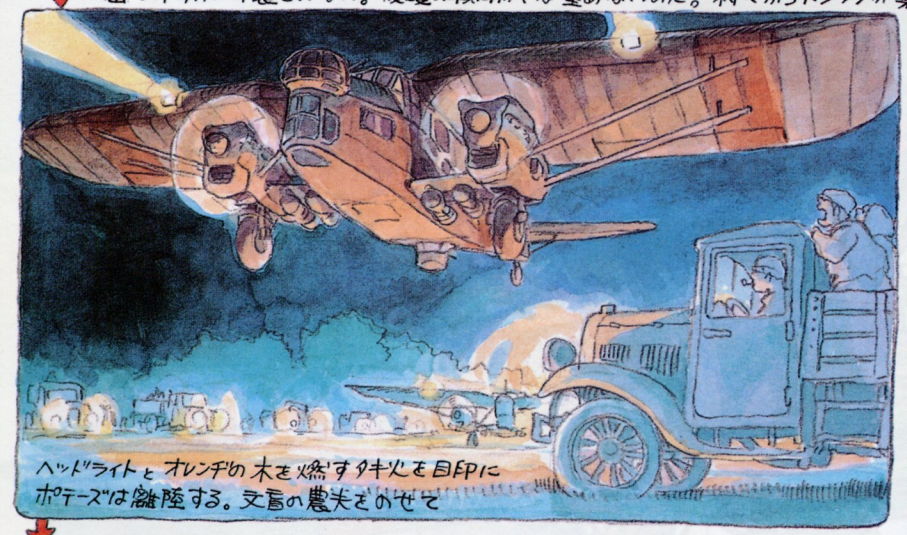
そして、ついに農夫は気がつく

1937年(昭和12年)2月9日 スペイン地中海戦線

ひとりの農夫が義勇航空隊の基地にたどり着く。ファシスト軍に占領されたテルエル近郊の自分の村を脱け出し、戦線をこえて通報に来たのである。やっとの秘密の飛行場があると…

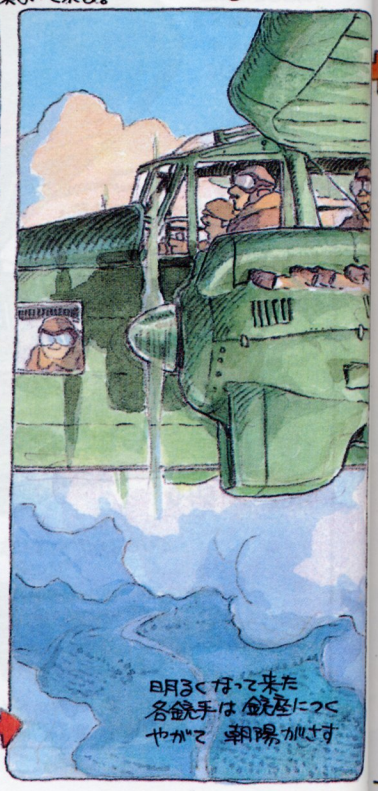
村の近くに散在する森のひとつに隠されているという。農夫は文盲だった。地図が読めない。いったいどの森なのだ…。農夫は飛行村に乗って道案内すると申し出た。指揮官は攻撃を決意する。

攻撃は早朝の奇襲しかない。援護の戦闘機は望めないのだ。村々からトラックが集まって来る。



ヘッドライトとオレンジの木を燃す火を目印にポテーズは離陸する。文盲の農夫をのせて

三機のポテーズは闇から白明へととぶ



明るくなって来た
各銃手は銃座につく
やがて朝陽が射す

ファシスト軍のハインケルHe-51
平凡な機体だったが、ポテーズには脅威だった。

木がメリメリッと裂ける音…と被弾の様子をマルローが書いている木製の胴体

ファシスト軍の弱点マーク。有名な独のコンドル部隊も同じである。

フィアットCR-32

正副操縦席は直列である

正規の乗員は5名となっているが7名位は乗っていたらしい。

ルイス旋回機銃
この旋銃座に射手達はウンザリしていた。せめてグローニングなうと嘆いている。

射手達は手袋をきらい素手で射撃するのを好んだと書かれてある

銃口がのぞく穴にはガラスがない鳥カゴ型銃器
モチロン人力

マガジンラック

こんな処にガソリンタンクがあったかどうかこれは推測である

しまった気化器の空気取入口を描き忘れた!!

腹部銃座は一番壊れやすい銃座である。96陸攻でもB-17でも同じ事が報告されている。銃手が負傷すると無キズの者がすぐ交代して撃ち続けた。

クソッ!!俺たちゃズーッと後までこいつを使わせられたんだ!!

←日本軍留式旋回銃(ルイス)

↓デルエル上空で、編隊は雲の下へ出た。

おやじさん村だ!!

エッエエ?!

どどこ…!?

農夫はガク然となる

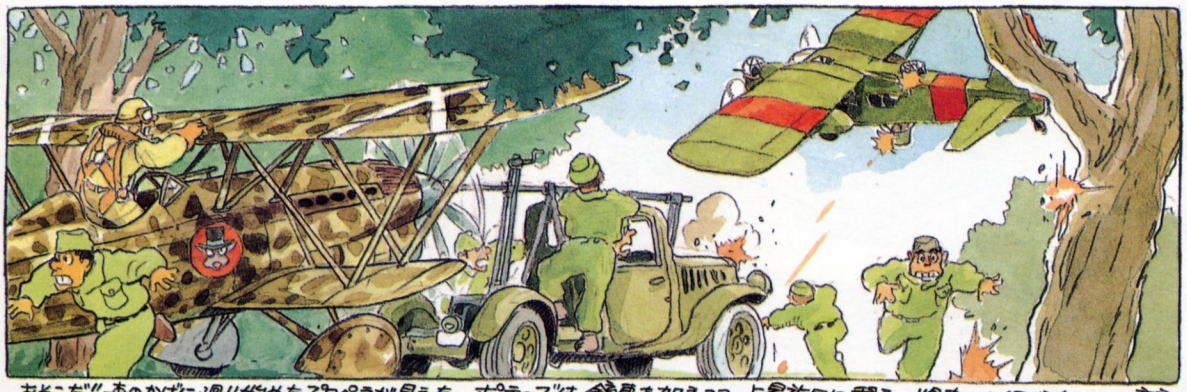
自分の村が判らない!! すみからすみまで知りつくした土地なのに

秒速50m、横をかすめる風景は自動車からの眺めに等

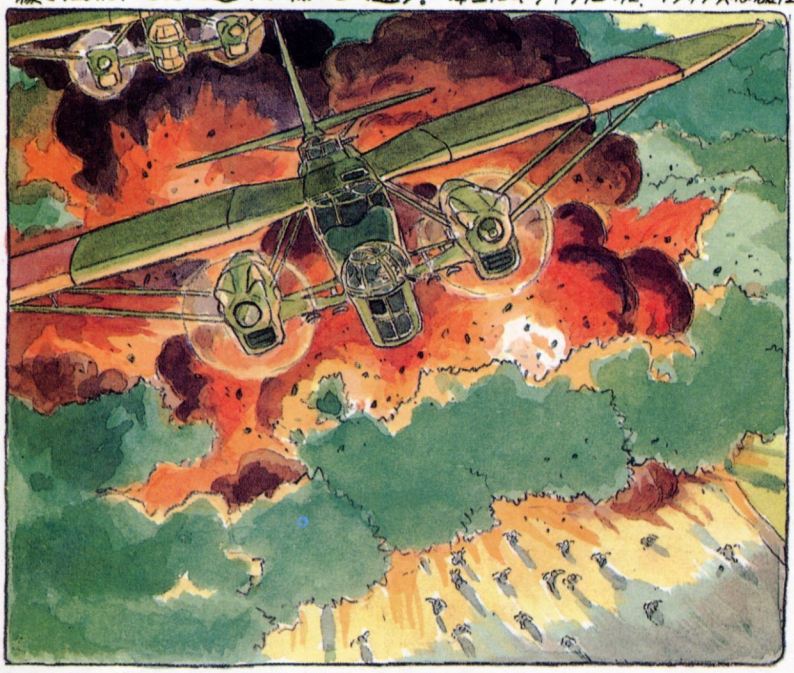
ポテーズは地上スレスレへと降下していく。農夫にみなれた絶望を与えるために… どの森だ!?

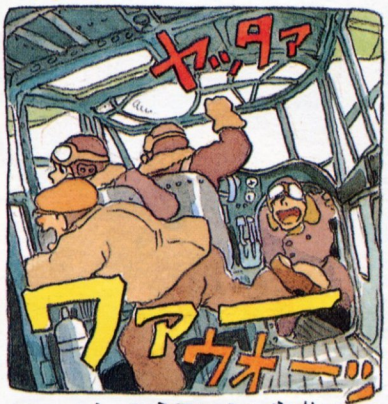
「もし人間が見ること、探すことのために死ぬことがあったら、この農夫は死んでいただろう」とマルローは書く。見開かれた眼から涙がこぼれほおをつたい、アゴはケイレンしている。時間がない、敵機にとび立つ間さ与えてしまう

そして、ついに農夫は気がつく



おそこだ!! 森のかげに廻り始めたプロペラが見えた。ポテーズは銃撃を加えつつ上昇旋回に移る。爆撃に必要な400mの高度を稼ぐために、そして全速力で森へとって返す。本当にギリギリだった、イタリア兵は離陸を断念する。



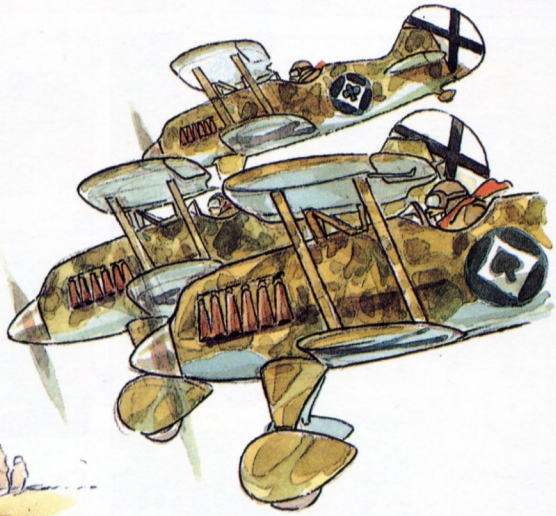


ファシストの秘密飛行場は壊滅した
農夫はうれしさと寒さで機関に足踏みをしている

帰途、ポテーズの編隊は、別の飛行場から飛び立ったHe51の7機に襲われた。ポテーズの二番機が撃墜され、アラビア人の国際義勇航空兵が死に、フランス人、ベルギー人、イタリア人が負傷している。負傷兵達は農民達の担架ににになわれ、基地に帰って来た。

ポテーズの編隊を指揮したマニヤンという名のフランス人が、マルロー本人だと伝えられている。おそらく、このエピソードは本当にあった事なのだろう。私は観ていないが、マルローの同名の映画「希望」には、実際にポテーズによる空襲のシーンがあるという。

1939年3月、スペイン内乱は人民戦線政府の敗北で終りを告げた。自信をつけたヒトラーは、同じ年に第二次大戦を開始する。スペイン内乱でナチスとファシストを破っていれば、戦争はおきなかったと今も信じている義勇兵の生残り達がいるともきく。



内乱終結時、人民戦線側の数十万の労働者・農民が虐殺された。その後1975年に独裁者フランコが死ぬまで、スペインにはファシスト政権が続くことになる。私は文盲の農夫がなんとか生き残り、天寿をまっとうしたと信じたい。

1985. 1. 7

第5話

竜の甲鉄

清国北洋艦隊が、

世界に誇る最新鋭甲鉄艦、定遠（ていえん）と鎮遠（ちんえん）。

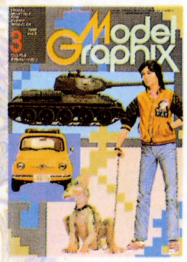
圧倒的な装甲防御と

大火力を持った両艦は、1894年9月、

黄海にて日本艦隊と激突！

日清両国の間で咆哮する

2頭の竜の運命はいかに…!?



初出：月刊モデルグラフィックス1985年3月号
（連載第5回、執筆・1985年2月）

1894年9月17日、清国北洋艦隊の旗艦定遠は、近づく日本艦隊に5,800mで初弾を発射し、ついでにまだブリッジの上にいた提督丁汝昌と外人顧問タイラーの二人を爆風で吹きとばした。黄海海戦の幕あけである。

定遠・鎮遠要目

全長91メートル	最大速力14.5ノット	
巾 18メートル	30サンチ砲	4
排水量7310トン	15サンチ砲	2
出力6000馬力	7.5サンチ砲	4

雑想ノート5回

竜の甲鉄

黄竜旗↑(レーゾウ画)
北洋艦隊の旗なのだが、これが判らない
おそらく こんなものだったというしかない。

1882年(明治15年)ドイツのフルカン造船所で、艦首に金の竜をつけた二隻の甲鉄艦が誕生した。清国が、北洋水師(艦隊)の主力艦として発注した定遠、鎮遠の姉妹艦である。黄竜は中国清王朝の紋章であった。当時、列強は1万トンクラスの主力艦建造を始めていたが、二流とはいえ、両艦とも7,000tをこえる堂々たる巨艦である。西南戦争が終って間もない日本なんかにとても買える代物ではなかった。

30サンチの巨砲

艦首15サンチ砲
艦尾にも一門アル

清国水兵は水平服を着ていなかった。水色の民族服に弁髪であった。

1891年(明治24年)、北洋艦隊は日本を訪問した。日本人は両艦の砲塔に茫然となった。厚さ30センチの装甲砲塔に、30サンチのクルップ砲を連装し、水圧でゴロゴロと自在に動くのである。日本艦隊は装甲砲塔など持っていなかった。おまけにすさまじい重装甲の船体である。舷側装甲356ミリ、主要部はシタデルと呼ばれる甲鉄の砦であった。不沈艦という言葉が、この頃既に使われている。折しも、日清両国間は風雲急をつげていた。

定遠の装甲

定遠型の砲塔の天蓋には
将校塔がない。砲側の照準しかない時代なので
おそらくこの辺に照準窓があったと思う

305ミリ
装甲

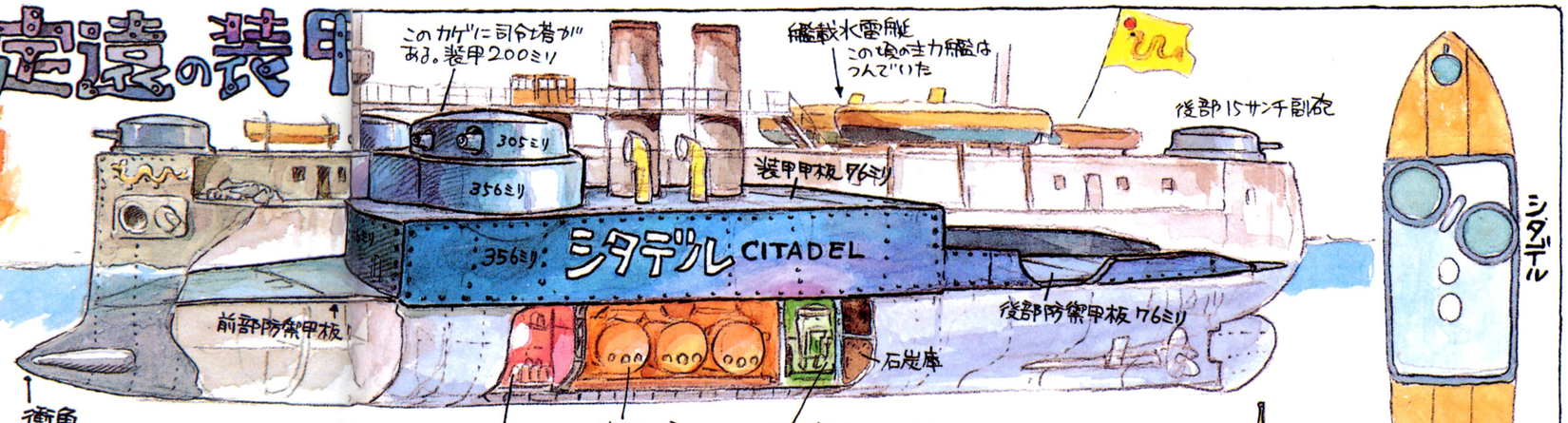
クルップ20口径
30サンチ砲
砲が斜めのレールを
後退して 発砲の反動
を吸収する。

76ミリ
装甲甲板

356ミリ 舷側装甲

石炭庫

ボイラー室

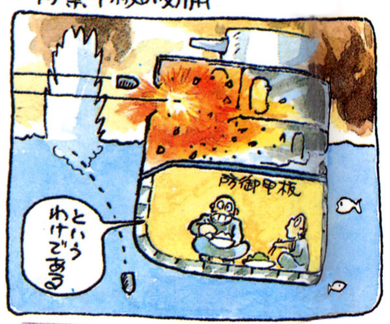


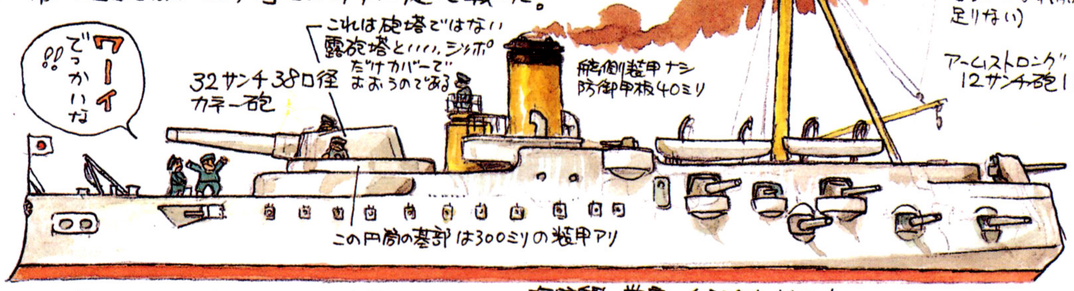
衝角
1866年 リッサの海戦で 劣勢のオーストリー艦隊が
イタリア艦隊を 体当り攻撃で破って以来 つけら
れるようになった。実際には その後 使われた例
はなく、衝突事故の時に 仲間を沈めるだ
けなので、やがて廃止されていく。

弾薬庫　ボイラー室　機関室(もちろん蒸気機関である)

シタデルとは 艦の主要部を 中央に集め、分厚い装甲でおおった鉄の箱である
機関、ボイラー、弾薬庫、砲塔を集中防禦する 19世紀の末に 流行した方式で、今
日の常識からすると まことに奇妙なカッコウだが、全艦くまなく 装甲すれば
重くて沈んじまうのだから、軽量強固な最新式装甲だったのである。
砲塔を両舷に並列させて 主砲4門の全火力を 前方へ集中し、するどい衝角
をかざして 敵につき進んでいく艦として 定遠と鎮遠は 建造され、実際にも 黄海海
戦では「常に艦首を敵に向ケヨ」との命令に従って戦った。

防禦甲板の効用



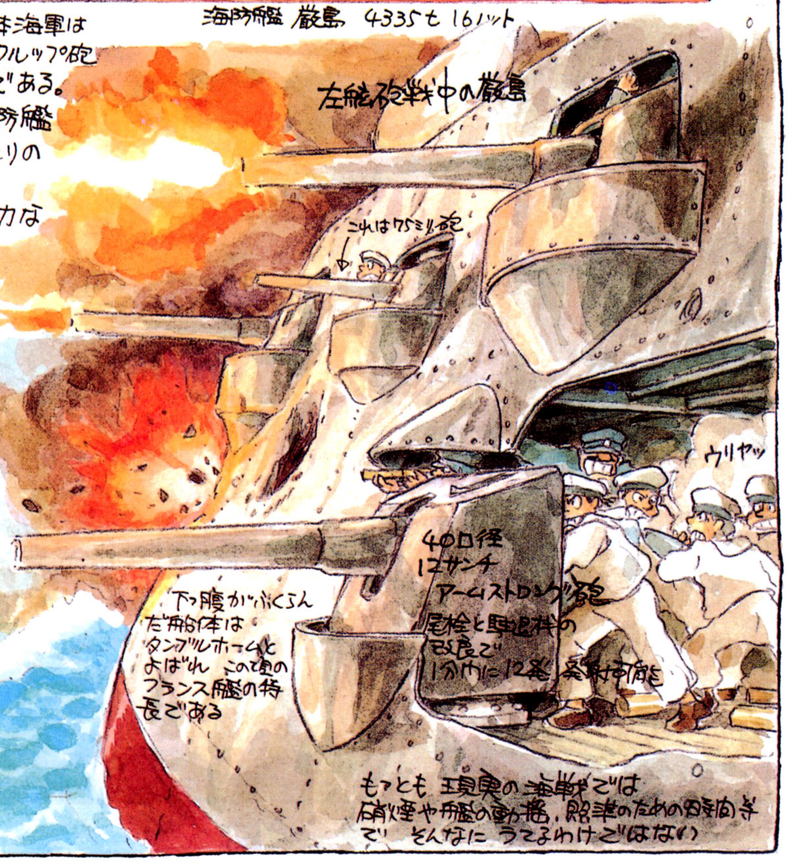


この時代 魚雷は実用化が
始まったばかり。まだジャイロに
よる進路維持器がないので
仲々 まっすぐ走ってくれなかった。
航走距離も たった300mである。

定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を 日本海軍は
仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲
より はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲が それである。
松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦
にカネー砲を一門づつ載せて 定遠の356ミリの
舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。
4000トンクラスの海防艦に やたらに重くて強力な
砲を載せた結果は どうなったか?
強装薬(戦闘時と同じ装薬)で ブッ放すと、
艦内暴動して 故障続出、横にむけて発射
すると針路が変ったという伝説が残っている。
かんじんの決戦で カネー砲は 4~5発は
撃ったとか、いや1発だとか、記憶にない
とか…… 勿論 命中したという記録はない。
要するに 役に立たなかったのである。

海防艦 厳島 4335t 16ノット

左舷砲戦中の厳島

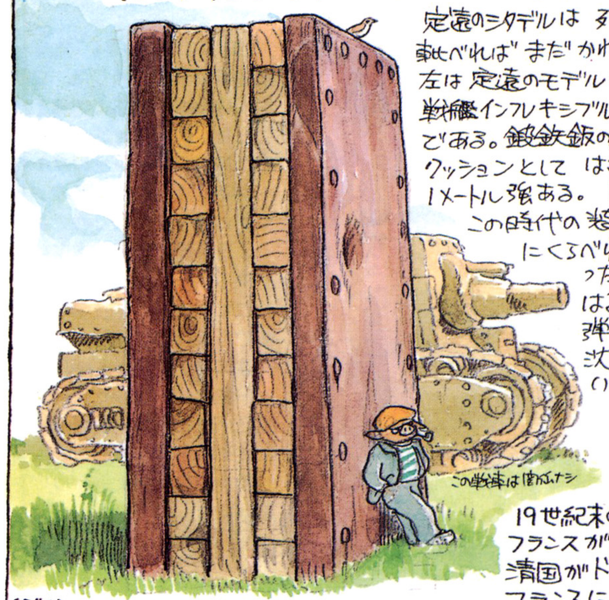


もっとも 玉貫の海戦では
硝煙や艦の動揺、照準のための目標等
で そんなに うまくわけではない

アームストロング速射砲

日本の艦艇は 当時の最新式砲 アームスト
ロング社の速射砲を いちはやく採用して
いた。アームストロング砲で日本海軍は
戦ったのである。従来の砲の8倍という
発射速度を実現した 15サンチと12サンチ
の速射砲で 清国艦隊に砲弾の
雨を注いだ!! 勿論 1発も 定遠と
鎮遠の装甲を 貫ぬいた弾丸はな
かった。

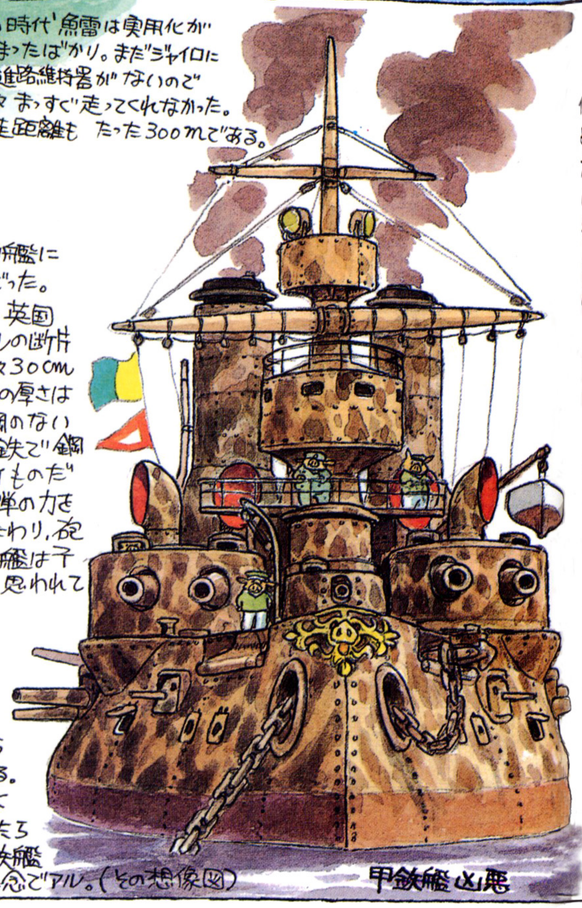
インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲



定遠のシタデルは 列強の主力艦に
乗せべれば まだかわいいものだった。
左は 定遠のモデルといわれる英国
戦艦インフレキシブルのシタデルの断片
である。鍛鉄鈑の厚さは 各々30cm
クッションとして はさまれた木の厚さは
1メートル強ある。 高張力鋼のない
この時代の装甲は 鍛鉄で 鋼
にくらべれば モロイものだ
ったが、砲弾の力を
はるかに上まわり、砲
弾では 主力艦は 不
沈であると思われて
いた。

(クチ) 先月のポテーズといい
どうも かきにくい艦でまいってしまった。
まるで タライである。すきずんだけど…

19世紀末の軍艦なら
フランスが最高である。
清国がドイツでなく
フランスに発注してたら
さぞかし壮烈な甲鉄艦
が生れたのにと 残念でアル。(その想像図)



甲鉄艦必悪

定遠の装甲

定遠型の砲塔の天蓋には
将校塔がない。砲側の照準しかない時代なので
おそらくこの辺に照準窓があったと思う

305ミリ
装甲

クルップ20口径
30サンチ砲
砲が斜めのレールを
後退して 発砲の反動
を吸収する。

176ミリ
装甲甲板

356ミリ舷側装甲

石炭庫

ボイラー室

前部防禦甲板

衝角

1866年リッサの海戦で少数のオーストリー艦隊が
イタリア艦隊を体当り攻撃で破って以来 つけ
られるようになった。実際には その後使われた例
はなく、衝突事故の時に仲間を沈めるだ
けなので、やがて廃止されていく。

防禦甲板の効用

防御甲板

というわけである。

この時代魚雷は実用化が
始まったばかり。まだジャイロに
よる進路維持器がないので
仲々 まっすぐ走ってくれなかった。
航走距離も たった300mである。

インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲

定遠のシタデルは 列強の主力艦に
比べれば まだかわいいものだった。
左は 定遠のモデルといわれる英国
戦艦インフレキシブルのシタデルの断片
である。鍛鉄鈑の厚さは 各々30cm
クッションとして はさまれた木の厚さは
1メートル強ある。 高張力鋼のない
この時代の装甲は 鍛鉄で鋼
にくらべれば モロイものだ
ったが、砲弾の力を
はるかに上まわり、砲
弾では 主力艦は不
沈であると思われて
いた。

この数字は信ぜんナシ

(グチ) 先月のポチーズといい
どうも かきにくい艦でまいってしまった。
まるで タライである。すきなんだけど…

19世紀末の軍艦なら
フランスが最高である。
清国がドイツでなく
フランスに発注してたら
さぞかし壮烈な甲鉄艦
が生れたのにと残念でアル。(その想像図)

甲鉄艦必悪

このカゲに司令塔がある。装甲200ミリ

305ミリ

356ミリ

艦載水雷艇
この頃の主力艦はつんでいた

装甲甲板76ミリ

後部15サンチ副砲

356ミリ シタデル CITADEL

後部防禦甲板76ミリ

石炭庫

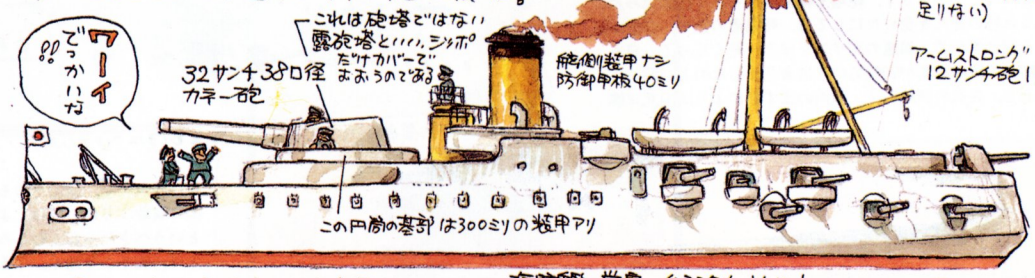
弾薬庫

ボイラー室

機関室(もちろん蒸気機関である)

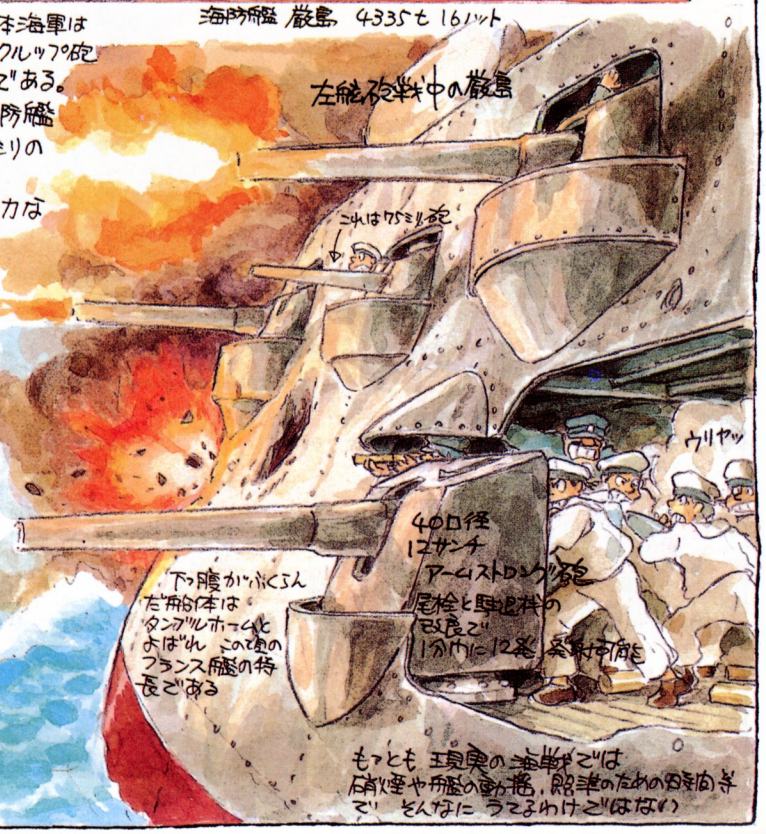
シタデル

シタデルとは 艦の主要部を 中央に集め、分厚い装甲でおおった鉄の箱である
機関、ボイラー、弾薬庫、砲塔を集中防禦する 19世紀の末に 流行した方式で、今日の常識からすると まことに奇妙なカッコウだが、全艦くまなく装甲すれば重くて沈んじまうのだから、軽量強固な最新式装甲だったのである。
砲塔を両舷に並列させて 主砲4門の全火力を 前方へ集中し、するどい衝角をかざして 敵につき進んでいく艦として 定遠と鎮遠は 建造され、実際にも 黄海海戦では「常に艦首を敵に向けヨ」との命令に従って戦った。



定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を 日本海軍は 仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲ミリ はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲が それである。松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦にカネー砲を一門づつ載せて 定遠の356ミリの舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。
4000トンクラスの海防艦に やたらに重くて強力な砲を載せた結果は どうなったか?
強装薬(戦闘時と同じ装薬)でブッ放すと、艦内揺動して故障続出、横にむけて発射すると針路が変ったという伝説が残っている。
かんじんの決戦でカネー砲は 4~5発は 当ったとか、いや1発だとか、記憶にないとか…… 勿論 命中したという記録はない。要するに 役に立たなかったのである。

海防艦 厳島 4335t 16ノット



アームストロング速射砲

日本の艦艇は 当時の最新式砲 アームストロング社の速射砲を いちはやく採用していた。アームストロング砲で日本海軍は 戦ったのである。従来の砲の8倍という発射速度を実現した 15サンチと12サンチの速射砲で 清国艦隊に砲弾の雨を注いだ。勿論 1発も 定遠と鎮遠の装甲を貫ぬいた弾丸はなかった。

被弾数　定遠　159発
　　鎮遠　220発

死傷者数　定遠　戦死17名　負傷38名
　　鎮遠　戦死13名　負傷28名
　　松島　戦死35名　負傷78名（命中弾13発による）

4時間半の黄海海戦が終った時、両艦の装甲のない部分はスクラップになっていた。しかし、沈まない。シタデルはビクともせず、砲塔も機関もまったく健康だった。これ程の弾丸を受けたにしては、死傷者の数も、おどろく程わずかで、鎮遠の30サンチ弾を一発くらって、日本艦隊の旗艦松島が90数名の死傷者を出したのと対照的である。兵員の訓練不足、戦術のまずさにより清国北洋艦隊は破れたが、清国そのものの老大国の腐敗ぶりにしては、よく戦ったというべきだった。むしろ勝った日本は、相手より速く、守るより攻撃を好み、大きいものより小さなものを好む、という性癖を増長させる事となる。白村江で新羅の大船に破れ、秀吉水軍が李朝水軍の大船に破れた経験は忘れられ、第二次大戦で大和、武蔵を持ちながら空母にたよって戦を始めるに至るのである。

根拠地に退去して包囲された北洋艦隊は、日本軍の水雷攻撃で、定遠が被雷沈没、やがて降服する。おどろくべき事は、提督と鎮遠の艦長は毒をあおぎ、定遠の艦長はピストルで自決したことであった。

松島の大破口　同艦は黄海海戦で乗員の1/3を失っている

三景艦の内　松島のみ主砲をうしろにつけていた。

明治38年5月27日、対島へむかうバルチック艦隊に接触する二等戦艦「鎮遠」。当時、鎮遠の副砲は15サンチ4門に増強されていた。

その後、鎮遠は艦首に竜をつけたまま日本艦隊に編入され長生きした。日露戦争にも旧式艦なりによく働いている。明治44年（1911）に実弾射撃の標的にされた後売却、スクラップ代は兵学校の講堂建築費に使われた。最後の竜の甲鉄が死んだ翌年、清国そのものも滅亡したのであった。

中国北京郊外の頤和園の石船
西太后というオバハンが艦隊建設費を流用して造った。
今は大公園になっている。

キタキエ船!!

西太后が離宮に金を注ぎこまなかったら、北洋艦隊は何倍もの戦力になるはずだった。そしたら日清戦争はどうなったか判らない。でも公園をのこした方がエラかったともいえるか…

再起きはかる子孫のブタ

第6話

九州上空の重轟炸機

日中戦争のさなか、劣勢ながらも

奮戦した中国空軍パイロットたち。

その中に、2機のアメリカ製爆撃機を駆り、

日本本土を目指す者たちがいた。

彼らの目的はいったい…？

秘められた航空戦史！

初出：月刊モデルグラフィックス1986年11月号
（連載第6回、執筆・1986年10月）

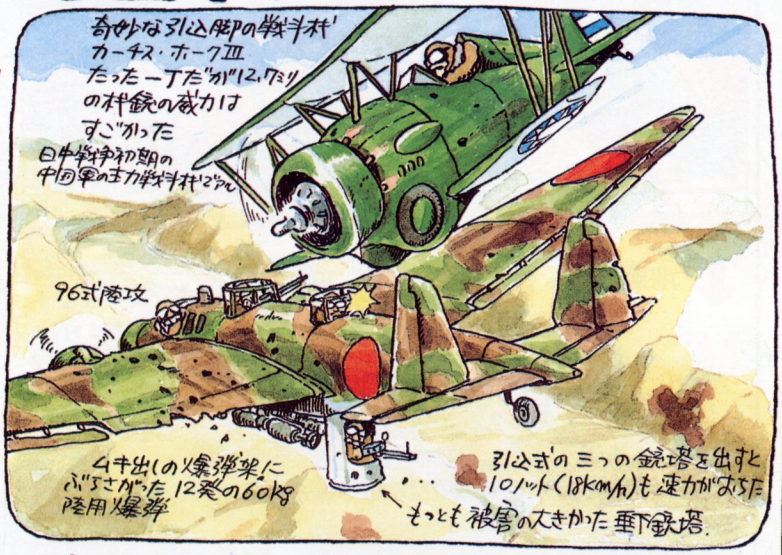
雑想ノートNO.6
九州上空の重轟炸機

中山雅洋氏の「中国的天空」(サンケイ出版)はたいへんな労作である。うすうす察してはいたが やはり日中戦争(1937~1945)の航空戦はノモンハン同様日本の一方的勝利ではなかったのだ。戦史を書く者は公正でなければならない。自国の過大評価は国を誤まらせる。

フィンランド空軍がソ連空軍を相手によく戦ったように弱小後進の中国空軍はよく戦った。

封建的な政府も、公正で機能的な軍組織も望めない状態にもかかわらず 中国のパイロット達の闘志ははげしかった。

このエピソードは「中国的天空」の中でも僕がいちばん心をひかれたものである。



▲大宣伝された96式陸攻の渡洋爆撃もその被害は決して少くなかった。太平洋戦争開幕までに失われた陸攻のクルーは7の組に達している。

日中戦争勃発の年1937年(昭和12年)に中国はアメリカから9機の重爆撃機、マーチン139W(B-10Bの輸出型)を購入した。中国風に書くなら馬丁式重轟炸機である。

要目:
全長 13.6M
全巾 21.5M
全高 3.5M
全金属モノコック構造
最高速 約380km/h

原形 139W B-10B

武装 7.62ミリMG×3
爆弾最大 1t.
乗員 4名.

スライド展開式の背部銃座 後に97式重爆がこの方式をまねている。

ここのラインは本当は美しすぎです

爆撃手兼航法士

マーチン139W

後下方銃座。この射角を広くするために尾尾をはねあげたと思われる

無線士席

とりかご式銃塔は勿論人力作動である

ライトサイクロンエンジン 800HP

500kg大型爆弾用のラック 100kg弾は胴部の爆弾庫に4発搭載した

この珍妙な機体が好きだとなるとマニア症状も末期的ということになるのだが、性能は当時の最高水準に達していた。なんせ出現は日本では94式の時代なのである。

操縦席は単座であるそのために背部銃座にも同じ操縦装置があった。

機をここだけ波板なのがオカシイ

やって

でっかいハンドル

クソッ

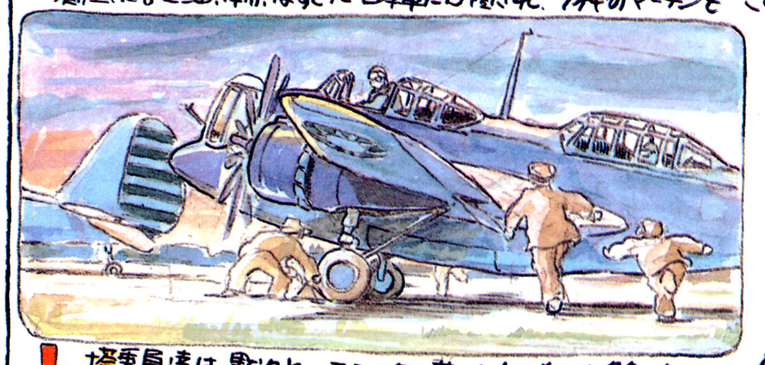
日本陸軍なんかとぶのもやっとの93式重爆などを使っていてさすがにあわててひっこめたりしたのだ

風防の後部を胴体にねかせるためのレール

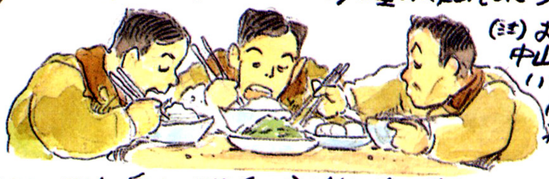
このアングルからみると仲々いい。

1938年(昭和13年)5月20日 薄暮

東シナ海に近い寧波(ニンポー)の湘ヌな飛行場に、二機のマーチン爆撃がこっそり着陸した。上海、南京はすでに日本軍に占領され、9機のマーチンもこの2機をのぞいて他はすべて失われていた。



搭乗員達は黙々とニンニクの臭いのするもので夕食をとる。



(注) おかずについて中山氏は言及していない。これはぼくの確信的推測である。

この二ヶ月間、奥地で極秘に訓練して来た成果がいよいよ試されるのだ。

夜の東シナ海を一路日本へと二機はとぶ。カタログでとぶかぎり、マーチンにとって九州南部は航続距離ギリギリなのだ。

編隊を組むためにオートパイロットは使えない

波銀色の機体

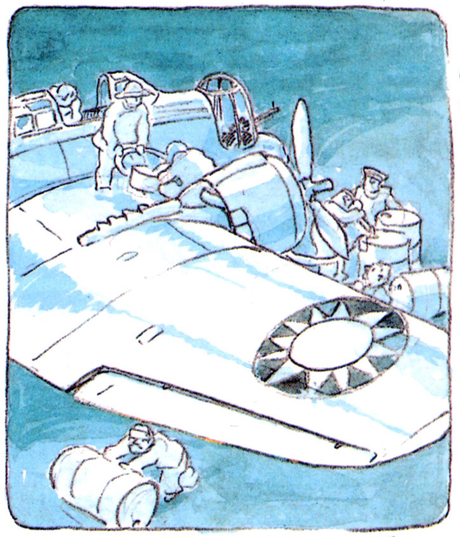
このせまい機内ではナビゲーターはたいへんだったろう

消炎排気管

マホービンのお茶
水がわりにお茶をのむ中国ではマホービンが日本より早く普及していた。

翼内タイプタンク
中央翼に左右二つづつ
防弾ゴムはまだない。

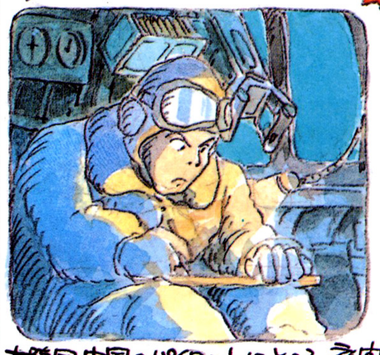
正規の乗員数は4名だが、この爆撃行では3名づつで、一名減らしている。少しでも航続力をのばすためだったのだろう。



二基のライトサイクロンエンジンを轟かせてマーチン139Wは虚空へと消えていった目的地は日本本土。初の日本空襲!!

その間に、マーチンの両翼のタンクに燃料が注入される。勿論ギリギリ満タンに。手動ポンプでは骨の折れる仕事である。

ついに出発の時が来た



大陸国中国のパイロットにとって夜間の洋上飛行は驚愕の連続である。暗い照明の中で、ナビゲーターの顔ばかりつめている。

銃手兼無線士は寒さかるず目回をつけている

日本軍に夜間戦闘機はない(中国軍に夜間爆撃機がないように)が、見張りに専念する。無線機は装備されないのだ

パイロットは闇に目をこらすために計器盤の照明を最低限に絞ぼり込む。カタログの動力系計器が見にくいのが気がかりだ。

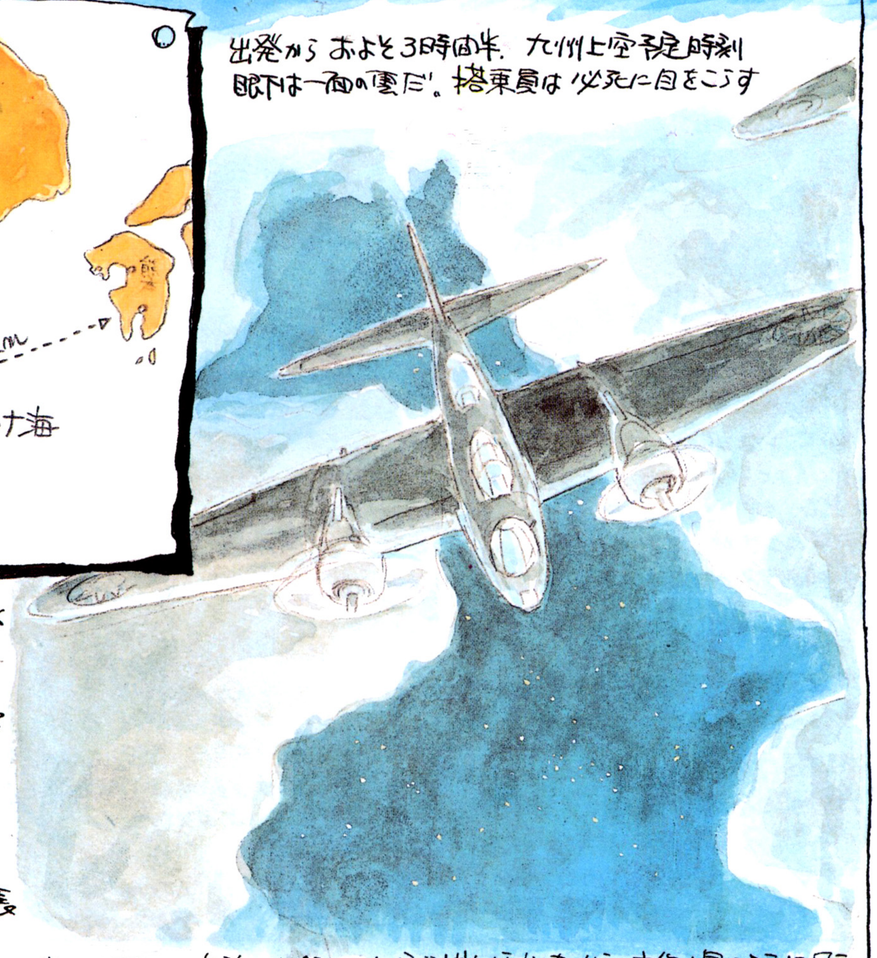
突然、雲のきれ目にまばたく沢山の地上の灯が見えた。日本だ!!

ゆるやかな弧をえがいて二機は爆撃体勢に入る

爆撃照準器は使わない

ナビゲーター兼務の爆撃手はただ爆弾倉の扉のハンドルを握りしめている。各個に機長が叫んだ「ひらけ!!」

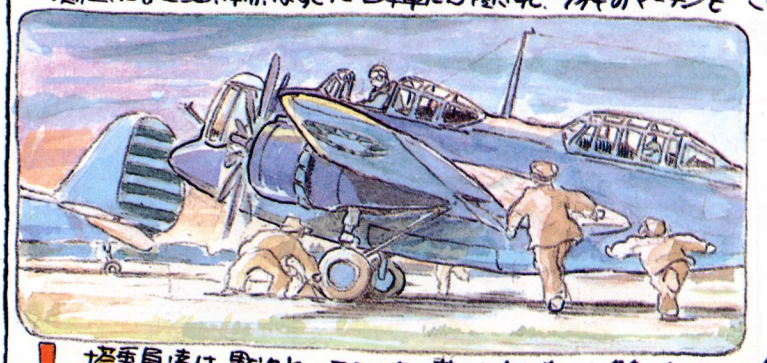
出発からおよそ3時間半。九州上空予定時刻眼下は一面の雲だ。搭乗員は必死に目をこらす



当時、螢光灯は勿論、水銀灯も信号機もなかったから本物の星のように見えたはずだ

1938年(昭和13年)5月20日 薄暮

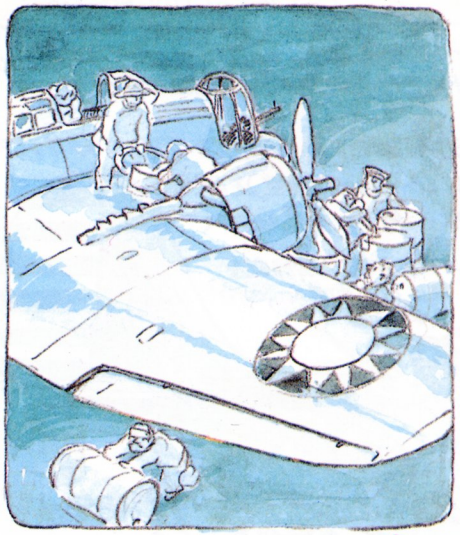
東シナ海に近い寧波(ニンポー)の湘ネな飛行場に、二機のマーチン爆撃機がこっそり着陸した。上海、南京はすでに日本軍に占領され、9機のマーチンもこの2機をのこして他はすべて失われていた。



搭乗員達は黙々とニンニクの茎の炒めもので夕食をとる。

(注) おかずについて中山氏は言及していない。これはぼくの確信的推測である。

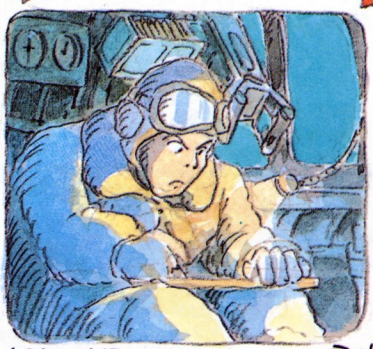
この二ヶ月間、奥地で極秘に訓練して来た成果がいよいよ試されるのだ。



その間に、マーチンの両翼のタンクに燃料が注入される。勿論ギリギリ満タンに、手動ポンプでは骨の折れる仕事である。

ついに出発の時が来た

二基のライトサイクロンエンジンを轟かせてマーチン139Wは虚空へと消えていった目的地は日本本土。初の日本空襲!!



大陸国中国のパイロットにとって夜間の洋上飛行は冒険の連続である。暗い照明の中で、ナビゲーターの灯りをつめている。

日本軍に夜間戦闘機はない(中国軍に夜間爆撃機がないから)が、見張りに専念する。無線の仕事は皆無なのだ

パイロットは常に目をこらすために計器盤の照明を最低限にしぼり、カクリングの動力系計器が見にくいのが気がかりだ。

夜の東シナ海を一路日本へと二機はとぶ
カタログとちがい、マーチンにとって九州東部は航続距離ギリギリなのだ。

編隊を組むためにオートパイロットは使えない

このせまい機首ではナビゲーターはたいへんだったろう

消炎排気管

マホービンのお茶
水がめりこんだ茶をのむ中国ではマホービンが日本より早く普及していた。

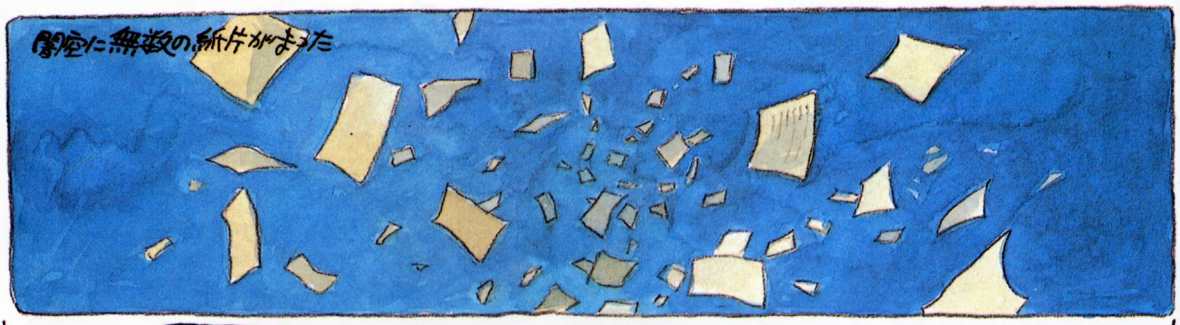
翼内タンク
中央翼に左右二つづつ
防弾ゴムはまだない。

正規の乗員数は4名だが、この爆撃行では3名づつで、一名減らしている。少しでも航続力をのばすためだったのだろう。

出発からおよそ3時間半。九州上空予定時刻
眼下は一面の雲だ。搭乗員は必死に目をこらす

突然、雲のきれ目にまばたく沢山の地上の灯が見えた
日本だ!!
ゆるやかな弧をえがいて二機は爆撃体勢に入る
爆撃照準器は使わない
ナビゲーター兼務の爆撃手はただ爆弾倉の扉のハンドルを握りしめている。各個に機長が叫んだ「ひらけ!!」

当時、螢光灯は勿論、水銀灯も信号機もなかったから本物の星のようにみえたはずだ



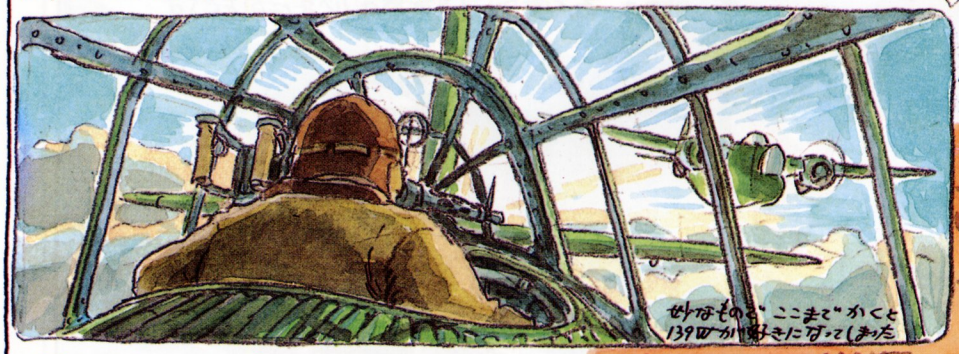
粗末な紙にガリ版で印刷したビラだったという

マーチンが九州に投下したのは 爆弾ではなく 日本軍の非人道行為を日本国民にうったえるビラだったのだ

月が出ていたかどうかは定かではない

実際 前年の末 南京占領の時, 日本軍は軍民とわない すさまじい虐殺を行った。このビラを見て 少しでも日本の中に戦争に反対する動きが生ずるのを期待したのだった。

任務を達成したマーチンは高速巡航で離脱する やがて東シナ海に陽がのぼった。



しかし, ビラは何の効果も現わさなかった。翌日の新聞に小さく「九州上空に怪飛行物…云々」と出ただけであった。この時, 戦争に反対する人々は, みんな牢獄につながれてしまっていたのである。

日本軍はマスマス戦火を拡大し 中華民国の臨時首都 重慶に長期的な都市無差別爆撃を行うようになる。

ぼくは想う 中国の搭乗員達は どんな気持で 日本の灯を見つめたのだろう…と

この爆撃行は もう一度行われ その時はついに中国本土に帰りつけず 行方不明になってしまったようだ。都合の悪い事を言わないのは 中国も日本も同じだった。くわしい事は知らない 国民に真実を伝える自信のない軍は国をほろぼす。

それから6年

マーチンの次に日本に来たのは 米国のB-29の大群だった。重慶以上の無差別爆撃で日本中の主要な都市は すべて炎上し, 二発の原爆がとどめをさした。

ぼくは4才で 焼夷弾の雨の中を父の手にひかれて 逃げまわっていた。

1986.10.5

第7話

高射砲塔

ドイツの小都市リュースバルクに、

空爆から魚雷工場を守るために

高射砲塔が建造された。

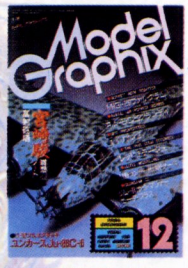
だがやがて、強力すぎる

高射砲塔自体が連合軍爆撃機の

攻撃目標とされてしまう。

戦いが済んだ時、姿を現したものは

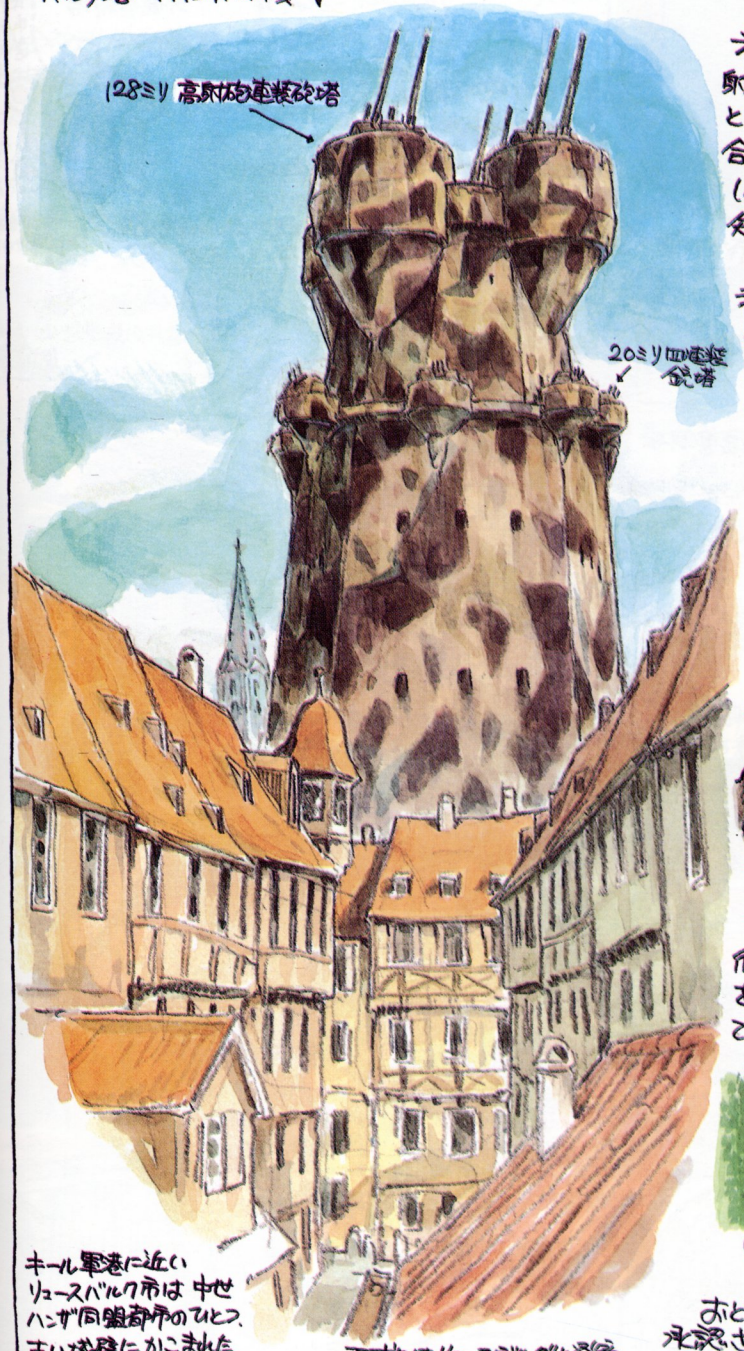
果たして何か?



初出：月刊モデルグラフィックス1986年12月号
（連載第7回、執筆・1986年11月）

雑草ノート（想が半分）第7回 高射砲塔

リュースバルク市の旧市街にたつベルタ塔 1943年10月頃 ▼



キール軍港に近いリュースバルク市は中世ハンザ同盟都市のひとつ、古い城壁にかこまれた静かなたたずまいの小都市だった。

正式には「リュースブルグ」と発音すべきだが、地元では「バルク」に近く発音している。

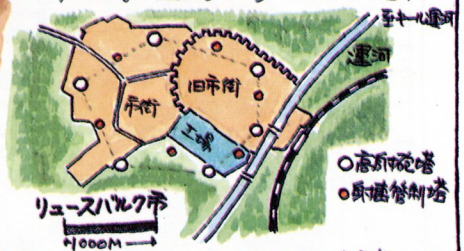
第二次大戦中に建設されたベルリンの高射砲塔は有名である。しかし、リュースバルクという聞いたこともない町に建てられ、連合軍のパイロット達に「ど田舎の人々」と憎しみをもって語られた高射砲塔について知る人は少い。

リュースバルク…人口3万にもみたない平和な小都市が、Uボートの魚雷のエンジンとホーミング装置のすべてをまかなう工場を持ったために重要な戦略目標になってしまったのであった。

折しも1943年、英国の夜間爆撃は次第に激しさを増し、魚雷生産の確保は重要課題のひとつになった。しかし、城壁にかこまれた同市と工場は、森におおわれた低地に突出した台地の上にあり、防空部隊が何処に砲座をすえても射角がいちじるしく制限されてしまう。この難問にとり組んだのが左の男であった。

エルンスト・ジグラー博士（1887～1951）

高射砲塔の建設が彼の答である。彼はドイツ的完全主義で、この小さな町を1ダースもの高射砲塔と射撃管制塔ですき間なく固めるというプランを提出した



おどろくべきは、この土建屋万々的計画が承認され、しかも建造中止となった新道路のための最新式砲が、このど田舎にぶりわけられたことであった。

8ミリ装甲板
射手
指揮官は下士官
装填手
有名な四連装20ミリ
塔の装甲 プラス8ミリ
近距離からの20ミリ榴弾に抗堪する
20ミリ装甲天蓋
給弾室
おそろしい事にドイツ人はつりかごずの給弾装置をこの身につけてしまった。なんという完全主義!!

128ミリ 40口径 連装高射砲は 1門あたり 4〜5秒に1発の速度で 26kgの榴弾を 高度14000メートルまで 吹っ飛ばすという おそるべき半自動砲であった。88の大兄貴である。

こいつが ひとつの塔に8門 6塔で計48門を集中させるのだから よほどのもの好きでないと 町の上空に侵入する気はおこらない。

低空で近づけば 死角なしに はりめぐらした 192門の20ミリと36門の37ミリ砲の弾幕にとび込むことになる。

カモフラージュネット用のフック
給弾ネットは使わなかったらしい。

高射砲塔
128ミリ×6
20ミリ×3

1発爆弾にもびくともしないベトンの天井

射撃管制塔
37ミリ×6

射撃管制塔は地下深くに埋められたケーブルでつながれる。

形が違うのは給弾きの乱雑である。

ところが 当局は気がついたのだ。なんというコンクリートと鋼材の無駄だと。要するに兵器工場を疎開させれば すむじゃないかと。だが、おそすぎた 既に三つの砲塔と二つの管制塔は完成間近かになっていたのである。

最終的に砲塔を完成させる力は宣伝省からやって来た。絶好の宣伝材料「かくもスゴイ高射砲塔で全ドイツの都市は武装するのだ!!」というわけで、無駄はかくごでベルダ、ドーラ、アンカの三高射砲塔とローザ、ワンガの二つの管制塔は完成したのであった。

しかし、その時には兵器工場の疎開計画は着々と進められていたのである。

高射砲兵はぼやいた。いったい何を守るのだ このど田舎の中世都市をか…!?

ローザ塔の測距儀

装甲厚150ミリ

<射撃管制塔>

射撃用のヴェルツブルグレーダー 後からつけられた

4.5m測距儀

射撃管制室 方位盤マッ

37ミリ林間砲回廊 計6門

低空で接近する敵機の図をくっきりと浮かべる為に風景を描いた道具。美術学校の生徒が動員された。

もともとが艦載砲なので水平射撃用の照準窓がついてる。

増加装甲があったかどうか? 元の装甲は12ミリにすぎない。

弾薬箱

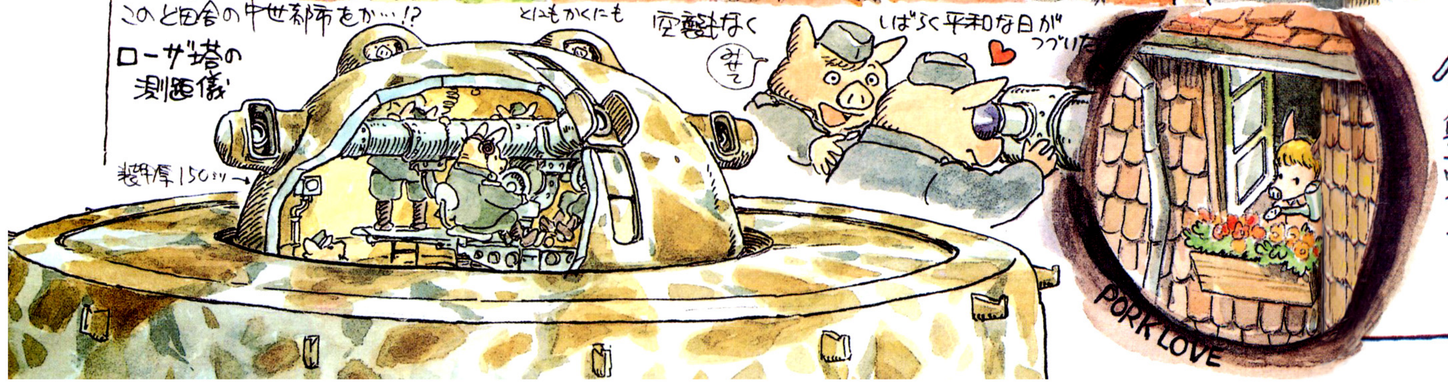
とび出口

天井の厚さ 7m

給弾筒 この中を弾のぼるが

機械室(発電&給気)

弾薬庫



まず アメリカ人がやって来た。

昼の強襲。400機のB-17がキール軍港をめざし、内60機が防空戦闘機の目をくらまして まんまとリューベック上空に侵入したのである。1機当り12Tの12.7ミリブローニングMGに250kg爆弾を8発づつ加えて、勿論 目標は魚雷工場への精密爆撃である。

28ミリ全砲列が射距離15000mで砲撃開始。初弾から無駄なほどの至近弾。そのまま かっきり4分半経ちに直撃。空中は粉塵と爆煙に充ち、爆弾投下前に 2機がはやくも炎を発した。アメリカ人の不運は照準を受けもつ先頭機がやられたために、投弾が数秒おくれたことであった。爆弾は市の散歩道として親しまれた森をほりかえしただけであった。市上空で更に5機が喪失。帰途海上に出たその2機。損失率なんと20%!!

★(着陸時に大破したその他に3機、被弾機ほぼ全機)

次にイギリス人が来た。

モスキートで低空スレスレに……16機

あの化物の塔をなんとかしなければ…。トゲぬきさ イギリス人がかって出た。巡洋艦の片舷斉射と同じ火力を持つロケット弾装備のモスキートで森をかすめて殺到する。

しまった 1943年末なのに 木が枯れてない!! 冬なのに

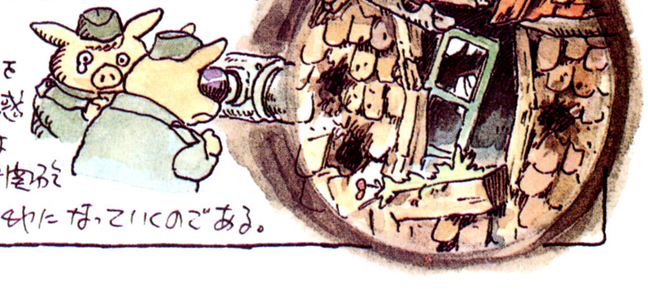
損失率なんと81%

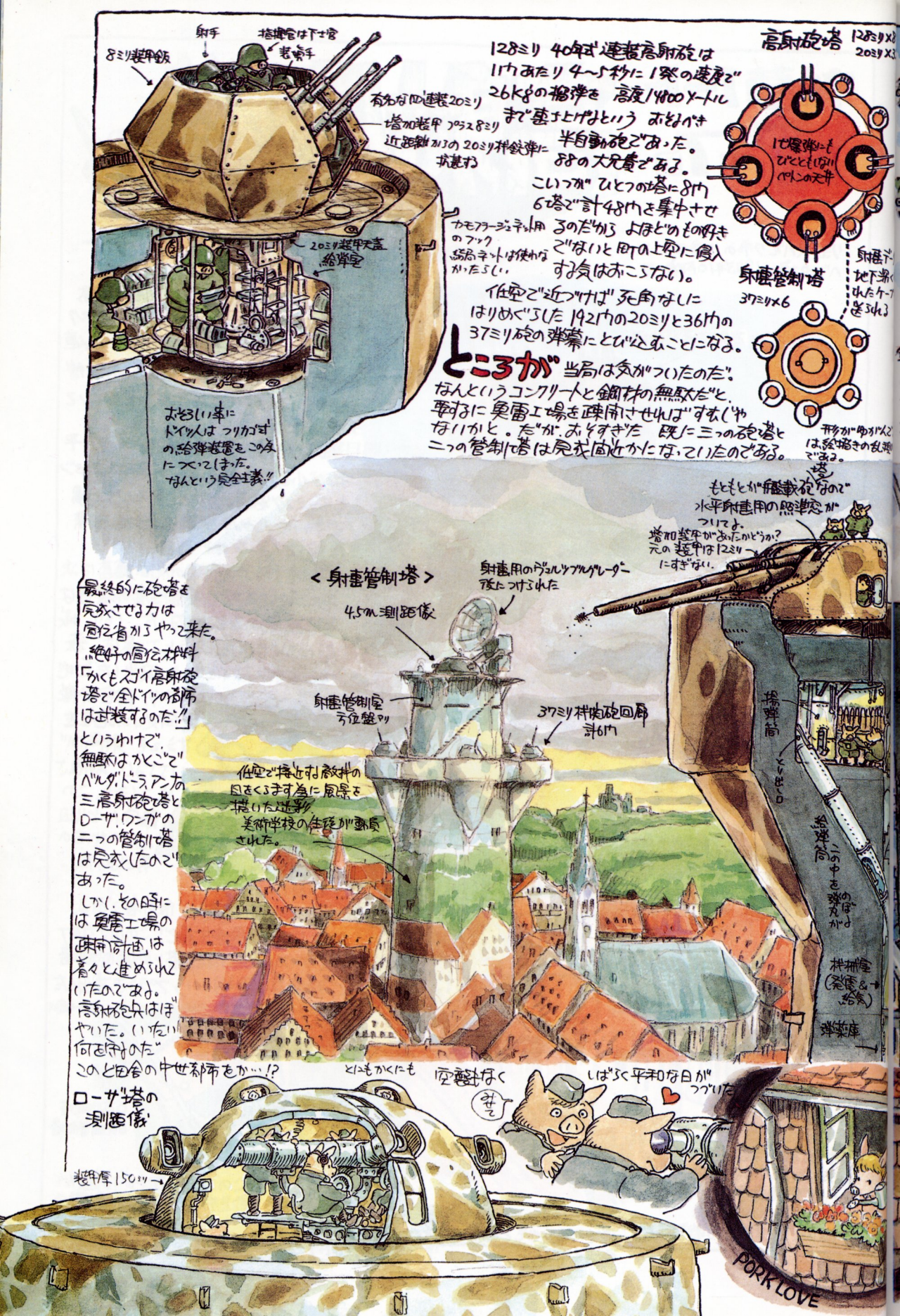
今度は林間砲回廊の出番であった。37ミリと20ミリの火の中に突進した木製機の運命はもっと悲惨だった。

帰りついた モスキートは たった3機。塔はみな ロケット弾をくらったが 損害はわずか。コンクリートの壁は ドイツ的複雑さを証明した。

今 ヤリュースバルクの高射砲塔は 全ドイツ防空隊の力がとなった。

兵器工場は もうとっくに いなくなったのに 高射砲塔は アメリカとイギリスの飛行機を ひきよせる シンボルになってしまったのだ。迷惑なのは 市民の方で、火のついた飛行機は 降って来るわ、流弾をつけて 吹っ飛ばされる 林間砲弾はとび込むわで 美しい町並は メチャクチャになっていくのである。




高射砲塔
128ミリ×3
20ミリ×3
128ミリ 40口径 連装高射砲は
1門あたり 4~5秒に 1発の速度で
26kgの榴弾を 高度14800メートル
まで垂直上げるという おそるべき
半自動砲であった。
88の大兄貴である。
こいつが ひとつの塔に8門
6塔で計48門を集中させて
るのだから よほどのものの好き
でないと 町の上空に侵入
する気はおこらない。
1世環弾にも ひとともしない ベトンの天井
射撃管制塔
37ミリ×6
射撃ブー 地下深く れたケー さられる
平屋がゆがんで は給湯管の乱雑 である。
仮空で近づけば 死角なし
はりめぐらした 192門の20ミリと36門の
37ミリ砲の弾幕にとび込むことになる。
ところが 当局は気がついたのだ。
なんというコンクリートと鋼材の無駄だと。
要するに 兵器工場を疎開させれば すむじゃ
ないかと。だが、おそすぎた 既に三つの砲塔と
二つの管制塔は 完成間近かになっていたのである。
射手
搭載官は下士官
装填手
8ミリ装甲鈑
有名な四連装20ミリ
塔加装甲 プラス8ミリ
近距離からの20ミリ徹鋼弾に
抗堪する
カモフラージュネット用
のフック
迷彩ネットは使わな
かったらしい
20ミリ装甲天蓋
給弾室
おそろしい事に
ドイツ人は フリカゴ
の給弾装置を この後
につくってしまった。
なんという完全主義!!
最終的に砲塔を
完成させる力は
宣伝省からやって来た。
絶好の宣伝材料
「かくもスゴイ高射砲
塔で全ドイツの都市
は武装するのだ!!」
というわけで、
無駄はかくごで
ベルダ、トーラ、アンの
三高射砲塔と
ローザ、ワンダの
二つの管制塔
は完成したので
あった。
しかし、その時には 兵器工場の
疎開計画は 着々と進められ
ていたのである。
高射砲兵はぼ
やいた。いったい
何を守るのだ
この田舎の中世都市をか…!?
ローザ塔の
測距儀
<射撃管制塔>
射撃用のジャルツブルグレーダー
孤たつけられた
4.5m測距儀
射撃管制室
方位盤マワ
37ミリ対空砲回廊
計6門
仮空で接近する敵機の
目をくらます為に風景を
描いた迷彩
美術学校の生徒が動員
された。
もともとが機載砲なので
水平射撃用の照準窓が
ついてる。
増加装甲があったかどうか?
元の装甲は12ミリ
にすぎない。
弾薬筒
とり出し口
給弾筒
二つの中を弾丸が
のぼる
機械室
(発電&給気)
弾薬庫
装甲厚150ミリ
とにもかくにも
空襲なく
みて
しばらく平和な日が
つづいた
PORK LOVE

まず アメリカ人が やって来た。

白昼の強襲。400機のB-17がキール軍港をめざし、内60機が防空戦闘機の目をくらまして まんまとリューズバルク上空に侵入したのである。1機当り12Tの12.7ミリブローニングMGに250kg爆弾を8発づつかかえて、勿論 目標は魚雷工場への精密爆撃である。

128ミリ全砲列が射程距離15000mで砲撃開始。初弾から冷汗ものの至近弾。そのまま かっきり4分半経ちに直撃した。空中は鉄片と爆煙に充ち、爆弾投下前に 2機がなやくも火を吹いた。アメリカ人の不運は 照準を受けもつ先頭機がやられたために、投弾が数秒おくれたことであった。爆弾は市街の散歩道として親しまれた森をほりかえしただけであった。市上空で更に5機が喪失。帰途海上にむなしくその2機。損失率なんと20%!!

★着陸時に大破した他に3機、被弾機は全機

次にイギリス人が来た。

モスキートで低空スレスレに……16機

あの化物の塔をなんとかしなければ……トゲぬきをイギリス人がかって出た。巡洋艦の片舷斉射と同じ火力を持つロケット弾装備のモスキートで森をかすめて殺到する。

しまった 1943年末なのに木が枯れてない!!! 冬なのに

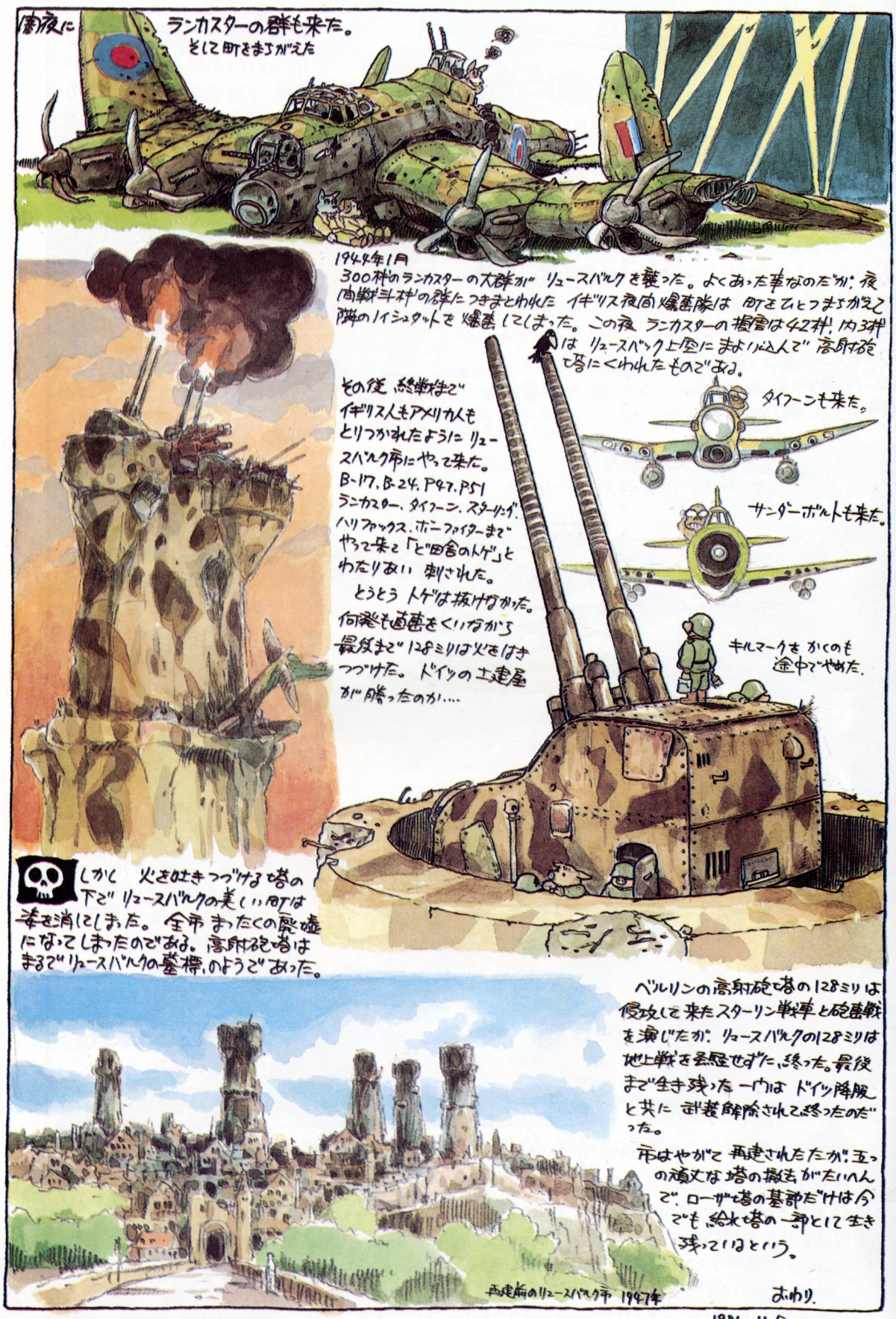
天井の厚さ 7m

損失率なんと81%

今度は機関砲回廊の出番であった。37ミリと20ミリの火の中に突進した木製機の運命はもっと悲惨だった。帰りついたモスキートはたった3機。塔はみなロケット弾をくらったが損害はわずか。コンクリートの壁はドイツ的頑丈さを証明した。

今やリューズバルクの高射砲塔は全ドイツ防空隊の力がとなった。

魚雷工場はもうとっくにいなくなったのに高射砲塔はアメリカとイギリスの飛行機をひきよせるシンボルになってしまったのだ。迷惑なのは市民の方で、火のついた飛行機は降って来るわ、流弾をつけて直ち出される機関砲弾はとび込むわで 美しい町並はメチャクチャになっていくのである。


深夜に
ランカスターの群も来た。
そして町をまちがえた
1944年1月
300機のランカスターの大群が リューベックを襲った。よくあった事なのだが、夜間戦闘機の群につきまとわれた イギリス夜間爆撃隊は 町をひとつまちがえて隣のライシュタットを 爆撃してしまった。この夜 ランカスターの損害は42機、内3機は リューベック上空にまよい込んで 高射砲塔にくわれたものである。
その後 終戦まで
イギリス人もアメリカ人も
とりつかれたように リューベック市にやって来た。
B-17、B-24、P47、P51
ランカスター、タイフーン、スターリング、
ハリファックス、ホーファイターまで
やって来て「ど田舎のトゲ」と
わたりあい 刺された。
とうとう トゲは抜けなかった。
何発も直撃をくいながら
最後まで128ミリは火をはき
つづけた。ドイツの土建屋
が勝ったのか....
タイフーンも来た。
サンダーボルトも来た。
キルマークを かくのも
途中でやめた。
しかし 火を吐きつづける塔の
下で リューベックの美しい町は
姿を消してしまった。全市 まったくの廃墟
になってしまったのである。高射砲塔は
まるで リューベックの墓標のようであった。
ベルリンの高射砲塔の128ミリは
侵攻して来たスターリン戦車と砲撃戦
を演じたが、リューベックの128ミリは
地上戦を経験せずに終った。最後
まで生き残った一門は ドイツ降服
と共に 武装解除されて終ったのだった。
市はやがて 再建されたが、五つ
の頑丈な塔の撤去がたいへん
で、ローザ塔の基部だけは今
でも給水塔の一部として生き
残っているという。
再建前のリューベック市 1947年
おわり。
1986 11.5

第8話

Q.ship

第1次大戦時、欧州の海を

荒らし回ったドイツ海軍の

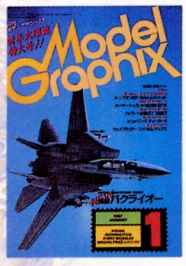
潜水艦Uボートに対抗するために、

イギリス海軍が投入した兵器…。

それは商船に大砲を隠して騙し撃ちをする

囮船（おとりぶね）『Qシップ』だった！

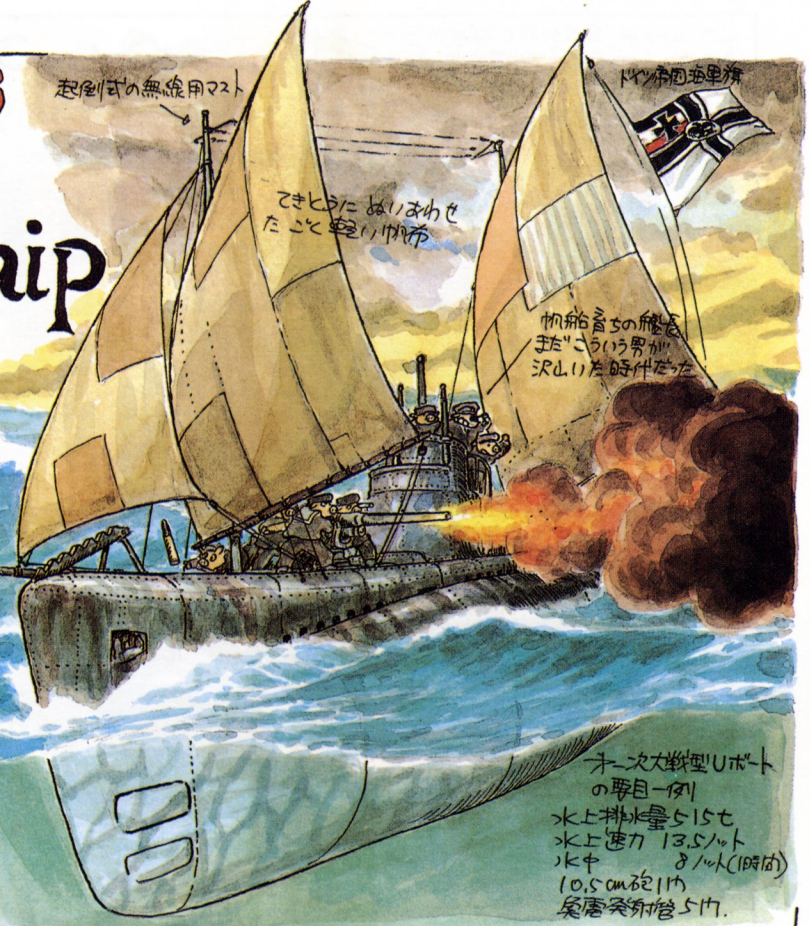
大らかでウソのような海戦エピソード。



初出：月刊モデルグラフィックス1987年1月号
（連載第8回、執筆・1986年12月）

雑想ノートNO.8

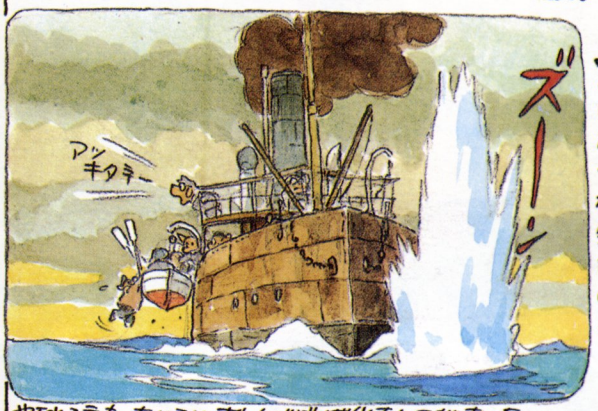
Q-ship



無線用のマストに二セの帆をはって帆船に化け、敵の商船に近づいて突然ドカーンと発砲する。ウソのような話だが、第一次世界大戦(1914~1918)に、あるドイツ潜水艦が本当にやった事である。

当時のUボートは、魚雷の搭載数が少い上に高価なので、浮上して砲弾で商船狩りをする方が圧倒的に多かったのだ。それに、末期に護送船団の戦法が採用されるまで商船は単独に行動する方が多かったので、こんな戦法を発明したUボート艦長もあらわれたのであった。

第一次大戦型Uボートの要目一例
水上排水量515t
水上速力 13.5ノット
水中 8ノット(1時間)
10.5cm砲1門
魚雷発射管5門.



やられる方もたいていボートで逃げ出すヒマがあった。

第一次大戦こそ、もっともUボートが活躍しやすい時代だった。なにしろ、ソナーやレーダーが発明されてなかった上に、頭の上から突然爆雷をおっことす飛行機なんていうやっかいな代物が発達していなかったのだから、船乗りは皆自分の目と耳をたよりに戦争をやっておられたのである。

6394隻 1,194万8,702総トン

この数字は1914年から1918年までにドイツのUボートが沈めた商船のかずである。他に軍艦100隻、イギリスが大戦中に失った戦艦13隻の内5隻はUボートがあげた戦果であった。上の絵のペリエール艦長は並いるUボートの艦長中の最高のエースで、なんと194隻の商船と2隻の軍艦を沈めてしまったのである。

この大戦果の代償に198隻のUボートが失われたのだが、その内12隻はQシップのためとある。Qシップとは何か? これが今回のおはなしである。

Uボート対Qシップ はじまりはじまり

これがQシップだ

このボートは Qシップではない
このボートは Qシップの主兵装である。ハッチの上に短艇函のせるのは当時あたり前のことだった。

オスナヨ!!!
ヒソヒソ

日本では砲船と訳されている要するに小型の沿岸貨物船(帆船も使われた)に大砲をかくして、Uボートの攻撃を待ちかまえるという代物。

Uボートが油断して、魚雷は勿論、砲弾も節約したくなるような船が選ばれた。

中立国の船会社の旗

当時の汽船はみな石炭をたく蒸気エンジン船だった

エントツの印も船会社にあわせてぬりかえる

このブリッジ本当リッジ(橋)だきふして

航路によってはあやしまれんように中立国の旗をたてた。そちろん、ワザとボロの色あせた旗を使った

このデッキハウスの正体は右図のごとし

ノールウェー旗

変装は念入りにおこなわれ口ヒゲまでつけた 指揮官もいた。

上からのぞくなよナ

後部デッキハウスの7ミリ砲

前部ハッチ上の短艇、その正体は左図のごとし

LAPUTA

船名もせっせと変えた

船倉にはしてたま木材をつめ込んだ被弾した時に浮力を得るためである。

女装した者がいたかどうかは定かでない。

よその国の旗をたてても、国際条約に違反するわけではない。だまし、だまされるのも戦術の内と認められていたのである。ただし、砲火をひらく直前に、その旗は降ろさねばならない。Qシップでも、ドッカーンとやる前に イギリスの海軍旗ととりかえたはずである。

いざとなれば

パカッ

というわけである。

10.5サンチ砲

本当だぞ!!

勿論 乗組員は 船長以下すべて海軍軍人から選抜され、彼等は民間人に変装して、ひたすら イギリス近海をいったりきたりして、エサがかかるのを待ったのであった。

つかれると つい字が右下りになるのである。ゴメンナサイ

何処にUボートがいるか判らないのである。大砲を持った武装商船もいたから、Uボートも けっして油断しなかった。

いざやってみると なかなかUボートが見つけてくれなくて空しいさすらいの日々がつづいた。それがQシップ乗りの生活である。

▼ついに 待ちに待った日時が来た。

Uボートの砲塔は 威嚇射撃から始まる

ドーン

アラサッ

アレ

ワーイ

乗員が逃げる時を考えてくれるわけだ
かねて打合せどおり、パニック状態 これみよがしにあわてふためき運船する

ドカン

ズーン

あわてて遠くから撃ち始めると 逆に逃げられる可能性大である。ギリギリまで待つ。

ウリャッ!!

アッ

近づいてしとめろ

ニゲロ

Uボートは接近しつつ、おもむろに撃ち始める。

ドカバカボカーン

アレー

ヤロオ…イヌコロめ

ブクブク

第一次大戦に較べると 夢のように楽だったと デーニッツ提督が回想しているように この頃の潜水艦は まっ昼間 堂々と水上を航行して エモノを探しまわることが出来た。1918年になると ずいぶん 対潜用の飛行機がとびまわり始めるが、なんせ レーダーがないのだから、楽なものだったのだ。

Uボートの砲はハッチが司令塔の一つだけだったので砲準備は楽ではなかったと見よう

はじめ8.8サンチ位だったが、10.5サンチから15サンチと次第に強化されていく

防潜網とか障害物にひっかからないようにはるワイヤー 電線もついていた

いくら手元の年鑑をみても 対潜ボマスターのしまい方が判らないのでかかないことにした。例によって資料的価値はないのだ ワッハハハ…。

第一次大戦のUボートは、せっせと機雷をバラまいて歩いた

機雷のおとし穴 このやにたてにしまってある

このボートは Qシップではない
このボートは Qシップの主兵装である。ハッチの上に短艇あるのは当時あるより前のことだった。

オスナヨ!!
ヒソヒソ

これがQシップだ

日本では囮船と訳されている
要するに小型の沿岸貨物船(帆船も使われた)に大砲をかくして、Uボートの攻撃を待ち かまえるという代物。

Uボートが油断して、魚雷は勿論、砲弾も節約したくなるような船が選ばれた。

この船がブリッジ本当の(格)でふしてる

前部ハッチ上の短艇、その正体は左図のごとし

いざとなれば

パカン

というわけである。

10.5サンチ砲

本当だぞ!!

勿論 乗組員は 船長以下すべて海軍軍人から選抜され、彼等は民間人に変装して、ひたすら イギリス近海をいったりきたりして、エサがかかるのを待ったのであった。

↑つかれると つい口が右下りになるのである。ゴメンナサイ

まいイ

第二次大戦に比べると 夢のように楽だったと デーニッツ提督が回想しているように、この頃の潜水艦は まっ昼間 堂々と水上を航行して エモノを 探しまわることが出来た。1918年になると すい分 対潜用の飛行機がとびまわり始めるが、なんせ レーダーがないのだから楽なものだったのだ。

▼ついに 待ちに待った日時が来た!

Uボートの砲撃は威嚇射撃から始まる

ドー!

ワーイ

アンコ

アラサッ

乗員が逃げる時を考えてくれるわけだ
かねて打合せどおり、パニック状態は これみよがしにあわてふためき宣船する

Uボートの砲は はじめ88サンチ位だったが、10.5サンチから15サンチと次第に強化されていく

ハッチが司令塔の一つだけだったので砲撃運びは楽とはなかったと思う

防潜網とか障害物にひっかからないようにはるワイヤー 電中線もついていた

近づいてしとめろ

ニゲロ

Uボートは 接近しつつ、おもむろに魚雷を撃つ

いくら手元の写真をみても設計図式マストのしまい方が判らないのでかかないことにした。例によって資料的価値はないのだ ワッハハハ…。

第二次大戦のUボートは、セッセッと機雷をバラまいて歩いた

機雷のおとし穴 この中にたくさんにはってある

中立国の船会社の旗

当時の汽船は
みな石炭をたく
蒸気エンジン船だった

エントツの印も
船会社にあわ
せてぬりかえる

航路によっては
あやしまれんように
中立国の旗をたてた。
そうそう、ワザとボロの
色あせた旗を使った

このデッキハウスの
正体は石炭の
ごとし

LAPUTA

女装した者が
いたかどうかは
定かでない。

船名も
せっせと変えた

船倉にはしてたま
木材をつめ込んだ
被弾した時に浮力を得るためである。

何処にUボートがいるか
判らないのである。大砲を
持つ武装商船もいたから
Uボートも けっして油断
しなかった。

変装は念入りにおこなわれ
ロヒゲまでつけた 指揮官
もいた。

上から
のぞくなよナ

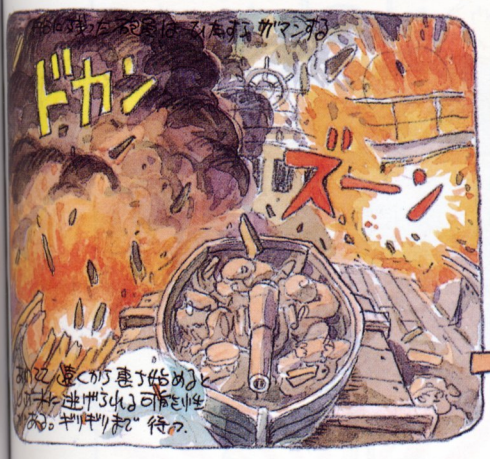
ノール方面一旗

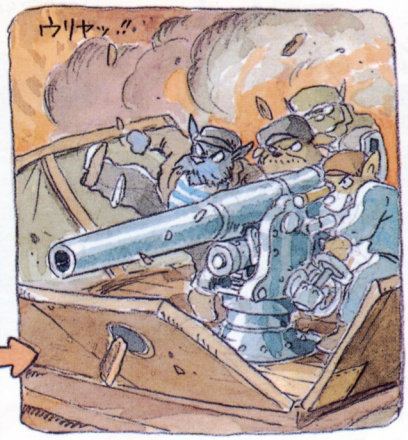
後部デッキハウスの
ケムリ砲

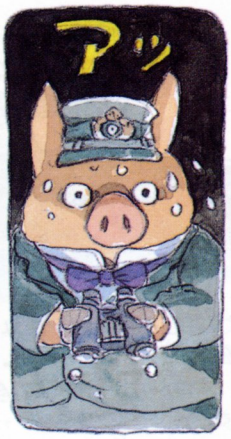
よその国の旗をたてても、国際条約に
違反するわけではない。だましだまされる
のも戦術の内と認められていたのである
ただし、砲火をひらく直前に、その旗は
降ろさねばならない。Qシップでも、ドッ
カーンとやる前に イギリスの海軍旗と
とりかえたはずである。

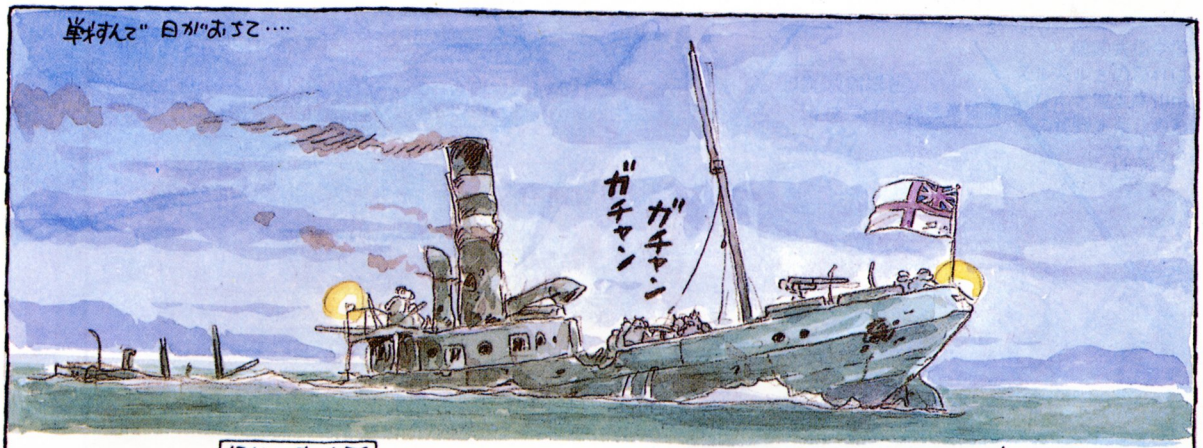
イギリス
海軍旗

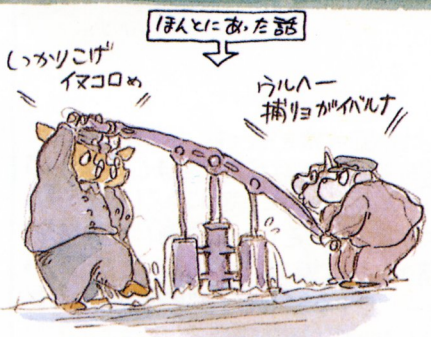
いざやってみると
なかなかUボートが 見つけてくれなくて
空しいさすらいの日々がつづいた。それが
Qシップ乗りの生活である。







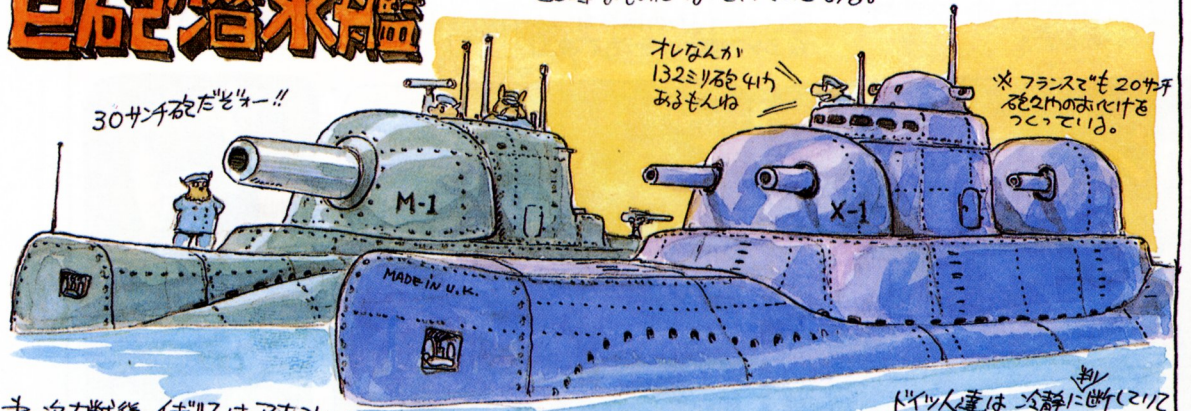




Uボート対Qシップの戦は 相討ちで終る事が多かった。相手損傷しても別れに終ったり、両方とも沈んじゃったり、Qシップが発砲するとまもなく、Uボートの魚雷が片をつけてしまった事もあった。幸運にもQシップが勝利をおさめても、穴だらけの船体の浸水と戦う仕事が待っていた。Qシップの本には半分沈みながら なんとか帰投しようと苦闘するQシップ達の写真がいく枚ものっている。イギリスにとっては 相討ちに終っても Uボートと ボロ船との交換なら ずーっと得だという判断があったのである。

Q対Uの戦いをヒントにした クダラン戦争映画が アメリカくんだりで つくられたりしたが、第二次大戦中に Qシップは使われなかった。レーダーの発明が すべてを変え、戦争は さらに酷薄なものに なっていくのである。

巨砲潜水艦

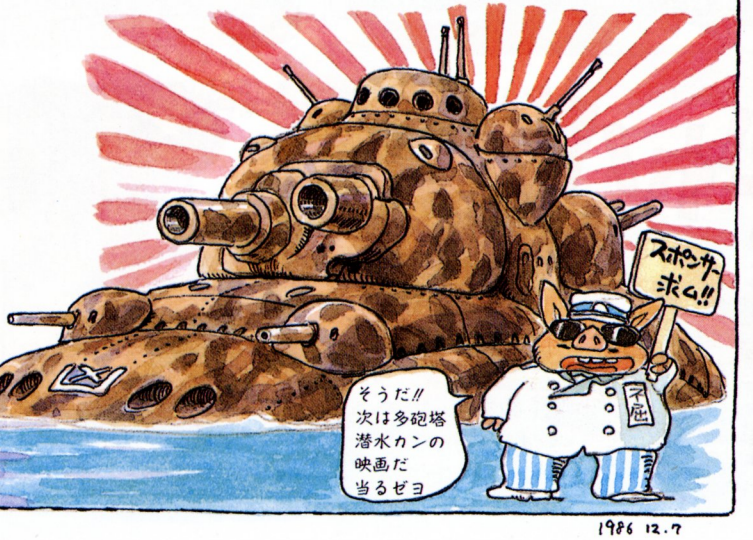


第二次大戦後 イギリスは アホみたいな 巨砲潜水艦を つくった。要するに、Uボートの大砲にひどい目にあった経験からかな、潜水艦にでーっかい大砲をつんだら スゴイ!!とおもいついたのであった。

勿論、この潜水艦達は 多砲塔戦車と同じで 第二次大戦では まったく役にたたなかった。科学雑誌をにぎわしただけであった。

もっとも、日本人が笑う資格はない。なんせ わが大日本帝国海軍は 第二次大戦と大差ない対潜装備で 太平洋戦争にのぞみ、アメリカ潜水艦にコテンパンにやられ、でも相変らず 潜水航空母艦(たったミ神(かつぬない)などという おバケをつくったりしていたのだ。

ドイツ人達は 冷静に判断していて 第二次大戦のUボートは 一次の改良型ですませている。



1986 12.7

第2章

第9話
特設空母 安松丸物語

第10話
ロンドン上空1918年

第11話
最貧前線

第12話
飛行艇時代

第13話
豚の虎

第9話

特設空母
安松丸物語

太平洋戦争初期、

貨物船改造の特設空母と護衛艦による、

たった2隻の機動部隊が極秘裡に

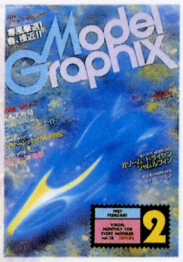
アフリカ沖へと向かった。

その目的は、アフリカとアジア方面への

イギリス補給路の分断！

大胆不敵で奇想天外な作戦の全貌が、

今、明かされる。



初出：月刊モデルグラフィックス1987年2,3月号
（連載第9,10回、執筆・1987年1,2月）

雑想ノートNO.9 特設空母 安松丸物語

翼の張線は省略。

日本機には珍しいイボつきカウリング

金属骨格羽布バリの胴体

木製骨格、羽布バリの翼

この迷彩はボロの羽布にあてたつぎに色をぬっている内に考案された。海軍機でこのパターンが使われたのは安松丸の搭載機だけである

96式艦攻

全幅 15m
全長 10.15m
エンジン
光2型 公称700HP
離昇840HP
最大速力 280km/h
最小速力 92km/h
合成風力14ノット時の着艦速力は約70km/hとなる。

96式艦攻はほとんど忘れられてしまった機体である。第一線にいた期間が短く、生産数もわずかで、派手な戦歴もなかったから97艦攻のカゲにかくれてしまったのは当然としても、同時期の英国のソードフィッシュのしぶとさと対照的である★

91式改一魚雷
785kg(火薬150kg)
真珠湾で使われた改二と較べ火薬が50kg少い。

★った。太平洋戦争ではまったく効いてないとおもわれた機体なのだが、一度だけのしかもとんでもない戦歴を持っている。これまた、まったく知られていない話↗

↗設空母安松丸の搭載機としてなんとアフリカ中で船団襲撃をやっていたのであった。

雷撃機の厂史：技術停滞の証明

(艦上攻撃機)

(この他試作機はにたようなのがゴチャマンとある)

日本に於ける艦上攻撃機の厂史はガラクタの厂史といえるが、なんせ800kgの魚雷をぶらさげて、小馬力(当時としては高出力)のエンジンで、せまい空母の甲板からとぼうというのだから高揚力装置も可変ピッチペラもない時代にはやたらとバッ重な機体になるのは無理もなかった。

ゴチャゴチャしてるけみな同じようなもんだ

ゴミゴミ

ゴミ

チェッ イイナ…

ナンバ13カンタク

10年式
(1921年)
設計者イギリス人
日本唯一の三菱機
魚雷がつねることを証明されど実用性ナシ、ひとり乗り
450HP、10機生産

13年式
(1924年)
同じくイギリス人設計、三座機となり実用性高く、上海上空で日本初の機上戦死者を出す
450HP、440機生産

89式
(1929年)
英ブラックバーン社に設計依頼、設備、経費、予時者かぎりなく、悪評、殺人機
日中戦争ではじめての個小隊全滅も経験
600HP 200機

92式
(1932年)
国産イスパノエンジン信頼性ナシ
いじくりまわす内に旧式化
600HP、130機

96式
(1936年)
光エンジンのおかげで実用性高く、さんざん酷使されたとたんに旧式となる
700HP、200機

要するにこのクラスの出力になるとまだ水冷エンジンは日本の工業力ではどうにもならなかったのだ

10年式から15年かけて80km/h速くなっただけ

空中魚雷は91式改一になってはじめて実用性を持ったがこのお話さのどりで97式以外は雷撃を行った被撃艦攻は一機もない。中国相手に水平爆撃だけをやっていた。

▼これより全金属製、フラップ、引込脚定速ペラ

97式
(1937年)
96式と同じ光で90km/hも速くなる。栄エンジンの3型もふくめ1250機。13年式以来共通だけはズ〜〜〜とハイスなのがオソロシイ

三座機とは 長時間の洋上飛行をするため推測航法を受けもつ偵察員が必要であった。この人である

通信士&銃手

航法の爆撃

コレ 雷撃照準器

操縦&雷撃

これだけ知ってると日本機の的たいてい面にあるルイス機銃

ロールバーもかぶるよ

のみものはサイダーが多い、サイダービン入りの水も多い。

航空ベット〜はオニギリ、オイナリさんのりまきが主なメニュー。

では いよいよ
かくされた戦記 安松丸
物語のはじまり はじまり

日本機になるとヤクラ空が多くなるバシテ?

10年前このギャグさやっていた

ナニッ
赤道が見えない?!
てめえの目はフシ穴か

そ、そういえば
なんかウッスラと
赤いオビが…

1942年6月
インド洋上をヨタヨタと西進する
特設空母 安松丸と護衛の旧式
駆逐艦、たった二隻の機動部隊

主な登場人物

もの狂い司令官

寿光の神さま or ジョコーサマ

ドッキ ゴーグル

ド乱視 指揮官

↓もともと安松丸は 太平洋航路の高速貨物船として建造中だったものを、陸軍が徴用した船だった。

簡単な飛行甲板をはれば 上陸支援空母になると、海軍とナワバリ争いに熱心な陸軍のあさはかな計画。
これが大失敗 高速といっても わずか15ノット、トップヘビーで不安定、甲板もせまくて
とても使える代物じゃないと
造ってから やっと判った。

アッタ!!
コレダァ!!

で つなかれとったあを
海軍のもの狂い オビジが
目をつけた。

なんでもイイ 空母を一隻
アフリカ沖に出せば 独国に
貸をつくれる!
ナニがなんでも
やるんだ!!

ヤル

オガヤル

コロセ

オガセロ

あんまりウルサクわめきつづけるので お前がやるなら と、この計画が承認されまったのである。

安松丸全図

インゲ!

7000総トン
全長140m
飛行甲板 130m×16m
搭載機数 6機 たったの6機!
(内、甲板上2機、予備1機)

一騎当千や

ブリッジとなる指揮所

離着艦時はたおすマスト

排気管(ディーゼルなので)

エレベーターはない 色だけぬってある

5ヒデリック

この船のために急ぎ考案された

着艦ユードー装置

後部格納甲板
製造された96艦攻3機
内、1機は分解して搭載

安松丸には全通格納庫はない
そこまでの大改装はしていない

前部デリック 海面上にぶら下げて 格納庫スライドさせて格納する。前部に96艦攻2機

仮設ブリッジ
船体が小さすぎて
艦橋はとても
つけられなかった

25ミリMG

格納庫はかぎなしの
フキサラシである
ここは一機のみ搭載

兵装は25ミリMG
6門のみ!!

ロンメルが
待ってるぞ
インゲ!!

対潜用の空母としてなら つかいようがあったかもしれないが、わが海軍が
もの狂い司令官は
攻撃精神しか持ってなかった

オソロシイことに
両サラシの安松丸を陸軍が
もろうけ 1月半で なんとか
改造してしまったのであった。

トップヘビーなら
船底に石でも
なんでもつめろ!!

戦闘機や艦爆は
いらん!
雷撃や、雷撃こそ
男の花道だや

ヤッツケ
改装工事に力を発揮した
若い技官の話もミリョク的なのだが、紙面のため省略

一方、全国から96艦攻がかき集められた。

ドデーン

コワスナー

運!途中で あっこったり、こわれたり。

なんで3年前に生産中止の上、日中戦争で酷使された代物だから これがヒトサワギ。

かき集めた代物のましな部分をよせ集め なんとか使えそうなのをでっちあげた。

バリバリ

で、ジュコーザマの出番となる。天才的整備力、零と光の両エンジンについてなら、このオッサンの右に出る者はいない

七番のバルブにキズがある

ボケーッと音ききいてるだけで故障をみつけちゃうのだ。

大修理!!

オーバーホール

そっちのもってこい!

このムキゆうノイアなのだ

↓若輩二流の搭乗員がかき集められ訓練が始まった。突発性引退で真珠湾に出られなかった搭乗員のはりきったこと。

そこは海だ
お前ら全員水死
メシぬきっ!!

安松丸の飛行甲板は130mしかないのである。

もっと低くとべ
海をはえっ

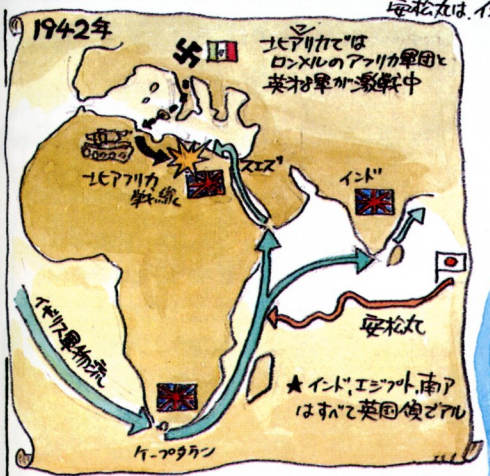
九州 大村湾

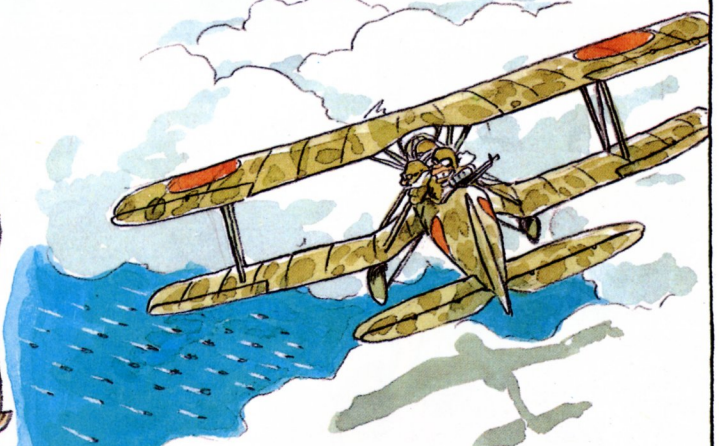
かくて ようやく出撃 (書きはじめとエピソードはかぎりなくあるのだが、紙面のせいで省略)

カッコ
イイナァ
本物は

ミッドウェーにむかう連合艦隊

安松丸は、インド洋をあらしまわった連合艦隊主力といれかわりに 西にむかった。一路アフリカへ

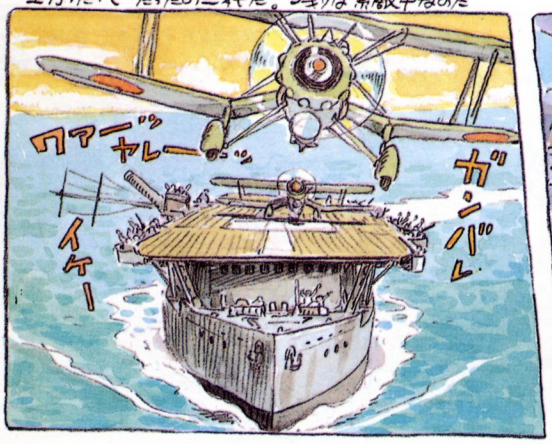


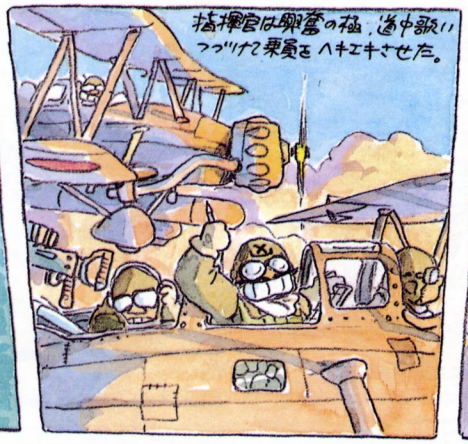


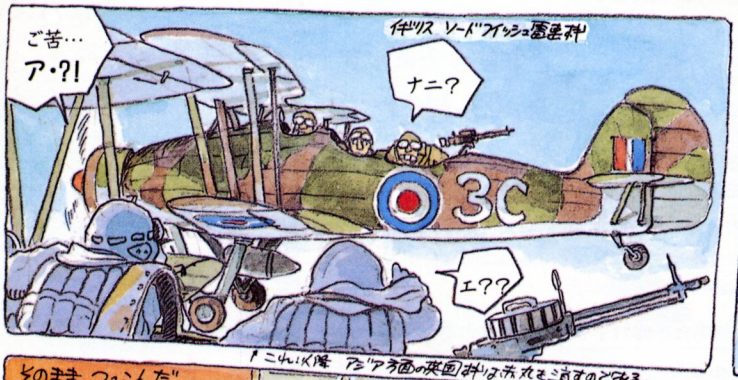
北アフリカとインド 東南アジア方面への主要の補給路をアフリカ沖でつっつけば 連合軍の兵力配備は混乱し、分散するはずだという 作戦である。

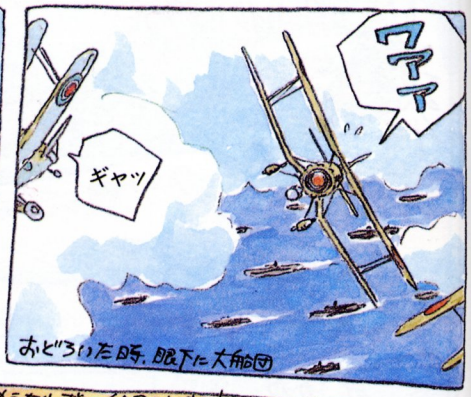
航海中のエピソードもはしょってついにソマリア沖に大船団を発見した。ただちに全力出撃!!

全力でたって たったの三機だ。残りは索敵中なのだ

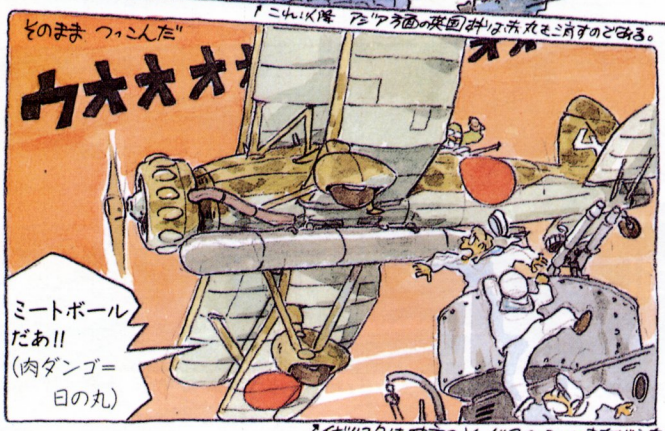


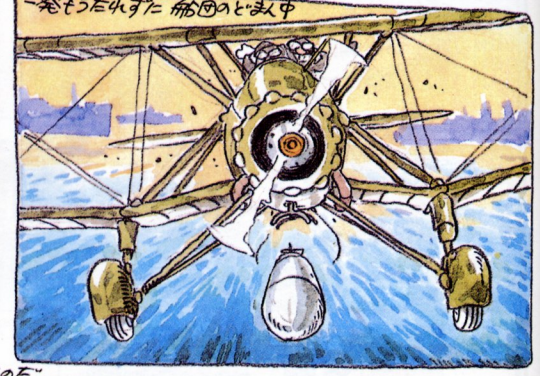




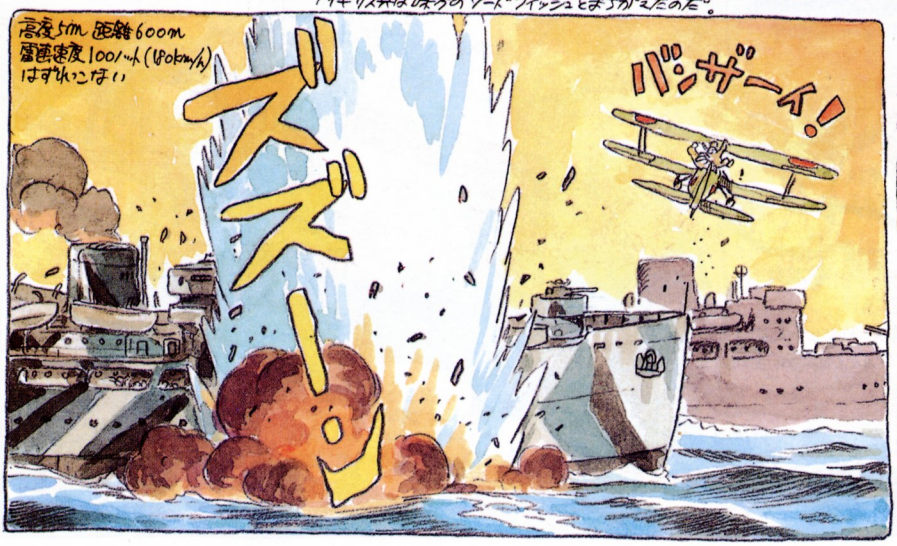


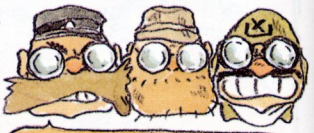
*これ以降 アジア西の英国はやっと丸をこ育すのどみる。



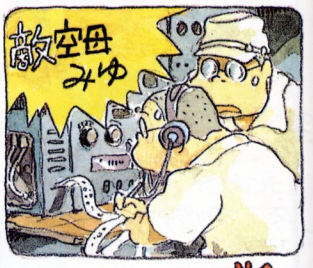


*イギリス丸は味方のソードフィッシュとまちがえたのだ。





その頃 安松丸の無電室には もう一機の索敵機から緊急電が入っていたのだ



つづく

要目
全巾 14m
全長 10.85m
エンジン 890HP
最大速力 359km/h

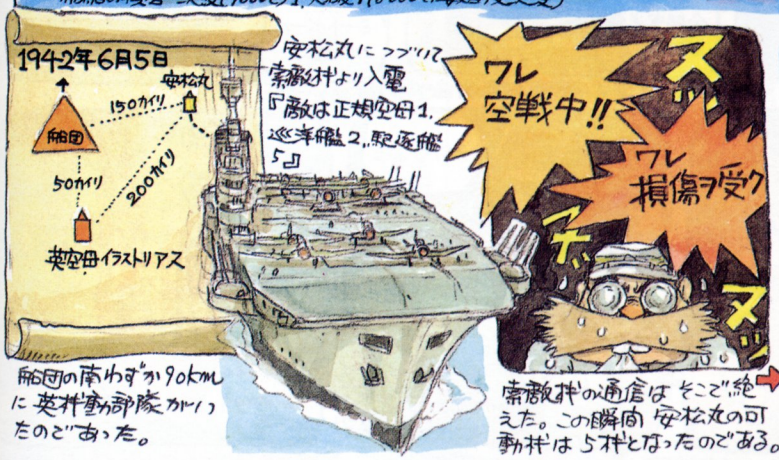
ボールトン・ポール
動力銃塔

よほど
対向気流に苦労したらしく ヒレだらけの外体

ぼくの大好きな
ブラックバーン・ロック戦闘機
7.7ミリ四連装の銃塔が攻撃機
なると錯覚してつくられた かわいそうな
ヒコーキ。前方銃がないのだ。

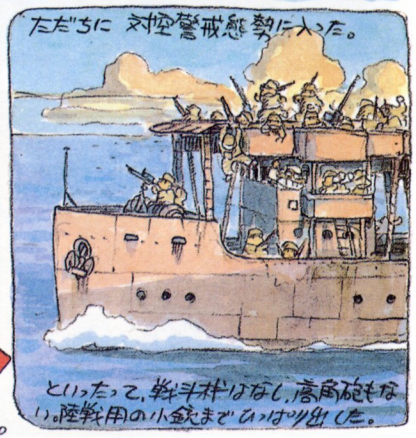
ブリストル
パーシュース 12エンジン
空冷9気筒星型

安松丸搭載機の攻撃により
船舶の撃沈 沈没(7000t)1, 大破1(8000t, 数日後沈没)

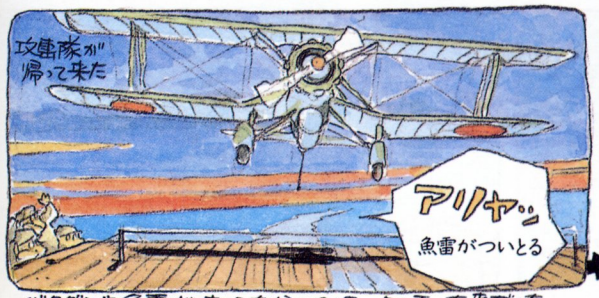


船団の南わずか90kmに英機動部隊かいったのであった。

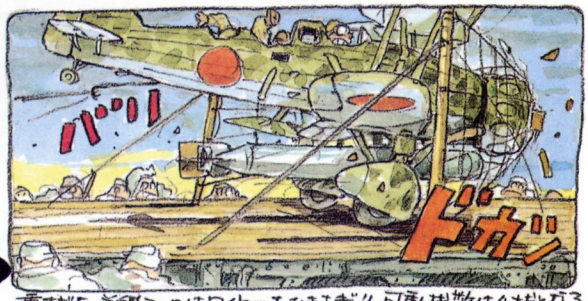
索敵機の通信はそこで絶えた。この瞬間 安松丸の可動機は5機となったのである。



といったって、戦闘機はなし、高角砲もない。陸戦用の小銃までひっぱり出した。



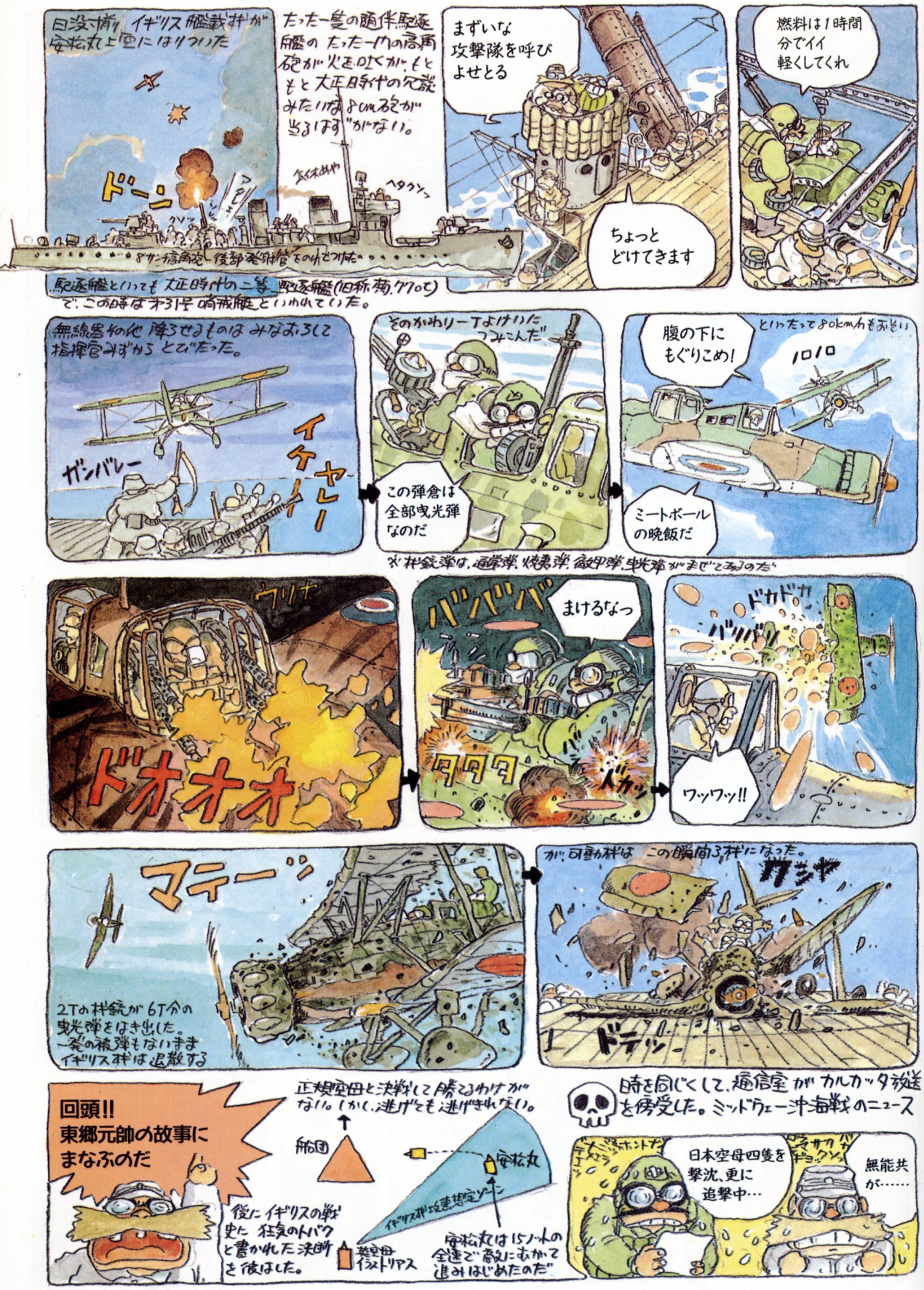
バクダンや魚雷がおっこちないのは よくあった事だった。



重すぎた。艦船フックはワイヤーをひきちぎり、可動機数は4機となる。

こんなおかしい!! いいがかりだ。
投下テストは搭乗員も立ちあうはずである。

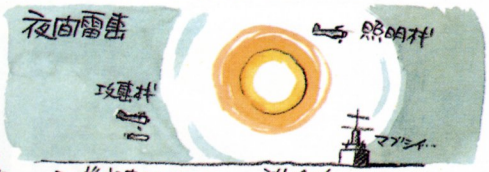
指揮官は腹芸も出来ねばならぬ


日没前、イギリス艦載機が安松丸上空にはりついた
ドーン
たった一隻の護衛駆逐艦のたった一門の高角砲が火を吹くが、もともと大正時代の冗談みたいなような砲が当るはずがない。
ヘタクソ
8センチ高角砲、後部発射管をのれとつけた。
駆逐艦といっても大正時代の二等駆逐艦(旧称、海防艦)
で、この時は第31号哨戒艇といわれていた。
まずいな
攻撃隊を呼びよせとる
ちょっとどけてきます
燃料は1時間分でイイ軽くしてくれ
無線器その他降ろせるものはみなおろして指揮官みずからとびたった。
ガンバレー
イケイケ
そのかわりーTよけいたつみこんだ
この弾倉は全部曳光弾なのだ
腹の下にもぐりこめ!
といったってOKかわもおそい
ミートボールの晩飯だ
※機銃弾は、通常弾、焼夷弾、徹甲弾、曳光弾がまぜこぜのだ
ウリャ
ドオオオ
バンバンバ
まけるなっ
タタタ
バカッ
ドカドカ
バリバリ
ワッワッ!!
マティー
2Tの機銃が6T分の曳光弾をはき出した。一発の被弾もないままイギリス機は退散する
が、可動機はこの瞬間3機になった。
ガシャ
ドテッ
回頭!!
東郷元帥の故事にまなぶのだ
正規空母と決戦して勝てるわけがない。しかし、逃げても逃げきれない。
船団
安松丸
イギリス機攻撃想定ゾーン
後にイギリスの戦史に狂気のトバクと書かれた決断を彼はした。
英空母イストリアス
安松丸は15ノットの全速で敵にむかって進みはじめたのだ
時を同じくして、通信室がカルカッタ放送を傍受した。ミッドウェー沖海戦のニュース
日本空母四隻を撃沈、更に追撃中…
無能共が……

おごれる者は久しからず
油断大敵 火がボーボー
開戦わずか半年で 日本の機動部隊の主力は数でおとるアメリカ軍に全滅させられたのであった。

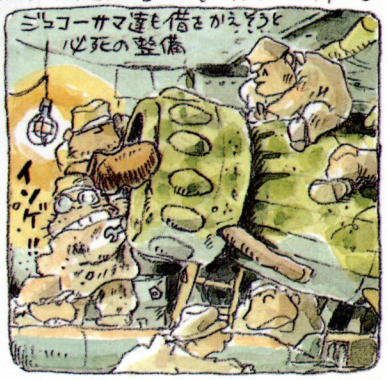
無敵を誇る者が無敵であったためしなし。

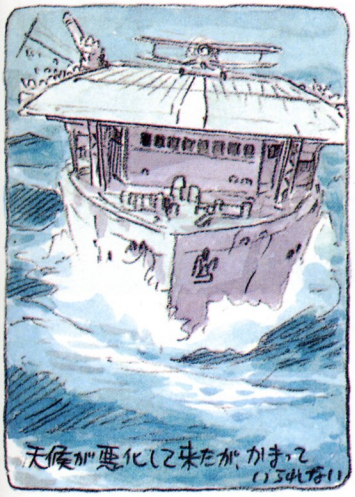
一方、イラストリアスは安松丸に対し第一波の攻撃隊を送り出していた。
地中海戦役できたえぬかれた夜間雷撃のベテラン達である。

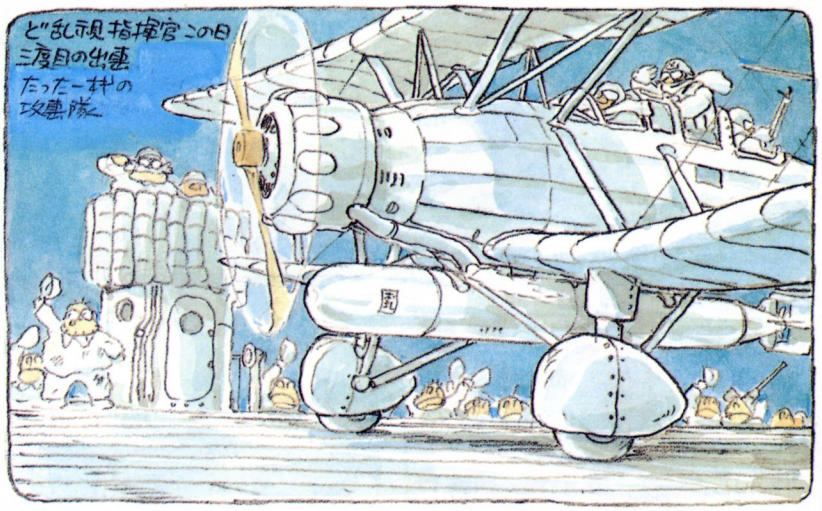


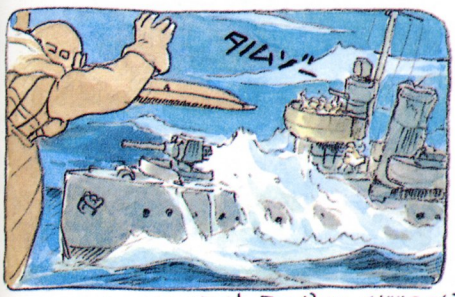
この戦法でロンメルの補給路をしめあげていた。

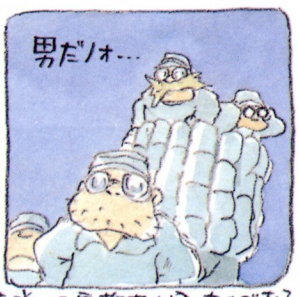
大深刻の中で 二人の食は一段とすすむ。どうやっても安松丸が見つかるのは時間の問題だ。しかも可動が3機では…





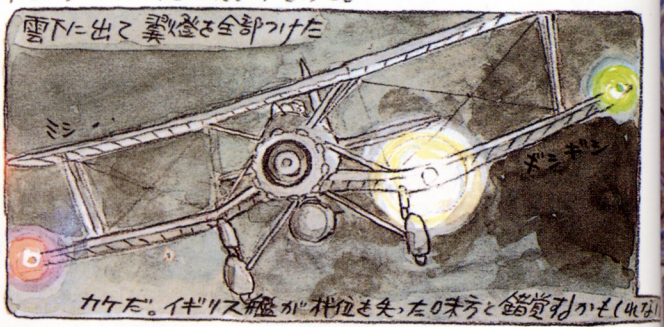


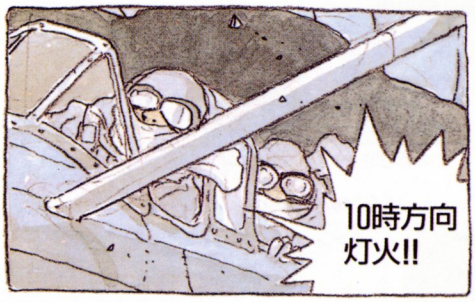


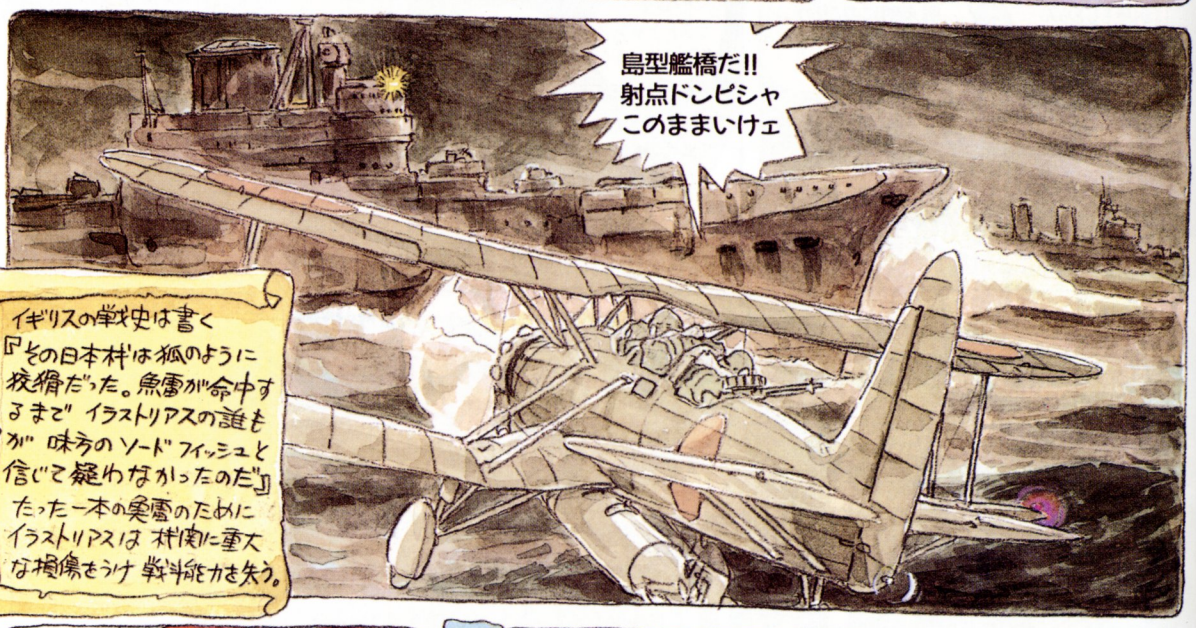


★結果的に大胆な変針と悪天候がイギリス攻撃隊から安松丸を守ったのである。

イギリス艦が安松丸を探しあぐねている頃、日本艦もイラストリアスを探しまわっていた。

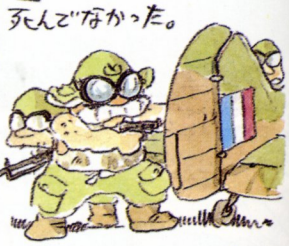




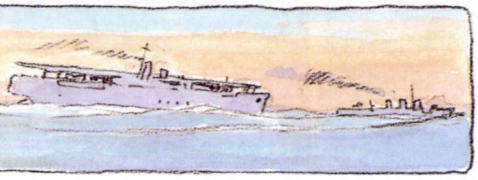


イギリスの戦史は書く
『その日本艦は狐のように狡猾だった。魚雷が命中するまで イラストリアスの誰もが 味方のソードフィッシュと信じて疑わなかったのだ』
たった一本の魚雷のために
イラストリアスは 機関に重大な損傷をうけ 戦闘能力を失う。

ところで、三人の日本人は死んでなかった。



翌日安松丸と第31号哨戒艇は針路を東にとって脱出した。
追って来る英艦、英機一つもなし
イラストリアスは ヨロメキつつ
マダガスカル島へ退避中であった。



強風でエチオピアに流された彼等は 不時着潜入、英ブレニム爆撃をうばってドイツアフリカ軍団にとび、そこでもひとはたらきするのだが、その物語はまた後日。

オワリ 1987.2.4

第10話

ロンドン上空
1918年

第1次大戦中、ドイツ陸軍が開発した

“ツェッペリン・シュターケン”は、

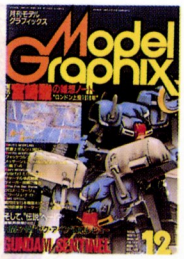
史上初の戦略爆撃機である。

だがそれは、飛ぶのが

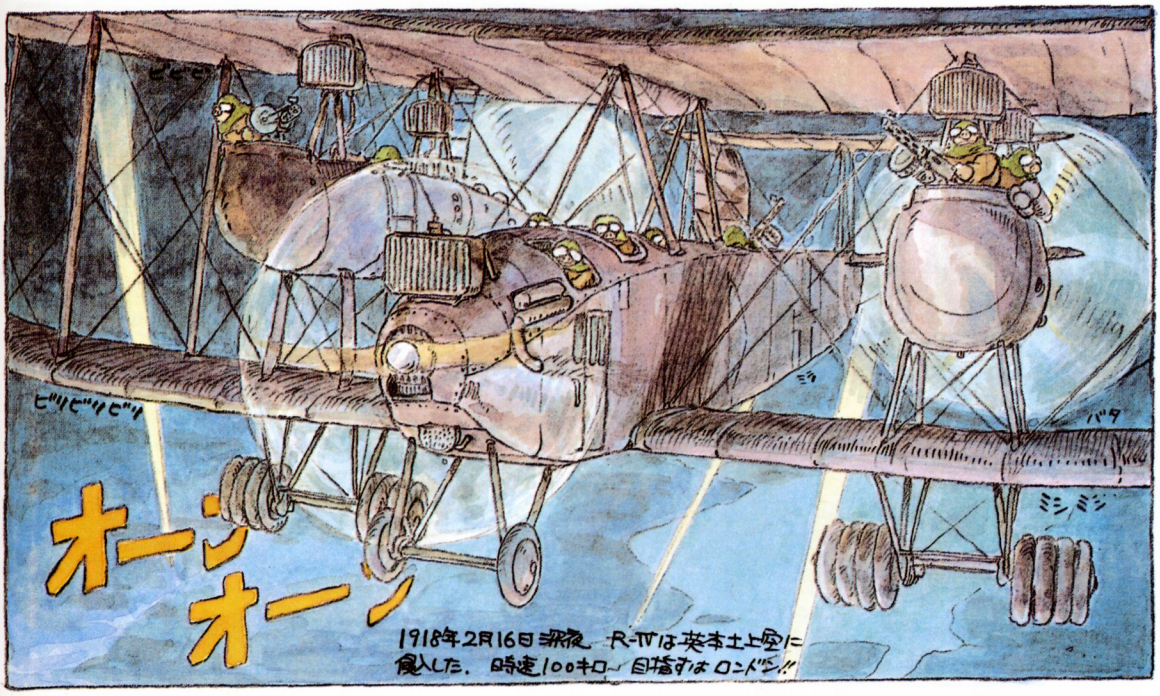
不思議なくらい繊細な代物だった。

ムリヤリ搭乗させられた整備兵ハンスは、

長く忙しい夜を体験するハメに…。



初出：月刊モデルグラフィックス1989年12月号、1990年1月号
（連載第11,12回、執筆・1989年11,12月）



ロンドン上空1918年

ツェッペリン シュターケンR-IV

R級とは 巨人機群のこと。飛行船のかわりにドイツ帝国陸軍が用意した長距離爆撃機。あれやこれやと30種類も作った。R-IVはまあまあの成功作。でも生産機数はたったの一機だった。

要目
全巾 42.2m
全長 23.2m
最大 125km/h
航続 6～7時間

乗員は9名(たぶん)
パラペラ4枚銃
計17

プリント地の迷彩、正確にかくとみぬのでてきとうに描くことにする

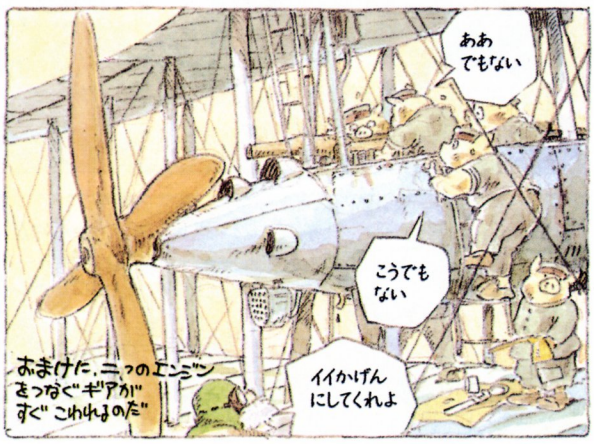
ぼくがこいつを好きになったキッカケは「ツェッペリン、シュターケン」という名前である。ツェッペリン社のシュターケン工場製という意味だが、フランケンシュタインのようでマガマガしくて気に入ったのである。

翼のエンジンナセルには220馬力のエンジンが二基おさまり、後のプロペラをまわした

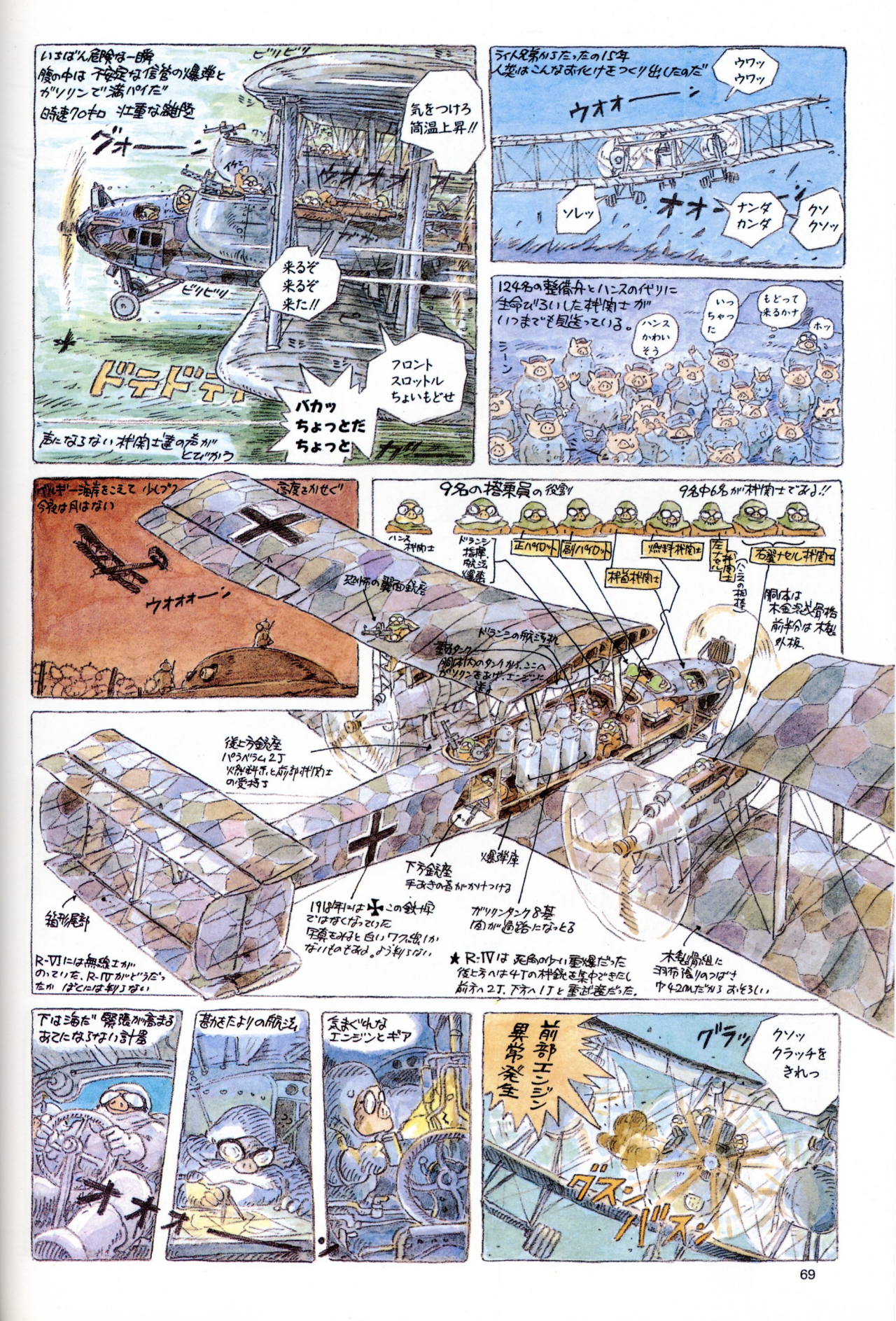
このヒコーキ3発に見えるが実は6発機なのだ

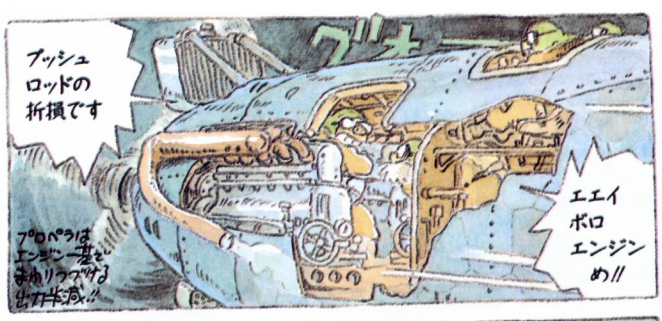
爆弾は1000～2000kg
英本土空襲の時は1000kg位
100kgと300kgの爆弾を使用した
胴体下部に扉のついた爆弾庫がある。う～ん 近代的だ…。

二つの160馬力のエンジンでまわす前部プロペラ

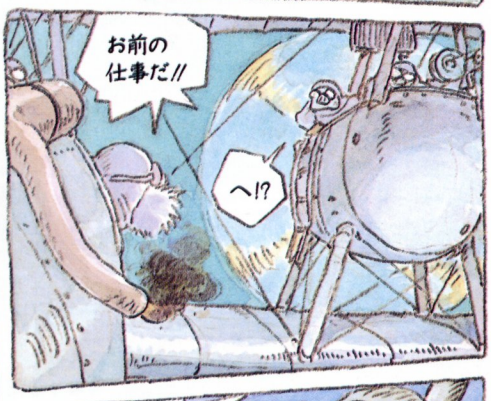


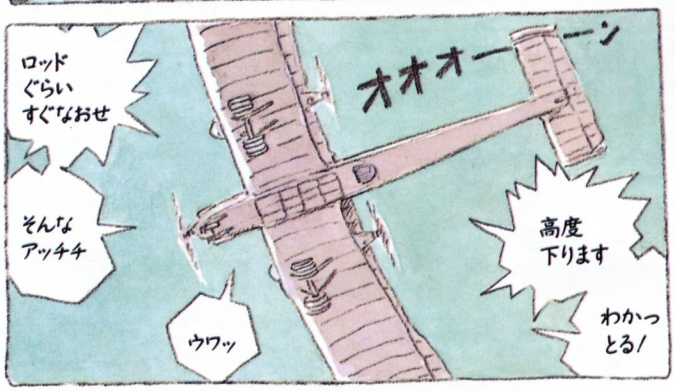
R-IVの搭乗員兼航法士兼砲手
バベリア出身 ドランシ大尉(40才)
イライラ
クソーッ
オノレ!!
イライラ
イライラ
イライラ
イライラ
先に いくぞーッ
オオ
ゴゴゴオオ
この日のロンドン空襲はR級4機のみ
R-VI(R-IVより進化した型)は不参
とばり出撃していく。(の三機)
ツェッペリン シュターケン R-VI
最終生産型、ごいつは18機つくられた。
260HP×4
電撃型のコクピット
前後にプロペラをつけた。
二基のエンジンでプロペラ ひとつを回す
バカきやめて、実用性が向上した。
そともと ドランシ大尉のR-IVは 機機として無理があったのである。
ガガガ
ドライバーが
機関士が
二名
つきっきりでなければならないのだが
ヒイ
バギ
二つのエンジンが
共鳴して、振動でギアが
ぶっこわれるのである。
プロペラシャフトなんか 折れちゃう
クランク
二重反転プロペラ
またやった!!
イラ
とべるか?
五分五分です
上手にあつかえば
今晩ぐらいは
もちますよ
たぶん
フン じゃあ
お前も
つきあえ
ヘッ
シレジアの時計屋の息子 ハンス少尉
かくて、整備兵長 ハンスは
とっぜん 搭乗機関士に
なっちゃったのである
ぼ ぼく
近眼なのに
フン
オレは
乱視だ
特配の
夜食入り
ベントラ
バコ
麻薬コーヒー
本物のサラミだ!!
ママに送って
あげよう
イイコトもある
バタつきパン
どの国でも搭乗員は
イイモノを食べられた
どうせ すぐ死ぬのだ
オイアリさん
のりまき!!
ドイツ本国では 食糧
難になっていて、本物の
サラミは貴重品であった。
ようやく出撃、始動車がつぎつぎとエンジンをかけていく
キュンキュン
ゴォォォ
バリバリ
ビリビリ
いくぞ!!
目標
ロンドン!!
車式
燃料ポンプ
ハンスに離陸を見届ける
ヒマなどない
全身で二基のエンジンを監視する
離昇出力 220馬力
タペットは おどり狂い
エンジンは咆哮する
いつ共振が発生する
か判らない


いちばん危険な一瞬
腹の中は不安定な信管の爆弾とガソリンで満パイだ
時速70キロ 壮重な滑走
ビリビリ
ミシ
ワッ
イテ
ゴオオオ
ガガガ
ドドドドド
ビリビリ
ドテドテ
ガガ
気をつけろ 筒温上昇!!
来るぞ 来るぞ 来た!!
フロントスロットルちょいもどせ
バカッ ちょっとだ ちょっと
声にならない機関士達の声がとびかう
ライト兄弟からたったの15年
人類はこんなおもちゃをつくり出したのだ
ウワッ ウワッ
ウオオーン
ソレッ
オオー
ナンダ カンダ
クソ クソッ
124名の整備員とハンスの代りに生命でもいした機関士がいつまでも見送っている。
ハンスかわいそう
いっちゃった
もどって来るかナ
ホッ
シーン
ベルギー海岸をこえて 火ブク
今夜は月はない
高度をかせぐ
ウオオオーン
恐怖の翼面銃座
9名の搭乗員の役割
9名中6名が機関士である!!
ハンス 機関士
ドラニシ 指揮 航法 爆撃
正パイロット
副パイロット
燃料機関士
機関士
左右機関士
ハンスの補佐
右翼ナセル機関士
胴体は木金製骨格 前半分は木製外板
ドラニシの航法写真
翼内タンク 胴体内のタンクカラ、ここへガソリンをあげ、エンジンに送る
後上方銃座 パラベラム 2丁 火器料手と前部機関士の受持ち
箱形尾部
R-VIには無線エガのっていた、R-IVがどうだったかはこれは判らない
1918年には✠この鉄車ではなくなっていた 写真でみると白いワク線がないものもある。よう判らない
下方銃座 手あきの者がかけつける
爆弾庫
ガソリンタンク8基 間が通路になっとる
★R-IVは死角の少い重爆だった 後上方へは4丁の機銃を集中できたし前方へ2丁、下方へ1丁と重武装だった。
木製骨組に羽布張りのつばさ 巾42M だから おそろしい
下は海だ 緊張が高まる あてにならない計器
オオ
甚かさたよりの航法
気まぐれなエンジンとギア
グラッ
クソッ クラッチをきれっ
前部エンジン異常発生
ダスン バスン

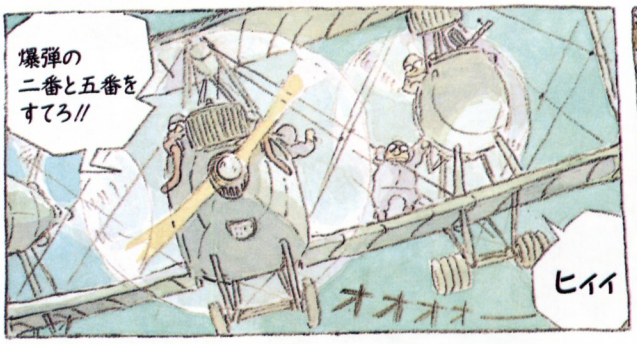

プッシュロッドの折損です
グォー
エエイボロエンジンめ!!
プロペラはエンジン一基をまわりつづけるだけ半減!!

ハンス ハンス 来いっ
ヒュー

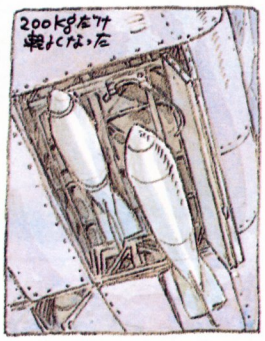

お前の仕事だ!!
へ!?

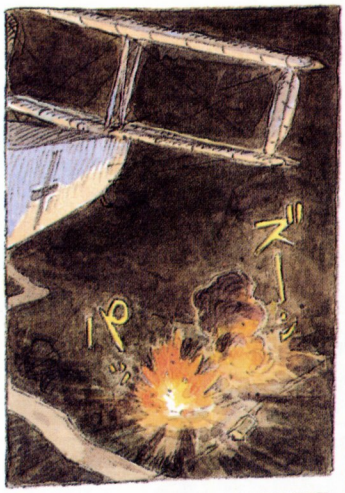

ロッドぐらいすぐなおせ
オオオーーーン
そんなアッチチ
高度下ります
ウワッ
わかっとる!

グズグズするな走れ!

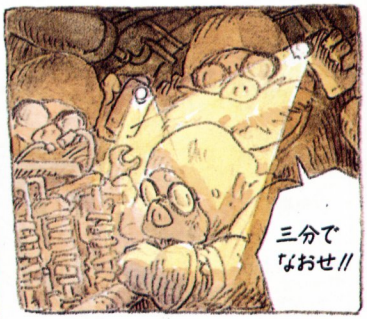

爆弾の二番と五番をすてろ!!
オオオオ
ヒイイ

つかまれ
ママー
ヒューー


200kgなんか軽くなった


ズーン
パ

パ
パ
サーチライト回廊です変針しますか?
このまま行けロンドンはこの先だ


三分でなおせ!!

陸だイギリス本土だ

シリンダーがひとつパァです五気筒でまわすしかありませんがやってみます
まわればなんでもイイ
五分ください
四分でやれっ

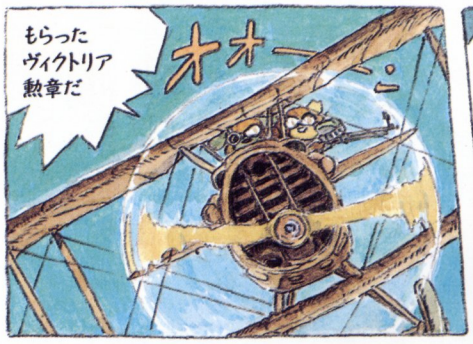
ロンドンへの道はとおいのだ　で次回へつづく

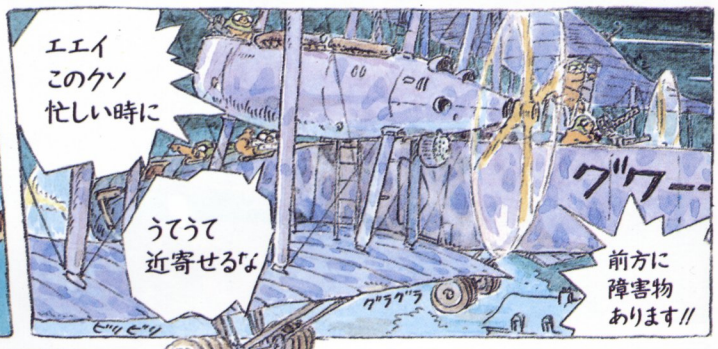
でかい!!
ツェッペリン
シュターケンだ

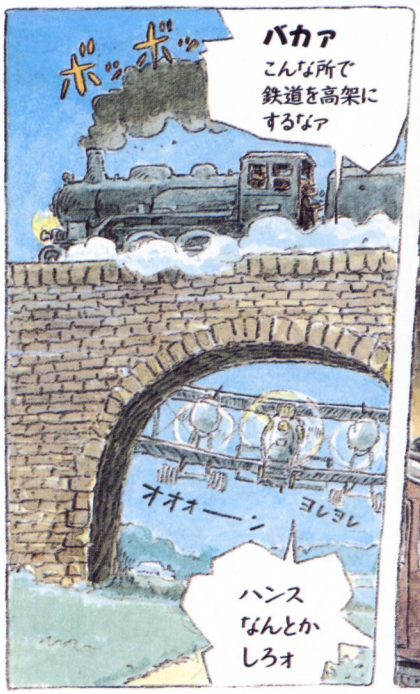
雑想ノートNO.12
宮崎駿

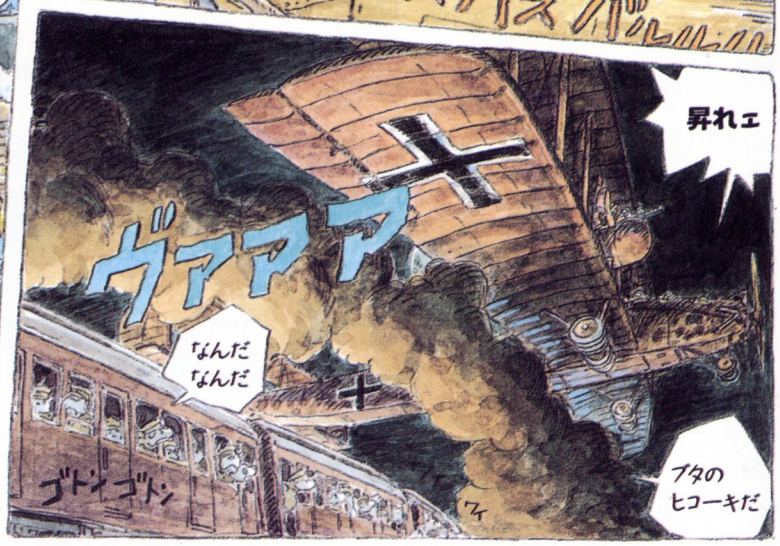
つづき
ロンドン上空1918

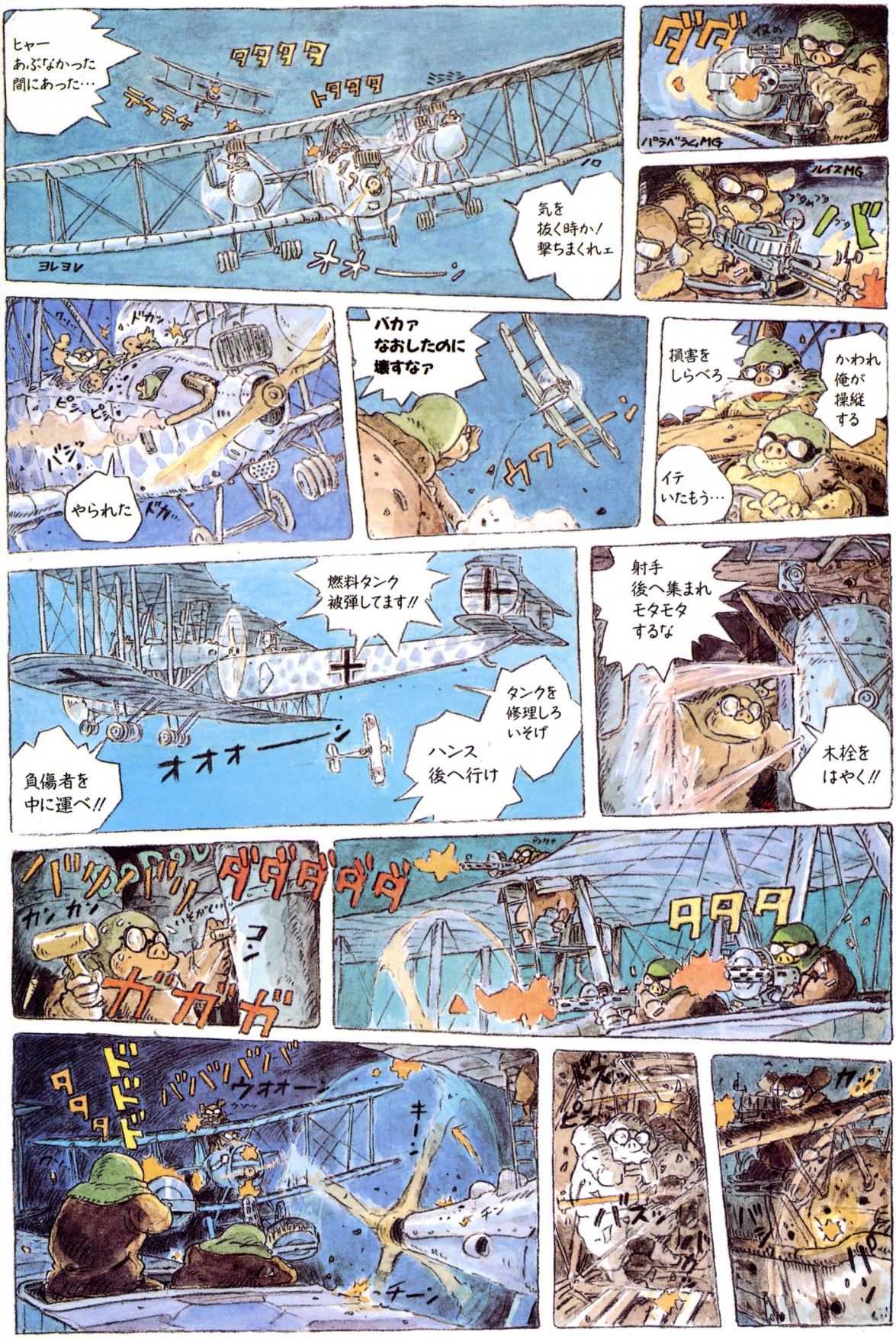
ブリストル
F2B ファイター戦闘機
イギリス人が最高の複葉機と言った
おぶっちゃけヒコーキ

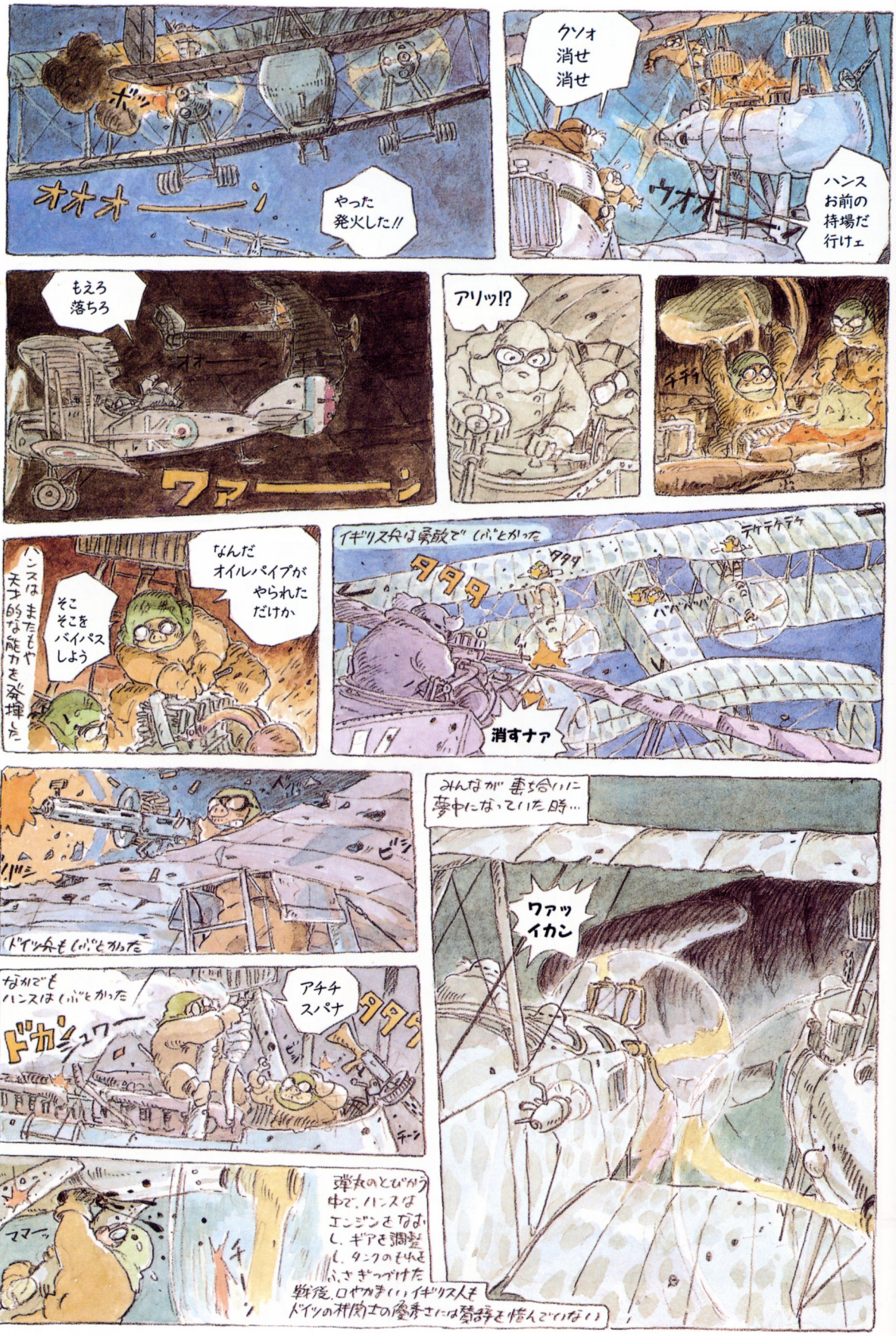









ヒャー
あぶなかった
間にあった…
タタタタ
テテテテ
トタタタ
ミミミミ
ヨレヨレ
オオ―ン
気を
抜く時か！
撃ちまくれェ
ダダ
パラベラムMG
ルイスMG
ノダ
バカッ
ピッ
バジ
やられた
バカァ
なおしたのに
壊すなァ
オワ―ン
損害を
しらべろ
かわれ
俺が
操縦
する
イテ
いたもう…
燃料タンク
被弾してます!!
タンクを
修理しろ
いそげ
ハンス
後へ行け
オオオ―ン
負傷者を
中に運べ!!
射手
後へ集まれ
モタモタ
するな
木栓を
はやく!!
ダダダダダ
カンカン
ガガガ
タタタ
タタタ
ウオオ―ン
キ―ン
チ―ン
ドスッ
ピッ
ドスッ
バジ


ボッ
オオオ——ン
やった
発火した!!
クソォ
消せ
消せ
ウオオ——ン
ハンス
お前の
持場だ
行けェ
もえろ
落ちろ
オオ——ン
ワァ——ン
アリッ!?
チチチ
ハンスは またもや 天才的な能力を発揮した
なんだ
オイルパイプが
やられた
だけか
そこ
そこを
バイパス
しよう
イギリス兵は勇敢でしぶとかった
タタタ
デケデケデケ
バガバガ
消すナァ
ビシ
ビシ
ドイツ兵もしぶとかった
なかでも
ハンスはしぶとかった
ドカ
シュワー
アチチ
スパナ
タタ
チーン
ママ
チ
弾丸のとびかう中で、ハンスはエンジンをなおし、ギアを調整し、タンクのそれをふさぎつづけた
戦後、口やかましいイギリス人もドイツの技師士の優秀さには賛辞を惜んでいない
みんなが要領よくに夢中になっていた時…
ワァッ
イカン

バルーン・エプロンとは ワイヤーでつないだ 防塞気球のこと。低空を侵入(しん)する敵機を防禦するために、イギリスは 第1次、2次両大戦で 設置した。

バルーン エプロンだ!!

ウオオ・・・ーン

やばい!!

右だ 左 いや右だ

オオ・・・ーン

スレスレ

夜戦は どうした!?

気球の出現で 夜戦はシューターケンを見失ったのだ

ああっ

ビリビリ

ミシ

ブルブル

タワー ブリッジだ ぼく写真で 見たことある

ロンドン 上空です

ついたァ

ミシミシ

おもえば 遠い道のり だった

ジーン

ママに 手紙 かこう

サー・・・ッ

ピカッ

ピカッ

ピカッ

ドカン

ワァー

ズーン

ドーン

ドーン

ズーン

ズズーン

ガッ

バンカゴを あけろ!! 全弾投下

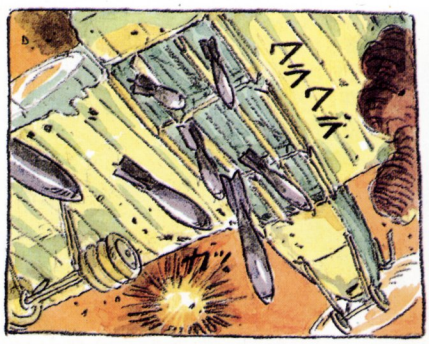
エエイ 狙わんでいい はやくすてろ

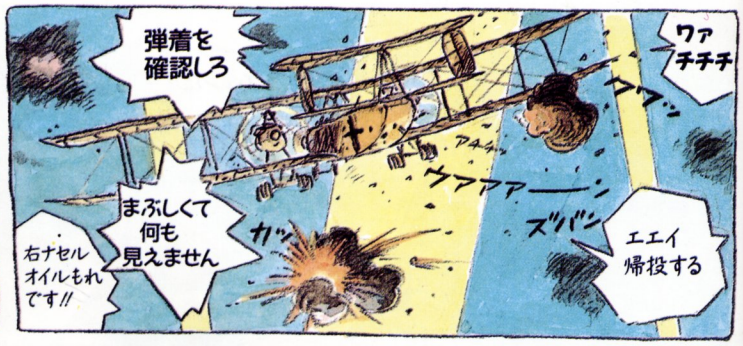
ドッ

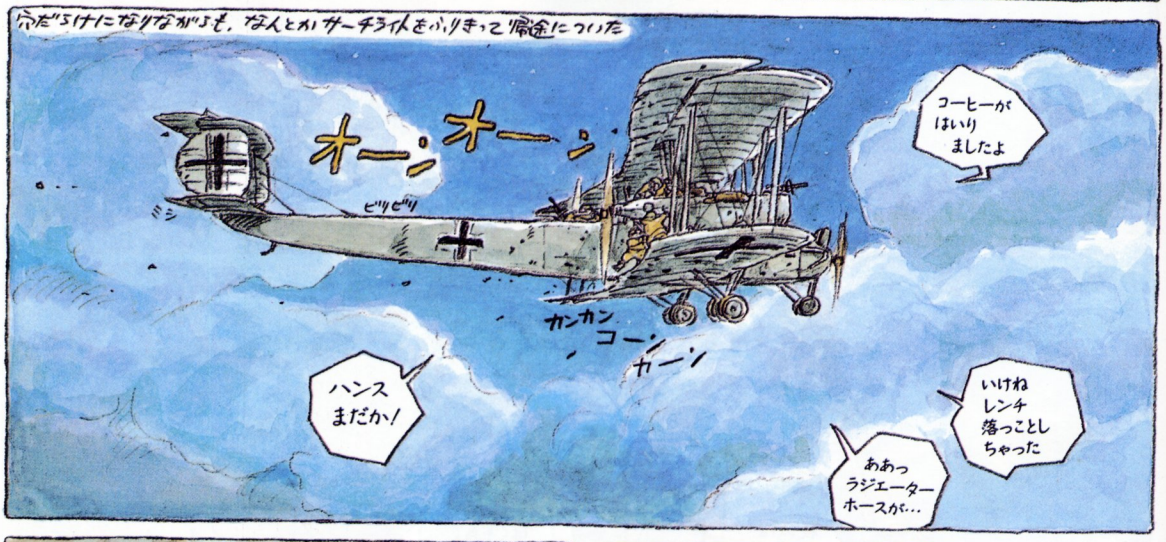
ドンガラ

ガーン

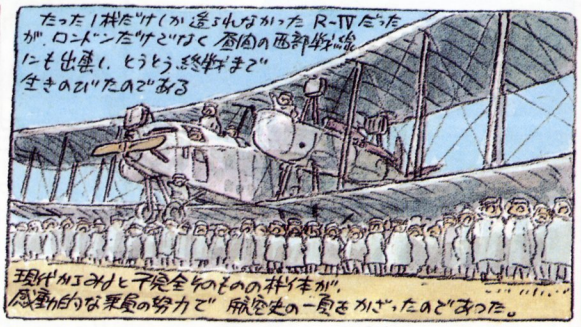
チーン

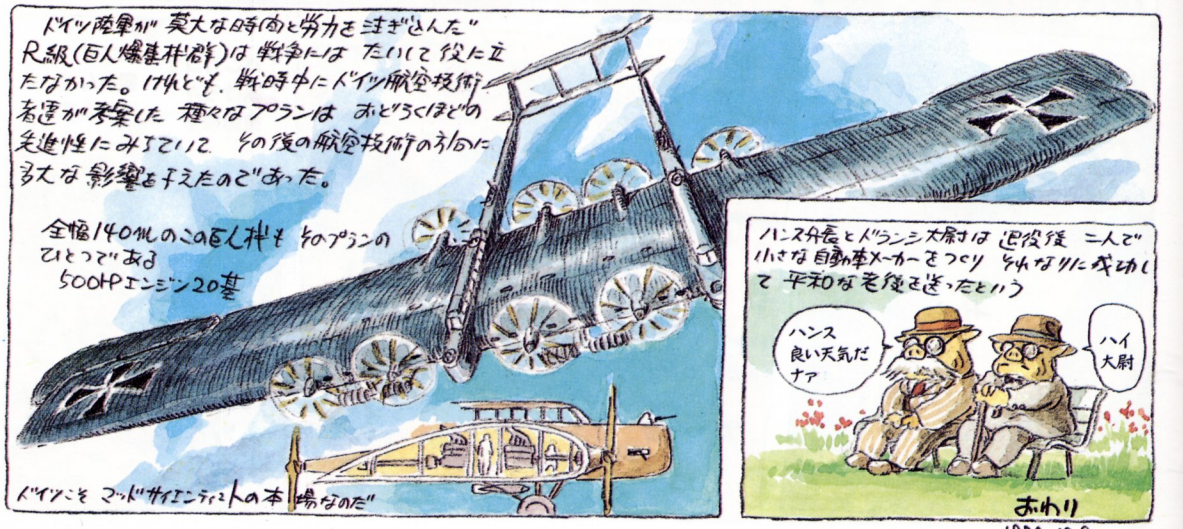

ワラワラ
ガッ


弾着を確認しろ
ワァ チチチ
ワッ
ウアアアーン
ズバン
エエイ 帰投する
まぶしくて 何も 見えません
カッ
右ナセル オイルもれです!!


ぶだらけになりながらも、なんとかサーチライトをぶりきって帰途についた
オーン オーン
ビリビリ
カンカン コーン カーン
コーヒーが はいり ましたよ
ハンス まだか!
いけね レンチ 落っことし ちゃった
ああっ ラジエーター ホースが…

ツェッペリン・シュターケンのロンドン空襲はイヤがらせ以上の効果をあげなかった。
戦局はもうドイツに決定的にキリになっていたのである。


たった1機だけ(が造られなかった R-IVだったが、ロンドンだけでなく 各個の西部戦線にも出撃し、とうとう終戦まで生きのびたのである
現代からみると不完全なものの機体が、感動的な乗員の努力で 航空史の一頁をかざったのであった。


ドイツ陸軍が莫大な時間と労力を注ぎこんだ R級(巨人爆撃機群)は戦争にはたいして役に立たなかった。けれども、戦時中にドイツ航空技術者達が考案した種々なプランは おどろくほどの先進性をみせていて その後の航空技術の方向に多大な影響を与えたのであった。
全幅140メートルのこの巨人機も そのプランのひとつである
500HPエンジン20基
ドイツこそ マッドサイエンティストの本場なのだ

ハンス分隊長とバランシ大尉は退役後 二人で小さな自動車メーカーをつくり それなりに成功して 平和な老後を送ったという
ハンス 良い天気だナァ
ハイ 大尉
おわり

1989.12.9

第11話

最貧前線

太平洋戦争末期、日本海軍は本土へ飛来する

B-29爆撃機を監視するために、

漁船を徴用して特設監視艇に仕立て上げ、

見張り役にした。

物資も兵員も底をつきかけた

日本の苦肉の策である。

不屈の漁民と老兵は、

大漁旗のもと米軍重爆に戦いを挑むが…。

初出：月刊モデルグラフィックス1990年2月号
（連載第13回、執筆・1990年1月）

雑想ノートNO.13
宮崎駿

1945年3月008
特設監視艇399号艇のマストに大漁旗がひるがえった

ドドドド

最前線

ウオオオーン
ウオオーン

キラキラ
キラ
ピカッピカ
ワァーン
ワァーン
ワァー

オーン
オーン
オーン

B-29
100機
北上中

ボロ
ドドド
ボロ
ボロ

更に
第二波
接近中!!

「第三波も北上中」
と すげえ数
だなこりゃ

ドーッ
ドーッ

ウーム
物量の差なんて
ものでは
ないノォ

しらせても
防ぐ手だてが
ねえんじゃ

こげな所で
見張って
いても
ムダじゃな

ダダダ
ダダダ
コトヤ

緊急電!!
「ワレ空襲ヲ
受ク…
中野丸」

ナニッ!!

高円寺丸ヨリ
入電
「潜水艦と
交戦中!!」

阿佐丸

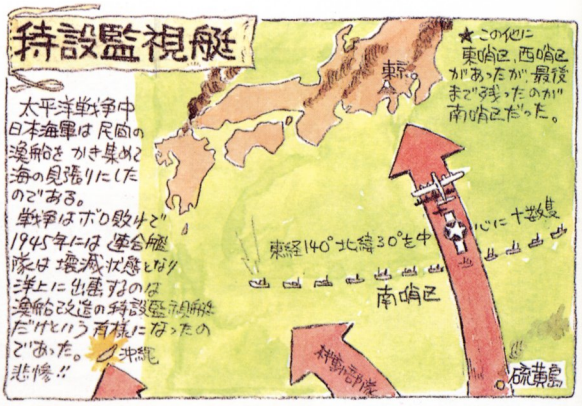
「エンジン
ヤラレタ
サヨウナラ」

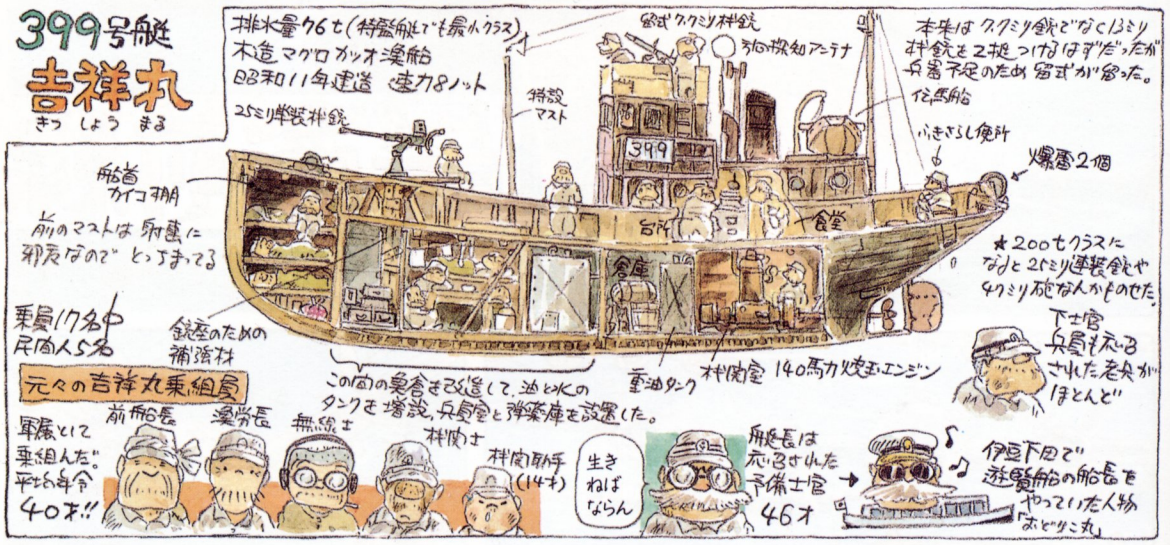
ドドドド

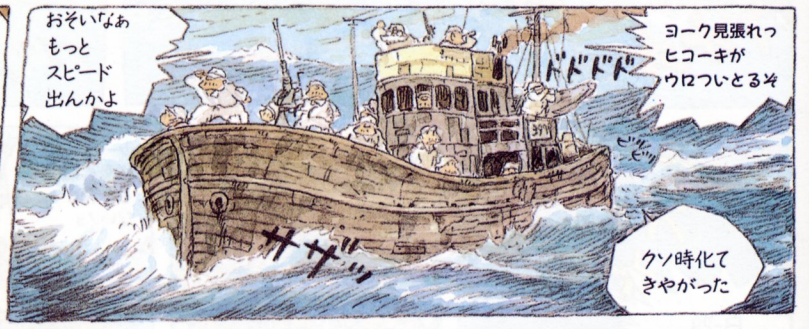
399

つづけて
第二報
「ワレ沈没ス」

ムムッ

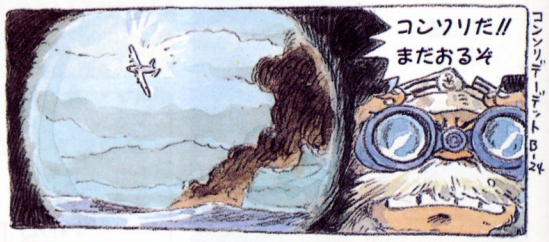




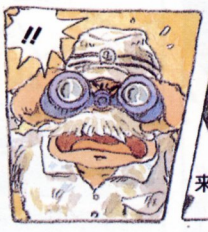


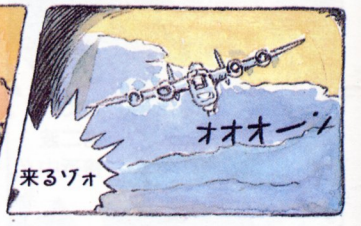
焼玉エンジン

シリンダーヘッドの鉄玉を灼熱化して点火するエンジン。海軍の艦艇より漁民の方があつかい方を心得ていた。

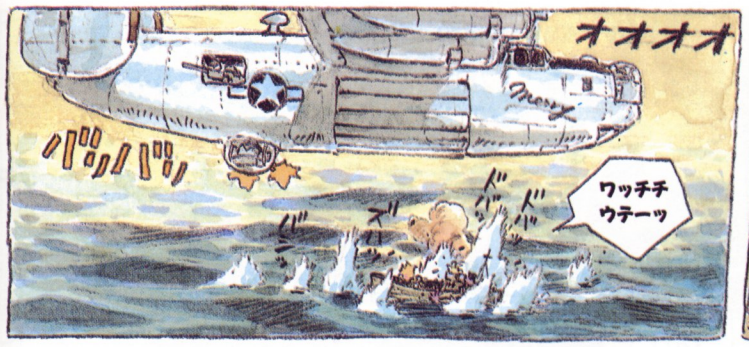


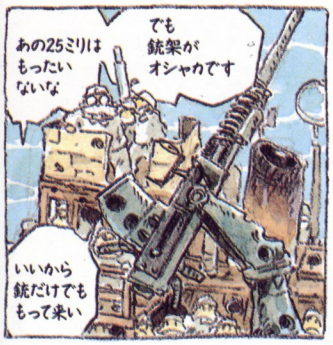
コンソリデーテッド B-24

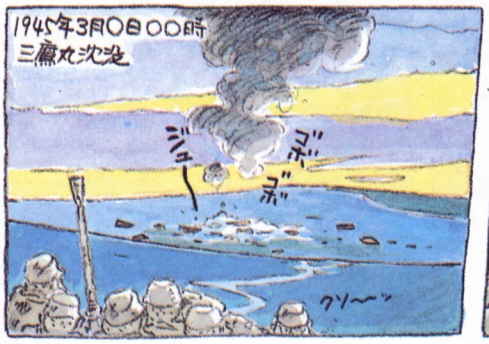


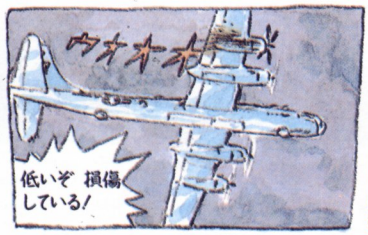


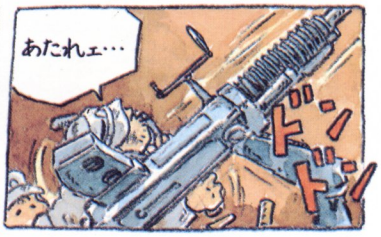
無線器も漁船のものをそのまま使った

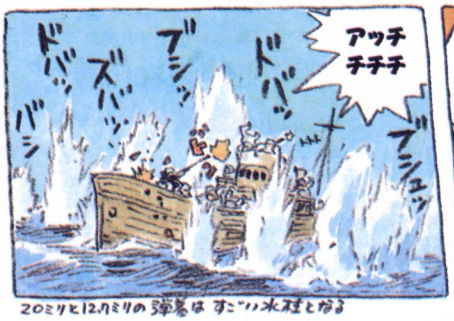




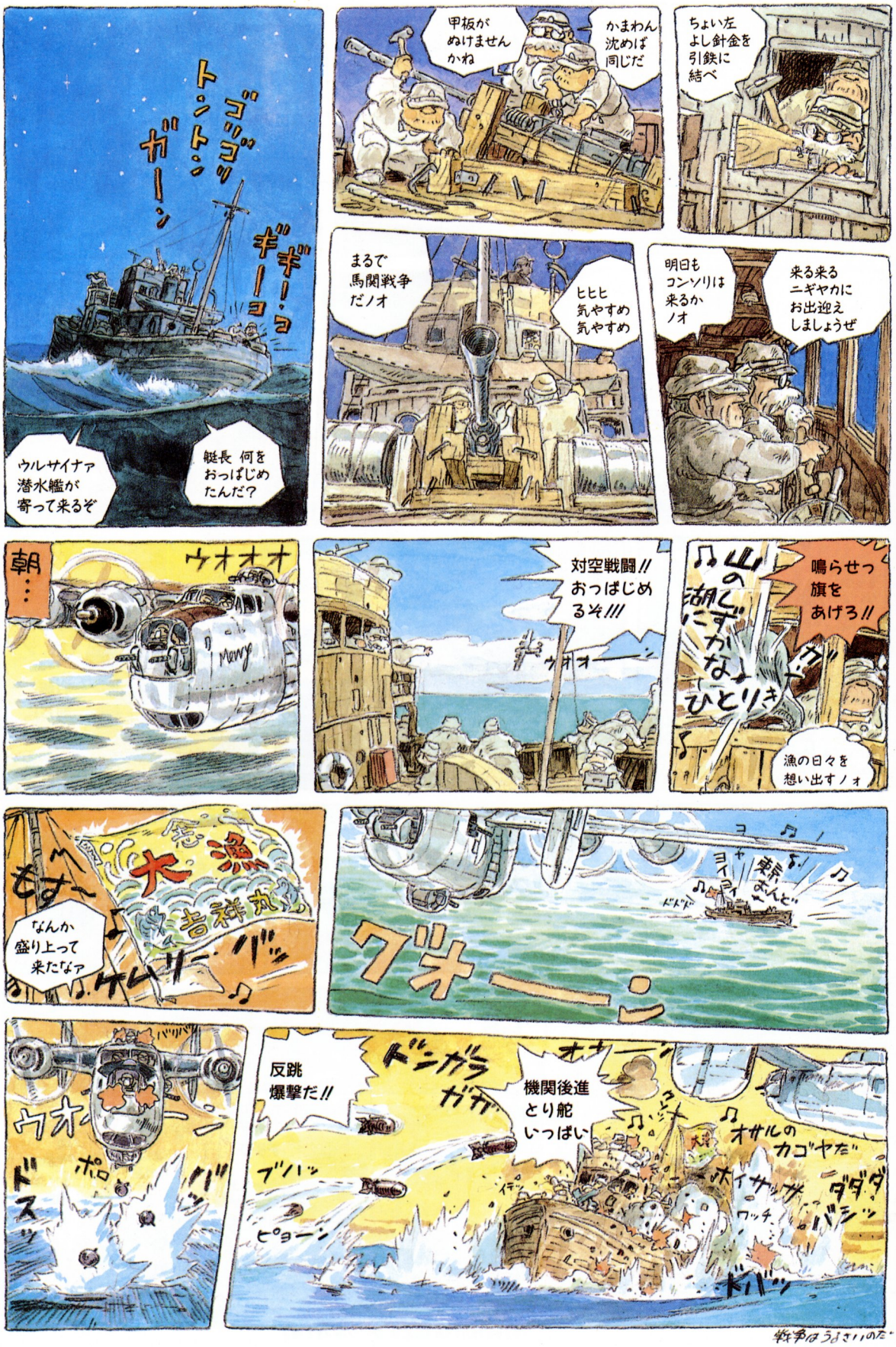




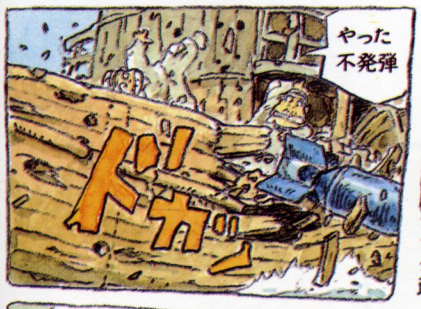


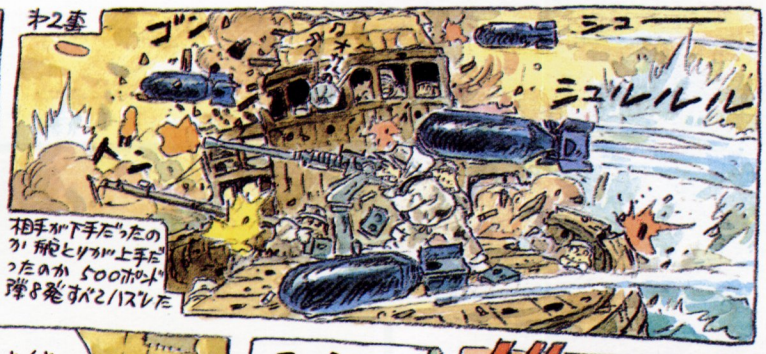


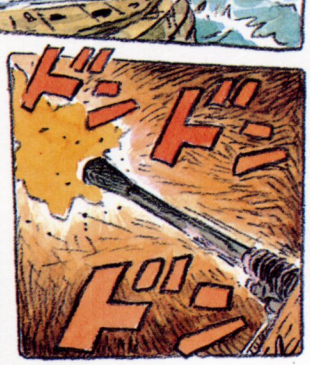
20ミリと12.7ミリの弾巻は すごい水柱となる

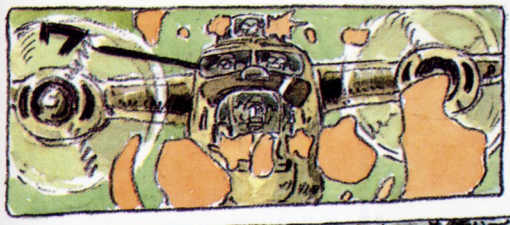

ゴッゴッ
トントン
ガーン
ギギーコ
艇長 何をおっぱじめたんだ?
ウルサイナァ潜水艦が寄って来るぞ
甲板がぬけませんかね
かまわん沈めば同じだ
ちょい左よし針金を引鉄に結べ
まるで馬関戦争だノオ
ヒヒヒ気やすめ気やすめ
明日もコンソリは来るかノオ
来る来るニギヤカにお出迎えしましょうぜ
朝…
ウオオオ
対空戦闘!! おっぱじめるぞ!!!
ウオオー
鳴らせっ旗をあげろ!!
山の湖にずがなよ ひとりき
漁の日々を想い出すノォ
もすー
なんか盛り上って来たなァ
大漁
吉祥丸
ケムリ
バッ
ヨイヨイ
東京ぶんど
ドドド
クオーン
ウオー
ポロ
ドス
グリ
反跳爆撃だ!!
ドンガラガガ
機関後進とり舵いっぱい
オサルのカゴヤだ
ホイサッサ
ダダダ
ワッチ
バシッ
ブハッ
ピョーン
ドドドッ

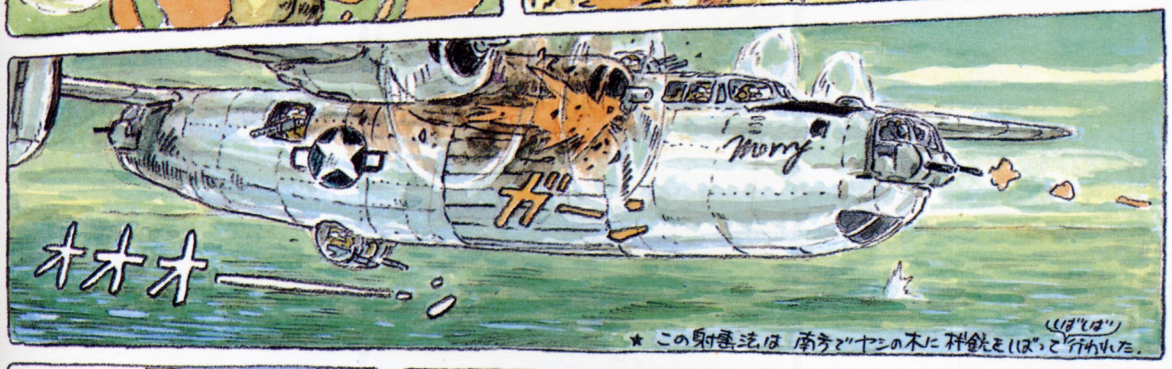
戦争はうるさいのだ

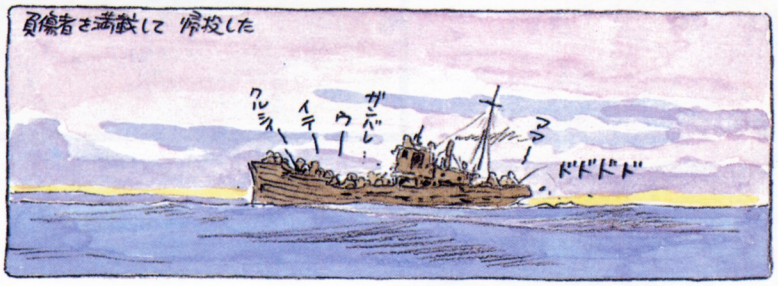












この後すぐ 南海丸も閉鎖され、吉祥丸は生き残った。
1945年8月10日(無条件降服の5日前)漁船達は徴用をとかれ、それぞれの母港に帰り、戦後の漁業の出発点になったのである。
動員された漁船400隻の内生き残ったもの 約100隻!!

と 吉祥丸の元船長さんは 話してくれました。 おわり 1990.1.10

第12話

飛行艇時代

1920年代のアドリア海は、

空賊と呼ばれる飛行艇乗りが徘徊していた。

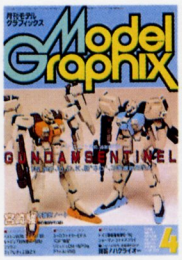
真紅の飛行艇“フォルゴーレ号”を駆る豚、

ポルコ・ロッソは空賊にならず、

きままに空と海を楽しんでいたが、

ある日、強力なライバルが出現！

少女を巡って決闘が始まった!!



初出：月刊モデルグラフィックス1990年3,4,5月号
（連載第14,15,16回、執筆・1990年2,3,4月）

1920年代末、世界的不況の中で くいつめた多くのパイロットが、空賊となって、アドリアーエーゲ海一帯を荒らしまわっていた。

ボボロロロ

ブツブツ

ビビビ

空賊の大手 マンマユート団

ウオオーン

マンマユートだ SOSをうてえ!!

シュワッチ

ブチッ

ワアッ アンテナを切られた!!

雑想ノートNO.14 MIYAZAKI HAYAO

飛行艇時代

マンマユート団は人質に美少女をさらうので知られていた。

わたしはイタリア海軍退役パイロット マルコ・パゴット中尉。 貧乏なバルカンの諸国と契約した空賊狩りの賞金稼ぎである。

今日はパトロールは休みだ。こういう日に限って電話がなるのである。

RRRR

マンマユート!? またガサネタじゃないでしょうね

愛機フォルゴーレ号

今日こそ
あのロリコン
共め

チャプン

こいつの本名は、「サボイアS-21討伐戦闘艇」
一群だけ造られ、倉庫で埃をかぶっていた奴を、
私が下げてそろったものだ。まだローンが残っている。

ク…
重い

スターターなんてのも人力だ

キューン
キューン

ドオオオ

600馬力にチューンアップした イゾッタ・フラスキニ
・アッソ 水冷V型12気筒は咆哮する。

ウオオオーン

イタリアの職人が磨き
あげた木製モノコックの
ラインほど美しいものは
ない。アメリカ的合理
主義など クソクラエだ

オオオーン

とぶこと20分

あれだ!!

クソ
飛び去った
あとか…

金貨と少女を
さらわれたぁ

ブーン

とりもど
してくれェ!!

無線電話がない
時代でもマンガは
便利なのだ

あっちに
逃げたヨー

おかしい?? 瞬間的に
わたしの黄金の脳細胞に
ひらめくものがあった。

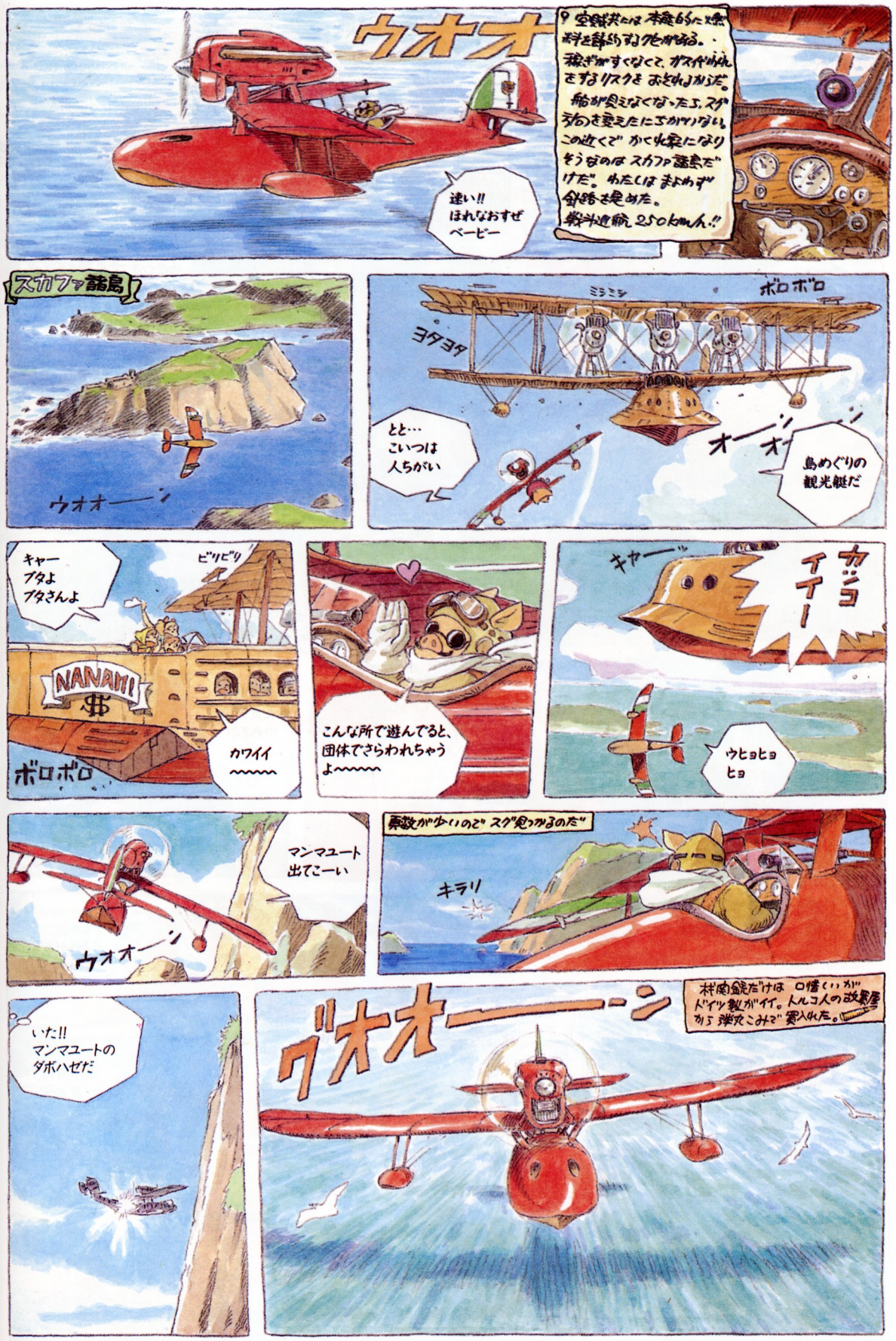
やつらが
本土へ向う
はずがない

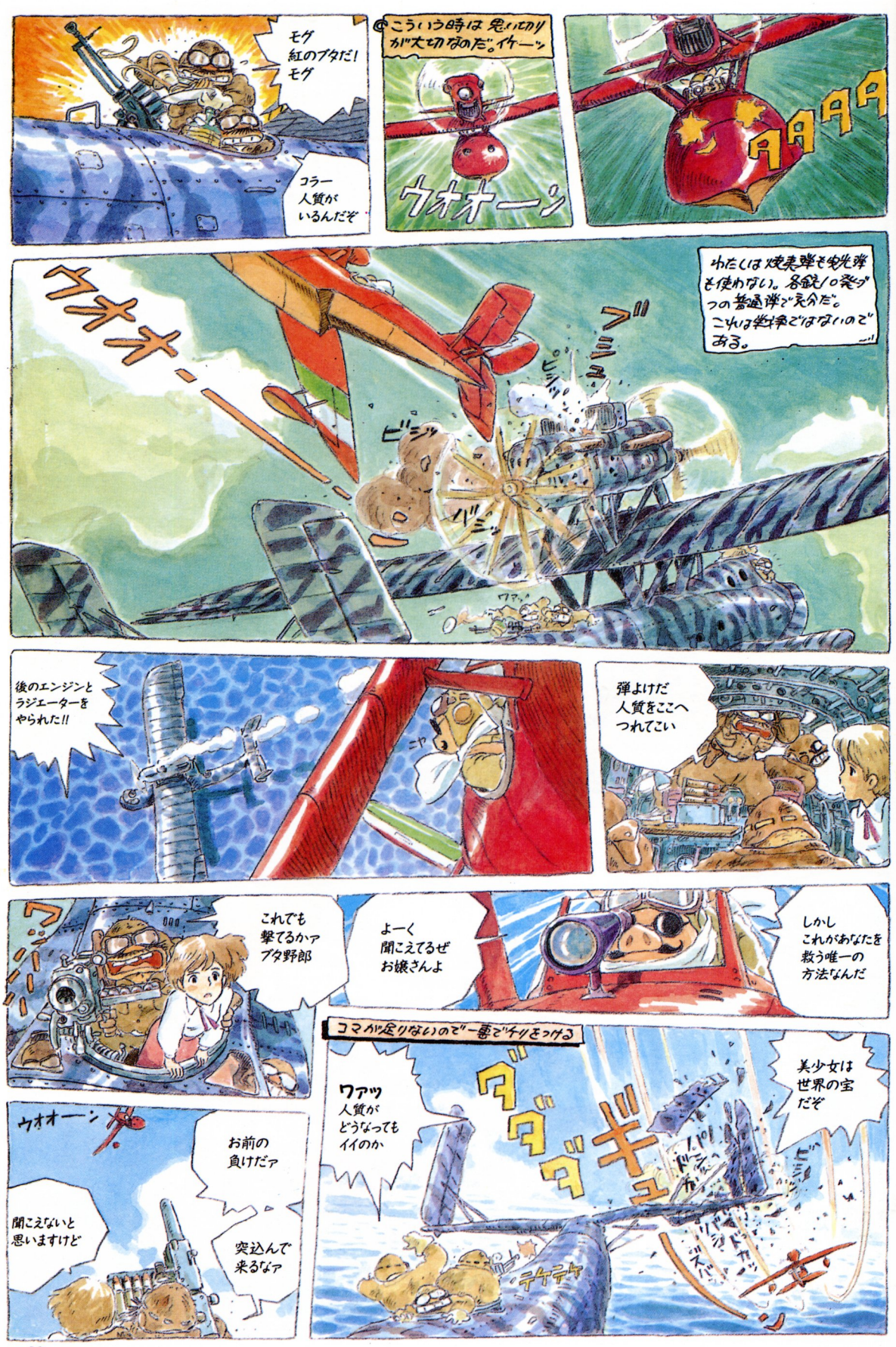
ウオオー

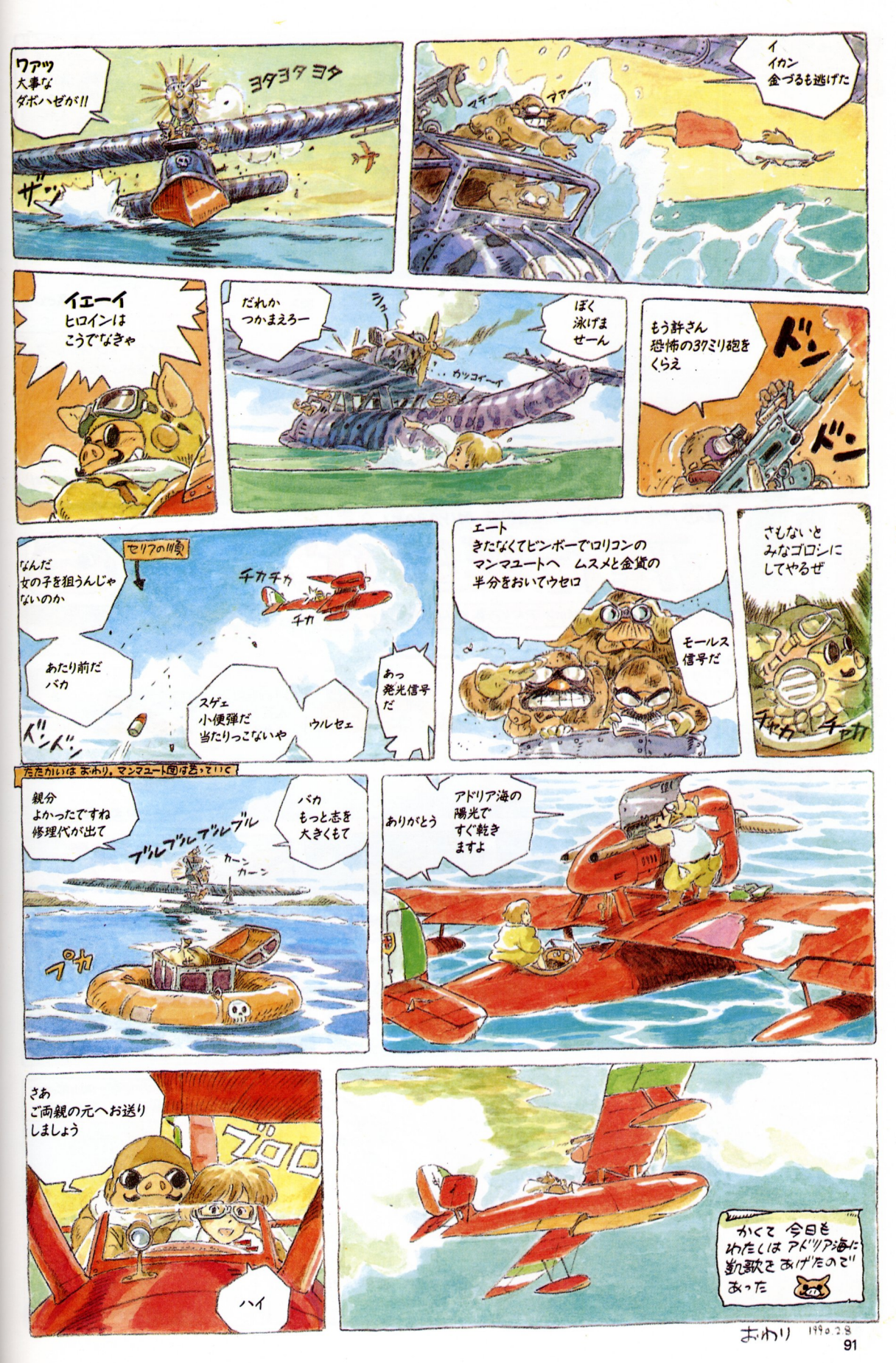
ちがうよ
そっちじゃ
ないよォー

ブィ
ーン

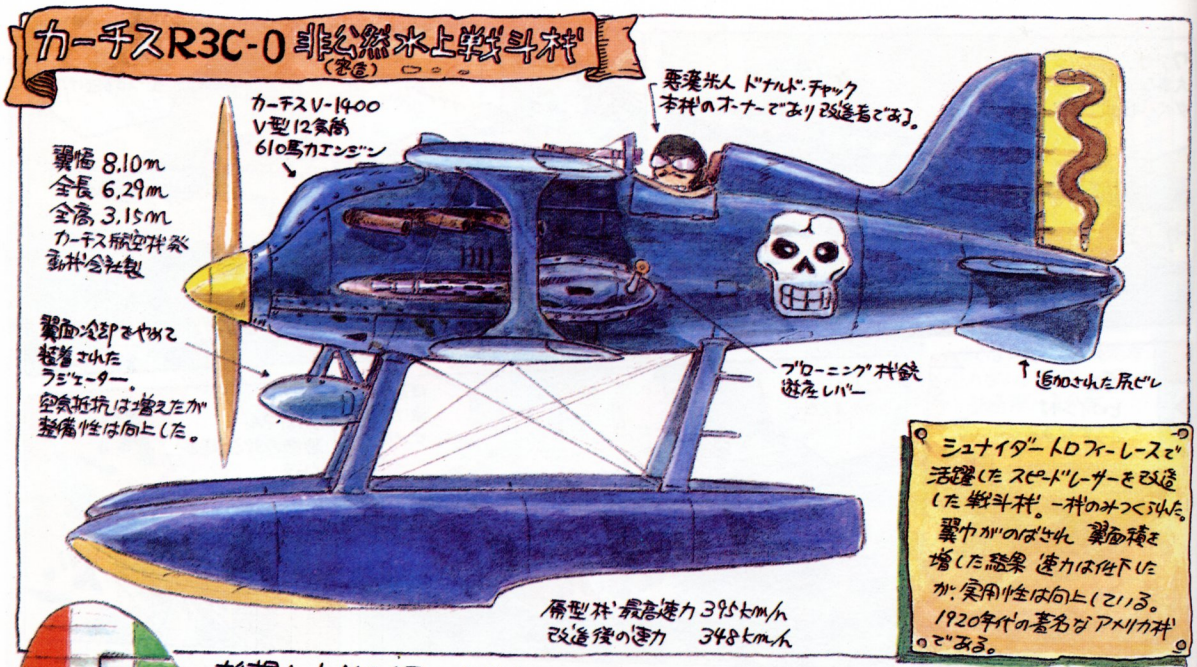
バカァ


ウオオ
速い!! ほれなおすぜ ベービー
空賊共は本隊から燃料を盗むクセがある。稼ぎがすくなくて、ガス代がかかるリスクをおそれるからだ。船が見えなくなったら、スグ方向を変えたにちがいない。この近くでかくれ家になりそうなのはスカファ諸島だけだ。わたしはまよわず針路を定めた。巡航速度250kmh!!
スカファ諸島
ウオオ——ン
ミラミシ
ボロボロ
ヨタヨタ
とと… こいつは 人ちがい
オーン オーン
島めぐりの 観光艇だ
キャー ブタよ ブタさんよ
ビリビリ
NANAMI
ボロボロ
カワイイ
こんな所で遊んでると、団体でさらわれちゃうよ
キャー
カンコ イイー
ウヒョヒョ ヒョ
マンマユート 出てこーい
ウオオーン
賞金が少いのでスグ見つかるのだ
キラリ
いた!! マンマユートの ダボハゼだ
グオオーン
林間銃だけは 口惜しいが ドイツ製がイイ。トンコ人の武器屋から弾丸こみで買入れた。


モグ
紅のブタだ！
モグ
コラー
人質が
いるんだぞ
こういう時は 思いきり
が大切なのだ。イケーッ
ウオオーン
わたしは焼夷弾も閃光弾
も使わない。各銃1〇発ず
つの普通弾で充分だ。
これは戦争ではないのと
ある。
ウオオーン
ブシュ
ビシッ
ビジッ
バシッ
後のエンジンと
ラジエーターを
やられた!!
弾よけだ
人質をここへ
つれてこい
これでも
撃てるかァ
ブタ野郎
よーく
聞こえてるぜ
お嬢さんよ
しかし
これがあなたを
救う唯一の
方法なんだ
コマが足りないので一番でケリをつける
ワァッ
人質が
どうなっても
イイのか
美少女は
世界の宝
だぞ
ダダダダ
ギュ
ドーン
ビシ
ドカッ
ズバ
ウオオーン
お前の
負けだァ
聞こえないと
思いますけど
突込んで
来るなァ


ワアッ
大事な
ダボハゼが!!
ヨタヨタ ヨタ
ザッ
イ
イカン
金づるも逃げた
イヤー
ワアー
イエーイ
ヒロインは
こうでなきゃ
だれか
つかまえろー
ブッ
ぼく
泳げま
せーん
ウッコイーイ
もう許さん
恐怖の37ミリ砲を
くらえ
ドン
ドン
セリフの順
なんだ
女の子を狙うんじゃ
ないのか
チカチカ
チカ
あたり前だ
バカ
スゲェ
小便弾だ
当たりっこないや
ウルセェ
あっ
発光信号
だ
ダンダン
エート
きたなくてビンボーでコリコンの
マンマユートへ　ムスメと金貨の
半分をおいてウセロ
モールス
信号だ
さもないと
みなゴロシに
してやるぜ
チャカ
チャカ
たたかいは おわり。マンマユート団は去っていく
親分
よかったですね
修理代が出て
ブルブルブルブル
カーン
カーン
バカ
もっと志を
大きくもて
プカ
ありがとう
アドリア海の
陽光で
すぐ乾き
ますよ
さあ
ご両親の元へお送り
しましょう
ブロロ
ハイ
かくて 今日も
わたしは アドリア海に
凱歌を あげたのでぁった

おわり 1990.2.8



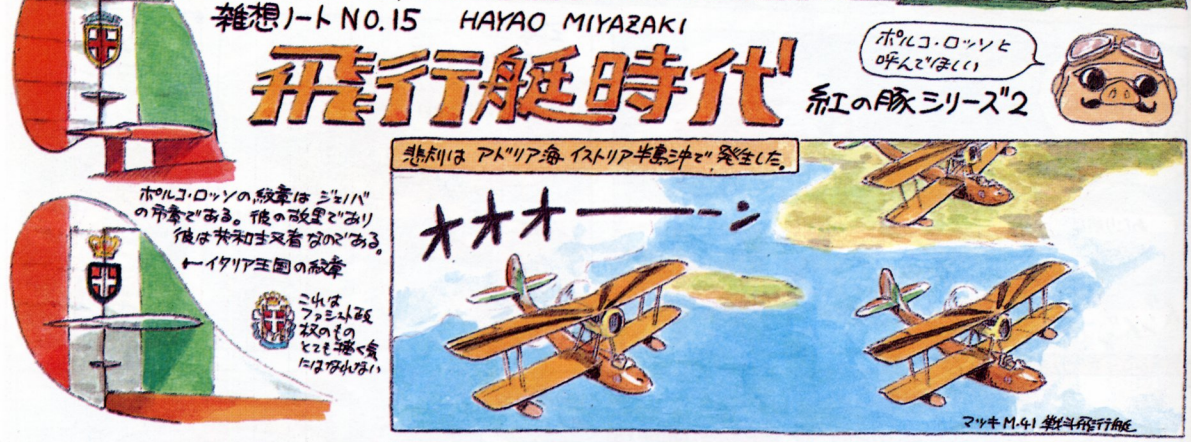
シュナイダートロフィーレースで活躍したスピードレーサーを改造した戦斗機。一機のみつくられた。翼巾がのばされ翼面積を増した結果速力は低下したが、実用性は向上している。1920年代の著名なアメリカ機である。

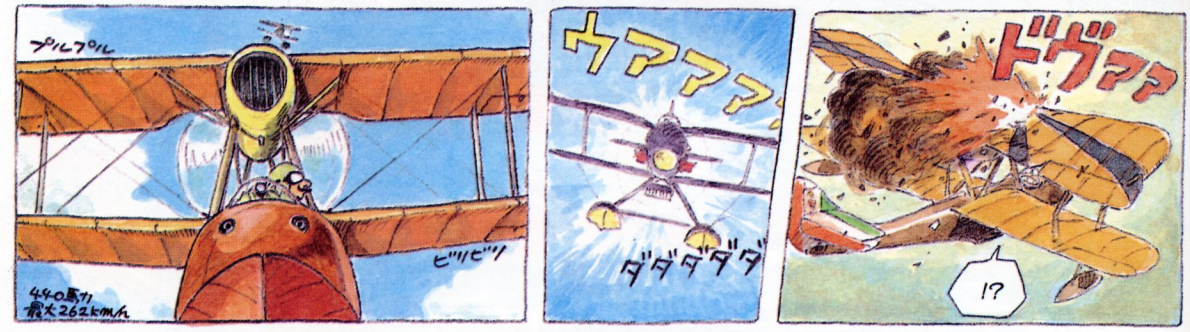
雑想ノートNO.15 HAYAO MIYAZAKI

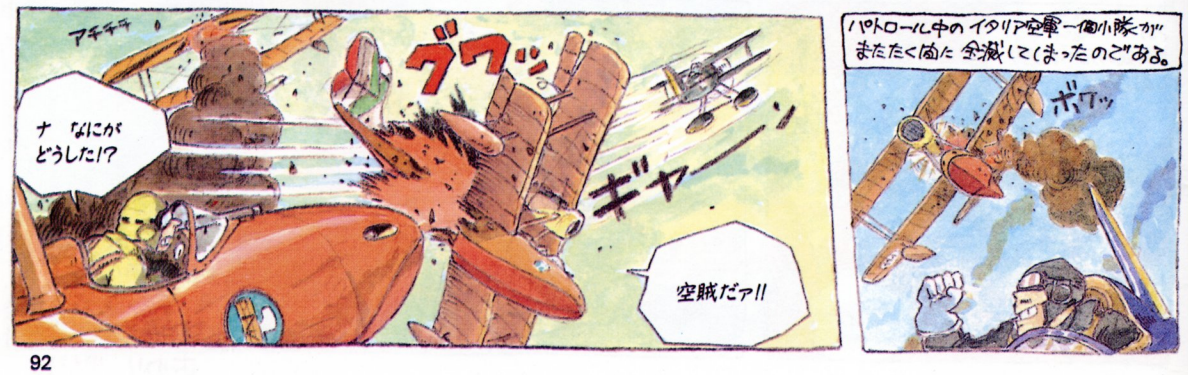
飛行艇時代

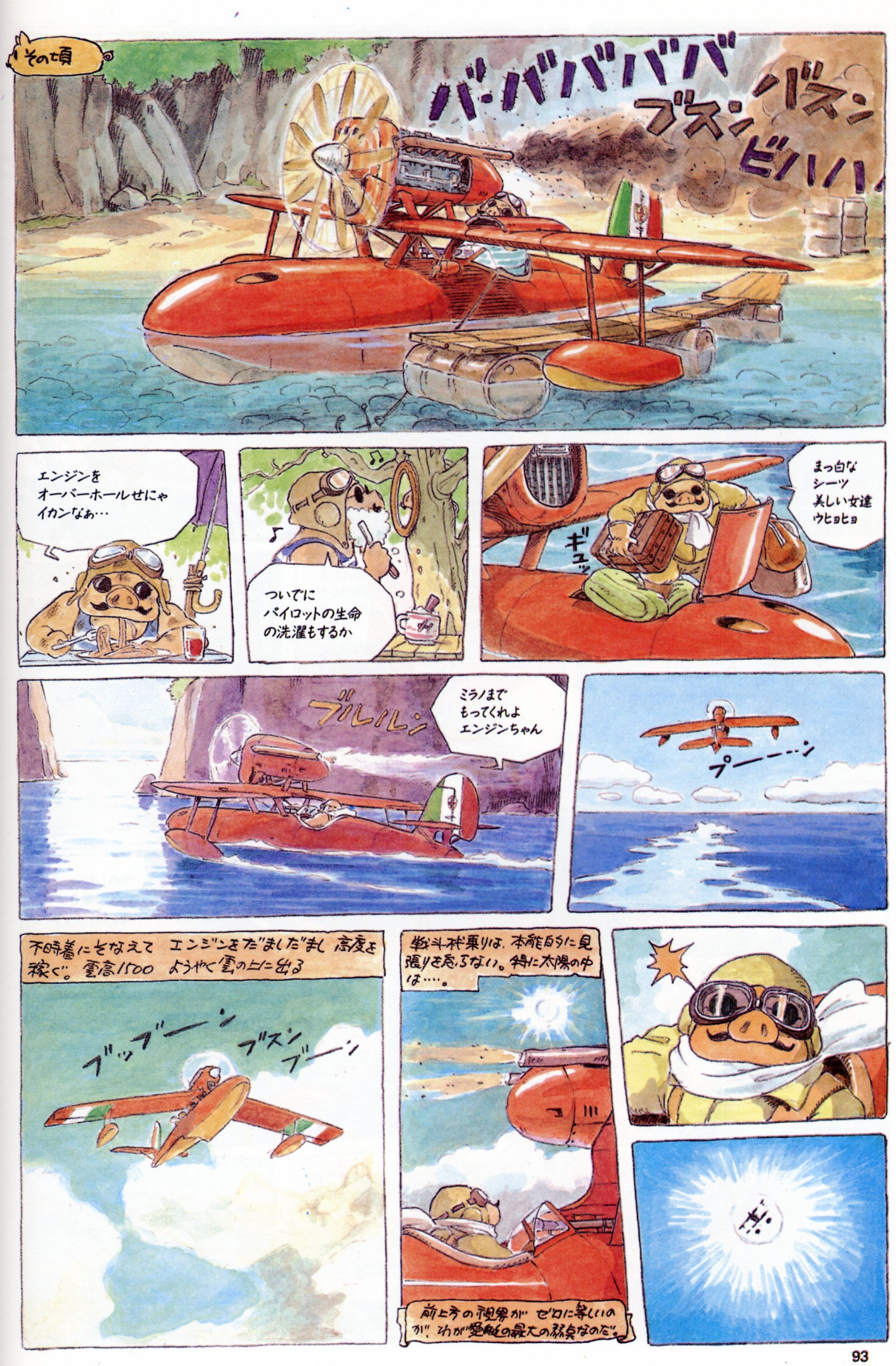
紅の豚シリーズ2

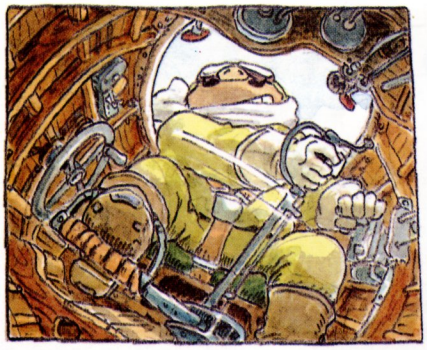
ポルコ・ロッソと呼んでほしい

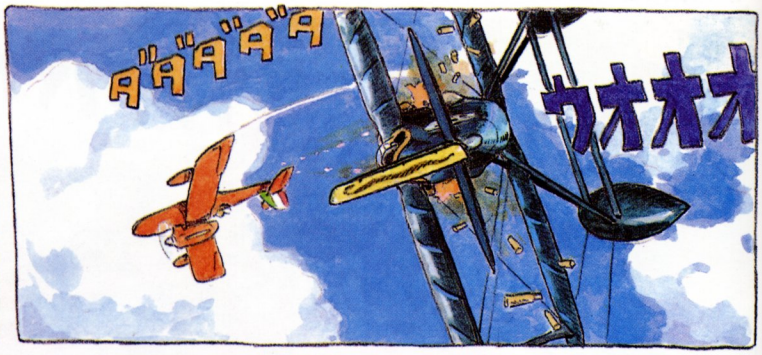


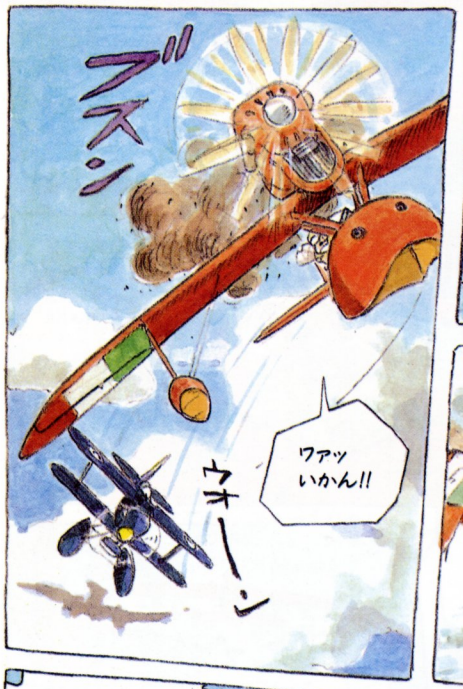


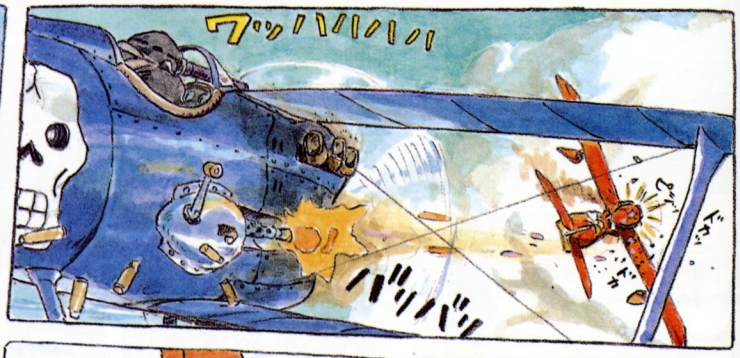


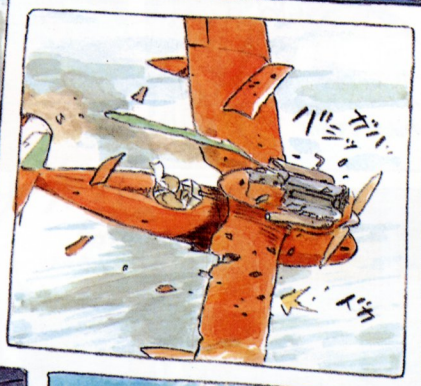

その頃
バーバババババ
ブスン バスン
ビハハ
エンジンを
オーバーホールせにゃ
イカンなぁ…
ついでに
パイロットの生命
の洗濯もするか
まっ白な
シーツ
美しい女達
ウヒョヒョ
ギュッ
ブルルン
ミラノまで
もってくれよ
エンジンちゃん
プーーーン
不時着にそなえて エンジンをだましだまし 高度を
稼ぐ。雲高1500 ようやく雲の上に出る
ブッブーン
ブスン
ブーン
戦斗機乗りは、本能的に見
張りを怠らない。特に太陽の中
は…。
前上方の視界が ゼロに等しいの
が、わが愛機の最大の弱点なのだ。




ダダダダダ
ウオオオ


ブスン
ワァッ
いかん!!
ウオーン


ワッハハハハ
バリバリ

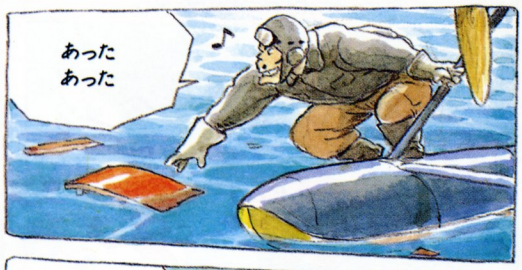

バシッ
ガシッ
バキ

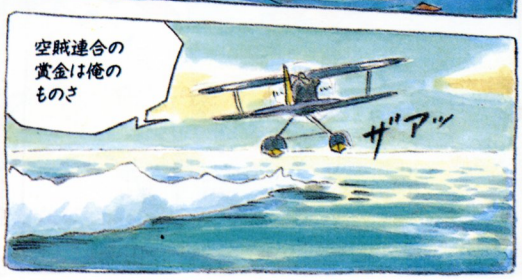
フッ

やったァ
紅の豚を
しとめたぞォ

ブーン
うれしいっ
これで俺も
有名悪漢ダァ

エート
証拠を見つけ
なきゃな
ブーン


あった
あった


空賊連合の
賞金は俺の
ものさ
ザアッ

敗北に言訳は不要だ

風がしみるぜ

ハタハタ

ドドドド

アドリア海

ゴトン ゴトン

ロンバルディア平原

ミラノ北方 マジョーレ湖々畔
通称 飛行艇横丁

MOTORO

SAVOIA

今日あたり来ると思って待っとったよ

62-31

3-17R

またやっかいになるぜ

きれいな船ねおじいちゃん

近頃こんな船を造れる職人はおらんよ

だれだいあのカワイコちゃんは?

アメリカに行っとったわしの孫じゃ手を出すなよ

相手はカーチスだあと30km/h欲しいんだが

330キロかちと高くつくぞ

オイ!! ロールスのケストレルじゃねぇか

ヒヒヒ出所はきくなチューンすりゃ700は出るぜ

ロールスロイス ケストレル 525HP

有金全部もってくなよ

へへ…ちっと足りねェが昔のよしみだ出せ払いにしてやるよ

新聞は空賊の新しいエースの記事で埋められていた。

……

ポルコロッソはいずこ？

白いシーツ
美しい女達…

おはよう
眠れた？

あんた
徹夜したのか!?

どうかしら？

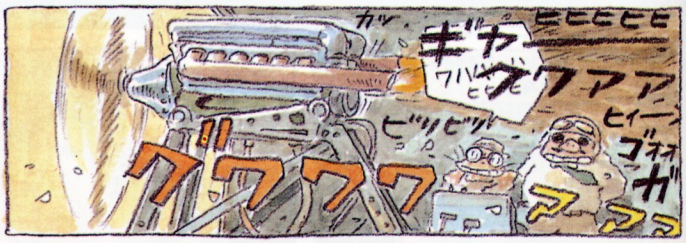
新しい
翼断面にしたの
15%は抵抗が
減るはずよ

この娘
できる!!

金属モノコック
ならイイんだけど

冗談じゃねぇ
金属のヒコーキに
乗る位なら
死んだ方がましだ

そんな事いってるから
イタリアの男は
戦争に弱いのよ



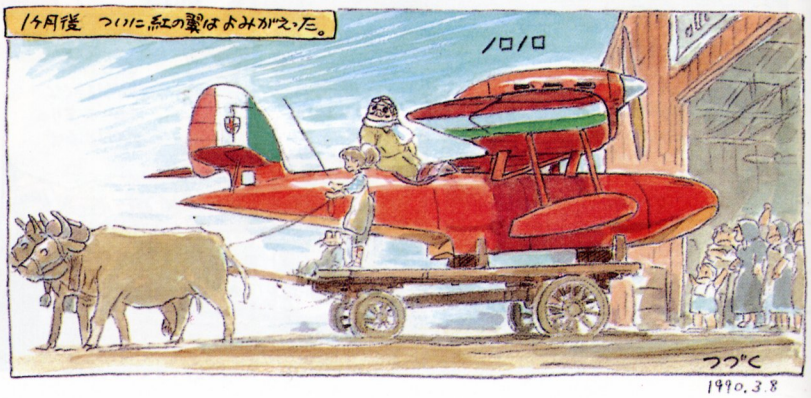
イタリア人が怠け者だというのはとんでもないデマだ。一族だけの家内工場だと盛んに働くのだ。

それにまた一族の数がやたらに多いのだ

あの時のフィオ（娘の名だ）の働きを思い出すと、今でも胸があつくなる。しかし、それを語るにはあまりに英数が足りない。

私は誓ったのだ。勝とう、必ず米人ドナルド・チャックのカーチスに勝とう…と。フィオの為にも、イタリアの男の為にも

1ヶ月後　ついに紅の翼はよみがえった。



つづく

1990.3.8

1929年の7月は空賊の夏と呼ばれた。イタリアとバルカン諸国の政情不安の間隙をつき ドナルド・チャックみやっる新鋭カーチスの掩護を得た空賊群は アドリア海から ティレニア海にまで進出 稼ぎまくったのである。 ポルコ・ロッソ

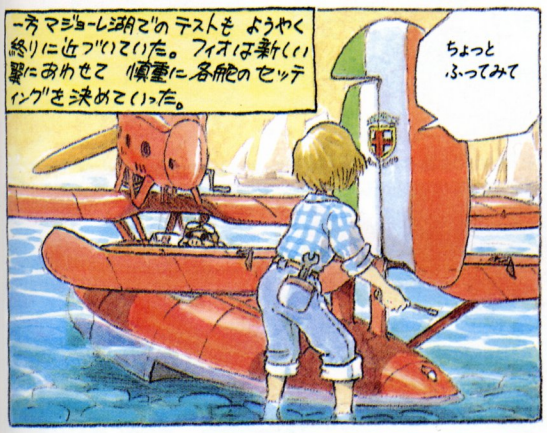
雑想ノートNO.16

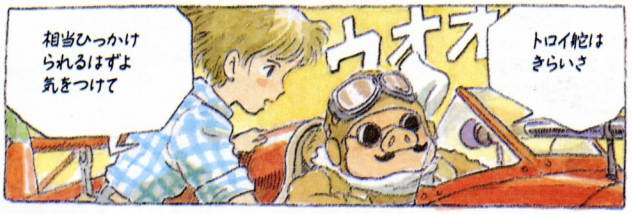
飛行艇時代

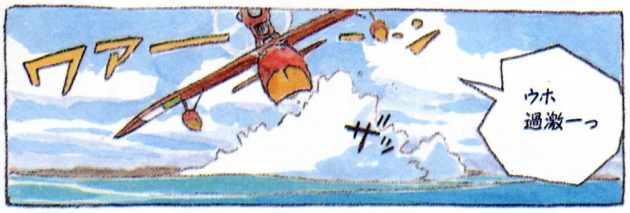
by MIYAZAKI HAYAO

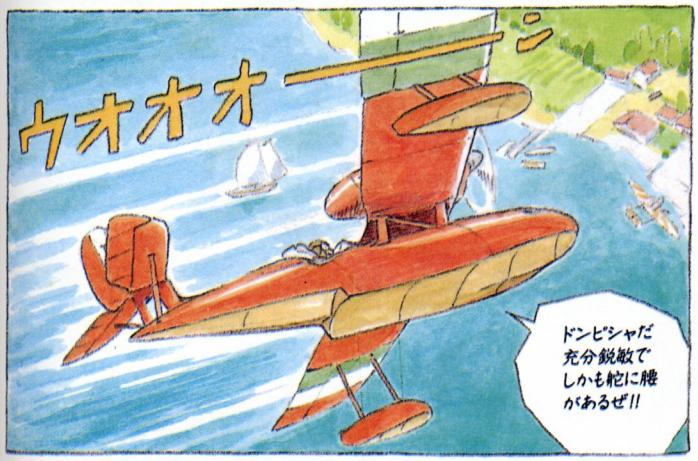
ポルコ・ロッソ
紅の豚シリーズ
最終回です
ホント???

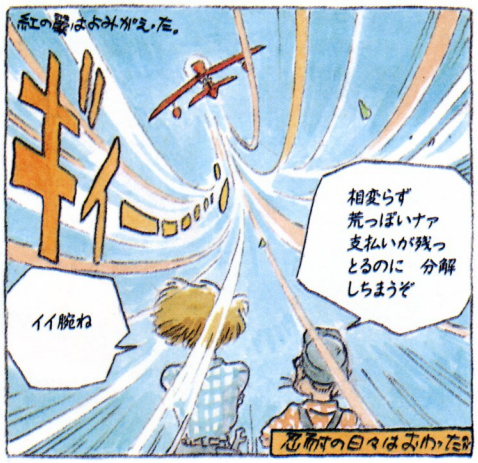
一方 マジョーレ湖でのテストも ようやく終りに近づいていた。フィオは新くい翼にあわせて 慎重に各舵のセッティングを決めていった。

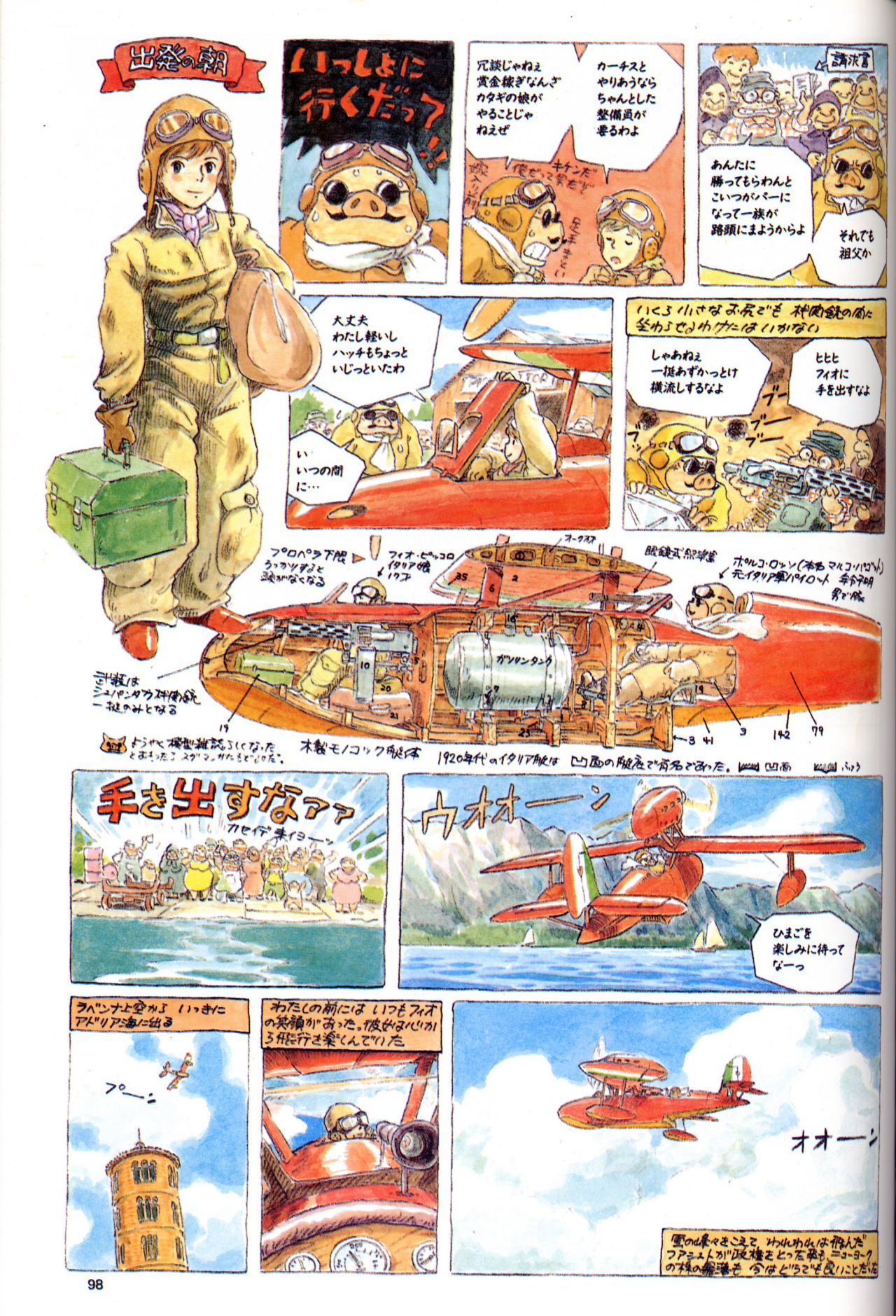











出発の朝
いっしょに行くだって!
冗談じゃねえ 賞金稼ぎなんざ カタギの娘が やることじゃねえぜ
カーチスとやりあうならちゃんとした整備員が要るわよ
請求書
あんたに勝ってもらわんとこいつがバーになって一族が路頭にまようからよ
それでも祖父か
大丈夫 わたし軽いし ハッチもちょっといじっといたわ
い いつの間に…
いくら小さなお客でも 機関銃の間を全わたるわけにはいかない
しゃあねえ 一挺あずかっとけ 横流しするなよ
ヒヒヒ フィオに手を出すなよ
ブー ブー ブー
プロペラ下限 ちょっツすると 効かなくなる
フィオ・ピッコロ イタリア娘 ハタチ
オークラス
脱着式船塗装
ポルコ・ロッソ(本名 マルコ・パゴット) 元イタリア軍パイロット 年齢不明 男ぶり
ガソリンタンク
ジュラルミンは ジュパンタラ 機関銃 一挺のみとなる
ようやく模型雑誌ふくなた とまったこ スグマンガたもどりの。
木製モノコック船体
1920年代のイタリア船は 凹面の船底で有名であった。
凹面
ふつう
手を出すなアァ
カセイ来イヨーン
ウオオーン
ひまごを楽しみに待ってなーっ
ラベンナ上空から いっきに アドリア海に出る
プーン
わたしの前には いつもフィオの笑顔があった。彼女はいつか飛行を楽しんでいた
オオーン
雲の中を抜けてきこえて、われわれは飛んだ ファシストが政権をとった事も、ニューヨークの株の暴落も 今はどうでも良いことだった

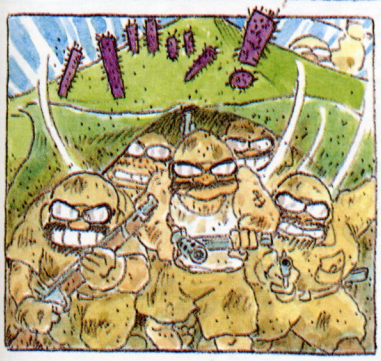
給油によったコルナ人島でいやなニュースをきいた

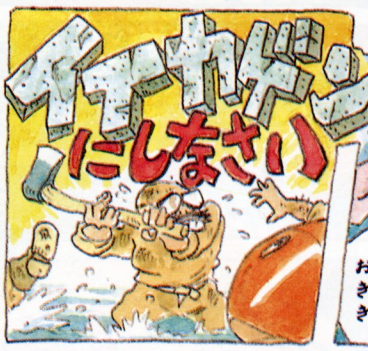
ユーゴの国王がよ 空賊と密約したらしいぜ 歩合をとって黙認するって噂だ

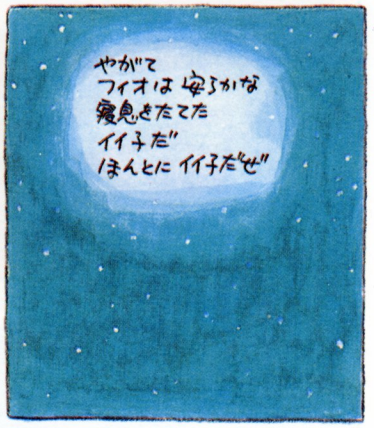
空賊狩りをやっても賞金は出ねえぜ

イタリアのムッソリーニと同様ユーゴでもアレクサンドルというロクでもない男がクーデターで独裁者になったばかりであった。
この数年後にはヒットラーが台頭して来る。
イヤな時代だなあ

ステキなかくれ家ね







当日 スカファ諸島は 大変なにぎわいになった。地中海中から 空賊、海賊、ギャング、密輸団があつまってやったのである。近所の村の連中も家族づれでやって来るぜるま

ワーン

ワーン

ワーン

ワワー

今でも この日のにぎわいは アドリア海沿岸で語りつがれているのである。

フィオの人気はたいしたものだった。みんながいっせいに宝石をとりたがり 空賊共ず 歯をみがいて来たのだ。

オスナ

イタリアの職人とフィオのために

完璧な信頼

全世界の男達のために

アリゾナのママまっててくれよ イタリア娘の嫁っ子を連れて帰るからよ

ドババババ

クワーン

バリバリ

ウオオオオ

はじめから猛烈なドッグファイトになった。

ウメメ…ン

す スゲェ!!

アニメーションなら この壮絶な死斗をあるいは表現できるかもしれない。
でも これは模型飛行機である。諸君の想像力に期待するしかないのである。

速力はカーチスがやや まさり

ボワ ジジ ジジ ジジ

上昇力は同等

旋回性能は愛機が まさっていた。

オ 俺 感動しちゃった

二人とも イイ腕してらぁ

こんな 空戦は二度と おがめねえぞ

ジ〜ン

ワァー

エー アイスクリーム つめたい ワイン

ついに 燃料と弾丸ぎれ

引きわけなんか なしだぞ

オウ ゲンコツで 決めてやるぜ

第1ラウンド

この! この!

ドカッ スカッ

ボス ボス

ボカ ボカ

ボス ボス

イモ カーチスめ

ザバー

第3ラウンド終了

ゼイゼイ

次の回で ノックアウト してやるぜ

第13ラウンド終了

ゼイゼイ

フィオ いまのパンチ 見たか

第23ラウンド

ボカッ

わたしは11回 ダウンし、やつは 7回しかダウン しなかった。
しかし 7回目の あとやつはついに立てなかった

ワッハハハ

イタリアを訪ねるな 3 ミラノのピッコロ社 によってほしい
その玄関に カーチス の方向舵が 3つも かざってあるから…。

おわり 1990.4.9

第13話

豚の虎

第2次世界大戦の陸の王者、

ドイツのティーガー戦車には、

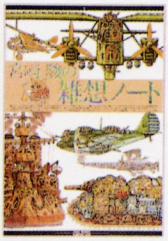
天才科学者ポルシェ博士が作った

弟分が存在した。

だが、その厄介な構造ゆえにトラブル続出！

整備兵ハンスは、脆弱な鋼鉄の虎の

故障と戦い続けるハメに…。



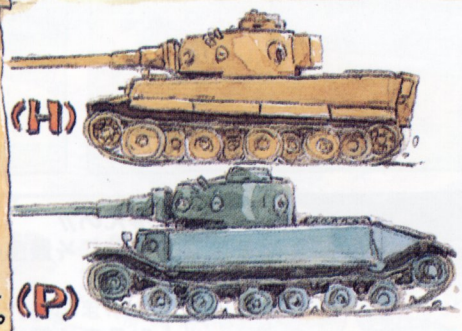
初出：『宮崎駿の雑想ノート』初版本1992年12月発行
（描き下ろし作品、執筆・1992年10～11月）

豚の虎

雑想ノート

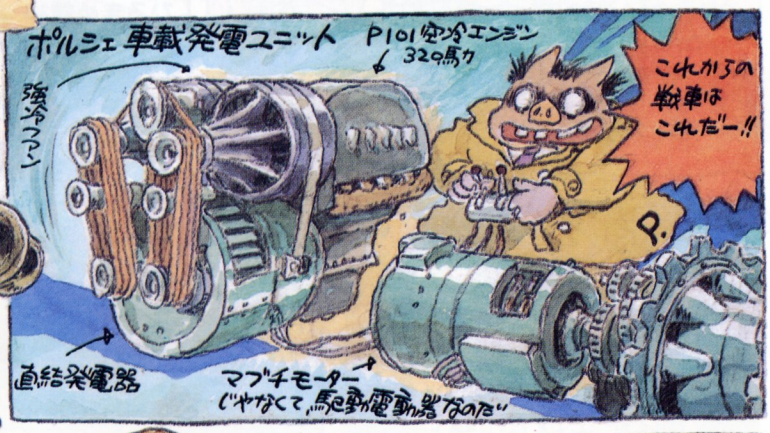
生玉子にのった鋼鉄の塊ーそれがドイツ重戦車群だった。この怪物達は動くだけで壊れるようにできていた。強力な火力と装甲の大重量が、デリケートな機関と足まわりにすべてしわよせされ、すぐ過熱し焦げ、ちぎれ、はずれ、すりきれ、埋まりこんだのである。ドイツ重戦車の戦史は重労働と忍耐の物語そのものであった。

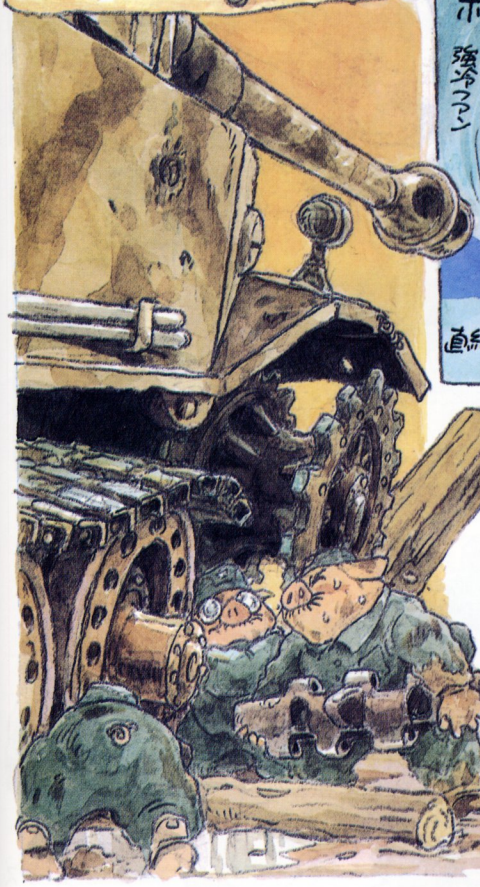
兵長ハンス



ドイツには、2種類の虎がいた。ひとつはヘンシェル社の有名な虎で、VK4501(H)。こいつは1300輌つくられ、ドイツ重戦車のシンボルとなった。

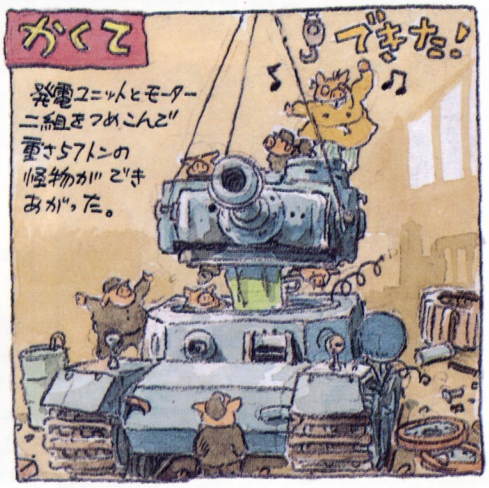
もうひとつは、超独創的デザイナー、ポルシェ博士の虎、VK4501(P)。例によって、天才博士の道楽の産物だった。

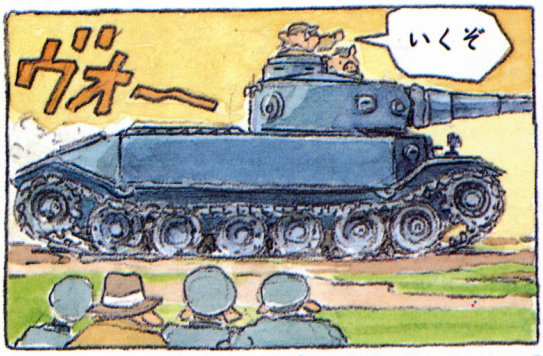


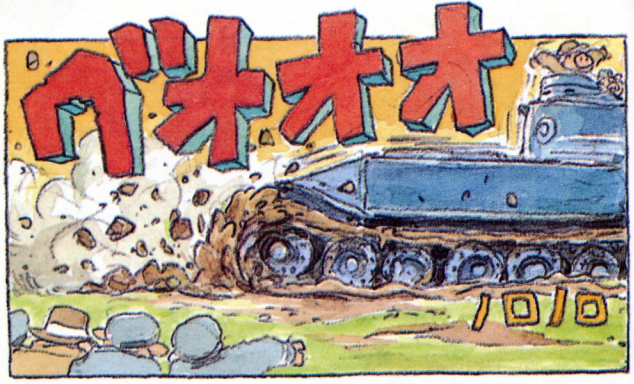


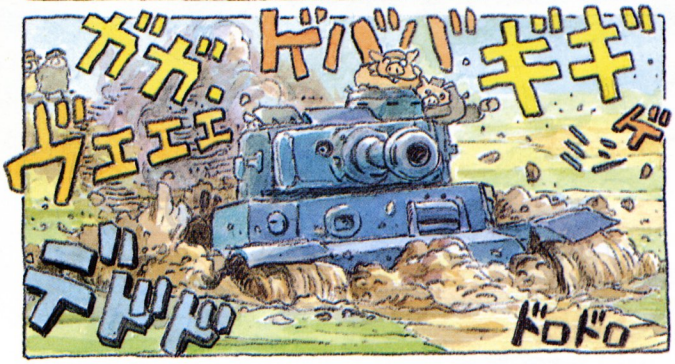
彼は虎を電動にしたのだ。モーターにすれば、複雑で重いトランスミッションが要らないし、スイッチひとつで前進も後進も自由自在。まさに、重戦車の鉄人28号化である。

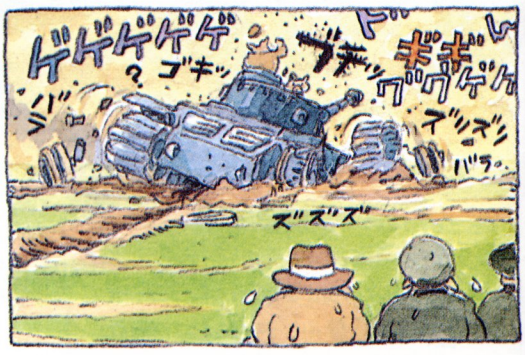
彼は天才だったのだ。










ゲゲゲゲゲ
ゴキッ
ドギ
ギボボ
ボグボボ
ボボ
ボボ

ポルシェの虎は、応急修理の訓練には充分役立った。

ハンス まだか!? 日がくれるぞ

イライライラ

アアデモナイ

コーデモナイ

グズ

重戦車の整備はセッカチな奴にはむかない

グズ

どのパーツをとっても、死ぬほど重いのだ。象ガメのごときテンポの持主でなければならない

モッ

あっ そうか… ここだ

なおりましたよ アレッ!? みんなねてらぁ…

ハンスの努力でP虎はすこ〜しづつ動くようになっていった。おどろくべし、ドイツ整備兵の力!!!!

コラッ ブレーキふむな こわれものだぞ 気をつけろ

ゴゴゴゴゴ

ハハハ

ノロノロ

ズリズリ

走るな ソ〜〜ッと動け

AQV以来の生残りはオレだけだ

重戦車教育学校教官 ドランシ予備大尉 体験で現役復帰したオヤジ

ポルシェ ティーガー P虎 57トン

使いにくいナァ〜

後輪駆動のP虎は、他のドイツ戦車にくらべ、砲塔が前へせり出している。変速器がないためだが、その為に車体上部にハッチがなく、側面に円形ハッチをつけていた。くかく……

砲塔はヘンシェルの虎にも使われたが、P虎のそのは、天井に妙なでっぱりがあり、全体がペッタンコである。

P101エンジン この空冷V型10気筒の不調が致命的だったハンスは左側ロを下げ、馬力を低下させてなんとか安定性を向上させた。

100ミリ

装甲100ミリ

25ミリ

88ミリ L56砲

排気

力不足の駆動モーター

熔接しちゃうんですか?

80ミリ

20ミリ

80ミリ装甲

80ミリ

60ミリ

80ミリ

かまわん 耐弾能力が先だ

で、前席の二人は砲塔から出入りするしかなくなった。P虎が戦闘時以外は砲塔をいつも後へ寝かせているのはその為である。

路上最高速 25キロ/h!! (但、これだけ出すとこわれ)

このサスはヘンシェル虎のものより半分の手間でつくれた

後輪駆動輪はキャタピラのまきとりやすい石コロをかみやすい。それで爪を一件おきに直した。象も同じである。

できるだけ大きい歯車

連日連夜ゴネゴネ

ガミガミ

P虎は使える 使えるようにした AQVよりはよっぽどましだ

俺達もクルスクへいかせろっ!! クルスクだ

いくぞ とめるな

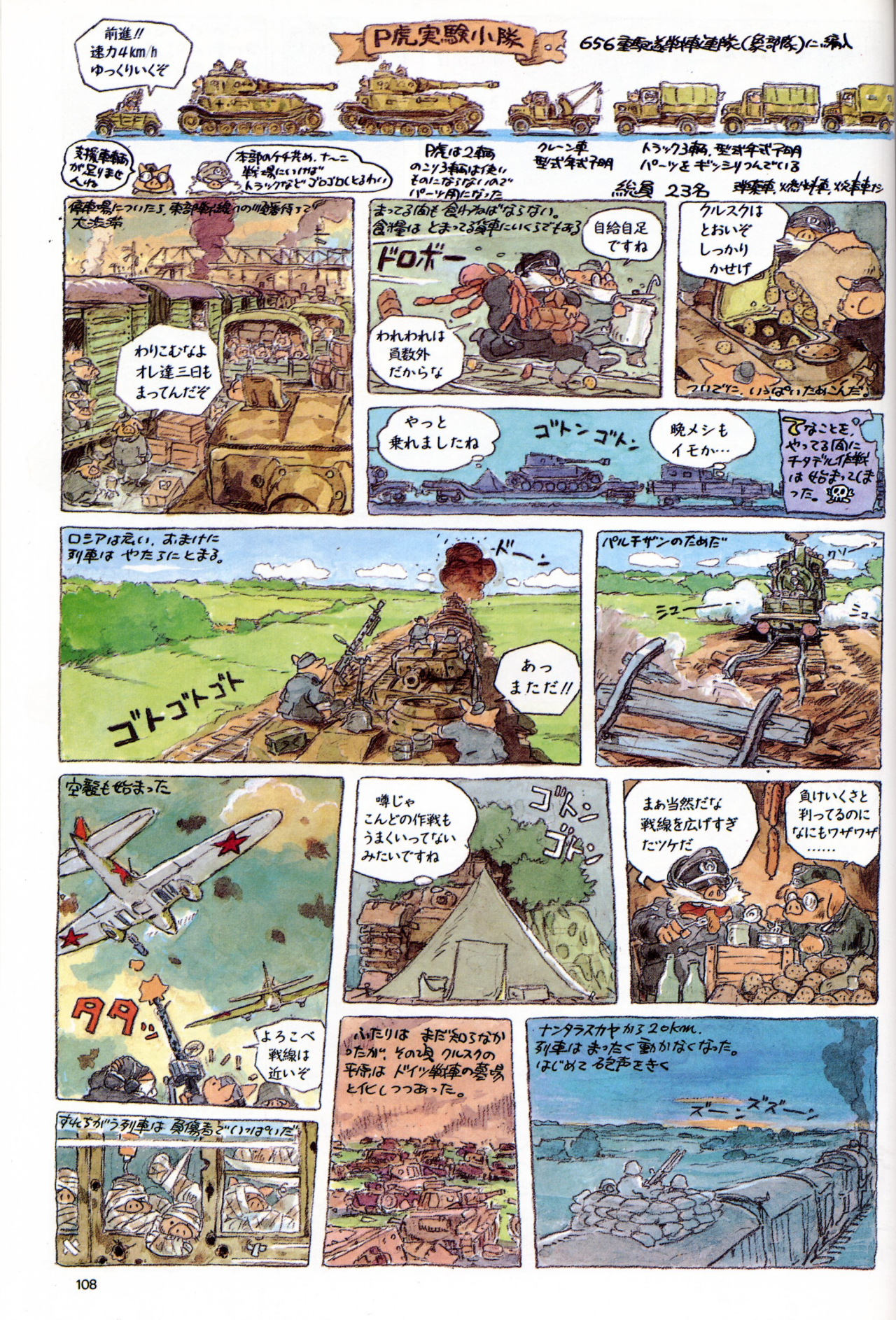
闘魂

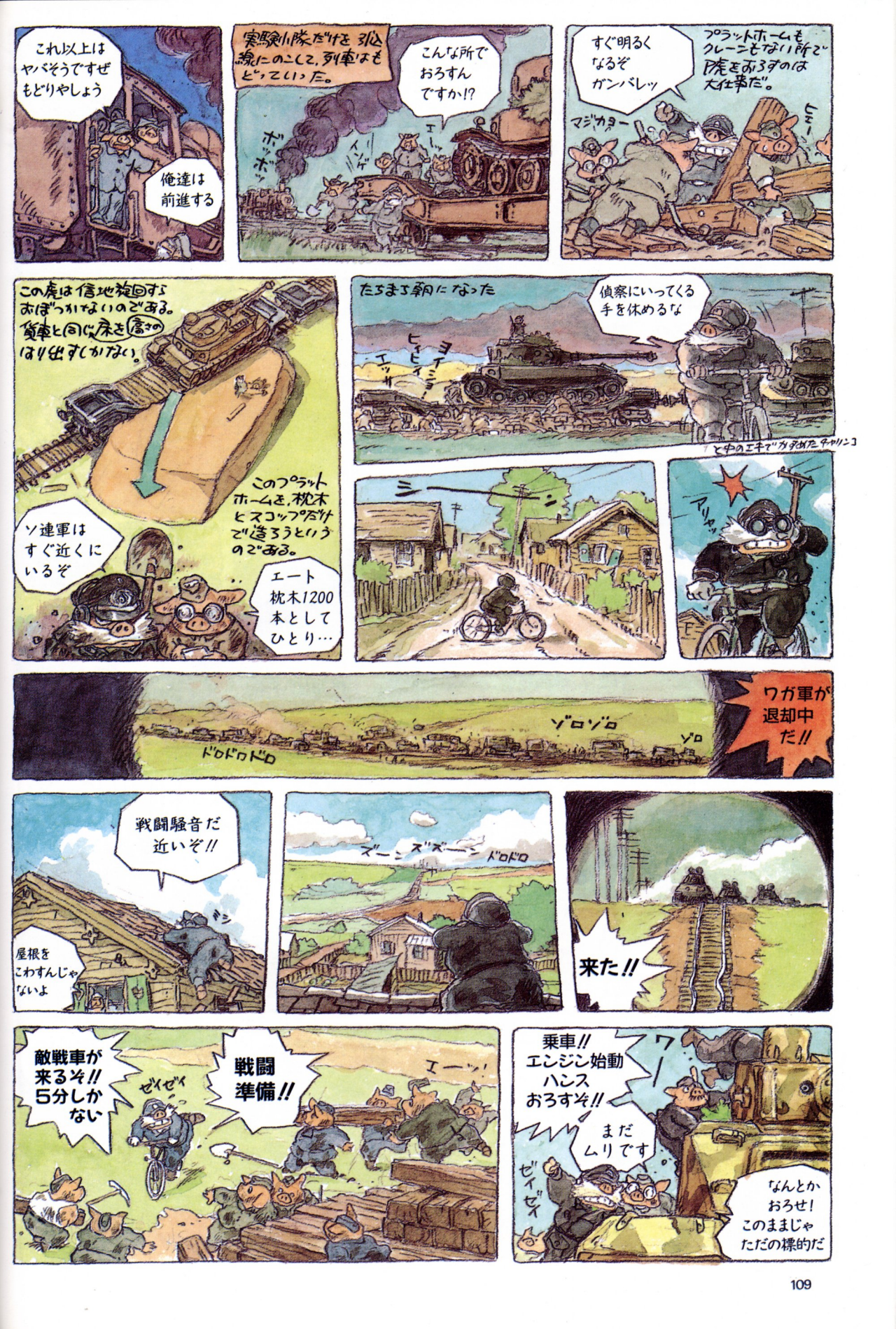
やったぁ!

きまりだ!!

ハンス 出動準備 ロシアの平原が俺達を呼んでいる

あんまりドランシがうるさいので、P虎の出動が許可されたのだ


P虎実験小隊
656重爆撃装甲車連隊(奥部隊)に編入
前進!! 速力4km/h ゆっくりいくぞ
支援車輌が足りませんね
本部の仔千共め、ナニ 戦場にいけば トラックなど ゴロゴロとるわい
P虎は2輌 のこり3輌は使い そのままならないので パーツ用になった
クレーン車 型式年式不明
トラック3輌、型式年式不明 パーツをギッシリつんでいる
総員 23名 装甲車、燃料車、修理車だ
停車場についたら、東部戦線の惨状待ってた 大渋滞
わりこむなよ オレ達三日もまってんだぞ
まってる間も食わねばならない。食糧はとまってる列車にいくらでもある
ドロボー
自給自足ですね
われわれは員数外だからな
クルスクはとおいぞ しっかりかせげ
ついでに、いっぱいためこんだ。
やっと乗れましたね
ゴトンゴトン
晩メシもイモか…
てなことを、やってる間にチタデル作戦は始まってしまった。
ロシアは広い、おまけに列車はやたらにとまる。
ドーン
あっまただ!!
ゴトゴトゴト
パルチザンのためだ
ワッ
シュー
シュー
空襲も始まった
ダダッ
よろこべ 戦線は近いぞ
噂じゃ こんどの作戦もうまくいってないみたいですね
ゴトン ゴトン
まぁ当然だな 戦線を広げすぎたツケだ
負けいくさと判ってるのになにもワザワザ……
すんでのがう列車は負傷者でいっぱいだ
ふたりは まだ知らなかったが、その頃 クルスクの平原は ドイツ軍団の墓場と化しつつあった。
ナンタラスカヤから20km。列車はまったく動かなくなった。はじめて砲声をきく
ズーン ズズーン


これ以上はヤバそうですぜもどりやしょう
俺達は前進する
実験小隊だけを弧線にのこして、列車はもどっていった。
こんな所でおろすんですか!?
ボッボッ
インゲ
エーッ
すぐ明るくなるぞガンバレッ
プラットホームもクレーンもない所で戦車をおろすのは大仕事だ。
マジカヨー
ヒェー
この戦は信地旋回するおぼつかないのである。貨車と同じ床を高さのはり出すしかない。
このプラットホームを、枕木とスコップだけで造ろうというのである。
ソ連軍はすぐ近くにいるぞ
エート枕木1200本としてひとり…
たちまち朝になった
偵察にいってくる手を休めるな
ヒィヒィ
ヨイショー
エッサ
と中のエキでガタガタ
チャリンコ
ミーン
アリャッ
ワガ軍が退却中だ!!
ゾロゾロ
ゾロ
ドロドロドロ
戦闘騒音だ近いぞ!!
ミシ
屋根をこわすんじゃないよ
ズーンズズーン
ドロドロ
来た!!
敵戦車が来るぞ!! 5分しかない
ゼイゼイ
戦闘準備!!
エーッ!
乗車!! エンジン始動 ハンス おろすぞ!!
ワー
まだムリです
ゼイゼイ
なんとかおろせ! このままじゃただの標的だ

いそげ
ハンスまだか!?
あわてるな
はやくっ

ヴオロロロロロ

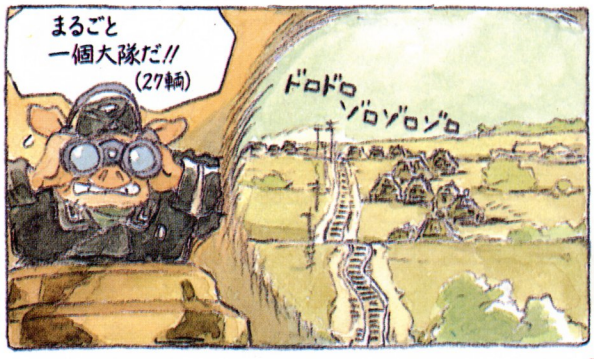
6時方向に
敵戦車
2000m!!

ボッ

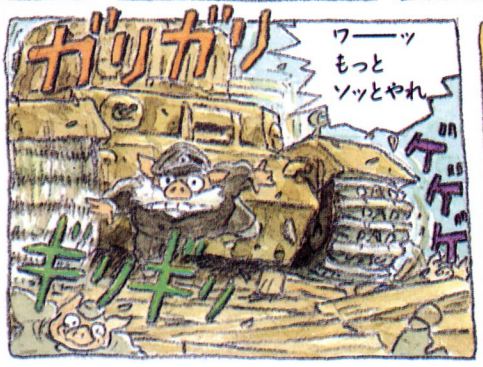
ドウン

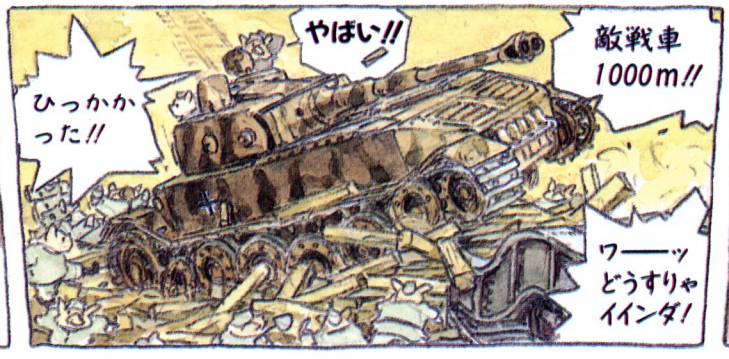
そっちの
もう一本
ここへ!!

ヒイ



当時の戦車の限界が、どれほどのものか知りたい人は次のような実験をしてみよう
私はやって、驚愕にオコラレタ。





うったあ!!
ピカッ
うてェ!! 近よらせるな
ドバァウ
タイヒー!!
照準孔に何かひっかかった!!
2号車
全然見えません! 照準不能!
グワッ
1号車
ワワワァン
その砲塔内
これらのコマは ほとんど同時に発生して、順番が決められない。それが陸戦だ?
ヒーかくんじゃなかった
なんでもイイうてっ
パウ
わあっ パーツのトラックがやられた!!
うてェ うちまくれ
2台のP虎は身動きとれないまま、はじめての実戦を経験した。ひたすら撃ちまくるだけ
ドカー
ズーン
そのレンチとって
なんだありゃ 装甲列車か?
ママ〜〜〜ッ
ガ
当った!! イヤまだだ
動いてる はやくつぎっ
戦車の外も大変なら 戦車の中も大カワギ
とつぜん 静かになった
みろ 逃げてくぞ!!
トラックがみんなもえちゃった

今のはさぐりだ 本格的に来るのはこれからだ
ここにいたら全滅する すぐ移動するぞ
ハンス 30分で2輌共おろすんだ
エーッ 3時間でもあやしいのに
残弾をしらべろ 補給はないんだ
ハラヘッタ〜

俺は偵察にいってくる
状況がぜんぜん判らん
シャカシャカ

また重労働がはじまった
ヨレ ヨレ ヨレ
コラ ねるなよ
クソ 重い…

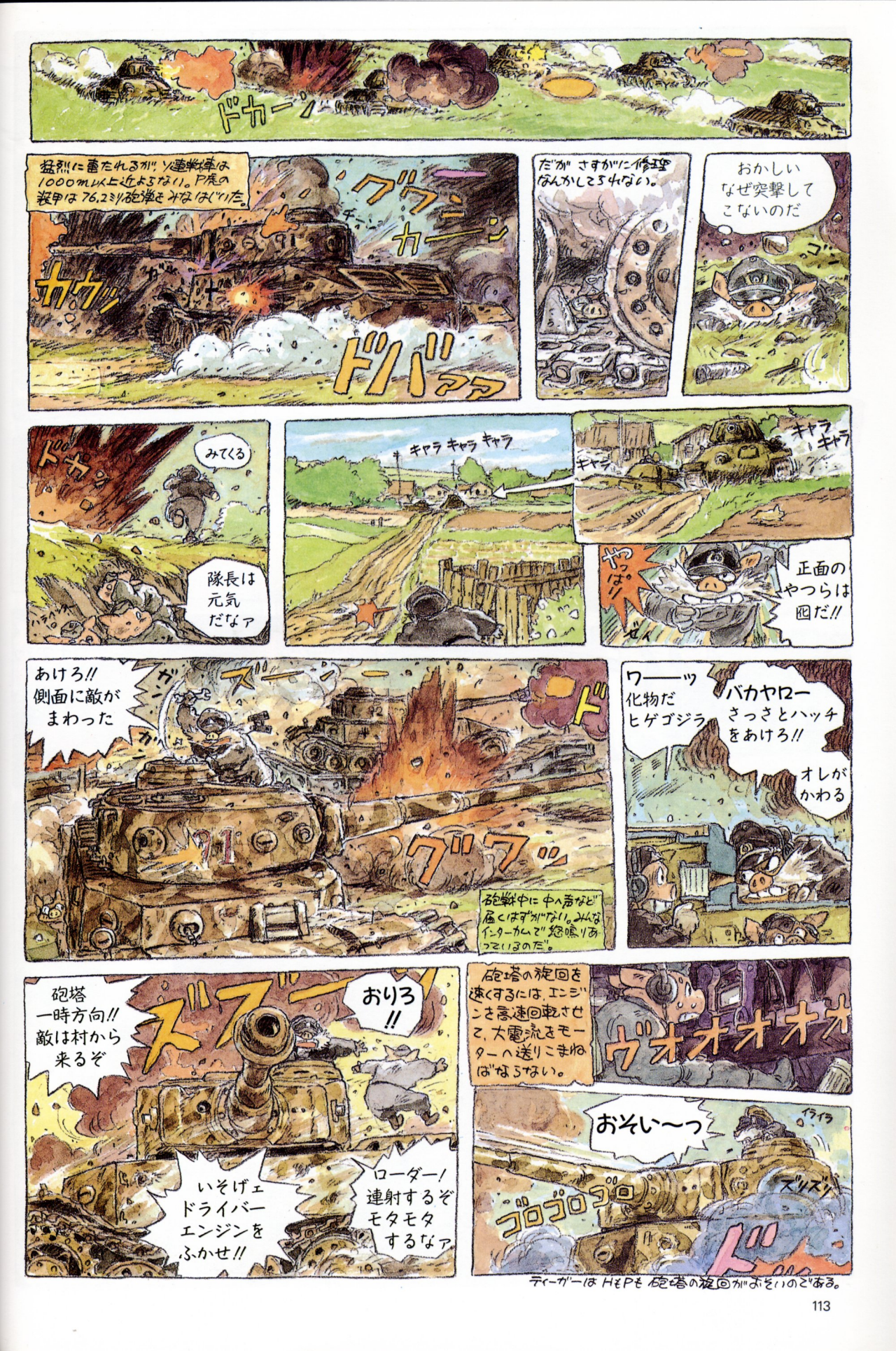
苦闘の1時間後
カガダダ
あきれるばかりの粘りでついにP虎はロシアの大地にありたったのである。

ワーッ やったぁ!!
まって!! キャタピラの調節がまだ
ガガガ
あ°

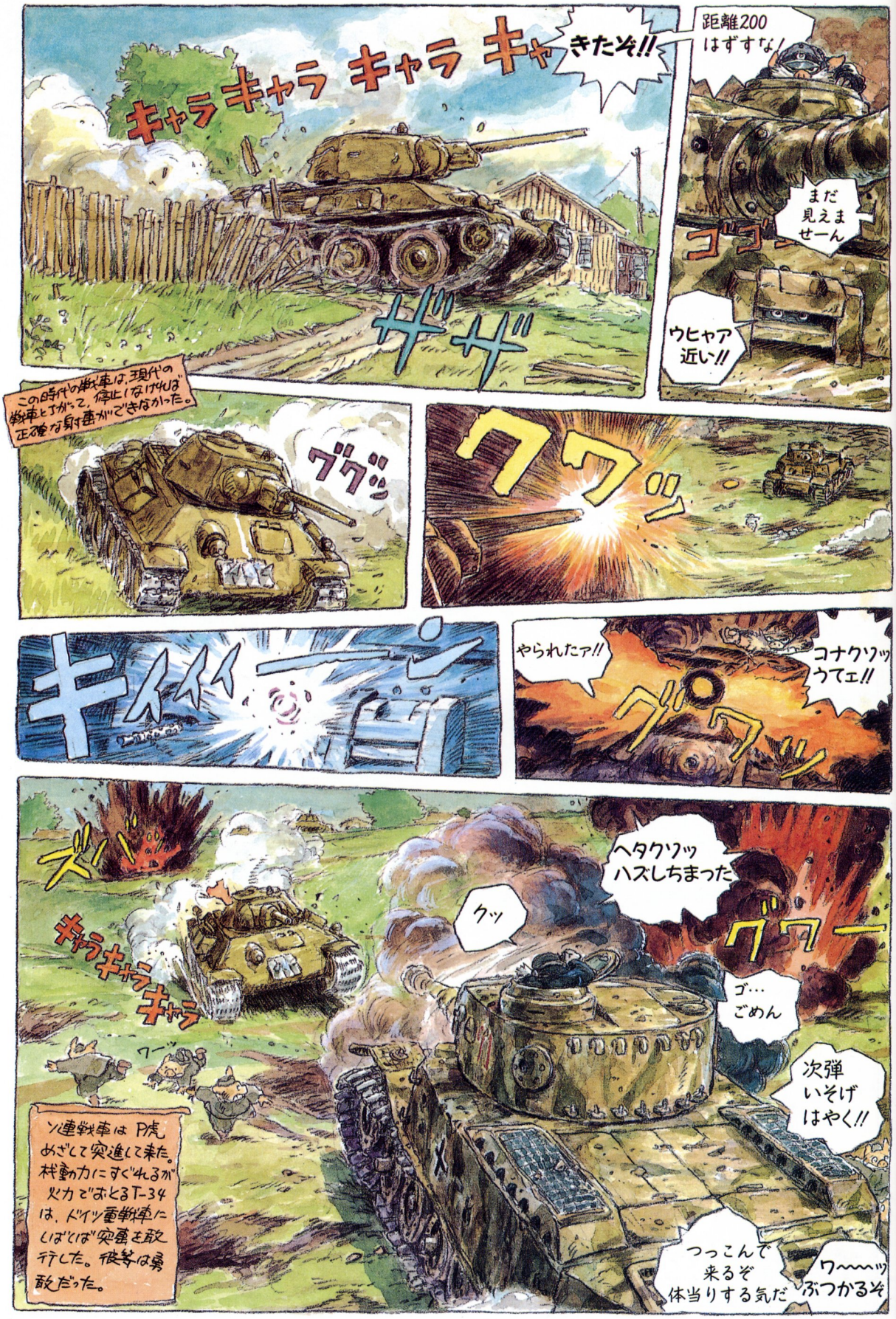
キャタピラはずれちゃった…
こうなるとオオゴトなのである。
敵襲!! 来たぞーっ
シャカシャカ
もたもたするなーッ

500m以上ならこの装甲はビクともせん
装甲をしめる
遠距離砲戦! 2000mでうつぞ
よーく狙えムダ弾丸を使うな
ハンス 早くなおすんだ
エーッ いまですか?

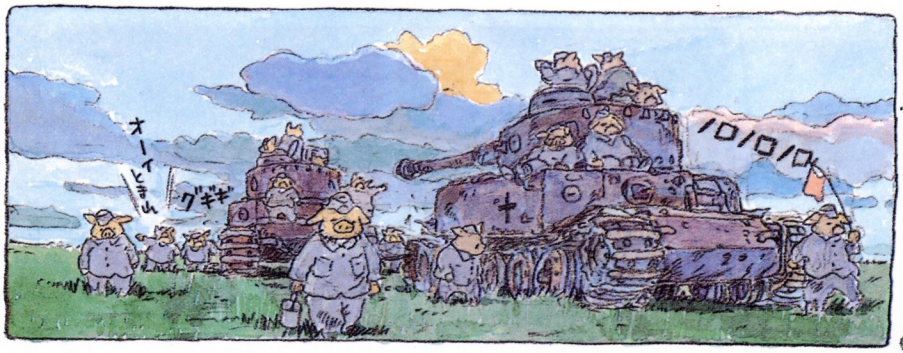
カウッ
テェッ!!
P虎オ2次戦斗情報!



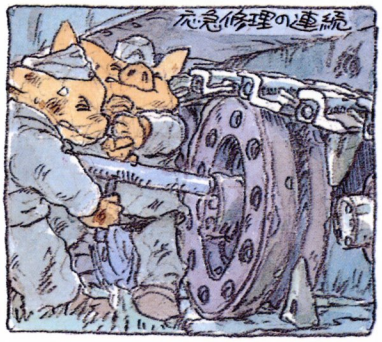
ティーガーはHもPも砲塔の旋回がおそいのである。

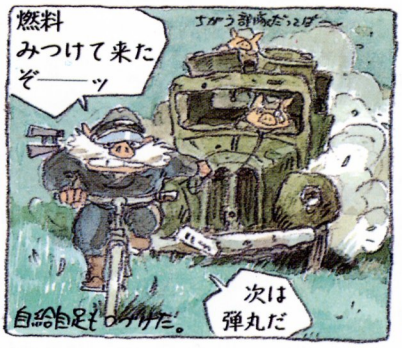

キャラ キャラ キャラ キャ
きたぞ!!
ザザ
距離200はずすな!
まだ見えませーん
ゴゴゴ
ウヒャア近い!!
この時代の戦車は、現代の戦車とちがって、停止しなければ正確な射撃ができなかった。
ブブッ
クワッ
キィィィーン
やられたァ!!
コナクソッうてェ!!
グワッ
ズバ
キャラキャラキャラ
ワーッ
ヘタクソッハズしちまった
クッ
グワー
ゴ…ごめん
次弾いそげはやく!!
つっこんで来るぞ体当りする気だ
ワ〜〜〜ッぶつかるぞ
ソ連戦車はP虎めざして突進して来た。機動力にすぐれるが火力で劣るT-34は、ドイツ重戦車にしばしば突撃を敢行した。彼等は勇敢だった。

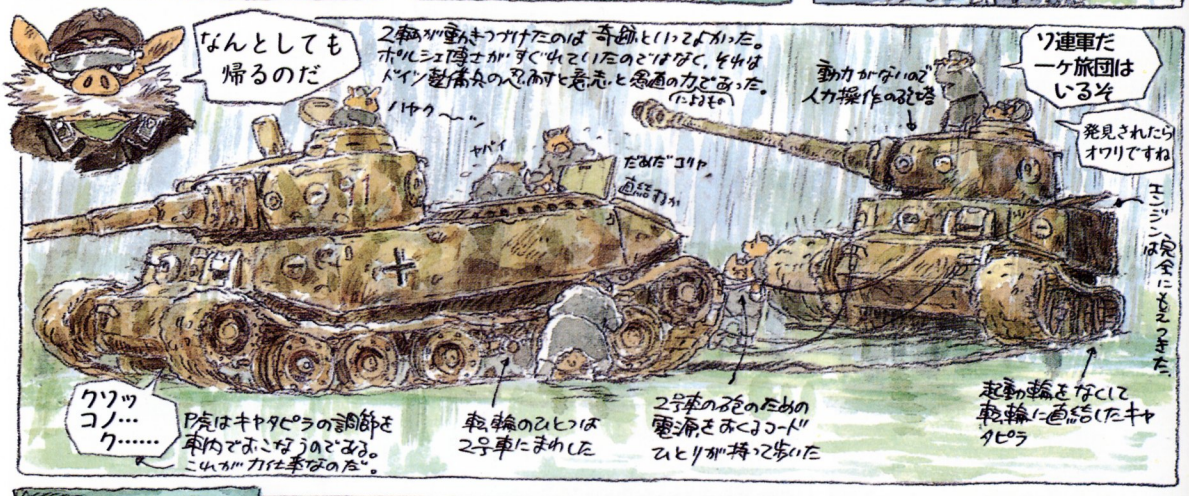
ゴ
ママー
ドッ
ガク
フラフラ
ワー
なんだ どうした
T-34は、P虎の弾丸が かすったショックで、砲塔が故障していたのであった。
バカヤロー
ハンスの体験
ガーン
ロシア人も同じブタだったんだ…
ハンスの衝車に かかわりなしに戦斗は 最高潮に達した。
ソ連戦車隊は、ここを突破して ナンタルスカヤを陥し、街道を後退中のドイツ部隊を包囲しようと決意していたのであった。
キャラ
キャラキャラキ
ゴゴゴゴ
ドカーン
猛烈に叩たれた。
パウン
(わめいている)
ガーン
どっ
ギーワワン
貨車上で 横腹をさらす2号車は特に ひどかった。
この瞬間に、正面のソ連戦車が 突進していれば、実験小隊は全滅していたはずであった。だが、彼等は命令どおり遠距離砲戦をくりかえすばかりで、勝機を喪ったのである。半ダースのスクラップをのこして、第2次攻撃の波もきった。
ブタヤロー
おぼえろ
バカヤロー
ズルズルズル
ブターッ
P虎もボロボロになった。だが前面装甲だけは一発も貫通していなかった。
ボロ
ボロ
ハンス帰るぞ 作業にかかれ! オレは偵察にいってくる
2号車は腹をモロに射抜かれていた。
アチチ…
エ――
まだ やるんですか



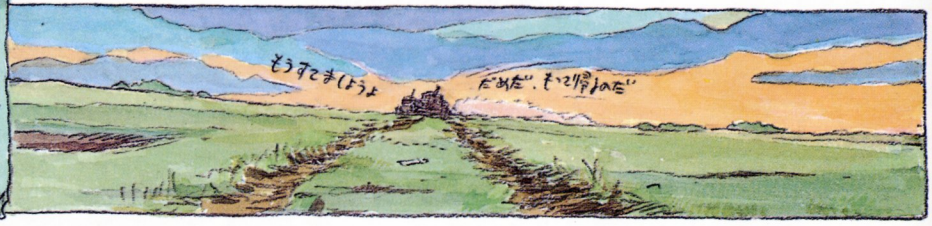
再びハンス達のおそるべき努力により、その日の夕刻P虎実験小隊は退却を開始した。時速3～4km、15分おきに停車点検を行いつつ、24時間ブッ通しの食事を歩きながらとった。







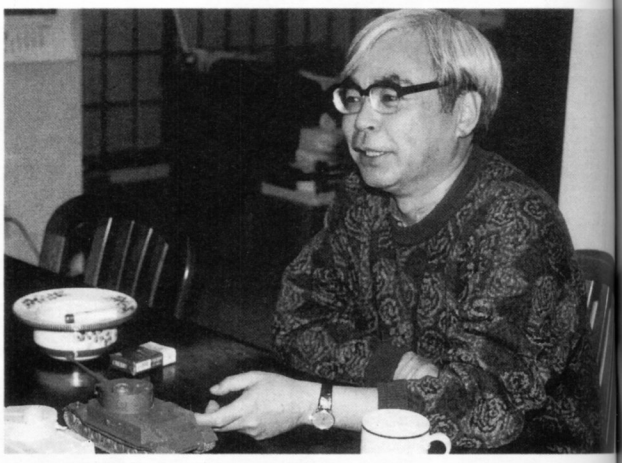
2輌のP虎はスクラップになりつつも、ソ連軍の追撃をすりぬけて本国に帰りついた。その道はやがてドイツ装甲軍の敗退と崩壊の道になったのである。



二人はまたまたポルシェの新超重戦車につきあわされたのであった。オワリ

1992.11.4

虎戦車にまつわる雑学と妄想



第13話『豚の虎』は、1992年夏に映画『紅の豚』が公開され、宮崎監督の長い夏休みが終わったあと、同年末に発売された『雑想ノート』初版本用（現在絶版）に描き下ろされた作品である。その記念として、『雑想ノート』の連載誌である『月刊モデルグラフィックス』誌上にて対談が行われた。対談のお相手は、ドイツ戦車研究家であり模型設計家の富岡吉勝氏であった。富岡氏が翻訳したドイツ戦車関連の書籍の愛読者である宮崎氏と、『ナウシカ』ファンの富岡氏との顔合わせである。そんなお二人の会話は、まるで幅広で重いティーガー戦車のキャタピラのように、ややこしくじわじわと、そして趣味丸出しで進むのだった。

GUEST PERSONALITY
富岡吉勝
Yoshikatsu Tomioka

◎1944年北海道出身。宮崎氏の愛読書である『ジャーマンタンクス』、『ティーガー・無敵戦車の伝説』、パンツァーフォー』、『奮戦、第6戦車師団』等の書籍（大日本絵画刊）の翻訳を手掛けた。欧米の戦記資料の翻訳や、海外の博物館での実車計測など、氏が20年以上前から続けられた精力的な研究により、ドイツ戦車の実像がずいぶん明らかになった。本職は模型設計家。グンゼ産業のパンターG型、III号、IV号戦車等のスケールモデルの設計、モデルカステン社の1／35スケールの戦車用連結式キャタピラの設計及び開発を手がけ、いずれの製品もその精密感と正確さは世界的に高い評価を得ている。

エンジンなんて信用できない

――『雑想ノート』で宮崎さんがポルシェティーガーの話を描いてくださった途端に、まるで待ってましたとばかりに、[*1]英国の模型メーカーから1／35スケールの[*2]ポルシェティーガーが発売されました。

宮崎◆（模型を見ながら）これが製品化されるようじゃ、もう末期的ですね。こんな物、製品になるんですかねぇ…？

ここ（機関室上面のグリル）、間違えて描いたんだよね。ここにね、機械駆動の強制冷却ファンが入ってるんですよ。それでこれがエンジンに空気を送り込んで、エンジンにもファンがついていて、その冷却気がこっちから外に出る。二組ずつここについているのね。それは本に出てるのを読んでわかったんだけども、描くの忘れた。フシシシ！　そういうことはもう無数にあって…、恐ろしいですね。しかし、こんな物売れるんですかねぇ、心配ですねぇ。

――しかし、こんなに砲塔が前のほうについてたら、操縦手席はさぞ狭かったでしょうね。

宮崎◆日本陸軍の戦車じゃあるまいし、車長が足で蹴って操縦手に指示をしたわけじゃないでしょうけどね。

この戦車は操縦手席の後ろにアームがついているんですよ。なんか蹴っ飛ばされないようにするのか、あるいは装填手（そうてんしゅ）がひっくり返って、操縦手のほうに転げ落ちないようにするのかね。なんかよくわかんないんだけども…。モックアップの写真とか、写真の変なところばっかり見てるうちにだんだん気持ち悪くなってきて…、人格が歪んでいくような気がして。フハハハ…。

[*3]小林源文さんが『モデルグラフィックス』の劇画で戦車のキャタピラを克明に描いているから、好きだなぁと思って呆れてたんだけど、自分がやるハメになって…。結局わかったんですけど、飛行機に比べて戦車っていうのは動きが少ないから、描いてて気が晴れないのね。それで貨車から降ろそうと思っているうちに降りなくなっちゃって、[*4]ページはどんどんなくなってくるし、ああ、だめだ！って、結局動かないで終わってしまった。

この横っ腹、これ（ポルシェティーガーの模型）には工具なんかが色々ついているけど、試作型なんて何もついてないですからね。まったくモロに80ミリの装甲板がペロッとついているだけで、あれ見るとドイツ人って頭がおかしいんじゃないかと思いますね、テヘヘヘ。

富岡◆僕はこれで食ってるから、悪口言うと罰があたる。わはははっ！

宮崎◆フシシシシ！　この電気駆動ってやつは、もっと軽い車体に積んで、出力がもっとあれば実用化できたんですかねぇ。

富岡◆まぁ、こんな電車のモーターみたいな物をくっつけてたんじゃ、走り出すまでにガッチャンっていってね、ブーンって感じで時間がかかったでしょうね。

宮崎◆それでね、動き出す時ってものすごく電気を食うでしょ。

富岡◆だけどね、走ってる[*5]エレファントの記録フィルムを見るとけっこう速いんですよ。おそらくああなるまでが、モタモタしてて大変なんでしょう。

宮崎◆あの、[*6]VK30…なんとかでしたっけ、ポルシェの。あれは60km/h出るって本に書いてあるでしょ。あれなんかも加速に延々と時間をかけて

60km/h出したんでしょうね、ツハハハ。結局、その後も電気駆動の戦車っていうのは、どこの国の誰も実用化してないでしょ。

富岡◆使い物にならないでしょうね、あんな物は。

宮崎◆だから僕はいまだにポルシェってあんまり信用してないんだけども、イヒヒッ。やっぱり変速機を作るのが大変だったから作ったんでしょうかね。

富岡◆あのころはまだ変速機自体が完成されていなかったから、試行錯誤の段階でできただけの物ってだけで…。

宮崎◆結局、ヘンシェル[*7]のほうも変速機のことでずっと悩みますよね。

富岡◆重たいのに、大馬力かけてね…。

――『パンツァーズ・イン・ノルマンディ』[*8]でもドイツの戦車連隊が交換用の変速機が足りないといって、大騒ぎしているようなことがずいぶん書かれていますが、やはり変速機の消耗というのが一番激しかったんでしょうか？

富岡◆だって、年中切り替えて…。

宮崎◆見る見るうちにギアが鉄粉になっていくんです。ワハハハ、ジョリジョリになっていくんですよ。

富岡◆だいたいがアンダーパワーだから、年中ギアを落としてフル回転させるでしょ。だから、すぐにガタガタになっちゃうんでしょうね。

宮崎◆だから僕はね、あれ（ティーガー重戦車）を戦争に使えたのはドイツ人だけだと思うんですよね。ドイツの整備兵が死に物狂いで頑張ったから使えたんですよ。

日本人はもちろん、アメリカ人だって絶対に使えなかったんじゃないかなと思いますよ。

富岡◆飛行機にしてもね…、僕らは昭和20年代の物しか知らないけど、それだって、そりゃひどいもんですね。それ以前の機械を使って戦争をしたっていうのがねぇ。どうしてできたんだと思うんですよ、あんなエンジンでね。

宮崎◆そうですよ。

富岡◆でもね、よく考えたら今のＦ１と同じでね。１機に３人くらい整備員がついて、飛ぶたびにバラして整備して…。それしかエンジンを回す方法がなかったんですよね。

宮崎◆今の若い人はね、エンジンってのは最初から回るモンだと思っているでしょ。チョークの調整なんかも全部コンピュータかなんかがやってくれるしね。だからエンジンってのはスイッチひとつで回ると思ってるんです。

僕の子供の時はね、エンジンってのはかからないモンだと思っていたんです。とにかく見てる前ではかからないモンだとね。バスでもなんでも、いちいちクランクを回してね…。

富岡◆僕なんかも昭和30年代にブルーバードに乗っていた時、よくバッテリーが上がるんで、原宿あたりで停まっちゃって、クランク回してました。

宮崎◆僕はずっと乗用車が２ＣＶ[*10]だったから、６ボルトの時代は夏でも冬でも延々と手で回してました。あれは軽くてコンプレスが少ないから、ヒャーッと回っちゃうんですがね。

だから、いまだに信用してないです、車のエンジン。きっとどっかでごまかしているんだろうってね、イシシシシ！

垂直にそそり立つクルップ鋼板

宮崎◆これねぇ、なんかやんなっちゃうんですよね。Ｉ号戦車[*11]作ってから、こいつ（ポルシェティーガー）を作るまでって、あんまり期間[*12]がないでしょ。色々な試行錯誤をやってる暇がないんだよね。作っちゃった奴は使わなくちゃいけないみたいな…。6トンくらいの戦車に乗ってた奴が、いきなり50トンの戦車に乗せられたらショックでしょうね。

富岡◆そうですね。それにしても、あの開発期間の短さはすごいですね。

宮崎◆すごいですよね。僕ね、これ不思議に思ったんスけど、これ後輪駆動でしょ…後輪駆動っていうのかどうか知らないけども…。ということは、前輪に一応歯車はついてますけど、これはただの誘導輪でしょ？　そうすると、ここに垂直と水平の装甲板をつけるよりも、斜め[*13]の一枚装甲にしたほうが耐弾能力も向上するし、重量も軽減されるんじゃないかと思うんですけど。

富岡◆そのころは、装甲板に斜めの角度をつけて敵弾の貫通力を減殺しようなんて全然考えてないですね。

宮崎◆ドイツ人はね、垂直におっ立てたクルップ[*14]の鋼鉄で跳ね返すんだってね、ウシシシ。

富岡◆厚さが100ミリあるから大丈夫なんだって、ワッハハハ。

宮崎◆ここが垂直なのは、ペリスコープとかそういうことと関連なのかな…ってことも思ったんですけど。使いにくいんじゃないかなぁ…とかね。

――あと前方機銃がつけられないとか。

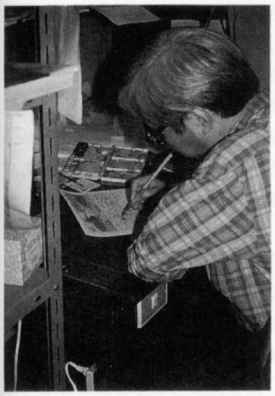
宮崎◆でもマチルダ（英軍の歩兵戦車）なんてすぐに前方機銃なんかあきらめてるじゃない。…でも、戦車の前方機銃っていうのは、戦車に随伴させる兵力の足りない軍隊の物なのかなって思ったりもして。

富岡◆あれは当たらなくてもいいんですよ。前方機銃は撃ってるといいんですって。

宮崎◆機銃手の気が休まるってことでしょ。撃ってれば敵兵が近寄ってこないんでしょうね。だからあとで（ドイツ戦車の）前方機銃は突撃銃[*15]になっちゃうでしょ。えーっとＭＰ44でしたっけ？こんなところに機関銃つけてもしようがないってんで。

――でもあの重い車体から撃つんですから、安定性がよくて前方機銃の命中精度はよかったでしょうね。

宮崎◆遠距離を落ちついて撃てばね。



『豚の虎』を執筆中の宮崎氏（'92年10月9日、新築のスタジオジブリにて）。その執筆方法は、下書きなしで水彩用紙に一コマずつ鉛筆で主線を描き、着彩していくというもの。そしてそのコマが気に入れば次のコマに進むという、およそ普通のマンガ技法からは掛け離れたものだ。これは頭の中に完全に仕上がりイメージが完成していなければ出来ない、驚くべき技法である。下は、宮崎氏の要請で担当編集者が一夜で製作した作画参考用の模型。当時はポルシェティーガーの模型は発売されていなかったため、ティーガーＩ型とエレファントの模型を合体して製作された。

富岡◆日本やドイツなんかは一応前方機銃に照準眼鏡をつけてるけど、アメリカなんかペリスコープから覗いて前方に弾をばらまくだけだね。

宮崎◆弾薬の補給のことなんか考えなくていい軍隊のやることですからね。

―― 最初のM３スチュアート（米軍の軽戦車）なんてすごいですよね。５挺ぐらい機関銃をつけてて。

宮崎◆幼児性の現れですよ。ようするに西部劇の２挺拳銃でしょ。それでその戦車の上で戦車長がピストルかなんか構えちゃってね、ワハハハッ！どうも軍隊っていうのは、その民族の幼児性ってのが出てきちゃいますね。

富岡◆そうか、あれは幌馬車の輪形陣を１台でやっちゃおう、っていうわけか！

宮崎◆まぁ大量生産で（機関銃を）いっぱい作っちゃったから使わなくちゃならないってことだったんでしょうね。日本中が信号機だらけになっちゃったみたいにね。

でもこの（ポルシェ式の）足回りはどうだったんでしょうね。ダメだったんでしょうか。こっちのほうが作るのは簡単そうですよ。確か[*16]１／２の手間でできるんですよね。

富岡◆取り外しも簡単だったしね。

宮崎◆あの[*17]ヘンシェルの転輪を見て、バラすことを考えると頭がクラクラしますね。ちょっと大変でしょ。（ボルトをゆるめるのにも）レンチを足で蹴っ飛ばしたりなんかして。

富岡◆それにサスペンションを外すためにはエンジンを外さなきゃならなかったんでしょ。

宮崎◆そうですね。

―― 足回りだけはポルシェを使ったほうが良かったんじゃないでしょうか。

富岡◆う～ん、だから[*18]ヤークトティーガーで、また使ったりしてるよね。ただサスペンション自体の性能はヘンシェルのほうが良くて、ポルシェ式は速度を出すと振動がひどかったらしいですね。

宮崎◆結局、ポルシェのほうはかろうじて動くというだけで…。

富岡◆生産性とか、交換しやすさとか、まぁこれにも少しは利点があるということですね。

宮崎◆あまり誰も気にしないようだけど、[*19]ＫＶ１の足回りは、まぁ丈夫かもしれないけど、乗り心地とか安定性とかはあまり良くなかったんでしょうね。あれだけで支えているわけでしょ。まぁ、重い重いって言っても、これ（ポルシェティーガー）よりは軽いわけだけど。

富岡◆ＫＶ１の走ってるフィルムを見ると、なんか波打つように走ってますね。すごく速く感じますよ。

宮崎◆キャタピラの上がぬらぬらって動くでしょ。でも本当はそんなに速くないんじゃないでしょうか？　どうなんですかね。戦車って、わかんないことだらけなんだよね、実をいうと…。

「こんなものが製品になるなんて…」二つのポルシェティーガーの模型（灰色が作画参考用、明るいほうがアキュリットアーマー社製）に見入り、呆れ返るお二人。それまでの模型は大活躍した兵器が製品化されるのが通例で、試作に終わっただけの車両が発売されることはまずなかった。

ドイツ戦車の人気の秘密

宮崎◆なんでドイツの戦車ばっかりが模型ファンの間でもてはやされるのかっていうと、やっぱりこの剥き出しの幼児性が受けてるんでしょうね。

富岡◆でもなんなんでしょう。フィルムなどを見ても、[*20]Ｍ４シャーマンなんかが出てきても別にどうとも思わないんだけど、ドイツの戦車が出てくると、なんかかっこいいなって思うんですよ。なにか不気味な雰囲気でね。

宮崎◆ポーランドが作った『鉄十字』っていう、あんまり売れなかった映画があるんですが、それなんか見てるとドイツの帝国騎士団が、白地に黒い十字の揃いの鎧を着てね、今のリトアニアあたりでうわーっとポーランドの騎士団と衝突するんですよ。それがかっこいいんだよね、ウシシシッ。真っ白でね、黒い十字がバーッとマントに入ってて、揃いの兜に孔雀の羽をくっつけてね。修道士みたいなんだよね。連中は突撃する時も大合唱しながら来るんだよ。

それに比べてポーランド軍は鎧がみんなまちまちなんですよね。まぁ、まちまちな鎧を作るっていうのは大変な努力なんですがね、とにかく田舎って感じがするんですよ、ワハハッ！　そのころから延々と、ドイツの装甲軍団っていうのは、東に向かって突撃してはやられてね。そうしないと、東方の蛮族がヨーロッパの中原を侵すって心配して。いつの間にか自分たちが、ヨーロッパの守り手みたいな錯覚を起こすんですよ。

第２次大戦でも、ドイツの生き残りの兵隊にはそんなことをいってるやつが多いんですよね。[*21]パンツァー・マイヤーだの[*22]ルーデルとか、あの『[*23]鉄の棺』の著者とか。

――『[*24]空対空爆撃戦隊』の著者も、もう繰り返し繰り返し、そんなことばっかり言ってますよね。

宮崎◆本当のことを言うと、僕はこっちのほう（ポルシェティーガー）が好きなんです、ヘンシェル型よりも。無骨というか…。

富岡◆そう、こっちのほうがまがまがしい感じですよね。

宮崎◆泥に埋まって試運転してる写真があるでしょ。そこで見える横っ腹は、いかにも圧延工場から出てきたばかりの鉄板をドーンとつけたっていう感じでね。まぁ、ポルシェの作ったものは…、あの[*25]キングタイガー（ポルシェ博士の作った試作型）だって役に立ってないけど。

富岡◆[*26]ポルシェは車以外はだめですね。

宮崎◆ドイツにはそういう役に立たない天才的な人間っていうのが多いですね。

宮崎氏が「富岡さんが翻訳された『ジャーマンタンクス』は、全部読んでしまいましたよ」と言えば、富岡氏も「息子が宮崎さんの大ファンで…。トトロの絵のサイン色紙をお願いします」と返答され、お互いにファン同士による対談は長時間にわたり和やかに続いた。

僕はあの[*27]メッサーシュミットっていう親父だって、そうといういかげんな親父だと思ってんだけど。そういう天才に頼って技術の力で勝とうというところ。天才っていうものを戦争中にも過大評価するっていう気風がドイツにはあるんですよね。

戦略的に負けると、新兵器を発明して技術的に勝とうとするドイツの悲劇。ワハハハッ！　それが戦後になって花開くという…。例えば第1次大戦後の金属機や第2次大戦後のロケットみたいにね。やな民族ですねぇ、ツハハハハ。

心配でならない穴のあいたお尻

宮崎◆これ（機関室上部の小さな箱状の物2個）はついてる奴とない奴があるんだけど、いったいなんなんですかね。

富岡◆ベンチレーターかなんかですかね、過熱するからこのあたりにつけたんでしょう。

宮崎◆車体の一番うしろにモーターが入ってるわけでしょ、ところがこの天井に穴があいてるんだよね。僕は敵弾が飛び込んできそうで、心配でしようがないんスけど…。よっぽど熱が溜まるんでしょうね。

――[*28]車体後部の傾斜装甲に穴をあけるより、機関室上面に穴をあけたほうがいいでしょうにね。

宮崎◆でもあのエンジンの構造からいうと、このエンジンの排熱をばあっと出して排気管もその中に入ってて、モーターの排熱も出るっていう、彼らの考えとしては排気を全部一カ所にまとめたから、（車体後部の傾斜装甲にあけられている排気グリルは）合理的だってことでしょう。

――しかし、それだったら、後部装甲板を垂直にしてこのグリルを真上に向ければいいのに…。

宮崎◆僕もそう思ったけれど、イヒヒッ。

富岡◆今、それを言われて思ったけれども、エレファントは後ろを塞いじゃって、その排気を下に出してるわけだから、モーターのあるお尻は、物凄く熱くなったはずですね。

宮崎◆[*29]エレファントの排熱はどうなってましたっけ？

富岡◆車体後部に装甲カバーをつけて後ろに出してますね。

宮崎◆エンジンは戦闘室の前に入ってますよね。乗員たちは熱かったでしょうねぇ。

富岡◆冬はいいよね。

宮崎◆夏は…、ワハハハッ。

でもこれ、ドイツ軍っていうのは（戦車は）砲弾をいっぱい持って行かなくちゃいけないっていう考えでこんなにデカくなっちゃったんですからね。なんで[*30]パンターはあんなに重いんだ？　35トンくらいで作ればいいのにって思うんだけど…。

それから戦車っていうのは、結局この車体の横腹に一番（敵弾が）当たるでしょ。

富岡◆なにかの戦車のテストで被弾率を調べたら、ここ（車体正面下部）に一番当たるっていうことがわかったんですよね。

――なぜそこなんでしょうね。砲塔を狙ってそれた砲弾が下に当たるんでしょうか？　それとも、よく射撃の本に書いてあるように、狙いは低くしておけってことでしょうか。

宮崎◆本には、砲塔は狙うなって書いてあるよね。

――どうしてでしょう？

宮崎◆小さいからでしょうね、フシシシ。

富岡◆砲塔を狙いたくなっちゃうみたいですね。生き物みたいに動くから。

――そうですね。

富岡◆やっぱり、そういう技術報告ってのを読むと、側面にあったハッチってのはとても耐弾性が低いんだってね。

宮崎◆ほうっ、そうですか。

富岡◆側面につけたものは、被弾するとその衝撃でボルトがはずれて車内にバアッと飛び散るんだって。だから、そういうものは天井につけろって書いてありますね。

宮崎◆でもドイツっていうのはこういう小改修を小まめにしますよね。なんでドイツ軍だけねぇ…。まるで後世の模型マニアを喜ばせるためか？…ってくらい熱心にやってますよね、イシシシシ。

三式中戦車を見て

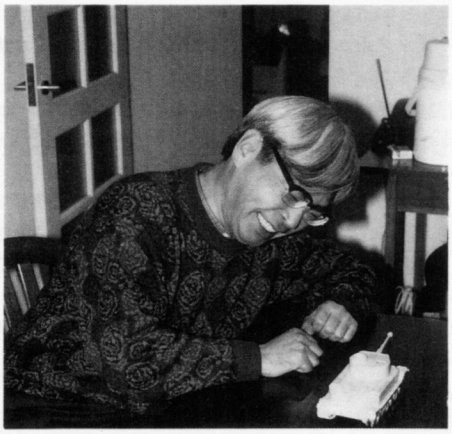
宮崎◆しかし、ドイツ戦車のこんな幅広いキャタピラを見てるだけでやンなってくるね…。

僕はね、以前、[*31]大塚康生さんと土浦の自衛隊武器学校に戦車を見に行こうって言われて行ったことがあるんだけど、[*32]三式中戦車を見て愕然としました。その情けない姿にね。

写真で見るとけっこう強そうに見えるんだけど、実物を見ると[*33]駐退器（ちゅうたいき）はむき出しになってるし、あっちこっちに（外部視察用の）スリットがたくさんあいているけど、防弾ガラスも何も入ってないしね。その横に[*34]米軍の水陸両用戦車が置いてあるんだけど、そっちのほうが装甲が厚そうに見えるんだよね。近代的に見えるわけ。

三式中戦車を見たとき、「絶大な威力の九〇式野砲を搭載した…」って解説を読んで、あれに「絶大」とか「驚異的な」とかいう形容詞をつけるのは日本の軍事関係者だけだなって思いましたよ、ワハハハッ。形容詞から腐るってことがあるでしょ、「なんとかが誇る…」とかね。自分のレベルからちょっと上だと、すぐに驚異的になっちゃう。ウシシシッ。そういう慣用句を使ってごまかしてきたわけですよ。

あの、[*35]司馬遼太郎さんがね、[*36]九七式中戦車の装甲板は硬くてヤスリがかからなかったけど、三



「ティーガー戦車に人気があるってのは、やっぱり伝説のせいだと思うんです。形にも関係あると思うけど、あーいう形を作り上げたドイツ人の思想がね…要するに…戦争に対する考え方を表してるんだと思いますね。兵器ってのは一番にリアリズムで作るはずなのに、やっぱりその民族の持ってる幼児性が表れるんですよ」

式の装甲板にはヤスリがかかった。つまり、もう日本には装甲鋼板がないんで、普通の鉄でできていたって書いてますが…。

富岡◆あれを読んでね、戦時中、戦車の装甲板を研究していた人が憤慨して、九七式みたいな薄い装甲の場合は装甲板を硬く焼き入れするからヤスリがかからないんであって、三式みたいに装甲が厚い場合には、砲弾が命中した時の衝撃を吸収するためにある程度軟質にしてあって、そのほうが耐弾能力が増すんだという反論を戦車雑誌に載せてましたね。

――ドイツ軍のIII号戦車みたいに装甲の薄い戦車の装甲板は表面に焼き入れがしてある硬い『表面硬化装甲板[*37]』だったそうですが、ずっと厚いティーガーの装甲板は、衝撃を吸収するために表面を焼き入れしない『均質圧延装甲板』だったらしいですね。

富岡◆ところがね、戦時中、九州かどっかで戦車を作っていた人がいて、その記事を読んで丁寧な手紙がその雑誌の編集部に来たそうなんです。それを読むと、戦争の末期には装甲鋼板がなかったんで、三式中戦車はやっぱり普通の鉄で作ってたそうですよ。あっははは！

宮崎◆ワッハハハ！　しかし、そんな戦車に乗って戦わなきゃならないなんて、たまったもんじゃないね…。

――ティーガー戦車にはいろいろ欠点はあったにせよ、やっぱり乗っていた連中はみんなあの装甲防御力はほめていますよね。

宮崎◆一度、あの装甲のおかげで命拾いした人はそう思うでしょうね。

まぁ、日本人は戦争には向かないってことですよ。向かないほうがいいんだけれど…。いろいろなことを知ればそう思います。職業軍人には向かないんですよ。すぐに小役人の巣になっちゃうんです。

韓国の朴大統領っていう人がいたでしょ。僕の知り合いに、あの人と陸軍士官学校で同期だったっていう絵の具屋のおじさんがいて、その人は少尉で戦争終わってるんですけど、その人にね、当時の装備を聞いたんですよ。もう戦争の末期ですよね。すると、よく聞いてくれたっていう感じで嬉しそうに話してくれたんですよ。九九式小銃で各部隊1挺ずつ九六式軽機関銃を持ってて、擲弾筒をバアーッと撃ち込んでね、撃ち込みながら走って行って、その爆煙が晴れた瞬間に敵の塹壕に飛び込むんだって。こうすれば勝てるんだって。こりゃダメだなと思ったよ、ツハハハハッ。

秀才を集めた陸軍士官学校の一線のバリバリの言うことが、これじゃダメですよ。そんなもんだったんスよね、テヘヘヘッ…。

内戦で甦ったティーガー？

――旧ソ連のナボルノ・カラバフの内戦に、ティーガー[*38]戦車が使われているという話を、大塚康生さんから聞いたんですが、これはどんなものでしょうね？

宮崎◆大塚さんのガセネタじゃないの？　イシシシ！　動かせっこないですよ。

富岡◆（ティーガーは）ドイツ人があれだけ苦労して動かしていたんだからねぇ。今のロシアにはT55でもなんでもゴロゴロあるのに。

宮崎◆だって、変速機をどうすんの、とかね。絶対に無理ですよ。だから、もしいたとすれば、映画の撮影に使ったやつですよ。

――T55を改造した…。

宮崎◆だから足回りを見ればわかると思うんですけどね。

――大塚さんもアメリカ人の友人がテレビニュースで見たという話を聞いただけだそうですから…。

宮崎◆いやあ、こればっかりはわからないですね、フシシシッ。

――撮影用のティーガーも結構よくできてましたからね。『ヨーロッパの解放[*39]』に出て来たティーガーなんて、見たのが小学生のころだったから本物かと思いました。転輪が複合になってるのもあったりして。

宮崎◆僕なんかあれを見ても欲求不満でね。違うなぁ、なんで停まった時にあんなに揺れるんだってね。あの四角いのはIV号戦車のつもりかなぁ？ってね、フハハハハ。

――僕らにも、最近は映画などをそういうふうに見てしまう傾向がありますね。しかし、妙な知識をしょいこんでしまったばかりに、そういう見方しかできなくなってしまうというのは、実に不幸ですね。

宮崎◆昔のロシア映画で『誓いの休暇[*40]』っていうのがあったんだけど、あれも冒頭で主人公が対戦車銃でティーガーを2両やっつけちゃったりして…。いやあ、あれはI号戦車の間違いなんじゃないかと思ったりしてね、ウシシシッ！　いい映画なんですけどねぇ、そこんとこだけが気に入らないんですよね。ワッハハハ！

――…不幸ですねぇ。

1992年11月28日、東京・吉祥寺、二馬力にて。

《初出》月刊モデルグラフィックス1993年2月号
◎取材・構成：梅本 弘、卯月 緑

◇注釈◇

＊1.

“英国の模型メーカーから～”

◎ガレージキット（ポリエステル樹脂をゴム型に注入して作る模型）と呼ばれる、少量生産の模型専門メーカー、アキュリットアーマー社が、偶然にも『豚の虎』が発表されたのと同時にポルシェティーガーの模型を発売した。また、その後イタリアの模型メーカーのイタレリ社は、プラスティックモデルとして同車を発売している。

＊2.

“ポルシェティーガー”

◎ゆくゆく出現が予想される米ソの重戦車に対抗すべく、ドイツの陸軍兵器局が出した45トン級戦車の開発命令に対して、ポルシェ社が試作した重戦車で1942年７月に10両が完成。正式名称はティーガー（P）、VK4501（P）。ポルシェ博士お得意の、ガソリンエンジンで発電～モーター駆動というシステムが導入された。重量は57トンとなり、試験走行を繰り返したが芳しい結果が出ず量産には至らなかった。

しかし、ヒットラーとポルシェとの奇妙な信頼関係から、正式採用以前に90両分もの車体は製造されてしまっていた。

驚いたことに、ドイツの戦車資料集『重駆逐戦車』（大日本絵画刊）によると、それまで訓練用にのみ使用されていたと思われていたポルシェティーガーが、実戦に使用されていたことが判明。模型の発売に続き、宮崎氏の妄想が現実を呼び寄せたかのような現象であった。

ティーガー（P）重戦車（写真提供：デルタ出版）

＊3.

“小林源文さん”

◎戦記劇画家。その独特のペンタッチと、リアルかつマニアックな戦闘描写が人気を博している。主な著作は『装甲擲弾兵』、『鋼鉄の死神』、『炎の騎士』、『ハッピータイガー』、『東亜総統特務隊』（いずれも大日本絵画刊）等。

＊4.

“ページはどんどんなくなって～”

◎『雑想ノート』の初版本（現在絶版）の刊行時に描き下ろされた『豚の虎』は、当初10ページの予定で進行していたが、とても収まりきらないということで、途中で12ページに増やされた。しかしそれでもページは足りなかった。

＊5.

“エレファント”

◎ポルシェティーガーの余った車体を利用して製造された重駆逐戦車。機動力に問題が残ったものの、重装甲と高性能の主砲によって絶大な戦果を上げている。初期はポルシェ博士の姓“フェアディナント”と命名されていた。

駆逐戦車エレファント

＊6.

“VK30…”

◎ドイツ陸軍兵器局が発注した30t級戦車の設計コンペに、ポルシェ社が参加して開発した最初の試作戦車。電気駆動式で、制式名称はVK3001（P）。

＊7.

“ヘンシェル”

◎ポルシェ社と競作し、ティーガー戦車の量産権を得た製造会社。当初はポルシェに肩入れするヒットラーの意向でポルシェ型が採用される公算が強かったが、比較試験でヘンシェル型の性能が勝っていることが判明したのである。写真はヘンシェル型のティーガーⅠ型重戦車。駆動方法は通常のガソリンエンジン式。量産型とはいえ、重量57トンの巨体を動かすのには無理があり、保守整備に大きな労力をさく必要があった。だが、その防御力と主砲の威力はそれを補うのに十分だった。

ティーガーⅠ型重戦車（ヘンシェル型）

＊8.

“『パンツァーズ・イン・ノルマンディ』”

◎ノルマンディ上陸作戦を、ドイツ軍側（とくに戦車部隊）からの戦いに焦点を絞り、戦車連隊ごとに多数の写真、図版、地図を駆使して克明に詳述した記録集（大日本絵画刊）。

＊9.

“日本人はもちろん～”

◎1943年（昭和18年）、日本陸軍は（無謀にも）ティーガー戦車をライセンス生産する計画を立てていた。ドイツ側は日本の提案を受諾し、1台のティーガー戦車が日本向けに準備された。日本は645,000ライヒスマルクをドイツに支払ったが、戦局が混乱した時期でもあり、結局は日本に送られずに終わった。

＊10.

“2CV”

◎宮崎氏の愛車、シトロエン２ＣＶのこと。1967年に氏が最初に購入した車で、その後も３台乗り継ぎ、1993年頃まで愛用していた。写真は初代の２ＣＶ（1954年式）。『ルパン三世カリオストロの城』でクラリス姫が乗っていたのはこの形式である。

シトロエン２ＣＶ（写真提供：大塚康生）

＊11.

“Ⅰ号戦車”

◎第１次大戦後、ヴェルサイユ条約で装甲戦闘車両の保有を制限されたドイツが、1934年に条約の制限事項をぬって農業用トラクターと称して製造した最初の戦車。車重はわずか5.4トンで、機関銃２丁を装備していた。スペイン内乱が初陣となったが、フランス戦を最後に第一線から退いた。

Ⅰ号戦車

＊12.

“あんまり期間がないでしょ”

◎ドイツは、Ⅰ号戦車の開発が始まった1933年からわずか９年で、重量が約10倍もあるポルシェティーガーを開発している。その異常とも言えるパワーの原動力は、ヨーロッパ中の大国、特にロシアを敵にまわしたドイツの圧迫感や恐怖心であったのだろう。

＊13.

“斜めの一枚装甲に～”

◎戦車は普通、エンジンからの動力を車体の最前部にある変速機と最終減速機に伝えて駆動するため、車体前部の形状が制約を受ける。だがポルシェティーガーは後輪駆動で、しかも変速機を用いない電気駆動式であるので、変速機や最終減速機等のスペースを考慮に入れる必要がないため、複雑な面構成をとらずに一枚の装甲で構成したほうが合理的ではないか～という意見。その後に開発されたパンター、ティーガーⅡ型は、前輪駆動でありながら前面装甲は一枚板で構成されている。

＊14.

“クルップ”

◎ドイツで400年の歴史を持つ兵器メーカー。高い鋳鋼技術により非常に優秀な兵器を開発し、ドイツ帝国を軍事強国にのし上げた。またその力はヒットラーの壮大な野望をも拡大させたのである。

＊15.

“突撃銃”

◎ドイツ軍が開発した新型火器。MP43、MP44等の形式があった。MPとはマシーネン・ピストーレ（機関短銃）の略だが、戦争末期にはStg（シュトルム・ゲベール～突撃銃の意）44と改称された。従来の拳銃弾を使用した機関短銃と異なり、機関銃弾を短くした特殊な弾丸を連射するもので、単発式小銃や機関短銃や軽機関銃にとってかわる新世代の火器であった。戦後、ソ連が開発して全世界に広まったAK47シリーズの元祖となった。

第２次大戦末期、ドイツ軍は新型のパンター戦車の前方機銃を従来のMG34機銃からMP44突撃銃に変換する予定だった。また、この銃に曲射銃身（カーブをつけた銃身で弾道を90度変えることができる、まるでマンガの小道具のような代物）をつけて駆逐戦車の戦闘室上面に配置し、前方機銃の代用にするという珍奇な計画も立てられた。

MP44突撃銃（手前）とMG34機関銃

＊16.

“確か1／2の手間で～”

◎ヘンシェル社のティーガー戦車のサスペンションは、トーションバーという棒バネを車台に通して作用させるため、6センチもある車台側面に転輪の数だけ穴を開ける作業が必要であった。それに比べてポルシェ式のサスペンションは、転輪２個と棒バネを一組にしたユニットを車台側面にネジ止めするだけで済んだ。作業時間はヘンシェル

◇注釈◇

式が1台360時間かかるところを、ポルシェ式では140時間で済んだという。

＊17.

“ヘンシェルの転輪”

◎ヘンシェル型のティーガーの足回りは、その大重量を支えるために転輪が重なり合うように配置された複合式転輪。例えば、地雷などを踏んで一番奥の転輪が損傷した場合、それを交換するには、まずその両隣の転輪からはずさなければならないのである。

＊18.

“ヤークトティーガー”

◎ティーガーII型の車体に12.8センチ砲を搭載した重駆逐戦車。その前面装甲は25センチに達し、データ上では第2次大戦で実戦に投入された中で一番強力な戦車といえる。機動性を犠牲にしてまで、より厚い装甲、より強力な主砲を備えたその姿は、米ソとの“鋼鉄のバランスゲーム”に憑かれたドイツの狂気を感じさせる。77両生産されたうち、10両にポルシェ式サスペンションが実験的に装着された。

重駆逐戦車ヤークトティーガー

＊19.

“KV1”

◎ロシアは1939年、すでに47トンの重戦車KV1を開発していた。76.2ミリ砲を装備し、生産が安易でしかも頑丈な戦車であった。ドイツは1941年にロシアと開戦してこの戦車と衝突、その強力さにショックを受け、既存の兵器概念を越えて急速に重戦車開発を推進することになる。ティーガーと同じトーションバー式サスペンションの足回りだが、複合式をとらずにその重量を支えている。

KV1重戦車

＊20.

“M4シャーマン”

◎アメリカ軍をはじめ、広く連合国軍に供給された主力戦車。第2次大戦の連合国軍の物量作戦の象徴ともいえる。一対一の対決ではパンターやティーガーに劣る性能だったため、数に物をいわせて戦った。その分、数を作れないドイツはその狂信的ともいえる技術主義に走って行くのである。

M4シャーマン中戦車（中央）

＊21.

“パンツァー・マイヤー”

◎武装親衛隊員、クアト・マイヤー。SS第1戦車師団『ライプシュタンダルテ・アドルフ・ヒットラー』、SS第12戦車師団『ヒットラー・ユーゲント』などのエリート戦闘集団の指揮官として東部戦線、そしてノルマンディの激戦を戦い抜き、“パンツァー（戦車の意）マイヤー”の愛称で部下から敬愛された。著書に『擲弾兵［パンツァーマイヤー戦記］』（フジ出版刊）がある。

＊22.

“ルーデル”

◎ハンス・ウルリッヒ・ルーデル。ドイツ空軍の急降下爆撃機Ju87（シュトゥーカ）を駆り、東部戦線で2500回以上の出撃記録を持つ。戦車撃破数は500両以上を数え、30回も撃墜されるが生還したという不死身のパイロット。そんな彼の偉業に対し、「偉大なエースが死に急ぐことはなかろう」と、戦争末期にヒットラーは飛行停止命令を出したが、それを断って再び空に戻った猛者であった。

＊23.

“『鉄の棺』の著者”

◎書名は『鉄の棺［Uボート死闘の記録］』（フジ出版刊）で、著者はH・ヴェルナー。その内容は、海の狼として連合国艦船を震え上がらせたドイツ海軍の潜水艦・Uボートの栄光と悲惨な記録である。最盛期には843隻が活動していたが、779隻が撃沈され乗員の75パーセントが戦死したといわれる。ドイツの海の男たちにとって、Uボートは正に『鉄の棺』だったのである。その不屈の闘志は、何処から湧いて出るのであろうか…。

＊24.

“『空対空爆撃戦隊』～”

◎ドイツ空軍の戦闘機エース、ハインツ・クノーケが記した、連合軍爆撃隊に対する迎撃作戦の全貌（大日本絵画刊）。数度にわたる撃墜と負傷にもめげず、敗戦の日まで果敢に戦い続けた。その思想は、共産主義を激しく憎み、アジアからの遊牧民の侵入からドイツだけが生き延びるためだけではなく、西欧全土を守るために戦うという、ドイツ民族の血統を正当に継承したかのような、驚くほどに実直なものだった。

＊25.

“キングタイガー～”

◎ティーガーI型重戦車の後継車両として開発された重戦車。重量は68トンに達した。制式名称はティーガーII型だが、その強力さとスマートな外形から連合軍将兵からはキングタイガーと呼称された。デザイン的にはティーガーの後継型というより、パンターの拡大版といった感が強い。最終的に489両しか生産されず、戦局の挽回には貢献しなかった。宮崎氏は、わざわざII型を苦労して作るより、パンターやティーガーI型を増産したほうが良かったのでは？との疑問を呈している。

車体の製造はヘンシェル社が行ったが、ここでまたしてもポルシェ博士が登場する。砲塔は同時期に進行していながら開発が遅れていたポルシェ社のティーガー後継型（VK4502）用に作られたもの50基が流用された。だがその砲塔前面は“芸術的”な曲面形状だったため、敵弾が当たった時に下にすべって装甲の薄い車体上面を貫通することが判明。結局、その後の車両では砲塔前面を一枚装甲で構成したヘンシェル型の砲塔に交換されてしまった。

ティーガーII型重戦車（ヘンシェル型）

＊26.

“ポルシェは～”

◎ヒットラーの唯一の功績といえる国民車、フォルクスワーゲンの開発はポルシェ博士が行った。それは当時のドイツ国民だけにとどまらず、現在でも世界中の人々に愛されている。しかし、戦争で切羽詰まった状況にもかかわらずヒットラーはポルシェに好き勝手な研究を認め続け、しまいにはマウスという鉄の化け物を作るに至った。重量は188トン、12.8センチと7.5センチ砲を載せ、相変わらず駆動方式は電動式を採用していた。ヒットラーとポルシェは、全ての敵弾をはじき返しながら進む無敵の超重戦車を夢見たのだろうか…。科学技術が結んだ二人の関係というのはまったく計り知れない。2両の試作車が作られただけで終わった。

試作超重戦車マウス

＊27.

“メッサーシュミット～”

◎ヴィリ・メッサーシュミット。1898年生まれ。ツェッペリン飛行船を見て空への道を志し、15歳でグライダーを設計、操縦したという。ドイツ空軍を代表する傑作戦闘機、Me109や、世界初のジェット戦闘機Me262などを生み出した技術者。卓越した設計能力をもっていたが、その性能追求のためにはテストパイロットが命を落とすこともいとわないといった性格だったようだ。メッサーシュミットに限らず、当時のドイツの航空機界には飛行機オタク的な技術者が多く、戦争に乗じて奇抜な研究を進めていた。だが、その中の革新的なアイディアが、戦後の航空機界の飛躍的な進歩に大きく貢献しているのも事実である。

＊28.

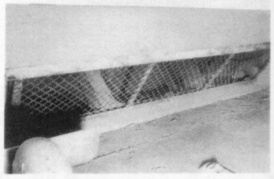
“車体後部の～”

◎ポルシェティーガーが後方から攻撃を受けた際、傾斜部に被弾しやすく、さらにそこに放熱用のスリットが開いているのでより被害が大きくなる。厚い後部装甲板に苦労して穴を開けるより、薄くてしかも被弾率の低い機関室上部に放熱スリットを設けたほうが簡単でいいのに…という意味。

＊29.

“エレファントの排熱～”

◎ポルシェティーガーの車体を改造して製造されたエレファントでは、発電用エンジンは車体前部に移動されたので排熱グリルは前部上面に設けられた。後部にある駆動モーターの排熱は車体後面から行ったが、スリットを開けず写真のように開口部を装甲カバーで覆って処理している。前線からの報告では、上面の排熱グリルは上方から



下側から見たエレファントの排熱カバー

の敵弾の被害を受けやすく、また雨水の侵入によって発電機がショート、炎上することもあった。発電用エンジンと駆動モーターにはさまれた車内の温度はかなり上昇したという。

＊30.

“パンター”

◎1941年に始まったロシア侵攻で、ドイツ軍戦車はＴ34戦車に苦戦を強いられた。そこで捕獲したＴ34を徹底的に研究し、それに対抗しうる新型戦車パンターを開発した。そのため、車体のデザインはＴ34の影響を受け、それまでのドイツ戦車の多面構成から大きく変化し、装甲板を傾斜して組み合わせる方式が採られた。機動力、防御力、攻撃力のバランスのとれたドイツ軍最良の戦車と言われている。7.5センチ砲装備、重量は43トン。

パンター中戦車

＊31.

“大塚康生さん”

◎宮崎氏の先輩にあたるアニメーターで、共に数々のアニメ制作に参加。『ルパン三世』の最初のテレビシリーズの作画監督を務め、ルパンのイメージを定着させた。写真はルパン制作当時の大塚氏の愛車フィアット500で、これがアニメに登場して好評を博した。隣のシトロエンは前出の宮崎氏の愛車。『カリオストロの城』では両車がチェイスを繰り広げた。また、大塚氏は模型と軍用車両の研究家としても世界的に有名。『雑想ノート』連載の仕掛け人でもある。

大塚康生氏のフィアット500
（写真提供：大塚康生）

＊32.

“三式中戦車～”

◎アニメ制作会社、東映動画の同僚だった大塚氏と宮崎氏は、1964年12月30日に土浦の自衛隊武器学校を訪問、数々の兵器を見学した。そこには国産第１号の八九式戦車と、戦争末期に作られた三式中戦車が展示してある。

日本陸軍は、当時の戦車の世界的な水準である75ミリ砲装備の戦車を、昭和19年になってやっと量産にこぎつけた。しかもその主砲は戦車砲として開発したものではなく、野砲を改造したものだった。実用性にとぼしく、内地に少数が配備された時点で敗戦となった。写真に映っているのは若かりし日の宮崎氏。

三式中戦車（写真提供：大塚康生）

＊33.

“駐退器はむき出し～”

◎大砲から砲弾を発射する際、相当な衝撃と反動が生じるので、それを相殺するために砲身を後座させる。駐退器とは、後座した砲身を油圧で元に戻す働きをする装置を指す。第２次大戦の後期における世界の戦車砲は、駐退器を全て砲塔内部に収納しているが、三式中戦車の主砲は九〇式野砲を転用するというその場しのぎの計画のため、砲身の下部に駐退器が残ってしまっている。その点からも日本陸軍の無計画ぶりを垣間見ることができる。

＊34.

“米軍の水陸両用戦車”

◎武器学校に展示中の米軍の水陸両用戦車LVT（A）4。第２次大戦中、ヨーロッパや太平洋諸島で展開された上陸作戦に必ずこの手の車両が登場する。実質的には戦車というより上陸用舟艇といったほうがよいのだが、日本の戦車よりも強そうに見えるから不思議である。

LVT（A）4水陸両用戦車（写真提供：大塚康生）

＊35.

“司馬 遼太郎さん～”

◎数々の歴史小説で多くの国民に希望を与え、その晩年は随筆や講演などで文明批評を続けて来られた作家、司馬遼太郎氏。司馬氏は、学徒動員で陸軍に入隊、戦車中隊の将校として敗戦を迎えた。なぜ装甲の薄さを精神で補わねばならぬような戦車に乗って戦わされるのか、そしてなぜ日本はそういう愚行に走ってしまったのかを考え続けた司馬氏は、戦後に文学へと復員を果たし、自分の感じた日本観をペンをもって追求し続けた。しかし1996年２月に逝去され、日本中の多くの読者がその死を悼んだ。宮崎氏は、司馬氏の生前に司馬氏、堀田善衛氏との鼎談（『時代の風音』朝日文芸文庫）を、また急逝される直前には週刊誌上で対談をされている。

＊36.

“九七式中戦車～”

◎日本陸軍の主力戦車。しかし、性能的には世界の水準に達しておらず、終始苦戦を続けた。米軍のＭ３軽戦車にも歯が立たなかったといわれる。戦車将校であった司馬氏もこの戦車に乗っていた。写真は昭和19年に司馬氏が入校した旧満州四平戦車学校で訓練中の九七式中戦車。（写真提供は、司馬氏と同期の藤田庄一郎氏による）

司馬氏の所属していた戦車第１連隊が、戦争末期に本土決戦のため関東平野に呼び戻されて駐屯していた際、数台の三式中戦車が、他の中隊または連隊に配備され、それを司馬氏が試しに操作する描写が、氏の著作『歴史と視点』（中公文庫）所収の随筆『戦車の壁の中で』に登場する。それまでの九七式の鋼鉄の装甲にはヤスリがかからなかったが、三式にはかかってしまったという。ただの鉄でできた戦車とは一体なんなのだ？…司馬氏はそれをご自身の太平洋戦史にとって、もっとも重要な事実のひとつであると書いている。同書には、戦車に対する憎悪を通じて日本の軍部批判をする随筆が３編収録されている。

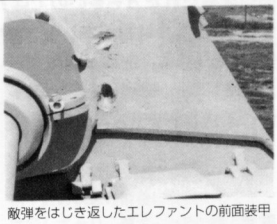
九七式中戦車

＊37.

“『表面硬化装甲板』～”

◎表面硬化装甲板は焼き入れをした鋼鉄製の装甲板で、硬度を上げて耐弾性を高めたもの。被弾の時、割れたりヒビが入るのはそのため。それに対抗して被帽付徹甲弾が作られている。ティーガーの装甲は、粘り気のある鋼鉄で作られ、バターをえぐったような弾痕が残るのはそのためである。

被弾して割れたパンターの砲塔



敵弾をはじき返したエレファントの前面装甲

＊38.

“ティーガー戦車が使われて～”

◎アメリカのニュース専門テレビ（ＣＮＮまたはＣＢＳ）で旧ソ連の内戦の模様が放映された時、戦後型のＴ55やＴ62等に交じってティーガーと思われる戦車が映ったという話。日本でもたまたまそのニュースを見た人が存在する。ボスニアなどの内戦では、Ｔ34戦車が現役で使用されている例がある。

＊39.

“『ヨーロッパの解放』”

◎旧ソ連が1970年に制作した大国策映画。５部構成で、1943年のクルスク戦から1945年のベルリンの陥落までが描かれている。さすがにソ連映画だけあり、地平線まで続くかのように思われる戦車の群れの空撮や、大量のエキストラの動員などスケールは巨大である。また、文中にも出た改造ティーガーは、過去の戦争映画に登場したティーガーもどきの中では一番の出来であった。しかし、いかんせん上映時間が長すぎ、冗長な点は否めない。

＊40.

“『誓いの休暇』”

◎こちらも旧ソ連製の映画だが名作である。物語は、あるソ連軍の若い兵隊が、対戦車銃でティーガー戦車を２両撃破、その功績で１週間の休暇をもらい、故郷の母親に会いに行く。その道中に様々な出来事が起こり、そして…というもの。小品ながら非常に完成度が高い感動作なのだが、この対談の出席者と編集者のように深みにはまった知識を持つと、どうしても歪んだ見方をしてしまうのである。「対戦車銃でティーガーの前面装甲を撃ちぬけるわけがないよ！」…といったふうに…。

**『雑想ノート』を全て
お読みになって、この物語が
ウソなのかホントなのか、
さっぱりわからなくなった…という
感想を持たれた方も多いのでは？
最後に、少しだけ種明かしを
いたしましょう。虚構と現実が
入り混じった、雑想「裏」ワールド
にご案内します。**

第1話
知られざる巨人の末弟

◎「この話は7～8年も暖めてきたものなんです。それを、縮小凝縮して描いたんです。僕は、巨人機っていうのが本当に好きなんです。ユンカースのような飛行機って好きですね。翼に席があるっていうのは、幼い頃から空に憧れている者にとっては夢ですよ。少年の日の夢です。今の飛行機のように小さな窓しかなくて、ベルトで縛りつけられて運ばれるようなのは、くだらないことなんです」

巨人機好きの宮崎氏が、連載第1作に選んだ機体は、ドイツのユンカース社が作った実在の旅客機、G-38だった。物語はその機体をヨーロッパの小国、ボストニアが購入するのだ。だがボストニアは架空の王国で、ボスニアとエストニアの合成語である。日本がG-38を購入したのは事実で、コレヒドール要塞爆撃用の超重爆撃機の必要性から、陸軍がドイツから製造権を買い、三菱が製造、九二式重爆撃機として正式化された。

第2話
甲鉄の意気地

◎「この話は、南北戦争中に実際にあった話なんですよ。小説よりも現実のほうがずーっと面白いっていうことですよね。訓練も受けていない素人が、意気込みだけで殴り込みをかけたという、無茶苦茶でバカバカしいところが好きなんです。黛治夫という人が書いた本の中にあった話なんですけど、好きなんですよね」

このエピソードは、日本での武蔵と小次郎の巌流島の戦いと同様に、アメリカでも有名なもので、モニターとメリマックのプラスティックモデルも発売されているほどだ。海軍大佐の黛治夫氏は、日本海軍の砲術の権威であった。宮崎氏は、黛氏の著作『海軍砲戦史談』の中に収録されているエピソードを読んで構想を練られたそうだ。

第3話
多砲塔の出番

◎「戦車っていうのは、とっても血なまぐさい物ですね。同じ武器として造られた物でも、飛行機や船と違って戦うことだけにしか使えない物でしょ？むき出しの敵意って感じですよね。多砲塔といっても、1つより他の所にもいっぱいついていたほうが強そうだし、強いだろうと思ってつけてみたんです。で、使ってみたら、そんなに強くなかったという、今から思うとアホらしいことを真剣にやっていた心が好きです。この話は、映像にしてみたくて、暇ができると絵コンテを切ったりしちゃうんですよ。ボルサリーノをかぶったブタが、戦車に乗ってやって来て酒場の前で止まるんです。そして、その酒場の中に入って行くと、人間の女の子～物語中ただ一人の人間の女の子なんですけど～歌を歌っている…。冒頭は、そうやって始まるんです。カントリーロードに合わせて戦車が暴走するっていうのをやりたいんです！」

このエピソードは、他の作品と違って最初からファンタジーとして構成されている。欄外に書いてあるスポンサー募集に対し、当時実際に名乗りを上げた会社があり、アニメ化が進行していたが、悪役大佐の性格を巡って演出家と方針が合わなくなり制作は中止された。宮崎氏のコメントから、ブタが少女に恋する点、カントリーロードを劇中歌として使用する予定など、後年制作された『紅の豚』や『耳をすませば』にイメージが移植されているのがわかる。

第4話
農夫の眼

◎「アンドレ・マルローのスペイン内乱の小説を読んで、この話が気に入ったから、どんな飛行機だったのかな？と思って調べてみたら、ポテーズ540だったんです。変な形の飛行機ですね。この時代のスペインというのは、ファシズムに押されてろくな飛行機がなくて…。これはフランス製の飛行機なんですよ」

反ファシズムの作家、アンドレ・マルローは、スペイン内乱で自ら爆撃機を指揮して作戦に参加している。その時の様子が、彼の小説『希望』に登場する。また彼は『希望』をベースにした映画制作も行い、実際にポテーズ540を使用して農夫を乗せての爆撃シーンを撮影している。日本では1962年『希望―テルエルの山々』として初公開され、その後は幻のフィルムとなっていたが、1992年に『雑想ノート』初版本が発売されると、偶然にも再公開され、小説（新潮文庫刊）も同時に再販された。この作品から4頁に増えたのは、描きたいことが膨らんできたためで、なんと宮崎氏は「原稿料は同じでいいですから、もう1頁もらえませんか」という実に涙ぐましい要望を編集部に懇願されたのであった。

第5話
竜の甲鉄

◎「これは、艦首に竜をつけた甲鉄艦が黄竜旗をはためかせて進む姿を描きたかったんです。旗のデザインは、後から資料が見つかってわかったけど、全然違ってました（笑）。これは、珍しく長寿を保った船でしたね。でも、船の寿命の短い長いも運命ですからね、その船の持った…。だからこそ、そこにロマンがあるんじゃないでしょうか？　（日清戦争中の）鎮遠の提督と艦長、定遠の艦長は、最後に自決するんですよ」

黄海海戦で定遠は撃沈、鎮遠は捕獲されて日本海軍に編入され、日露戦争にも参加した。海戦の翌年、長崎に立ち寄った鎮遠は一般に公開され、竜の甲鉄を一目見ようと数万人の市民が訪れたという。

写真は、宮崎氏がミラノに行った際、科学技術博物館で発見した黄竜旗。「ダ・ヴィンチを見に行ったら、なぜか説明ナシでぶら下がってたんですよ。こりゃ…近代海軍の旗とは思えないですね、フハハハ！」

第6話
九州上空の重轟炸機

◎「最初は、珍妙な飛行機だと思ったんですけど、描いて行くうちにだんだん好きになりました。特に斜め後ろからのアングルがいいですね。以前、上海の方に行った時に、冬場で野菜がなかったんでしょうね、毎日ニンニクの茎の炒め物ばっかり食べさせられたんです。だから、きっと兵隊たちもこれを食べていたんだろうなぁと思っているんです」

作品中にもあるように、本エピソードは日中戦争での中国空軍の戦史『中国的天空』（中山雅洋著、サンケイ出版刊）の中のわずか2頁ほどの記述をもとに執筆されている。紙片爆撃に飛んだ2機のマーチンB-10の機長は徐煥昇と佟彦伯で、その飛行経路は水俣付近から球磨川沿いに宮崎県に侵入、延岡付近で反転したものと思われる。しかし投下したビラの多くは山間部に落下し、また特高警察が直ちに回収したため、日本国民の目にはほとんど触れなかったという。

「『中国的天空』を読んで、日本本土を史上初めて侵した中国爆撃機が、平和を呼びかけるビラをまいたっていう話に感銘したんだけど、その後に調べた人が、そのビラ爆撃の後、中国政府は『中国爆撃機が京阪神地区を火の海にした』って発表して、みんな爆竹を鳴らして喜んだっていう資料を見つけてきまして…。やっぱり中国の人も、ほんとは爆弾を落としたかったんだなぁって思ってね…。戦争ってそんなモンですね」

戦後にソ連軍が撮影したベルリン・ティアガルテンの高射砲塔。左の建物は管制塔であろう。降伏時に破壊された連装の12.8センチ砲の砲身には撃墜マークが記されている。
（右ページ）イタリアにおいて清国北洋艦隊の黄竜旗と邂逅した宮崎氏。長年の疑問が氷解した瞬間である。

第7話
高射砲塔

◎「（雑想ノートの執筆は）それはもう楽しいですよ！　ウソをいっぱいつけますからね。特に、ウソの飛行機を描いてね、それを飛行機マニアを自認してる人がそれにまんまと騙された時とかね。高射砲塔の話でドイツのいーかげんな街を描いたら、ホントにそこにあると思って訪ねようと思った人が現れたりするとね、騙した!!っていう喜びがあって…」

という宮崎氏の言うとおり、高射砲塔の街は架空のものである。だが、高射砲塔は実在した。中でも大規模だっだのはベルリン市内のティアガルテンの動物園の敷地内に建造されたもの。13階建てのビルのような外観をもち、中には15,000人を収容できる防空壕、病院、倉庫と、ベルリン中の宝物を貯めこんだ貯蔵室もあったという。

第8話
Q.ship

◎このエピソードだけはウソだろうとお思いの方が多いとおもうが、これは全くの事実である。当時、イギリス海軍は約180隻のQシップを派遣し、撃沈したUボートの総数は14隻だった。中でもゴードン・キャンベル大佐は、3隻撃沈のエースだったという。ゴードン大佐の愛船、ファーンボロー号は1915年10月から17年2月まで作戦に従事し、最後は魚雷を受けるもなんとか港に帰着した。しかし、戦後に修理され再び平和な航海に戻ったそうだ。当時のイギリス海軍の水兵たちは、英国民の伝統である競技的射幸心が強く刺激されたとみえ、ドイツ海軍を罠にかけようとQ作戦に進んで志願した。Uボート1隻撃沈ごとに乗員には1,000ポンドの報奨金が支払われたといわれている。

第9話
特設空母　安松丸物語

◎「安松丸物語みたいなやつはねぇ、なんで描いたかっていいますと、イギリス人やアメリカ人がいいかげんな戦争映画を作るでしょう？　でも僕はドイツ人が作った物のほうが納得できるんですよ。小説にしてもね。だから『ナバロンの要塞』とかね、あーいう

の大キライなんです、頭にきて！　そーいう意味じゃ『史上最大の作戦』も『バルジ大作戦』もキライなんです。実際はあんなモンじゃなかったって思いが自分の中にあるからね。それだったらむしろ僕は、ロシアが作った不細工な『ヨーロッパの解放』のほうが、より戦争の感じが出てるんじゃないかと思います。で、勝ったヤツらがね、安心してああいう下らない映画を作ってウソつくんなら、オレだってウソくらいつけるゾ！っていうね、下らない職業上の対抗意識から描いたのが安松丸で。でも、やってみてね、なんかちょっと薄ら寒かったですね。だから、あんまりやんないほうがいいなと思ったり…。

最近、“もしこうだったら”っていう戦記物がずいぶん書かれているけど、実はやっぱりね、小学生の時に思ったことをそのままちょっと知識で味付けしただけで、ほとんどリアリティーがないんですよ。読んでて面白くない。やっぱりあれは『連合艦隊ついに勝つ』（高木彬光著、角川書店刊）くらいにとどめておいたほうがいいです。どっかで皮肉に笑いながら作らないと。なんか、かっこつけてやるとね、下らなくなる」

このエピソードから、コママンガ形式、しかも前後編で執筆されている。これは宮崎氏のコメントの通り、全くのフィクションである。多くの架空戦記小説は、その設定を大きく広げ過ぎて収拾がつかなくなるものが多いが、本編は歴史の狭間を巧妙についた、架空戦記の本道を行くものといえよう。ちなみに特設空母の名称である“安松”は宮崎氏の住む埼玉県の町名からとられている。

第10話
ロンドン上空1918年

◎「（雑想ノートは）ようするに妄想の産物なんです。それから趣味ですから、例えばツェッペリン・シュターケンっていうのはどういう飛行機かってね、ずーっと頭にひっかけたまま、何もしないでいるでしょ？　そのうち縁があったらその本が手に入るだろうと思ってたら、やっぱり縁があって（笑）。ま、モデルグラフィックス関係の人が多いですけども、その本がころがりこんでくると。そんなふうなことで描いてるんです。基本的には描き終わると、それについてずーっと持っていたこだわりが消えてしまうんです…。で、描き終わった時に初めてね、例えば“ツェッペリン・シュターケンってこういう飛行機だったのか”っていうことが良くわかったりなんかしてね。わかった時には終わりという。食べちゃった！ってカンジでね。もう済んじゃうんですよ、気持ちが…」

『雑想ノート』のネタは宮崎氏が昔に見た雑誌の口絵や、古本屋で立ち読みした戦記本等のうろ覚えの記憶が元になっている。それを補足するために編集者が資料収集を行った。中には執筆後に資料が発見されることも多く、このエピソードの時もそうであった。

今回登場の爆撃機は、ドイツ軍特有の多角形によるモザイク状の夜間迷彩（ローゼンジパターン）を施していた。それに関して愉快なエピソードがあった。映画『魔女の宅急便』公開時の特別番組で宮崎氏は、レポーターの女性に「今の心境を色で表現すると何色ですか？」と質問されたが、その解答が実に珍妙なのだ。「第１次大戦のドイツ軍用機はピンクや青や緑色なんかを組み合わせて塗っていたんです。遠くから見るとそれらが混ざりあって灰色に見えるんですよね。今の心境はそういう灰色ですね！」……。

ツェッペリン・シュターケンのRIV型は、約30種作られたR級の中でもましな性能だったようだが、それは劇中にもあるように機関士の腕によるところが大きかった。飛ぶのが不思議な巨人機だったが、連合軍はその存在を脅威と感じ、戦後に全てを解体させ、その後は製造も禁止した。そのため第２次大戦でドイツは大型機開発に遅れをとることになる。

第11話
最貧前線

◎「『最貧前線』を描く発端になった話を最初に読んだのは10数年前でした。それ以来なんにも調べないで、あれどうだったんだろうなぁ…と思いながら、ずーっと来ただけで。（執筆のスタイルは）ちょっと分けてやってるんですけども、やってるうちに少しずつわかって来たのは、人間で描きたいものもあるってことですね。ブタにしたくないものもあるんです。僕は『最貧前線』は、やっぱり人間で描きたかったんです。これはね、描き終わってもまだ終わってないんです、気持ちの中で。…誰かが映画にしてくれればいいんですけど。僕がこれを映画にするのは、もう、ちょっと時間がかかって億劫でできないけど…。こういうふうな、つまり“絶対に死なないぞ！”と、なんとか犬死にをしないで、“また魚をとるんだ！”っていうね、そういう人達が出て来て、それをまっとうする話をね、僕はやってみたいと前から思ってたんです…。まァ、それはできませんけど…。これについてはね、どこか心残りがあるんですよ。もうちょっと頁があればよかったなぁ…っていうのがね…。あと１頁あれば、ずっと楽にもっといろんなことが出来たんだとか、そういうこともありますけど（笑）」

宮崎氏の本作への思い入れは上記のように強く、もしもアニメにする時には、「海の上にいるということを表現するために、常にカメラを上下動させるんだ」というプランを話してくださった。宮崎作品のファンでもある漫画家、大友克洋氏も『最貧前線』の映画化に期待をよせているお一人である。

『吉祥丸』の名前の由来は単純で、宮崎氏のスタジオがJR中央線の吉祥寺にあったから。敵襲を受けて沈没する三鷹丸の名前の由来も同様で、吉祥寺の隣駅が三鷹なのだ。だから艇長さんが「お隣だ！　助けに行くぞ！」と叫ぶのである。

宮崎氏の妄想はしばしば現実を招くことがあるが、『「聖戦」の名のもとに』（千田夏光著、労働旬報社刊）によると、焼津漁港所属で『第一吉祥丸』が実在していたことが後に判明。宮崎氏も不思議がっておられた。

第12話
飛行艇時代

◎「『飛行艇時代』はね、よーするに１話で終わらせておきゃよかったんですね、ありゃね！　バカでね、つい続きを描いちゃったから、なんか逆に終わんなくなっちゃったんです、気持ちの中で。終わんなくなっちゃった上にね、『雑想ノート』にしちゃあ中途ハンパになっちゃって…。だから映画（『紅の豚』）にしてみようと思ったんだけど。まぁ、映画（アニメ）っていうのは、実際には“映画”ですから、趣味で描いてくワケにいかないんで、ヒドイ目に会いました。あーいうことをやっちゃいけないっていうのは、終わった後の結論でございます、ワハハハハッ!!　戦闘飛行艇だけで終わらせようと思ったんですよ。“こういうのがあるぜ！”っていう話で。それで良かったんだと思うけどね…。なんかこう…つい、やりたくなったのがいけなかったんスね。魔がさしたんです…、ああいうのは…。

まぁしかし、この飛行機はぜんぜん資料を持ってない！　名前もインチキだからね！　ワハハハハッ！　小学生の時に見た写真が一枚なんですよ。なんて不思議な物があるんだろう!?　と思ってね。で、カッコいいなー！って思った。とにかく横から見た写真が一枚でね。それ以来お目にかかってないんですよ。…こういう飛行艇に乗って飛んでみたいっていうのが…あの…少年の日の夢なんだよね！　こういう飛行艇、自分で持てたらいいなあっていう…。テへへへへ！」

映画『紅の豚』に関しては多くを語らない宮崎氏。当初は単に旅客機の機内上映用の小品を考えていたが、それが一般公開を前提とした長編に方向転換し、ご自分の趣味が映画に反映されることになってしまったことに心残りがあるようだ。映画の資料によると、第１回の執筆の前後に映像化の企画が進行しており、第２～３回はそのプレゼンテーション用のストーリーボードの役割を果たしている。（第１回では主人公はマルコ・パゴットであったのに、第２回では「ポルコ・ロッソと呼んでほしい」と自ら名乗っている）

物語のモチーフになったのが、小学生の時に見たたった一枚の写真の記憶であるという点に驚かされる。その機種は、マッキM.33という水上レーサーである。1925年に行われたシュナイダー杯という水上レースの第８回大会において、マッキM.33は実際にカーチスR3Cと競争したが、カーチスが優勝しマッキは３位に終わっている。

第13話
豚の虎

◎「戦車同士の戦いっていうのは、（映画や劇画のように）スピーディーじゃないと思いますよ。だいたい砲塔の中で自分がね、装填手になったことを考えればいいんです。で、車内の両脇の砲弾ラックに何発かずつ入ってますよね。でも砲塔の向きによっては、弾のあるほうのラックに行けないことはいくらでも起こるワケでしょう？　で、その時にどうしたんだ!?っていう…。砲塔の回転速度も含めて僕は、戦車戦ていうのはそうとう考えていることと違うんじゃないかな？って思います。そこらへんがね、どうもね、マンガ描いててもうまく表現できるかどうかワカんないけども…それで『豚の虎』っていうのを描きたかったんですよ。基本的にはそんなにカッコいいモンじゃないんだっていうことなんだけど…」

この作品は、『雑想ノート』の初版本の発売時に宮崎氏の要望で描き下ろされたものである。『紅の豚』の公開も成功に（宮崎氏にとっては不本意かも…）終わり、スタジオジブリの新社屋も完成、肩の荷が下りた安堵感からか、映画製作中のストレス解放のはけ口をタイミング良く描き下ろしにぶつけられたのだ。その申し出に編集者は逆に驚いてしまった。しかも、頁が足らないということで増頁というオマケもついたのであった。

宮崎駿
miyazaki hayao

1941年1月5日、東京都出身。飛行機会社の役員だった父親や、
戦記好きの長兄の影響下、読書や漫画を描いて幼年期を過ごす。
1963年、学習院大学を卒業し、アニメーション製作会社東映動画に入社。
数々の長編映画に参加後、1978年に『未来少年コナン』を演出し注目を集める。
以後、『ルパン三世カリオストロの城』で初の劇場作品を監督、
『風の谷のナウシカ』、『天空の城ラピュタ』、『となりのトトロ』、
『魔女の宅急便』と立て続けにヒット作を生み出した。
1992年には本誌第12話『飛行艇時代』を原作とした
映画『紅の豚』が公開され、大ヒットとなった。
1997年夏には、過去最大の監督作品『もののけ姫』が公開された。

［著作］
風の谷のナウシカ
シュナの旅
トトロの住む家
時には昔の話を（共著）
もののけ姫、他

宮崎駿の雑想ノート
【増補改訂版】

発行日／1997年8月4日　初版第一刷

著者／宮崎 駿

発行人／小川光二

発行所／株式会社 大日本絵画
〒101 東京都千代田区神田錦町1-7 tel.03-3294-7861（代表）

編集／卯月 緑

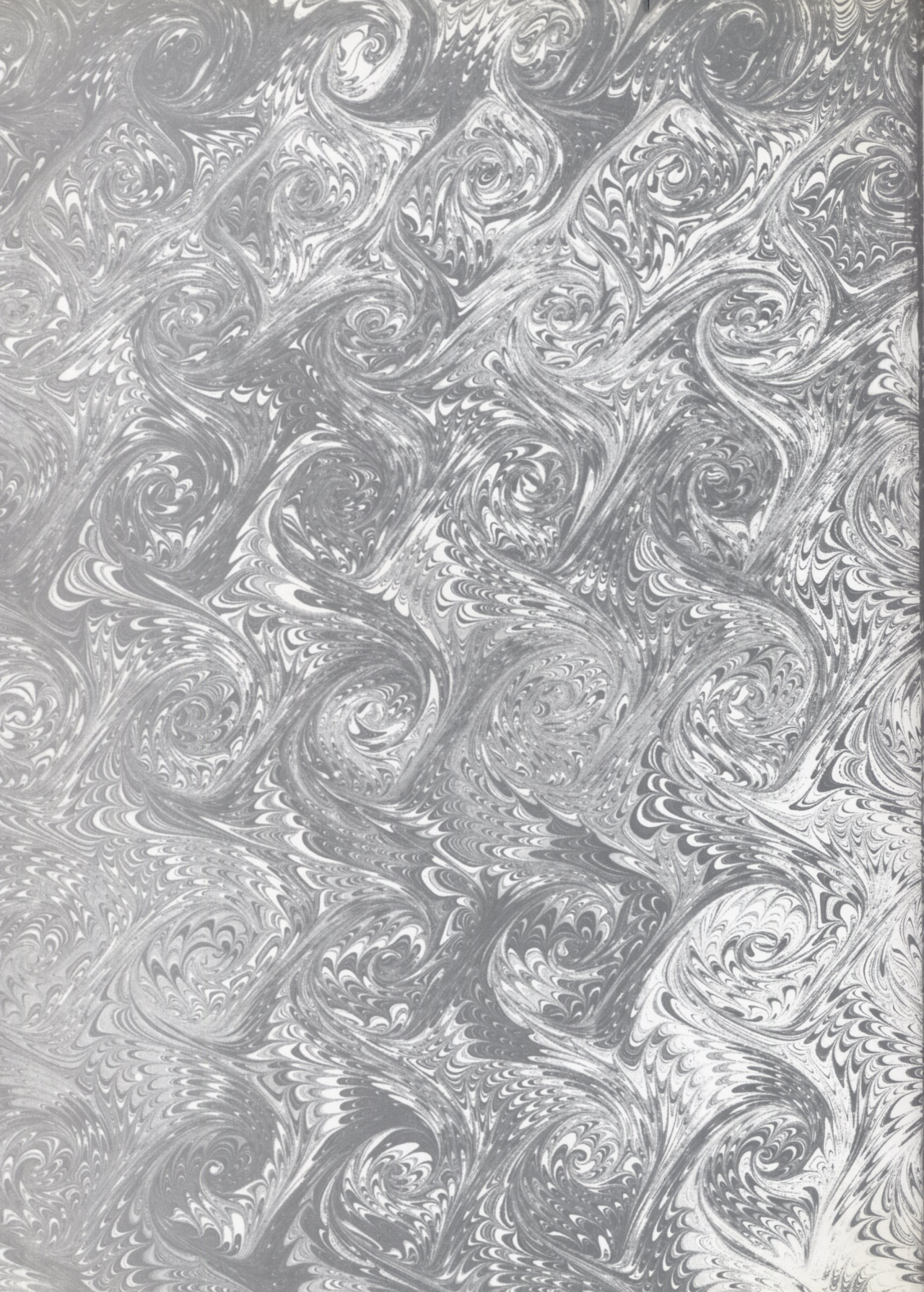
企画／株式会社アートボックス
〒162 東京都新宿区納戸町3 tel.03-3235-2761

造本・装丁／寺山祐策＋関口八重子

印刷・製本／大日本印刷株式会社

©二馬力 ©1997 大日本絵画

■本書に掲載された記事、図版、写真等の無断転載を禁じます。

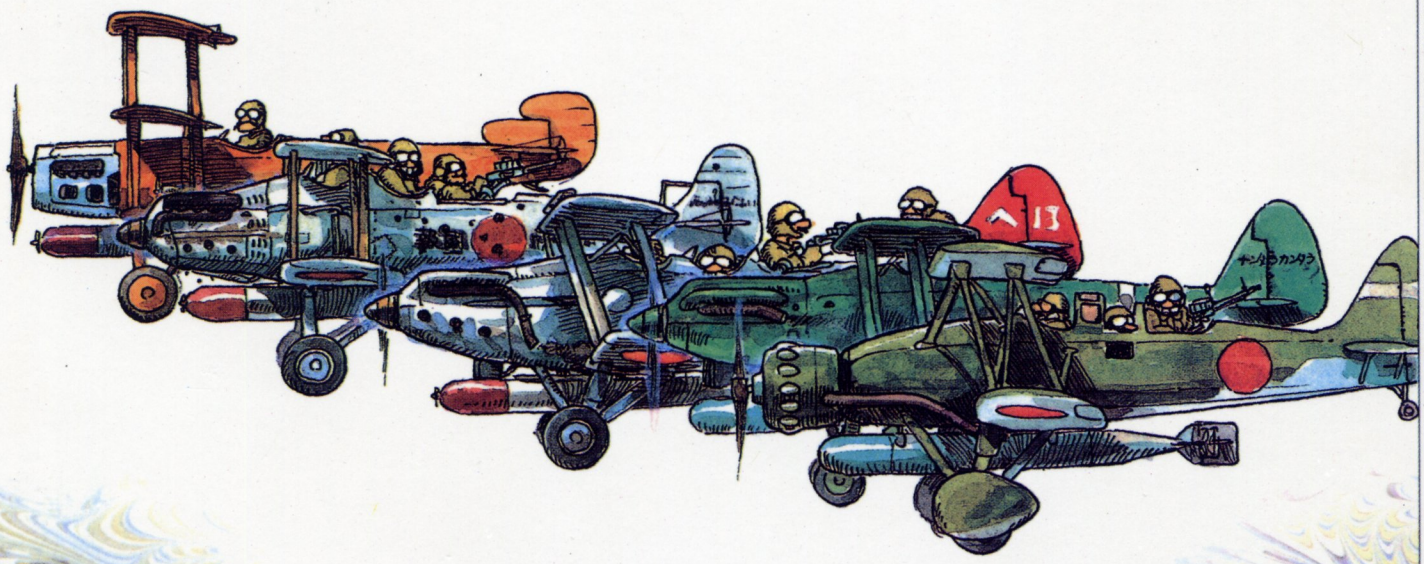


9784499226776

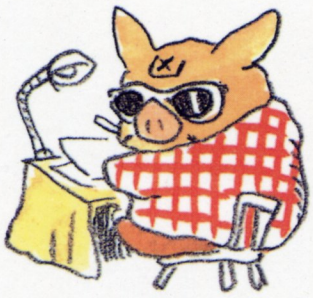
1920076028007

ISBN4-499-22677-5 C0076 ¥2800E

定価(本体2,800円+税)



Hayao Miyazaki's Daydream note



Digital Preservation Group
#animeartbooks @irc.mircx.com
http://www.animeartbooks.tk

Scanner: RogerLau
Editor : Ulala
Scans completed on 10/03/2003

Color Image scans @600dpi
and resizes to 2000 width

B&W Image scans @300dpi
and resizes to 2000 width

To support Miyasaki for his exciting
anime movies/artbooks, please buy it.
(I think everyone loves Laputa! ^-^)